財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第323集

元総社西川・塚田中原遺跡

一般県道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）
建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第一分冊　遺構・本文編

2003

群　馬　県　土　木　部
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第323集

元総社西川・塚田中原遺跡

一般県道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）
建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第一分冊　遺構・本文編

2003

群　馬　県　土　木　部
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

遺構上空より望む榛名山

序

群馬県は、増大する交通量に対応するため、各地で道路の整備を進めています。その計画の中心として幹線道路整備があります。西毛幹線道路は、幹線道路整備の一環として、前橋市から安中市を通り、富岡市を結ぶ道路として計画されています。元総社西川・塚田中原遺跡の発掘調査は、この道路建設の事前調査として平成11年11月～平成13年３月にかけて実施されました。

元総社西川・塚田中原遺跡の周辺は、上野国分寺をはじめ、推定国府や山王廃寺など数多くの遺跡があり、古代群馬の中心地でありました。発掘調査では、古代の住居跡や中世の堀など数多くの成果が得られました。これらの成果は、古代群馬の歴史を解明する上で貴重な資料になります。

これらの成果をあげることができたのも、群馬県土木部をはじめ、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、群馬町教育委員会のご協力の賜物であります。また、調査に協力していただいた、地元前橋市元総社町、群馬町塚田・東国府の皆様、関係各位の皆様に感謝いたしまして、本書刊行の序といたします。

平成15年10月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　小野宇三郎

例　言

1　当書は、一般県道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）緊急地方道路整備（B）事業に伴う、発掘調査報告書である。

2　当書に掲載の元総社西川遺跡・塚田中原遺跡の所在地は、下記のとおりである。

元総社西川遺跡　前橋市元総社町字西川1484-1、1485-1、1486-1、1489、1490-1・2、1491-2、1493-2、1498-1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11、1548-1・3番地

塚田中原遺跡　群馬群群馬町大字塚田字中原218-1、222-1、223-1、224-1・2・3、227番地

3　発掘調査は、群馬県土木部の委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。発掘調査期間、発掘調査組織は下記のとおりである。

第一次発掘調査　期間　平成11年11月8日～平成12年3月31日

面積　4,130㎡

組織　理事長　小野宇三郎

常務理事　赤山容三

管理部長　住谷　進

調査研究部長　水田　稔

総務課長　坂本敏夫

調査研究部第3課長　小山友孝

事務担当　笠原秀樹　小山健夫　須田朋子　吉田有光　柳岡良宏　岡島伸昌　片岡徳雄

調査担当　菊池　実　大西雅広　笹澤泰史　松原孝志　巾千恵子

第二次発掘調査　期間　平成12年6月12日～平成13年3月31日

面積　10,706㎡

組織　理事長　小野宇三郎

常務理事　赤山容三

管理部長　住谷　進

調査研究第2部長　能登　健

総務課長　坂本敏夫

調査研究部第4課長　佐藤明人

事務担当　笠原秀樹　小山健夫　須田朋子　吉田有光　森下弘美　柳岡良宏　片岡徳雄

調査担当　井川達雄　小野和之　吉田和夫　笹澤泰史

4　整理作業は、群馬県土木部の委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理期間、整理組織は下記の通りである。

整理期間　平成14年4月1日～平成15年3月31日

整理組織　理事長　小野宇三郎

常務理事　吉田　豊

事業局長　神保侑史
管理部長　萩原利通
調査研究部長　巾　隆之
総務課長　植原恒夫
資料整理課長　西田健彦
事務担当　小山健夫　高橋房雄　須田朋子　吉田有光　森下弘美　田中賢一
整理担当　井川達雄
整理補助員　伊藤淳子　山崎由紀枝　尾田正子　金子ミツ子　飯田文子　深代初子
藤井文江

5　遺構写真については各担当者が、遺物写真については当事業団写真担当技師佐藤元彦が担当した。

6　地質調査、プラント・オパール分析、^{14}C年代測定、花粉分析は古環境研究所に委託し、樹種鑑定はパレオ・ラボに委託した。

7　本書の編集は、井川達雄が行った。執筆者は下記の通りである。

調査に至る経過　関　晴彦

遺構本文　井川達雄

遺物観察表　井川達雄（0001～）　赤熊浩一（1001～）　菊池実（縄文時代遺物）　高井佳弘（瓦）
大西雅広（陶磁器）
陶磁器の鑑定の一部については、郡山市立博物館館長矢部良明先生にお願いした。

調査の成果と問題点

自然科学分析1、2　古環境研究所　自然科学分析3　パレオ・ラボ
屋敷遺構について　飯森　康広
人骨・獣骨について　植崎修一郎
出土瓦について　高井　佳弘
出土縄文時代遺物について　菊池　実
調査の成果と問題点　井川　達雄

8　本書の作成に当たっては、群馬県教育委員会、群馬県土木部はじめ各方面から多大な協力を得た。また、発掘調査に際しては現場で働いていただいた多くの方々をはじめ、前橋市教育委員会、群馬町教育委員会、遺跡周辺の方々から多大なるご支援をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。

9　当遺跡出土の遺物・実測図・写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡　例

1　遺構番号は、発掘調査時に付した番号をそのまま使用している。従って、整理段階で遺構から外したものは欠番となっている。

2　遺物には、遺物整理の最初に4桁の番号を与え、その後の変更はない。従って、遺構等の検討の結果未掲載とした遺物は、欠番となっている。また、この番号は、遺構本文、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真を通して一致する。

3　　各遺構図の縮尺は下記の通りである

住居跡　1：60、1：100　　掘立柱1：60　　溝（付図）1：100、1：200　　井戸1：60

土坑1：40、1：80　　畠1：100　　全体図（付図）1：200

各遺構毎にスケールと縮尺率が記入してある。

4　遺物図の縮尺は1：4あるが、それ以外の縮尺もある。1：4の縮尺については各図版毎に、1：4以外の縮尺については各遺物毎に、スケールと縮尺率が記入してある。

5　遺構図、遺物図に使用しているスクリーントーンの意味は、下記の通りである。

焼土・灰（遺構）

石（遺構断面）

灰釉陶器（遺物）

緑釉陶器（遺物）

内黒（遺物）

6　当書の北は、座標上の北である。座標系は、日本測地系の座標系第Ⅸ系（旧座標系）を使用している。

7　遺物観察表の（　）は推定値であり、〔　〕は残存値である。また、色調については、農林水産省水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。

目　次

口絵
序
例言・凡例
第一分冊
第Ⅰ章　（1）発掘調査に至る経過……1
（2）発掘調査の経過と方法……1
（3）基本土層……2
（4）遺跡の立地と歴史的環境……3
第Ⅱ章　発見された遺構
（1）竪穴住居……8
（2）掘立柱建物……226
（3）井戸……246
（4）溝……251
（5）土坑……256
（6）畠……290
第Ⅲ章　発掘調査の成果と問題点
（1）元総社西川・塚田中原遺跡自然科学分析1……303
（2）元総社西川・塚田中原遺跡自然科学分析2……314
（3）元総社西川・塚田中原遺跡の123号住居出土炭化材の樹種同定……323
（4）元総社西川・塚田中原遺跡の屋敷遺構について……332
（5）元総社西川・塚田中原遺跡出土人骨……347
（6）元総社西川・塚田中原遺跡出土獣骨……360
（7）元総社西川・塚田中原遺跡出土の瓦について……363
（8）元総社西川・塚田中原遺跡出土の縄文時代遺物について……364
（9）発掘調査の成果と問題点……365
第二分冊
第Ⅳ章　発見された遺物
（1）竪穴住居出土遺物……1
（2）溝出土遺物……100
（3）井戸出土遺物……110
（4）土坑出土遺物……113
（5）遺構外・表土出土遺物……119
（6）各遺構出土瓦……123
（7）縄文時代の遺物……153
遺物観察表……161
第三分冊
第Ⅴ章　　写真図版

挿図目次（第一分冊）

第 1 図　元岐社西川・塚田中原遺跡位置図……1
第 2 図　周辺遺跡分布図……4
第 3 図　国分僧寺周辺の遺跡、遺構分布図……6
第 4 図　1・2・3・44号住居跡重複関係、1号住居跡……8
第 5 図　1号住居跡掘り方、1号住居跡竈……9
第 6 図　2号住居跡……10
第 7 図　2号住居跡掘り方、2号住居跡竈……11
第 8 図　3号住居跡、3号住居跡掘り方、3号住居跡竈……12
第 9 図　44号住居跡、44住居跡掘り方、44住居跡竈……13
第10図　4・5・7号住居跡重複関係、
4号住居跡、4号住居跡掘り方……15
第11図　4号住居跡竈、5号住居跡……16
第12図　5号住居跡掘り方、5号住居跡竈……17
第13図　7号住居跡、7号住居跡掘り方……18
第14図　7号住居跡竈、6・12号住居跡重複関係……19
第15図　6号住居跡、6号住居跡掘り方……20
第16図　6号住居跡竈、12号住居跡、12号住居跡竈……21
第17図　8号住居跡、8号住居跡竈……22
第18図　9号住居跡、9号住居跡掘り方……23
第19図　10・28・55号住居跡重複関係、
10・28号住居跡……24
第20図　10・28号住居跡掘り方、10号住居跡竈……25
第21図　55号住居跡……26
第22図　11号住居跡、11号住居跡掘り方、
11号住居跡竈……27
第23図　13・14・27号住居跡重複関係……28
第24図　13号住居跡、13号住居跡竈……29
第25図　14号住居跡、14号住居跡竈、
14・27号住居跡掘り方……30
第26図　15・52・56号住居跡重複関係、15号住居跡……32
第27図　15号住居跡掘り方、15号住居跡竈……33
第28図　52・56号住居跡、52・56号住居跡竈……34
第29図　16号住居跡、16号住居跡掘り方、
16号住居跡竈……35
第30図　17号住居跡、17号住居跡掘り方……36
第31図　17号住居跡竈、18号住居跡……37
第32図　18号住居跡掘り方、18号住居跡竈……38
第33図　19・20・31・33・36・37号住居跡重複関係……39
第34図　19・20・31・33・36・37号
住居跡掘り方重複関係……40
第35図　19号住居跡、19号住居跡掘り方……41
第36図　20号住居跡、20号住居跡掘り方……42
第37図　31・33号住居跡、31・33号住居跡掘り方……43
第38図　36号住居跡、36号住居跡掘り方……44
第39図　37号住居跡、37号住居跡掘り方……45
第40図　21・24・45号住居跡重複関係、21号住居跡……46
第41図　21号住居跡掘り方、21号住居跡竈……47
第42図　24号住居跡、24住居跡掘り方……48
第43図　24号住居跡竈1、24号住居跡竈2、
24号住居跡竈2掘り方……49
第44図　45号住居跡、45号住居跡掘り方……50
第45図　45号住居跡竈……51
第46図　22号住居跡、22号住居跡竈、23号住居跡、
23号住居跡掘り方……52
第47図　25号住居跡、25号住居跡掘り方……54
第48図　26号住居跡、26号住居跡掘り方、26号住居跡
内鍛冶炉……55
第49図　29・30・43号住居跡重複関係、
29号住居跡……56
第50図　29号住居跡掘り方、29号住居跡竈……57
第51図　30・43号住居跡、30・43号住居跡掘り方、
30号住居跡竈、43号住居跡竈……58
第52図　32・68号住居跡重複関係、32号住居跡……60
第53図　32号住居跡掘り方、32号住居跡竈、
32号住居跡鍛冶炉……61
第54図　68号住居跡、68号住居跡掘り方……62
第55図　34号住居跡、34号住居跡掘り方、
34号住居跡竈……63
第56図　35号住居跡、35号住居跡掘り方、
35号住居跡竈……65
第57図　38・39・40号住居跡重複関係……66
第58図　38号住居跡掘り方、39号住居跡掘り方……67
第59図　39号住居跡竈、40号住居跡掘り方、
40号住居跡竈……68
第60図　41号住居跡、41号住居跡掘り方、
41号住居跡竈……70
第61図　42号住居跡、42号住居跡掘り方、
42号住居跡竈……71
第62図　46・58号住居跡重複関係、46号住居跡、
46号住居跡竈……72
第63図　58号住居跡、58号住居跡掘り方……73
第64図　47・48・79号住居跡、47号住居跡竈……74
第65図　48号住居跡、47・48号住居跡掘り方……75
第66図　48号住居跡竈、79号住居跡、79号住居跡掘り
方、79号住居跡竈……76
第67図　49号住居跡、49号住居跡掘り方、
49号住居跡竈……78
第68図　50号住居跡、50号住居跡竈……79
第69図　51号住居跡……80
第70図　51号住居跡掘り方……81
第71図　53号住居跡、53号住居跡掘り方、
53号住居跡竈……82
第72図　54号住居跡竈・床下土坑、57号住居跡……83
第73図　59号住居跡、59号住居跡掘り方……84
第74図　60号住居跡、60号住居跡掘り方……85
第75図　61・66号住居跡重複関係、61号住居跡、
61号住居跡掘り方、61号住居跡竈、
61号住居跡竈掘り方……86
第76図　66号住居跡、66号住居跡掘り方、66号住居跡竈、
66号住居跡竈掘り方……87
第77図　62号住居跡、62号住居跡掘り方……89
第78図　64号住居跡掘り方……90
第79図　65号住居跡、65号住居跡掘り方……91
第80図　67号住居跡、67号住居跡掘り方……92
第81図　69・74・75・76号住居跡重複関係、
69号住居跡、69号住居跡掘り方……93
第82図　69号住居跡竈、69号住居跡竈掘り方……94
第83図　74号住居跡、74号住居跡掘り方、
74号住居跡竈……94
第84図　75号住居跡竈、75号住居跡竈掘り方……95
第85図　76号住居跡掘り方……96
第86図　71号住居跡……96
第87図　71号住居跡掘り方、71号住居跡竈……97
第88図　73号住居跡……97
第89図　77号住居跡、77号住居跡掘り方……98
第90図　78号住居跡掘り方、78号住居跡竈……99
第91図　80・86・88・120号住居跡重複関係、
80号住居跡……100
第92図　80号住居跡掘り方、80号住居跡竈、
80号住居跡竈掘り方……101
第93図　86号住居跡……102

第94図　86号住居跡掘り方、86号住居跡竈、
86号住居跡竈掘り方……103
第95図　88号住居跡、88号住居跡掘り方、
88号住居跡竈……104
第96図　120号住居跡、120号住居跡掘り方、81号住居跡、
81号住居跡掘り方、81号住居跡竈……105
第97図　82・83号住居跡……106
第98図　84号住居跡、84号住居跡掘り方、84号住居跡竈、
84号住居跡竈掘り方……107
第99図　85号住居跡、85号住居跡掘り方、85号住居跡竈、
85号住居跡竈掘り方……108
第100図　87・97・101・107・108・109・110号
住居跡重複関係……110
第101図　87号住居跡、87号住居跡掘り方……111
第102図　87号住居跡竈1、87号住居跡竈1掘り方、
87号住居跡竈2、87号住居跡竈2掘り方……112
第103図　97号住居跡、97号住居跡掘り方……113
第104図　97号住居跡竈、97号住居跡竈掘り方、
101号住居跡、101号住居跡掘り方……114
第105図　101号住居跡竈、101号住居跡竈掘り方……115
第106図　107号住居跡……115
第107図　107号住居跡掘り方、107号住居跡竈1、
107号住居跡竈2、107号住居跡竈2掘り方
……116
第108図　108号住居跡、108号住居跡掘り方、
108号住居跡竈、108号住居跡竈掘り方……117
第109図　109号住居跡、109号住居跡掘り方、
109号住居跡竈……119
第110図　110号住居跡、110号住居跡掘り方、
110号住居跡竈……120
第111図　89・90号住居跡、89号住居跡……121
第112図　89号住居跡掘り方、89号住居跡竈、
89号住居跡竈掘り方……122
第113図　90号住居跡、90号住居跡掘り方、
90号住居跡竈、90号住居跡竈掘り方……123
第114図　91号住居跡、91号住居跡掘り方……124
第115図　92号住居跡……124
第116図　92号住居跡掘り方、92号住居跡竈……125
第117図　93号住居跡、93号住居跡掘り方、
93号住居跡竈……126
第118図　94号住居跡、94号住居跡掘り方……127
第119図　95・106・111・112号住居跡重複関係、
95号住居跡、95号住居跡掘り方……128
第120図　95号住居跡竈、106号住居跡、
106号住居跡竈……129
第121図　111号住居跡、111号住居跡竈、112号住居跡、
112号住居跡鍛冶炉……130
第122図　96号住居跡、96号住居跡掘り方、
96号住居跡竈……132
第123図　98号住居跡、98号住居跡掘り方、98号住居跡竈、
98号住居跡竈掘り方……133
第124図　99・100号住居跡……135
第125図　99・100号住居跡掘り方、99号住居跡竈、
99号住居跡竈掘り方……136
第126図　102号住居跡、102号住居跡掘り方……137
第127図　103号住居跡、103号住居跡掘り方……137
第128図　103号住居跡竈、103号住居跡竈掘り方……138
第129図　104号住居跡竈、104号住居跡竈掘り方……138
第130図　105号住居跡、105号住居跡掘り方、
105号住居跡竈、105号住居跡竈掘り方……139
第131図　113号住居跡、113号住居跡掘り方、
113号住居跡竈、113号住居跡竈掘り方……140
第132図　114号住居跡、114号住居跡掘り方、
114号住居跡竈……141
第133図　115・124号住居跡重複関係、115号住居跡、
115号住居跡掘り方、115号住居跡竈……142
第134図　124号住居跡、124号住居跡掘り方……143
第135図　124号住居跡竈1、124号住居跡竈1掘り方、
124号住居跡竈2、124号住居跡竈2掘り方
……144
第136図　116号住居跡、116号住居跡掘り方……145
第137図　117号住居跡……145
第138図　118・129号住居跡、118・129号住居跡掘り方、
118号住居跡竈……146
第139図　119号住居跡、119号住居跡掘り方……147
第140図　121号住居跡……147
第141図　121号住居跡掘り方、121号住居跡竈、
121号住居跡竈掘り方……148
第142図　122号住居跡、122号住居跡掘り方、
122号住居跡竈、122号住居跡竈掘り方……149
第143図　123号住居跡、123号住居跡炭化物出土状態、
123号住居跡掘り方……150
第144図　123号住居跡竈、123号住居跡竈掘り方……151
第145図　125号住居跡、125号住居跡掘り方、
125号住居跡竈……152
第146図　126号住居跡、126号住居跡掘り方、
126号住居跡竈、126号住居跡竈掘り方……153
第147図　127号住居跡、127号住居跡掘り方……154
第148図　128号住居跡、128号住居跡掘り方、
128号住居跡竈……155
第149図　130号住居跡、130号住居跡掘り方、
130号住居跡竈、130号住居跡竈掘り方……156
第150図　131号住居跡、131号住居跡掘り方、
131号住居跡竈……157
第151図　132号住居跡、132号住居跡掘り方、
132号住居跡竈、132号住居跡竈掘り方……158
第152図　133号住居跡、133号住居跡掘り方、
134号住居跡、134号住居跡掘り方……159
第153図　135号住居跡、135号住居跡掘り方……160
第154図　136号住居跡、136号住居跡掘り方、
136号住居跡竈……161
第155図　137・144号住居跡、137・144号住居跡掘り方、
137号住居跡竈……162
第156図　144号住居跡竈……163
第157図　138・150号住居跡重複関係、
138号住居跡、138号住居跡掘り方、
138号住居跡竈、150号住居跡、
150号住居跡竈……164
第158図　139号住居跡、139号住居跡掘り方、
139号住居跡竈、139号住居跡竈掘り方……165
第159図　140・149号住居跡重複関係、140号住居跡、
140号住居跡竈、140号住居跡竈掘り方……166
第160図　149号住居跡……167
第161図　149号住居跡掘り方、149号住居跡竈、
149号住居跡竈掘り方……168
第162図　141・142・145・146・154・159・160・
161号住居跡重複関係……169
第163図　142・143・154・159・160・161号
住居跡重複関係……170
第164図　141号住居跡、141号住居跡竈……171
第165図　142号住居跡、142号住居跡掘り方……171
第166図　142号住居跡竈、142号住居跡竈掘り方……172
第167図　143号住居跡、143号住居跡掘り方……173
第168図　143号住居跡竈、143号住居跡竈掘り方、

145号住居跡、145号住居跡掘り方……174
第168図 145号住居跡竈……175
第170図 146号住居跡、146号住居跡掘り方……175
第171図 146号住居跡竈……176
第172図 154号住居跡、154号住居跡竈……176
第173図 159号住居跡、159号住居跡掘り方、
159号住居跡竈、159号住居跡竈掘り方……178
第174図 160号住居跡、160号住居跡掘り方、
160号住居跡竈、160号住居跡竈掘り方、
161号住居跡……179
第175図 147・148・151・163・164号住居跡
重複関係……181
第176図 147号住居跡、147号住居跡掘り方、
147号住居跡竈、147号住居跡竈掘り方……182
第177図 148号住居跡、148号住居跡掘り方、
148号住居跡竈、148号住居跡竈掘り方……183
第178図 151号住居跡、151号住居跡掘り方、
151号住居跡竈……185
第179図 163号住居跡、163号住居跡掘り方、
163号住居跡竈、163号住居跡竈掘り方……186
第180図 164号住居跡、164号住居跡掘り方……187
第181図 152・155・162号住居跡重複関係、
152号住居跡、152号住居跡掘り方、
152号住居跡竈、152号住居跡竈掘り方……188
第182図 155号住居跡、155号住居跡掘り方……189
第183図 155号住居跡竈、155号住居跡竈掘り方、
162号住居跡……190
第184図 156号住居跡、156号住居跡掘り方、
156号住居跡竈、156号住居跡竈掘り方……191
第185図 157号住居跡、157号住居跡掘り方……192
第186図 157号住居跡竈、157号住居跡竈掘り方、
158号住居跡……193
第187図 165号住居跡、165号住居跡掘り方、
165号住居跡竈、165号住居跡竈掘り方……194
第188図 166・168・169号住居跡重複関係……195
第189図 166号住居跡、166号住居跡竈……196
第190図 168号住居跡、168号住居跡竈、
168号住居跡竈掘り方……197
第191図 169号住居跡、169号住居跡竈、
169号住居跡竈掘り方……198
第192図 167・194・199・200号住居跡重複関係、
167号住居跡、167号住居跡竈、
167号住居跡竈掘り方……199
第193図 194号住居跡、194号住居跡竈、
194号住居跡竈掘り方、199号住居跡、
199号住居跡竈、199号住居跡竈掘り方……201
第194図 200号住居跡、200号住居跡竈……202
第195図 170・171号住居跡重複関係、170号住居跡、
170号住居跡掘り方、170号住居跡竈、
170号住居跡竈掘り方……203
第196図 171号住居跡、171号住居跡掘り方、
171号住居跡竈、171号住居跡竈掘り方……204
第197図 172号住居跡、172号住居跡掘り方、
172号住居跡竈、172号住居跡竈掘り方……206
第198図 173号住居跡、173号住居跡掘り方……207
第199図 174号住居跡、174号住居跡掘り方、
175号住居跡、175号住居跡竈……208
第200図 176号住居跡……209
第201図 177号住居跡掘り方……210
第202図 178号住居跡、178号住居跡竈、
178号住居跡竈掘り方……211
第203図 179・184・189・191・192号住居跡
重複関係……212
第204図 179号住居跡、179号住居跡竈、
179号住居跡竈掘り方……213
第205図 184号住居跡、184号住居跡竈、184号住居跡
竈掘り方、189号住居跡、189号住居跡竈……214
第206図 191号住居跡、192号住居跡、180号住居跡、
180号住居跡掘り方……216
第207図 181号住居跡……217
第208図 182号住居跡……217
第209図 183・186号住居跡、183号住居跡竈、
186号住居跡竈、186号住居跡竈掘り方……218
第210図 185号住居跡、185号住居跡掘り方……219
第211図 185号住居跡竈、187号住居跡……220
第212図 187号住居跡竈、187号住居跡竈掘り方、
188号住居跡、188号住居跡掘り方……221
第213図 190号住居跡、190号住居跡竈、190号住居跡
竈掘り方、193号住居跡、193号住居跡掘り方
……223
第214図 193号住居跡竈、196号住居跡、
196号住居跡掘り方、196号住居跡竈、
196号住居跡竈掘り方……224
第215図 197号住居跡、198号住居跡、198号住居跡掘り方、
198号住居跡竈、198号住居跡竈掘り方……225
第216図 1号掘立柱……229
第217図 2号掘立柱……230
第218図 3号掘立柱……231
第219図 4号掘立柱……232
第220図 6・7号掘立柱……233
第221図 8号掘立柱……234
第222図 8号掘立柱エレベーション……235
第223図 9・10号掘立柱……236
第224図 11号掘立柱……237
第225図 12号掘立柱……238
第226図 13号掘立柱……239
第227図 14・15号掘立柱……240
第228図 16・17柱列、21号掘立柱……241
第229図 18号掘立柱……242
第230図 19号掘立柱……243
第231図 23・28号掘立柱……244
第232図 24・25・26号柱列……245
第233図 1・2・6・7・8・9号井戸……248
第234図 10・11号井戸……249
第235図 12・13・14号井戸……250
第236図 1・2・3・4・5・6・7・8号土坑……270
第237図 9・10・11・12・13・14号土坑……271
第238図 15・16・17・18・19・20・21・22号土坑……
……272
第239図 24・25・26・27・28・29・30・31・32号
土坑……273
第240図 33・34・35・36・37・38・39・40・41・
42・43号土坑……274
第241図 44・45・46・47・48・49・50・51・52・
53・54・65号土坑……275
第242図 55・56・57・58・59・60・61・62号土坑
……276
第243図 63・64・66・67・68・69・70・71・72・
73・74号土坑……277
第244図 75・76・77・78・80・82・83・84・85・
86・87号土坑……278
第245図 88・89・90・91・92・93・94・95・97号
土坑……279
第246図 98・99・100・101・102・103・104・105・

106・107・108・109・110・111・112・113号土坑……280
第247図 114・115・116・117・118・119・120・121・122・123・124・125号土坑……281
第248図 126・127・128・129・130・131号土坑……282
第249図 133・134・135・136・137号土坑……283
第250図 138・139・140・141・142・143・144・145号土坑……284
第251図 146・147・148・149・150・151・152・153・154・155号土坑……285
第252図 156・157・158・159・160・161・162・163号土坑……286
第253図 164・165・166・167号土坑……287
第254図 168・169・170・171・172・173・174・175号土坑……288
第255図 176・177・182・183・185・186・187号土坑……289
第256図 189・190・191・192・193・194・195号土坑……290
第257図 198・199・200・201・202・205・206・207号土坑……291
第258図 208・209・210・211・213・214・215号土坑……292
第259図 216・217・218・219・220・221・222・223号土坑……293
第260図 224・225・226・227・228・229・230号土坑……294
第261図 231・232・233・234・235・236・237・238・239号土坑……295
第262図 240・241・242・243・244・245号土坑……296
第263図 246・247・248・249・250・251・252・253号土坑……297
第264図 254・255・256・257号土坑……298
第265図 1号畠……299
第266図 2・3号畠……300
第267図 自然科学分析試料採取地点一覧……303
第268図 第4トレンチ土層柱状図……304
第269図 第2・6・7トレンチ土層柱状図……305
第270図 第9トレンチ土層柱状図……306
第271図 重鉱物組成、組成ダイヤグラム……308
第272図 第4トレンチ土層柱状図 ^{14}C年代測定試料採取地点……310
第273図 第6トレンチ採取試料、植物珪酸体分析結果……312
第274図 第9トレンチ採取試料、植物珪酸体分析結果……312
第275図 X＝43.210，Y＝－72.590付近土層柱状図……314
第276図 3号畠（東）土層柱状図……314
第277図 3号畠（西）土層柱状図……315
第278図 1号畠土層柱状図……315
第279図 3号畠（東）採取試料、植物珪酸体分析結果……318
第280図 3号畠（西）採取試料、植物珪酸体分析結果……318
第281図 1号畠（西）採取試料、植物珪酸体分析結果……318
第282図 123号住居跡出土炭化材分布図（1）……327
第283図 123号住居跡出土炭化材分布図（2）……327
第284図 下植木窄丁田遺跡建物変遷図……340

写真・挿図1 157号土坑出土火葬人骨……348
写真・挿図2 175号土坑出土頭蓋骨……350
写真・挿図3 175号土坑出土四肢骨……351
写真・挿図4 175号土坑出土下顎骨……352
写真・挿図5 177号土坑出土火葬人骨……354
写真・挿図6 176号土坑出土永久歯咬合面観……355
写真・挿図7 240号土坑出土永久歯咬合面観……355
写真・挿図8 155号土坑出土犬頭蓋骨・下顎骨と現生犬頭蓋骨・下顎骨との比較……361

第Ⅰ章

(1)発掘調査に至る経過

本路線は群馬町棟高から前橋市元総社町に至る、延長1.64km・幅員13mの道路で、前橋市・高崎市のベッドタウンとして人口増加の著しい群馬町と前橋市とを連絡するバイパスとして計画されたものである。

平成8年度から群馬町による南部土地改良事業の区画整理によって、国分寺進入路（史跡上野国分寺区域へ南からアクセスする道路）の用地確保が進んでいたところ、国分寺進入路の開通には本路線の一部（関越道新潟線から現前橋・足門線の区間）開通が不可欠であるとの結論に達した。

これに並行して土地改良事業による群馬町と前橋市とによる道路敷き部分の発掘調査が行われ、当該区域に埋蔵文化財が存在することが明らかとなり、平成11年6月から本区間の本格的な発掘調査に向けて協議が進められた。

協議の結果、平成11年度から発掘調査を開始し、平成12年度末までに完了することとなり、埋文事業団の事業計画との調整を図った結果、本調査は平成11年11月から着手した。

(2)発掘調査の経過と方法

元総社西川・塚田中原遺跡は、前橋市元総社町字西川・群馬郡群馬町大字塚田字中原に所在する。発掘調査は、一般県道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）建設に伴う事前調査として平成11年11月8日に開始した。遺跡は、一連の遺跡であるが、行政区画が前橋市と群馬郡群馬町にまたがるため、二つの遺跡名を冠した。元総社西川遺跡は、前橋市の発掘調査概報では国分寺参道遺跡と命名され、塚田中原遺跡は、群馬町の発掘調査概報では国府南部遺跡群と命名されている。当遺跡の発掘調査時点の

第1図　元総社西川・塚田中原遺跡位置図（1：25,000）

遺跡名は、国分寺参道Ⅱ遺跡である。国分寺参道の地名は、染谷川をはさみ、国分寺の南側に位置する地域に、ほぼ南北方向の細長い地割があることから、地域で呼ばれている地名である。群馬県遺跡台帳にも、国分寺参道の遺跡は登録されている。しかし、国分寺の参道は確認することはできなかった。

調査区域は、東端の染谷川から西端の県道前橋・足門線までの約450mである。染谷川から、同川の段丘下までを1区、段丘上から町道までの約300mを2区、町道から県道前橋・足門線までの約100mを3区とした。遺構の測量等には、国家座標第Ⅸ系（旧座標系）を使用した。座標杭は、東西、南北それぞれ5m間隔で打ち、その範囲を小グリッドとした。各遺構の平面図には、座標点を標記してある。

調査は、東端の染谷川河岸段丘の上からはじめ、西へ向かって掘り進んだ。第一年次発掘調査は、平成11年11月8日に開始し、住居跡60軒、約4,130㎡を調査、平成12年3月31日終了した。第二年次発掘調査は、約3ヶ月の間を置き、平成12年6月12日に開始した。平成11年年度の続きから発掘調査を開始し、県道前橋・足門線までの区間を調査した。住居跡約135軒の他、掘立柱、溝、井戸、土坑、畠等の遺構確認し、約10,700㎡を調査し、平成13年3月31日終了した。

第二次発掘調査の夏、8月22日には、中学生が職場体験学習に訪れた。暑いなか、汗をかきながら、住居跡の発掘調査を体験した。また、冬、平成12年1月21日には、現地説明会を開催した。前日から当日の朝に積もった雪にも係わらず、多くの人が説明会に訪れてくれた。

当遺跡は、第一年次の調査から住居跡等多くが重複し、遺構量が多く、また、地山と住居跡覆土との区別が難しい遺跡であった。発掘調査は、遺構確認面の軽石（As-B and Hr-FA）混じりの黒褐色土ないしは暗褐色土までは、掘削機械（バックホー）を使用し掘削した。また、中世の大溝である10号溝・11号溝・12号溝は、覆土の大部分を小型のバックホーを使用し、掘削した。

遺構の調査では、度重なる平面確認でも新旧関係が判定できなかった住居跡もある。また、現場の新旧確認と整理の遺物の検討での判定が異なる住居跡もある。遺構数は、住居跡194、掘立柱24、溝30、井戸11、土坑241、ピット多数である。

(3)基本土層

当遺跡は、榛名山の東南麓にひろがる相馬ヶ原扇状地の先端に立地する。従って、土は活火山である榛名山の影響を大きくうけている。また、当遺跡の立地する地域は、圃場整備が実施されている。発掘調査時点では、微地形は削られており、国分寺参道と呼ばれていた細長い地割も消滅していた。

土層の詳細は、自然科学分析（1）、自然科学分析（2）の元総社西川遺跡・塚田中原遺跡の土層とテフラに掲載してある。ここでは、簡単な説明にとどめる。

最上層の耕作土は、圃場整備時に大きく動いていると思われる。この層には、浅間山のテフラAs-AとAs-Bが含まれている。その下は、榛名山のテフラHr-FAと浅間山のテフラAs-Cを含む黒褐色土ないしは暗褐色土であり、この層が遺構の確認面である。しかし、町道付近のX＝43.225～.270、Y＝－72.490～.535では部分的に二次堆積のローム層が耕作土下にあり、これが遺構の確認面である。また、遺跡西端の県道付近では、部分的にAs-B層、Hr-FA層を確認することができた。これが、畠の検出につながっている。黒褐色土の下は、軽石を含まない暗褐色土、灰褐色土があり、総社砂層になる。

(4)遺跡の立地と歴史的環境

1　遺跡の立地

元総社西川遺跡・塚田中原遺跡は、前橋市元元総社町字西川・群馬郡群馬町大字塚田字中原に所在する。前橋市の群馬県庁の西3.5㎞の位置にあり、当遺跡からはほぼ真東に群馬県庁を望むことができる。群馬県庁の西には、利根川本流が南北に流れている。当遺跡の北約350mには、染谷川を挟み、国指定の史跡上野国分僧寺跡がある。当遺跡からは赤城山と榛名山を間近に望むことができる。また、天気のよい日は、北方に武尊山、西方に妙義山や浅間山を望むことができる。近年では、当遺跡周辺でも開発が進み、畠や水田が宅地に変化している。また、当遺跡のすぐ東側には、東京と新潟を結ぶ幹線道路である関越自動車道が南北に通っている。

榛名山の東南麓は、相馬ヶ原扇状地が広がる。当遺跡は、その相馬ヶ原扇状地の末端に位置し、南には前橋台地が広がる。相馬ヶ原扇状地は、約1.4万年前、榛名山の山体崩落により形成されたと考えられている。相馬ヶ原扇状地の上には、縄文時代前期に堆積したと考えられる砂層が堆積している。この砂層は、総社砂層に対比されている。当遺跡の土層については、「第Ⅲ章調査の世紀と問題点、自然科学分析（1）・自然科学分析（2）」に詳しく記述してある。

当遺跡の北から東にかけて、染谷川が北西から南東に流れている。染谷川は相馬ヶ原扇状地の扇頂付近の榛東村自衛隊相馬ヶ原演習場に源を発し、高崎市上大類町で井野川と合流し、高崎市岩鼻町・八幡原町で烏川に合流する。当遺跡は、染谷川の南西の台地の上に広がっている。また、染谷川は、当遺跡と国分僧寺、国分尼寺、推定国府の間を横切って流れている。染谷川との比高差が約５～６ｍある当遺跡周辺は、桑畑が広がっていたが、現在では野菜を栽培している。

2　歴史的環境

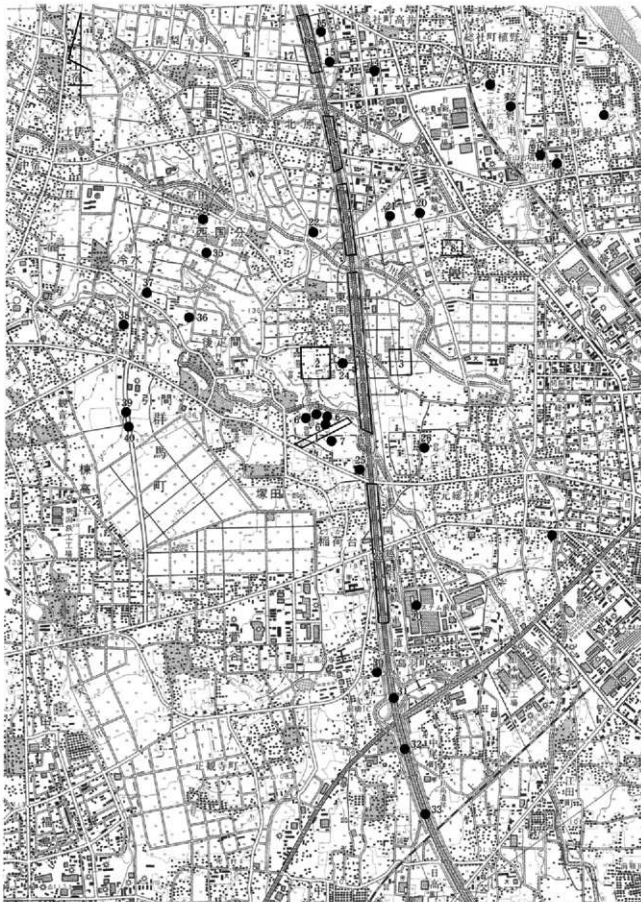
縄文時代　相馬ヶ原扇状地の上に広がる砂層により、当遺跡周辺に縄文時代草創期、早期の遺跡は発見されていない。周辺で縄文時代の遺構、遺物が発見されている遺跡は、下東西遺跡、北原遺跡、下東西清水上遺跡、国分境遺跡、上野国分僧寺尼寺中間地域遺跡、鳥羽遺跡等があるが、いずれの遺跡も縄文時代前期諸磯ｃ遺構の以降である。従って、相馬ヶ原扇状地の上に広がる砂層は、縄文前期後半に堆積したと推定される。

弥生時代　弥生時代後期後半の樽式土器の時代を弥生時代とする従来の編年に従えば、上野国分僧寺尼寺中間地域遺跡、元総社西川遺跡（国分寺進入路）などで弥生時代の遺構、遺物が発見されている。また、約2.5㎞南の日高遺跡は、大規模な弥生時代の遺跡である。

古墳時代　当遺跡の北東約2.5㎞には、遠見山古墳、王山古墳、総社二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳などからなる、総社古墳群がある。最近、染谷川の左岸に北谷遺跡が発見され、総社古墳群との関係が指摘されている。また、南西約3.5㎞には井出二子山古墳、八幡塚古墳、薬師塚古墳等からなる保渡田古墳群と豪族居館である三ッ寺遺跡がある。

当遺跡に近接する遺跡からは、国分境遺跡、上野国分僧寺尼寺中間地域遺跡、鳥羽遺跡、元総社西川遺跡（国分寺進入路）等から古墳時代の集落が発見されている。

白鳳時代になると、国分寺以前の寺、山王廃寺が当遺跡の北東約1.5㎞、国分僧寺の北東約1.2㎞のところに建立される。山王廃寺は出土した瓦から、山ノ上碑に刻まれている銘文の「放光寺」であることが判明している。山王廃寺と宝塔山古墳、蛇穴山古墳はほぼ同じ時期に造られている。共に、この地域を支配した豪族が造営したものと考えられる。国分寺建立以前から地域の中心地であったことが窺い知れる。



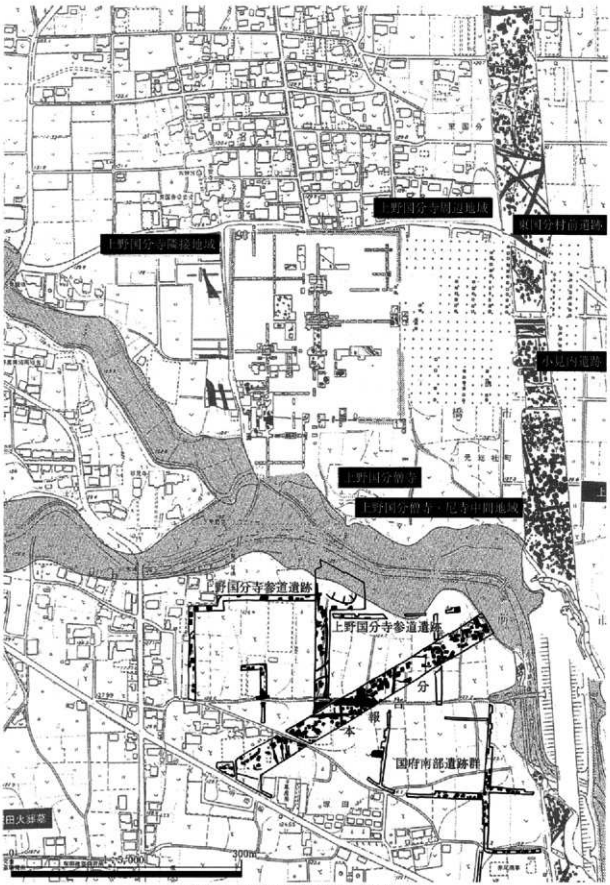
第2図　周辺遺跡分布図（国土地理院 1：25,000「前橋」使用）

奈良・平安時代　当遺跡周辺は、古代群馬県の中心地であり、国分僧寺、国分尼寺の他、当遺跡の東約1㎞には推定国府がある。国分僧寺は、昭和55年より群馬県教育委員会が史跡整備のための発掘調査を実施している。発掘調査により、伽藍配置もほぼ確定し、金堂、塔の基壇や築地塀が復原されている。奈良・平安時代の住居跡は、当遺跡をはじめ、国分境遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡、鳥羽遺跡、元総社西川遺跡（国分寺進入路）等から多数発見されている。その数の多さから、この付近が古代群馬の中心地であったことを裏付けている。

中世以降　平安時代末　鎌倉時代の遺構は、殆ど発見されていない。室町時代になると、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡からは、中世寺院の瓦が出土し、多くの土壙墓が出土している。当遺跡からも、室町時代の掘立柱、溝、土壙墓が発見されている。推定国府の地域は、上野国守護代長尾氏の蓄海域あった地点と重なる。中世後半は、この地域は長尾氏の勢力下にあったものと考えられる。当遺跡近郊からは、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡のほか、国分境Ⅲ遺跡、鳥羽遺跡、西国府遺跡群、西国府六ッ割遺跡等から中世の遺構や遺物が出土している。

第2図周辺の遺跡に、以降の概略配置を示してあるので、参照して下さい。

1　元総社西川遺跡・塚田中原遺跡　2　上野国分僧寺　3　上野国分尼寺　4　推定国府域　5　元総社西川遺跡（史跡国分寺進入路）　6　国分寺参道遺跡　7　国府南部遺跡群　8　山王廻寺　9　遠見山古墳　10 蛇穴山古墳　11 宝塔山古墳　12 愛宕山古墳　13 総社二子山古墳　14 柿木遺跡　15 清里南部遺跡群　16 下東西遺跡　17 下東西清水上遺跡　18 北原遺跡　19 国分境遺跡　20 国分境Ⅱ遺跡　21 国分境Ⅳ遺跡　22 国分境Ⅲ遺跡　23 上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡　24 上野国分二寺中間地域遺跡　25 塚田村東遺跡　26 草作遺跡　27 元総社寺田遺跡　28 鳥羽遺跡　29 弥勒遺跡　30 金尾城　31 中尾遺跡　32 吹屋遺跡　33 日高遺跡　34 六ッ割遺跡　35 西国分遺跡群　36 後疋間遺跡　37 北谷遺跡　38 諏訪西遺跡　39 小池遺跡　40 西三社免遺跡

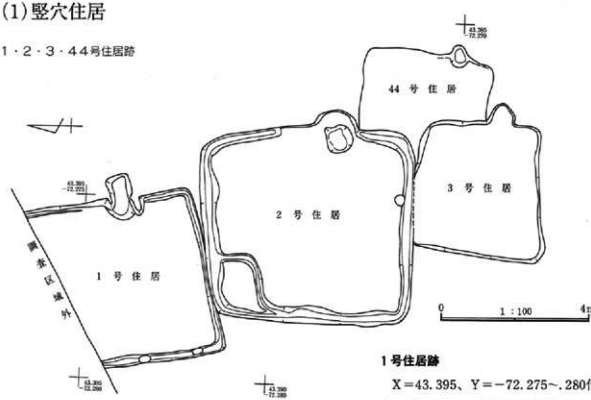


第3図　国分僧寺周辺の遺跡、遺構分布図

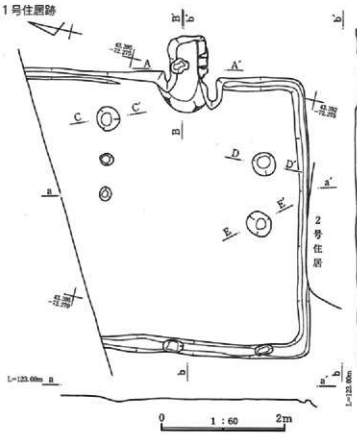
第Ⅱ章　発見された遺構

(1) 竪穴住居

1・2・3・44号住居跡



1号住居跡



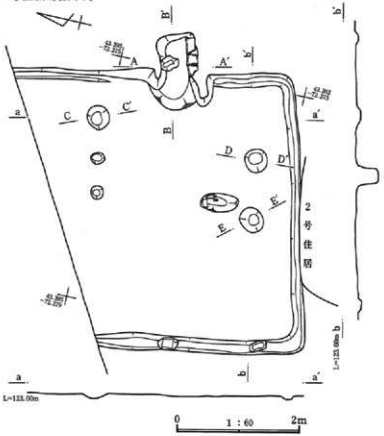
第４図　１・２・３・44号住居跡重複関係、１号住居跡

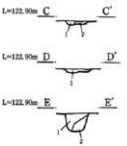
１号住居跡

X＝43.395、Y＝－72.275～.280付近で確認され、２号住居跡と重複する。新旧関係は不明である。残存状態は悪く、確認面と床面がほぼ同じレベルである。北壁が調査区域外であり、規模は確定できないが、東西は約4.6mである。主軸は、N-79°-Eである。

竈は東壁の南よりに構築されている。燃焼部の幅40cm、壁からの張り出しは約70cmである。右袖部分からは、構築材として使用した切石が検出できた。床面からピットが確認できたが、形状から柱穴・貯蔵穴とは考えられない。壁溝は、竈部分を除く確認範囲の全域から検出できた。規模は、幅約15～25cm、床面からの深さ約５～10cmである。遺物は少ないが、土師器の杯(0001)が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、８世紀中葉である。

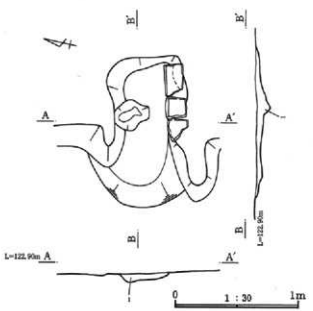
1号住居跡掘り方





1号住居跡ピット（1～3号） 土層注記
1 暗褐色土：比較的硬く締まり粘性も強い。
黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土：比較的硬く締まり粘性も強い。
黄褐色土ブロックを含む。

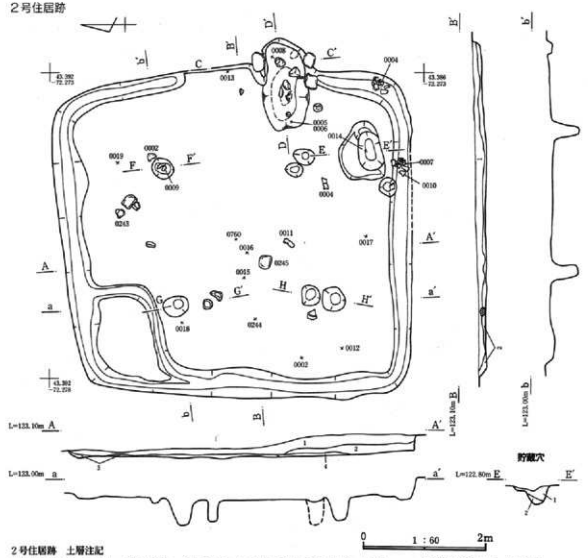
1号住居跡竈



1号住居跡竈 土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び結質土を含む。

第5図 1号住居跡掘り方、1号住居跡竈

2号住居跡



2号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：硬く締まり、粘性は弱い。多量のAs-B・Hr-FA及び少量の焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性は弱い。少量のAs-B・Hr-FA・焼土粒子及び黄褐土粒子を含む。（2層の下は、住居床面）

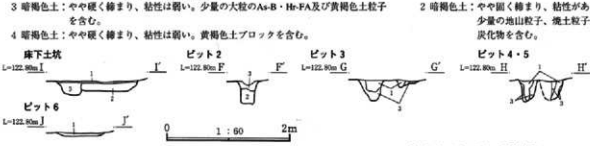
3 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性は弱い。少量の大粒のAs-B・Hr-FA及び黄褐色土粒子を含む。

4 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性は弱い。黄褐色土ブロックを含む。

2号住居跡貯蔵穴　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性がある。地山粒子、焼土粒子及び炭化物を含む。

2 暗褐色土：やや固く締まり、粘性がある。少量の地山粒子、焼土粒子及び炭化物を含む。



2号住居跡床下土坑　土層注記

1 暗褐色土：多量の地山ブロック及び地山粒子を含む。（住居敷床）

2 暗褐色土：やや固く締まり、粘性がある。地山ブロック・地山粒子及び焼土粒子を含む。

3 暗褐色土：地山ブロックとの混合。

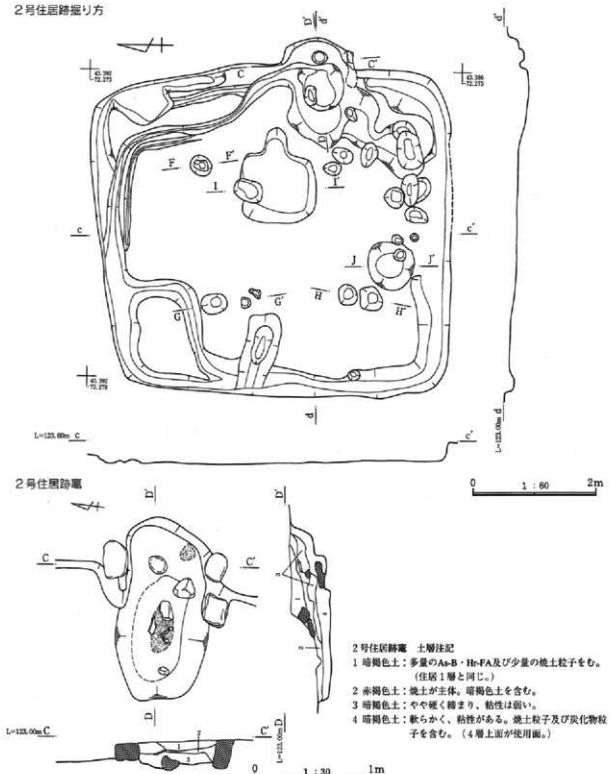
ピット2－ピット6　土層注記

1 暗褐色土：やや固く締まり、粘性がある。地山ブロックを含む。

2 暗褐色土：やや固く締まり、粘性がある。少量の地山ブロックを含む。

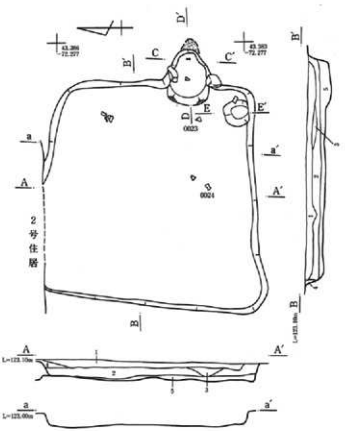
3 暗褐色土：やや固く締まり、粘性がある。多量の地山ブロックを含む。

第6図　2号住居跡

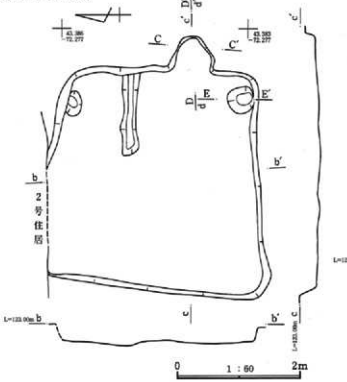


第7図　2号住居跡掘り方、2号住居跡竈

3号住居跡



3号住居跡掘り方



3号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：硬く締まり、粘性は弱い。多量のAs-B・Hr-FA及び少量の焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。

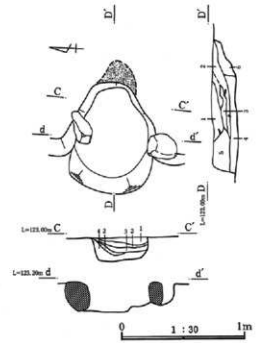
2 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性は弱い。多量のAs-B・Hr-FA・焼土粒子及び黄褐色土粒子を含む。（2層下面は住居床面。）

3 暗褐色土：暗褐色土と黄褐色土の混合。

4 暗褐色土：少量のAs-B・Hr-FAを含む。

5 暗褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

3号住居跡竈



3号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性はあり。As-B・Hr-FA及び焼土粒子を含む。

2 赤褐色土：焼土層。（竈天及び側壁焼土の崩か。）

3 黒褐色土：多量の焼土粒子を含む。

4 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性はあり。焼土粒子及び炭化物粒子を含む。

5 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性は弱い。多量のAs-B・Hr-FA・焼土粒子及び黄褐色土粒子を含む。（住居2層に同じ）

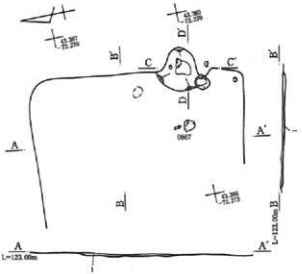
貯蔵穴

3号住居跡貯蔵穴　土層注記

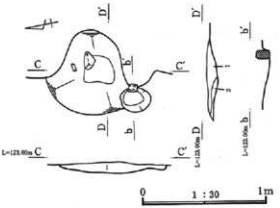
1 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性はあり。黄褐色土ブロック・粒子を含む。

第8図　3号住居跡、3号住居掘り方、3号住居跡竈

44号住居跡

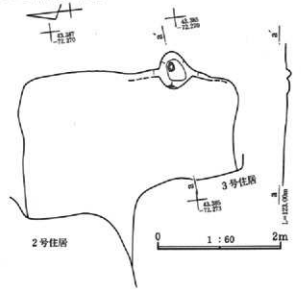


44号住居跡竈



44号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
2 赤褐色土：焼土。

44号住居跡掘り方



44号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。As-C・Hr-FAを含む。

第９図　44号住居跡、44号住居掘り方、44号住居跡竈

2号住居跡

X＝43.390、Y＝－72.275付近で検出され、1号住居跡・3号住居跡・44号住居跡と重複する。1号住居跡との新旧関係は不明である。3号住居跡との新旧関係は、断面観察から、当住居跡の方が古い。44号住居跡との新旧関係は、遺物から、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南北約5.4～5.8m、東西約5.1～5.3mである。主軸はN-86°-Eである。竈は、東壁の南よりに構築されている。燃焼部の幅約65cm、確認面での煙道部の壁からの張り出しは、約40cmである。袖には切石が使用されている。主柱穴は4本である。柱穴の規模は、直径約30～40cm、床面からの深さ35～40cmである。主柱穴の内側に、3基の柱穴と考えられるピットを検出した。貯蔵穴と考えられるのは、南東隅のピットである。規模は長軸65cm、短軸35cm、床面からの深さ約25cmであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。壁溝は、竈の左部分を除きほぼ全体を巡る。また、北西隅で、内側に巡る壁溝が確認できた。規模は幅約30～40cm、床面からの深さ約2～7cmである。

当住居跡は、柱穴の数、壁溝の形状から立替がなされた住居跡と推測される。遺物は土師器杯(0003・0004・0005・0006・0007・0008)、土師器甕(0002)、須恵器椀(0012)、須恵器蓋(0013)、須恵器壺・瓶(0009・0010・0011)、鉄製品釘(0780)、棒状鉄製品(0760)、鷹編み石(0014・0015・0016・0017・0018・0019)、石製品(0243・0244・0245)等が出土している。遺物から推定する当住居跡年代は、8世紀前半である。

3号住居跡

X＝43.385、Y＝－72.275付近で確認され、2号住居跡・44号住居跡と重複する。2号住居跡との新旧関係は、断面観察から当住居跡の方が新しい。44号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、南北約3.25～3.5m、東西約3.6～3.7mである。主軸はS-88°-Eである。竈は、東壁の南よりに構築されている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し55cmである。竈袖には川原石が使用されていた。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は、南東隅に構築されている。規模は、長軸約45cm、短軸約40cm、床面からの深さ10cmであり、平面形は楕円形を呈する。壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(0022)、須恵器杯(0230)、須恵器椀(0023)、須恵器蓋(0024)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の時期は、9世紀中葉である。

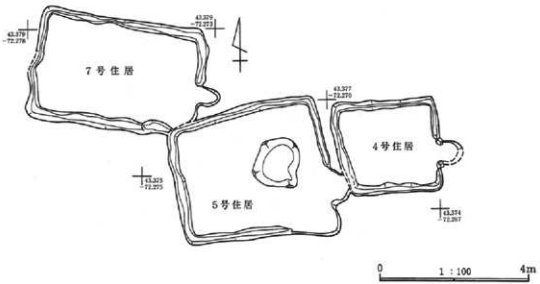
44号住居跡

X＝43.385、Y＝－72.270～.275で確認され、2号住居跡、3号住居跡と重複する。2号住居跡との新旧関係は、出土遺物から当住居跡の方が新しい。3号住居跡との新旧関係は、出土遺物から当住居跡の方が古い。

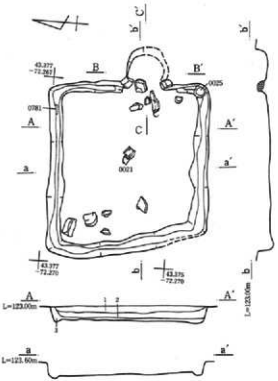
当住居跡の床面は、遺構確認面であり、規模は、2号・3号住居跡の調査後に確認されたため確定できないが、南北約3.3～3.45mである。主軸はN-8°-Eである。竈は、東壁の南よりに構築されている。確認面での煙道部の壁外への張り出しは、約40cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は須恵器椀(0231)が出土している。遺物から推定する当住居跡の時期は、8世紀中葉である。

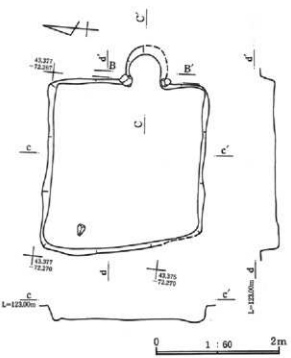
4・5・7号住居跡



4号住居跡



4号住居跡掘り方



4号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：硬く締まり、粘性は弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性は弱い。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子及び黄褐色土粒子を含む。

3 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性は弱い。黄褐色土ブロックを含む。

4号住居跡竈　土層注記

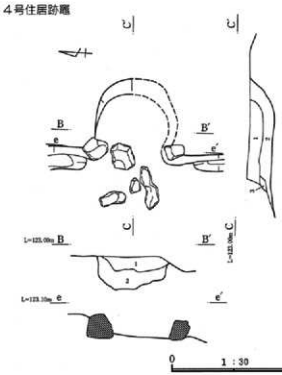
1 暗褐色土：やや硬く締る。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。

2 暗褐色土：やや硬く締る。焼土ブロック・焼土粒子を含む。

3 黄灰色土

第10図　4・5・7号住居跡重複関係、4号住居跡、4号住居跡掘り方

4号住居跡竈



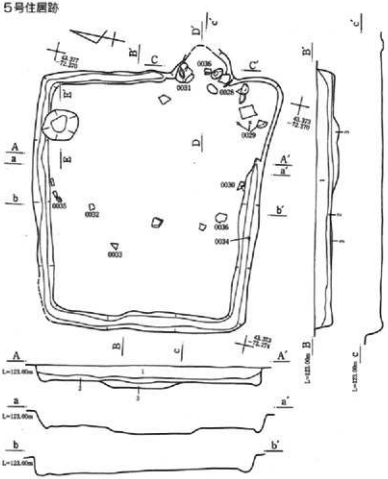
4号住居跡

X＝43.375、Y＝－72.265～.270で確認された。5号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の西壁が5号住居跡の竈先端を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.5～2.9m・南北約2.6mである。主軸はN-86°-Eである。竈は、東壁のやや南よりに構築されており、構築材には切石が使用されていた。燃焼部の幅約45cm、煙道部の東壁からの張り出し約60cmである。主柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。壁溝は竈部分を除いてほぼ全周する。規模は、幅約20～30cm、床面からの深さ約2～6cmである。

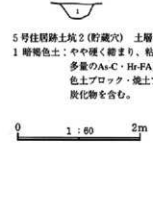
遺物は土師器甕(0021・0025・0026)、須恵器杯(0027)、鉄製品刀子(0782)、不明鉄製品(0781)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀後半である。

5号住居跡



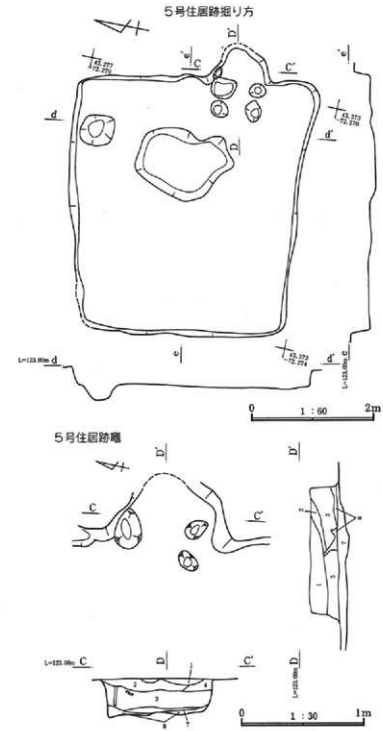
5号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性有り。多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
2 黒褐色土：やや硬く締まり、粘性有り。As-C・Hr-FA及び焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
3 黒褐色土：やや硬く締まり、粘性有り。焼土・As-C・Hr-FA及び多量の黄褐色土ブロックを含む。
（3層上面は住居床面。）

住居内土坑



5号住居跡土坑2（貯蔵穴）　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性有り。多量のAs-C・Hr-FA及び黄褐色土ブロック・焼土ブロック・炭化物を含む。

第11図　4号住居跡竈、5号住居跡



5号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性弱い。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子及び炭化物を含む。
3 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性有り。As-C・Hr-FA及び多量の焼土粒子・炭化物を含む。
4 赤褐色土層：やや硬く締まり、粘性有り。多量の焼土ブロック及び炭化物粒子を含む。
5 暗褐色土：軟らかく、粘性有り。多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
6 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性有り。焼土ブロック・焼土粒子及び黄褐色土ブロックを含む。
7 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性有り。黄褐色土ブロックを含む。
8 暗褐色土：やや硬く締まり、粘性有り。地山ブロックを含む。

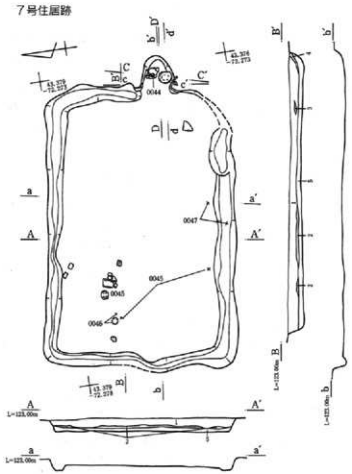
第12図　5号住居跡掘り方、5号住居跡竈

5号住居跡

X＝43.375、Y＝－72.270～.275で確認された。4号住居跡・7号住居跡と重複する。4号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈先端部が4号住居跡の西壁に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。7号住居跡との新旧関係は、出土遺物から当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.3～3.9m、南北約4.2m。主軸はN-78°-Eである。竈は東壁の南よりに構築されている。燃焼部の幅約70cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴と推測できるピットが北東近くから検出できたが、位置等からやや疑問も残る。規模は、一辺50cmであり、平面形は不整形な方形である。壁溝は竈及び南東部分を除いて確認できた。規模は、幅約20～30cm、床面からの深さ約2～6cmである。

遺物は、土師器杯（0028・0029・0030・0031・0032・0033・0034）、須恵器羽釜(0036)、須恵器蓋(0035)、不明鉄製品(0783) 等が出土している。遺物から推測する当住居跡の年代は、8世紀初頭である。

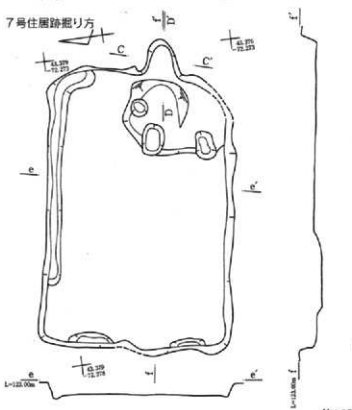


7号住居跡

X＝43.375～.380、Y＝－72.275付近で確認された。5号住居跡と重複する。新旧関係は、出土遺物から当住居跡のほうが新しい。

当住居跡の規模は、東西約4.5～4.6m、南北約3.0～3.1mである。主軸はS-79°-Eである。竈は東壁のほぼ中央に築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約55cmである。袖材には、瓦が使用されていた。主柱穴、貯蔵穴は、検出できなかった。壁溝は竈部分を除き、全周すると考えられる。規模は、幅約15～30cm、床面からの深さ約2～9cmである。

遺物は、土師器杯(0043)、土師器甕(0044)、須恵器椀(0045・0046)、須恵器杯(0047)、鉄滓(0048・0049)等が出土している。遺物から推測する当住居跡の年代は、9世紀前半である。



7号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く、締っている。As-C・Hr-FA・黄褐色土粒子及び少量の焼土粒子を含む。

2 暗褐色土：硬く、締っている。多量の黄褐色土ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

3 焼土

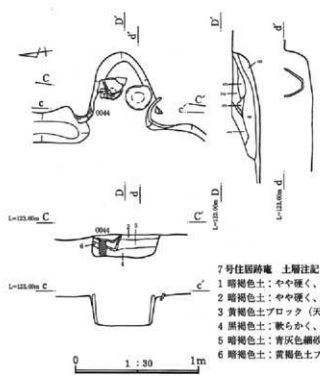
4 暗褐色土：硬く、締っている。少量のAs-C・Hr-FAを含む。

5 暗褐色土と黄褐色土ブロックの混合。

0　1：60　2m

第13図　7号住居跡、7号住居跡掘り方

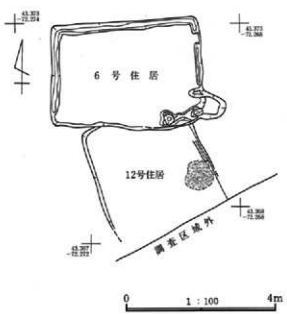
7号住居跡竈



7号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く、締っている。As-C・Hr-FA及び焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：やや硬く、締っている。多量の焼土粒子を含む。
3 黄褐色土ブロック（天井又は袖材の崩れか。）
4 黒褐色土：軟らかく、粘性有り。焼土粒子・炭化物粒子を含む。
5 暗褐色土：青灰色細砂及び焼土粒子を含む。
6 暗褐色土：黄褐色土ブロック及び焼土粒子を含む。

6・12号住居跡



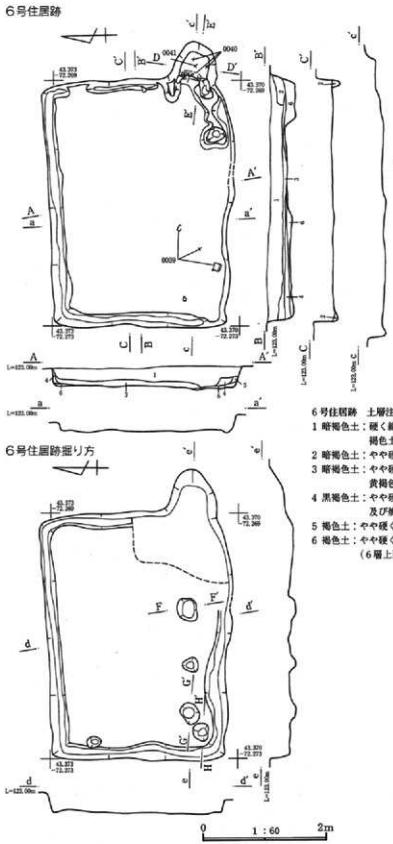
6号住居跡

X＝43.370～.375、Y＝－72.270付近で確認された。12号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南壁が12号住居跡の北壁を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約4.0～4.1m、南北2.9～3.1mである。主軸はN-87°-Eである。竈は、東壁の南隅に築かれている。燃焼部の幅は約50cm、煙道部の壁外への張り出しは約65cmである。主柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。壁溝は、竈部分を除いて全周するものと推測される。規模は、幅約15～30cm、床面からの深さ約2～5cmである。

遺物は土師器甕(0041)、須恵器盤(0040) 須恵器長頸壺(0042) 等が出土している。出土遺物から推測する当住居跡の年代は、8世紀末～9世紀初頭である。

第14図　7号住居跡竈、6・12号住居跡重複関係



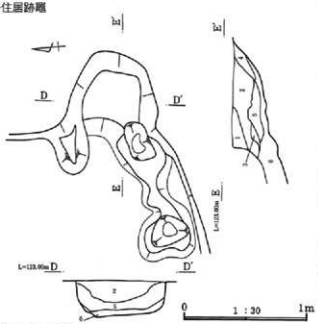
6号住居跡ピット1　土層注記
1 赤褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及び炭化物を含む。
2 暗褐色土：焼土粒子は含まない。

6号住居跡ピット2・3　土層注記
1 暗褐色土：黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子を含む。

6号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り粘性弱い。黄褐色土粒子を含む。
3 暗褐色土：やや硬く締り粘性有り。As-C・Hr-FA及びやや多量の黄褐色土粒子・黄褐色土ブロックを含む。
4 黒褐色土：やや硬く締り粘性有り。As-C・Hr-FA・黄褐色土粒子及び焼土粒子を含む。
5 褐色土：やや硬く締り粘性有り。黄褐色土粒子を含む。
6 褐色土：やや硬く締り粘性有り。多量の黄褐色土ブロックを含む。
（6層上面は住居床面。）

第15図　6号住居跡、6号住居跡掘り方

6号住居跡竈



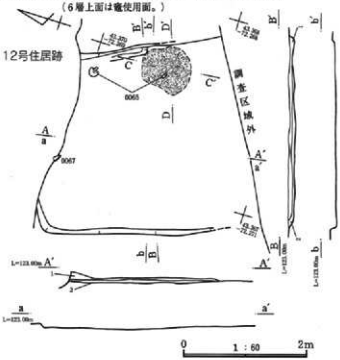
6号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土ブロック・焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
2 赤褐色土：やや硬く締り粘性有り。多量の焼土ブロックを含む。
3 暗褐色土：硬く締り粘性有り。焼土ブロック・炭化物・灰を含む。
4 赤褐色土：焼土主体。
5 暗褐色土：多量の焼土ブロックを含む。
6 暗褐色土：多量の黄褐色土ブロック及び少量の焼土粒子を含む。
（6層上面は竈使用面。）

12号住居跡

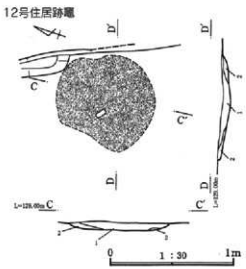
X=43.370、Y=−72.270付近で確認された。6号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北壁が6号住居跡の南壁に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の残存状態は悪く、掘り方での確認である。規模は、南壁が調査区域外となり、確定できないが東西約3.0～3.2mである。竈は東壁に築かれていた。煙道部、袖は破壊されており不明であるが、燃焼部があったと推定される部分から、焼土の堆積が確認できた。主柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。壁溝は、竈左側部分から一部検出できた。

遺物は土師器杯(0039・0065)、須恵器蓋(0067)、須恵器甕(0066)、板状鉄製品(0785)等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀前半である。



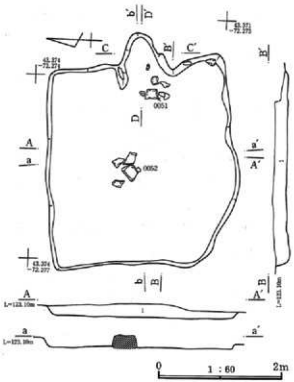
12号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。地山粒子・焼土粒子を含む。



12号住居跡竈　土層注記
1 赤褐色土：焼土。
2 暗褐色土：地山粒子・焼土粒子を含む。

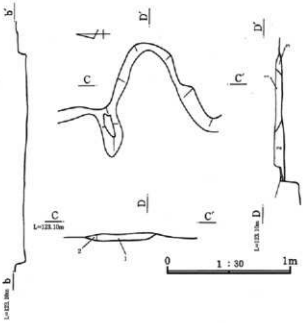
第16図　6号住居跡竈、12号住居跡、12号住居跡竈

8号住居跡



8号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性は弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。

8号住居跡竈



8号住居跡竈　土層注記
1 赤褐色土：やや硬く締り、粘性は弱い。多量の焼土ブロックを含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性は弱い。多量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：やや硬く締り、粘性は弱い。少量のAs-C・Hr-FAを含む。

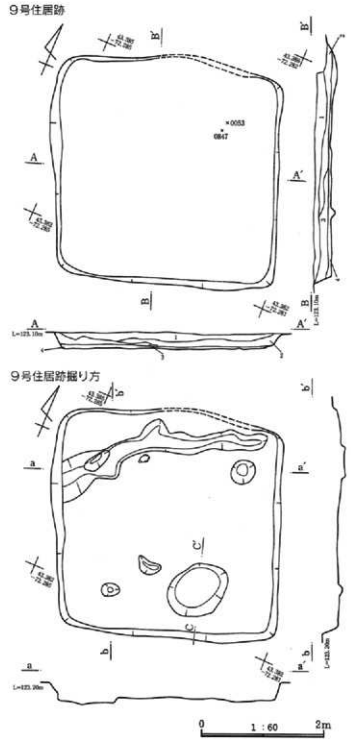
第17図　8号住居跡、8号住居跡竈

8号住居跡

X＝43.370～.375、Y＝－72.275付近で確認された。5号住居跡と重複する。新旧関係は、出土遺物から当住居跡の方が新しい。規模は、東西約3.3～3.5m、南北約2.7～3.1mであり、確認面から床面までの深さ25cmである。主軸はN-81°-Eである。

竈は、東壁の中央に築かれている。燃焼部の幅約50cm、煙道部の壁外への張り出し約50cmである。竈には、構築材として切石が使用されていた。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(0050)、須恵器椀(0051)、灰釉陶器長頸壺(0052)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。



第18図　9号住居跡、9号住居跡掘り方

9号住居跡

X＝43.375～.380、Y＝－72.290～.295付近で確認された。他の住居跡との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.5～3.7m、南北約3.6～3.7mであり、平面形は不整形な方形を呈する。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

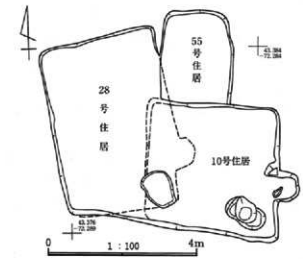
遺物は少ないが、土師器杯(0053)、石製品(0847)等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀後半である。

9号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締り、やや粘性有り。As-C・Hr-FA・黄褐色土粒子及び褐色土ブロックを含む。
3 暗褐色土：硬く締り、やや粘性有り。As-C・Hr-FA及び黄褐色土粒子を含む。
4 暗褐色土：硬く締る。黄褐色土粒子・黄褐色土ブロックを含む。（4層上面は住居床面。）

床下土坑

9号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量の黄褐色土粒子及び黄褐色土ブロックを含む。

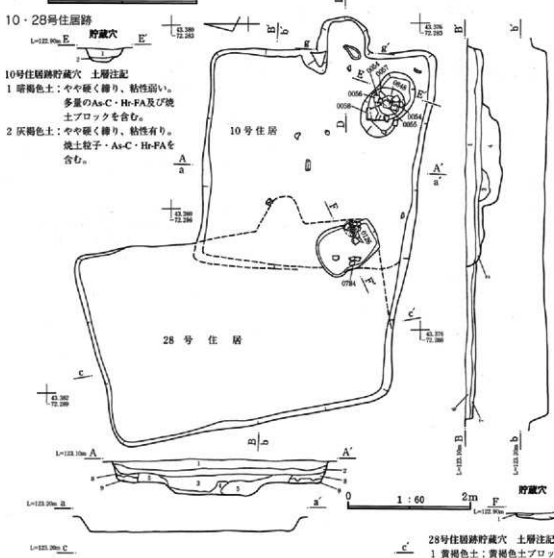
10・28・55号住居跡



10・28号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・灰白色粘質土ブロックを含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。白色軽石・黄褐色土粒子及び焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。多量のAs-C・Hr-FA・地山ブロック及び焼土を含む。
4 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。多量のAs-C・Hr-FA・地山ブロックを含む。
5 暗褐色土：やや硬く締る。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の灰白色粘質土ブロックを含む。
6 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA・地山粒子及び少量の焼土粒子を含む。
7 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量の褐色粘質土ブロックを含む。
8 灰白色粘質土
9 黒褐色粘質土

10・28号住居跡



10号住居跡貯蔵穴　土層注記

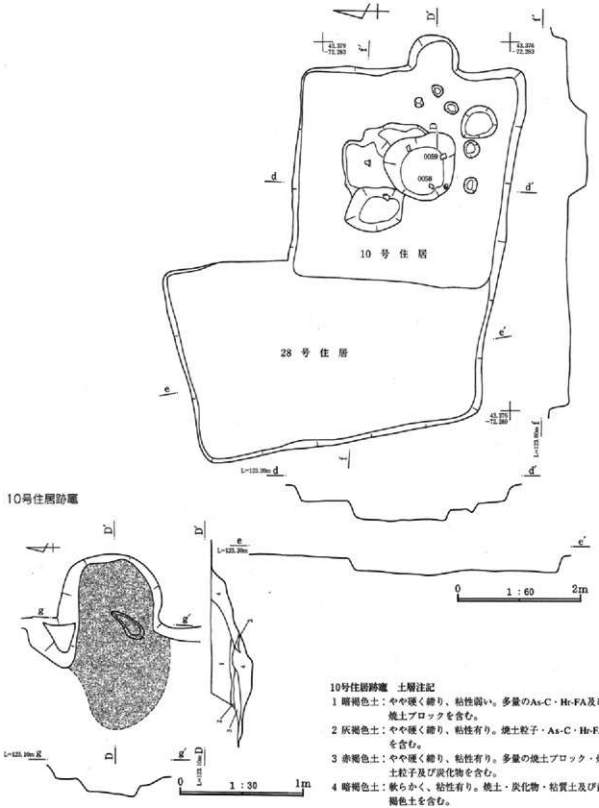
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び焼土ブロックを含む。
2 灰褐色土：やや硬く締り、粘性有り。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

28号住居跡貯蔵穴　土層注記

1 黄褐色土：黄褐色土ブロック主体。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。黄褐色土粒子・黄褐色土ブロック。焼土粒子を含む。

第19図　10・28・55号住居跡重複関係、10・28号住居跡

10・28号住居跡掘り方



10号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び焼土ブロックを含む。

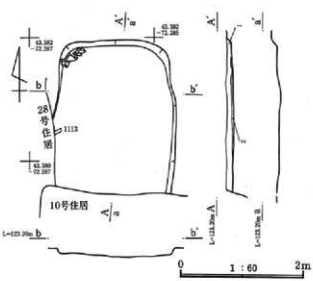
2 灰褐色土：やや硬く締り、粘性有り。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

3 赤褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量の焼土ブロック・焼土粒子及び炭化物を含む。

4 暗褐色土：軟らかく、粘性有り。焼土・炭化物・粘質土及び黄褐色土を含む。

第20図　10・28号住居跡掘り方、10号住居跡竈

55号住居跡



55号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：ごく少量のAs-C・Hr-FAを含む。

第21図　55号住居跡

55号住居跡

X＝43.380、Y＝－72.285付近で確認された。10号住居跡、28号住居跡と重複する。10号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南側の壁、床が10号住居跡に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。28号住居跡との新旧関係は不明である。

規模は、南側が破壊されていることにより確定できないが、東西約1.8～2.0mである。竈、主柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1111)、須恵器蓋(1112)、土師器甕(1113)、須恵器壺(1114) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀前半である。

10号住居跡

X＝43.375～.380、Y＝－72.285付近で確認された。28号住居跡、55号住居跡と重複する。28号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西側部分が28号住居跡の南東部分を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。55号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北側部分が55号住居跡の南側部分を破壊していることから当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.6m、南北約3.5～3.6mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-90°-Eである。竈は、東壁の中央に築かれている。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。貯蔵穴は、南東隅に掘られていた。規模は、長軸60cm、短軸50cm、床面からの深さ20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は須恵器椀(0054・0055・0056・0057)、須恵器羽釜(0058)、瓦(0059)、棒状鉄製品(0784)、石製品(0848・0849) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀末～10世紀初頭である。

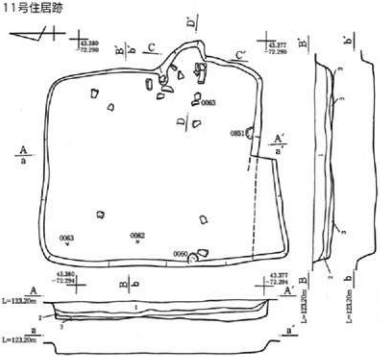
28号住居跡

X＝43.380、Y＝－72.285～.290で確認された。10号住居跡、55号住居跡と重複する。10号住居跡との新旧関係は、当住居跡の東側の壁、竈が10号住居跡の西側部分に破壊されていることにより、当住居跡の方が古い。55号住居跡との新旧関係は不明である。

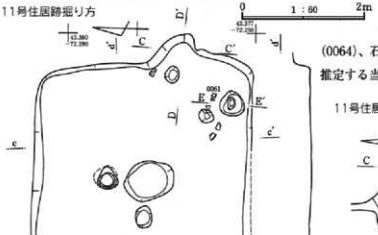
当住居跡の規模は、10号住居跡に破壊されていることにより確定できないが、東西は約3.2mである。竈、主柱穴は検出できなかった。貯蔵穴は南東隅に築かれていると推定される。規模は、長辺約1.05m、短辺約0.75mで、平面形は不整長方形を呈する。

遺物は、土師器甕(0126) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀である。

11号住居跡



11号住居跡掘り方



0　1：60　2m

11号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量のAs-C・Hr-FA及び黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FA及び黄褐色土ブロックを含む。

3 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。As-C・Hr-FA・黄褐色土粒子・黄褐色土ブロックを含む。

貯蔵穴

11号住居跡貯蔵穴　土層注記

1 暗褐色土：やや締っている。As-C・Hr-FA・炭化物・黄褐色土粒子をむ。

2 暗褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

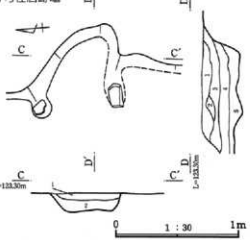
11号住居跡

X＝43.380、Y＝－72.290～.295付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.2～3.4m南北約3.5mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-85°-E である。竈は、東壁のやや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の整外への張り出し約40cmである。竈の袖材等には、竈周辺の遺物の分布から、瓦が使用されていたと推定される。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、直径約40cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。主柱穴、整溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(0060)、須恵器椀(0061・0062)、土師器台付甕(0063)、須恵器壺(0064)、石製品(0850) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

11号住居跡竈



0　1：30　1m

11号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。As-C・Hr-FA・焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子を含む。

2 赤褐色土：軟らかく、粘性弱い。多量の焼土粒子・焼土ブロックを含む。

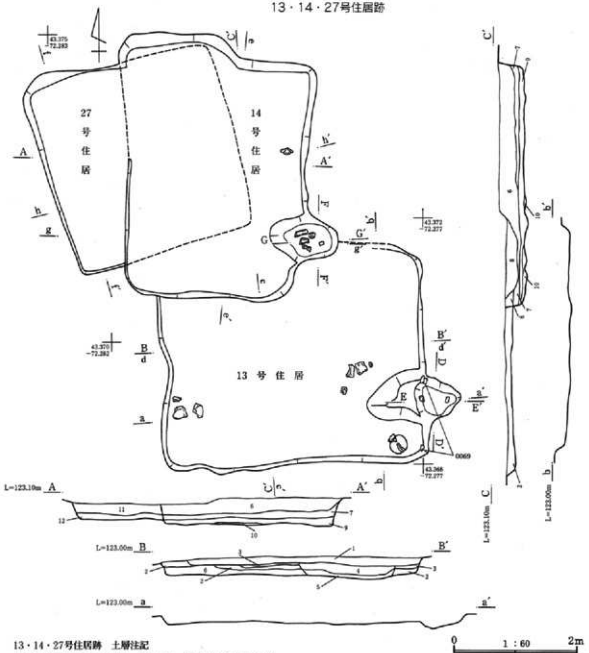
3 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。焼土粒子・焼土ブロック・炭化物粒子を含む。

4 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。焼土粒子・焼土ブロックを含む。(4層の上面は竈使用面。)

5 暗褐色土：軟らかく、粘性有り。地山粒子を含む。

第22図　11号住居跡、11号住居跡掘り方、11号住居跡竈

13・14・27号住居跡



13・14・27号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び地山粒子・焼土粒子を含む。

2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA・地山粒子を含む。

3 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FAを含む。（3層の上面は、13号住居跡床面。）

4 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。多量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。

5 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。多量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土粒子を含む。

6 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・地山粒子を含む。(14号住居跡)

7 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。As-C・Hr-FA・焼土粒子・地山粒子を含む。(14号住居跡)

8 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA・焼土ブロック・焼土粒子・地山ブロック・地山粒子を含む。(14号住居跡)

9 暗褐色土：硬く締っている。多量の地山ブロック・地山粒子及び焼土粒子を含む。（14層上面は、14号住居跡床面。）

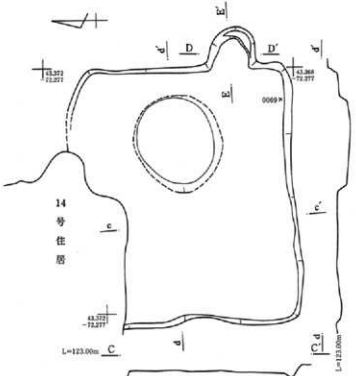
10 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。地山粒子を含む。（14号住居跡）

11 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。As-C・Hr-FA・地ブロック・地山粒子を含む。(27号住居跡)

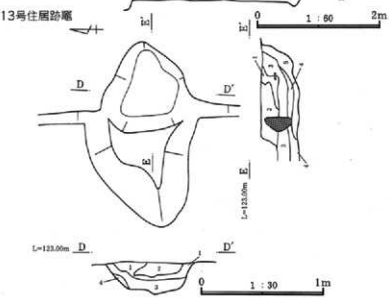
12 黒褐色土：軟らかく、粘性有り。地山ブロックを含む。（27号住居跡。12層上面は、27号住居跡床面。）

第23図　13・14・27号住居跡重複関係

13号住居跡



13号住居跡竈



13号住居跡竈　土層注記
1 赤褐色土：焼土層。(竈の天井又は側壁の崩れか。)
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：軟らかい。多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FA・粘質土ブロックを含む。
4 暗褐色土：多量の焼土粒子を含む。
5 暗褐色土：少量の焼土粒子及び地山粒子を含む。(5層上面は、竈使用面。)

第24図　13号住居跡、13号住居跡竈

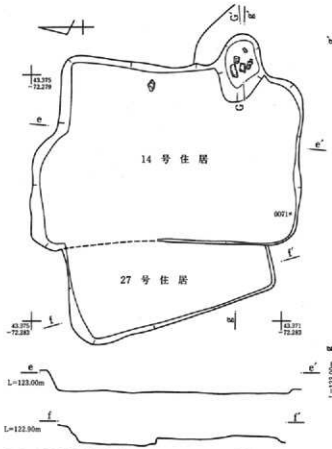
13号住居跡

X＝43.370、Y＝－72.280付近で確認された。14号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北西部分が、14号住居跡の南東部分の竈、壁に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

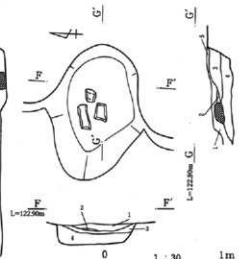
当住居跡の規模は、東西約4.2～4.3m、南北約3.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-88°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、南東隅で検出された。規模は、直径約30cm、床面からの深さ約15～20cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(0068)、土師器甕(0069)、須恵器蓋(0070)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀末～9世紀初頭である。

14・27号住居跡



14号住居跡竈



14号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。地山ブロックを含む。

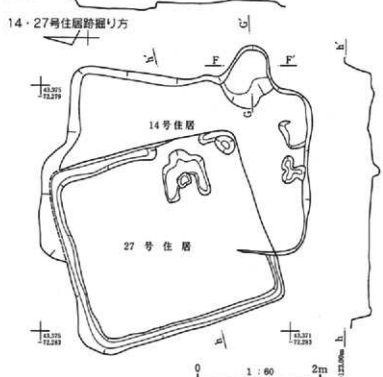
2 赤褐色土：焼土層。（竈天井又は側壁の崩れか。）

3 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。焼土粒子・焼土ブロック・炭化物を含む。

4 暗褐色土：軟らかく、粘性有り。焼土粒子・炭化物・地山ブロックを含む。

5 赤褐色土：多量の焼土ブロックを含む。（竈天井又は側壁の崩れか。）

14・27号住居跡掘り方



第25図　14・27号住居、14号住居跡竈、14・27号住居跡掘り方

14号住居跡

X＝43.370～.375、Y＝－72.280付近で確認された。13号住居跡、27号住居跡と重複する。13号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南東部分の壁・床・竈が、13号住居跡の北西部分の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。27号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西側部分の壁・床が、27号住居跡の東側部分の壁・床等を破壊して作られていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.9～3.2m、南北約3.9～4.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈するが、北壁の西半分は張り出す。主軸は、S-83°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出することができなかった。

遺物は、土師器杯(0071・0072・0073) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀末～9世紀初頭である。

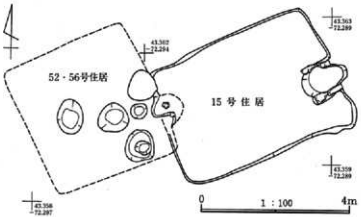
27号住居跡

X＝43.370～.375、Y＝－72.280～.285で確認された。14号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の東側部分の壁・床・竈が、14号住居跡に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

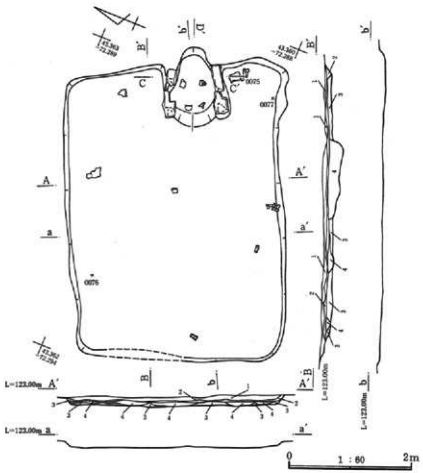
当住居跡の規模は、掘り方での確認で、東西約3.1～3.2m、南北約3.1～3.3mであり、平面形は隅丸方形を呈する。竈は破壊されており不明であるが、壁溝の残存状態から東壁南よりに築かれていたものと推定される。貯蔵穴・壁溝は掘り方で検出できた。貯蔵穴は南東隅に築かれている。規模は、長軸約30cm、短軸約25cm、床面からの深さ約40cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。壁溝は南壁の一部で途切れているが、竈部分を除き、全体を巡っていたものと推定される。規模は、幅約20～25cm、床面からの深さ約2～5cmである。

年代を推定できる遺物は無く、時期は不明である。

15・52・56号住居跡



15号住居跡

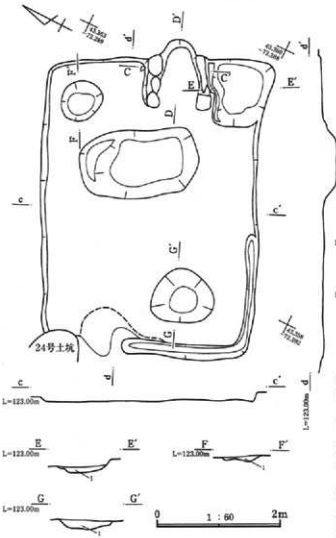


15号住居跡　土層注記

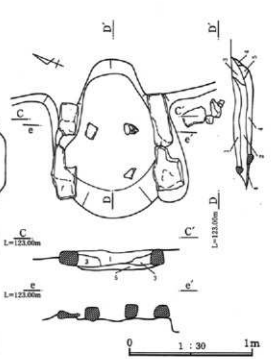
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-B・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。少量のAs-B・Hr-FAを含む。（2層上面は、15号住居床面。）
3 黒褐色土：硬く締り、粘性あり。（地山）
4 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。As-B・Hr-FA・黄褐色土粒子を含む。

第26図　15・52・56号住居跡重複関係、15号住居跡

15号住居跡掘り方



15号住居跡竈



15号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：軟らかく、粘性有り。多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：軟らかく、粘性有り。焼土粒子・炭化物粒子・袖材の石の破片を含む。
3 暗褐色土：軟らかく、粘性有り。少量の焼土粒子を含む。
4 暗褐色土：軟らかく、粘性有り。少量の焼土粒子・炭化物を含む。
5 褐色土：粘性弱い。多量の焼土粒子及び炭化物を含む。

15号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：As-B・Hr-FA・黄褐色土粒子を含む。

第27図　15号住居跡掘り方、15号住居跡竈

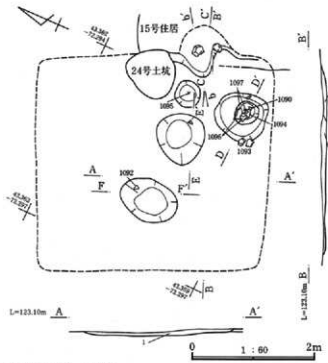
15号住居跡

X＝43.360、Y＝－72.290付近で確認された。52(56)号住居跡と重複する。52号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西壁を破壊して、52(56)号住居跡の竈が築かれていることから当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約4.7～5.0m、南北約3.4～3.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-62°-Eである。竈は東壁のやや南よりに築かれている。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmであり、竈の構築材には、切石が使用されていた。また、燃焼部の中には、支脚と考えられる石が2箇所に据えられていた。掘り方調査では、貯蔵穴と考えられるピットと壁溝の一部が検出できた。貯蔵穴は南東隅に築かれている。規模は、長辺約110cm、短辺約90cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。壁溝は、南西部から検出された。規模は、幅約15～25cm、床面からの深さ約2～5cmである。

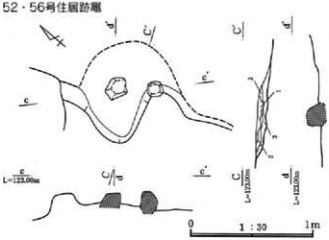
遺物は、石製品(0074)、薦編み石(0075・0076・0077・0078)等が出土しているが、実測可能な土師器、須恵器の破片はない。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉である。

52・56号住居跡



52・56号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：粘性有り。炭化物及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

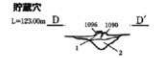
52・56号住居跡竈



52・56号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子及び少量の灰を含む。
2 黒褐色土：多量の炭化物・灰を含む。
3 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物・As-C・Hr-FAを含む。

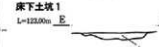
第28図　52・56号住居跡、52・56号住居跡竈

貯蔵穴



52・56号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：粘性有り。少量の炭化物・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや粘性強い。少量のAs-C・Hr-FAを含む。

床下土坑1



床下土坑2

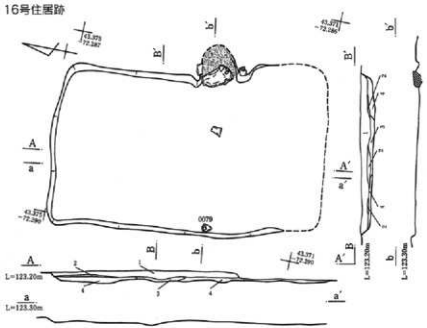
52・56号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：粘性有り。少量の焼土粒子・炭化物・As-C・Hr-FAを含む。

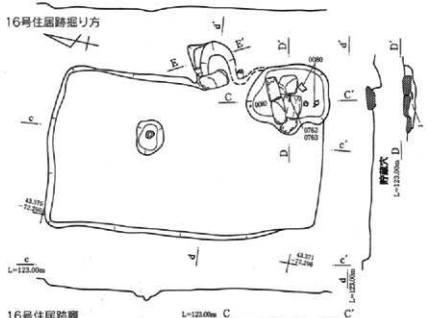
52・56号住居跡

X＝43.360、Y＝－72.295付近で確認された。現場では、52号住居跡と56号住居跡は別遺構と認識した。しかし、52・56号住居跡ともに残存状態は悪く、52号住居跡は掘り方、56号住居跡は竈掘り方だけの検出であり、東竈になっている。当遺跡には、西竈の例はない。従って、56号住居跡は、52号住居跡の竈と判断した。15号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈が15号住居跡の西壁を破壊していると考えられることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡は、掘り方での確認のため、規模・主軸は不明である。竈は、東壁に構築されていると判断した。南東部と推定される位置から、貯蔵穴と考えられるピットを検出した。規模は、長軸90㎝、短軸80㎝、確認面からの深さ約20㎝であり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は土師器椀(1090)、須恵器杯（1092)、須恵器椀(1093・1094・1095・1096)、土師器小型台付甕(1091)、須恵器甕(1097）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。





16号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。As-C・Hr-FA及び地山ブロックを含む。
3 暗褐色土：地山粒子・焼土粒子を含む。
4 暗褐色土：多量の地山ブロック・地山粒子を含む。（4層上面は、住居床面。）

16号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。少量の焼土粒子・焼土ブロックを含む。

16号住居跡竈　土層注記
1 赤褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及び炭化物を含む。
2 暗褐色土：焼土ブロック・焼土粒子及び炭化物を含む。
3 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・地山粒子を含む。（3層上面は竈の使用面。）

第29図　16号住居跡、16号住居跡掘り方、16号住居跡竈

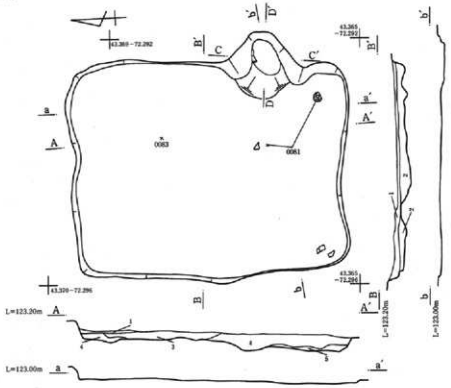
16号住居跡

X＝43.370～.375、Y＝－72.285～.290付近で確認された。他の遺構との重複はない。

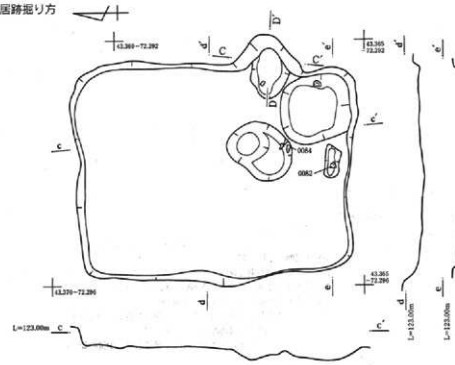
当住居跡の規模は、東西約2.6～2.8m、南北約4.4mであり、平面形は、隅丸長方形を呈する。主軸はN-77°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmであり、構築材には切石を使用していた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸130cm、短軸約100cm、確認面からの深さ約18cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器椀（0079・0080）、鉄製品刀子（0763）、板状鉄製品（0762）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

17号住居跡



17号住居跡掘り方

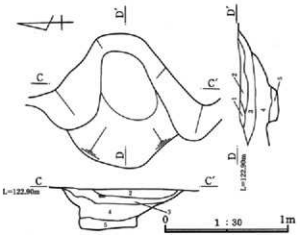


17号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性は弱い。多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性は弱い。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：やや硬く締り、粘性は弱い。褐色土ブロックを含む。
4 暗褐色土：多量の焼土粒子を含む。（3・4層上面は住居床面。）
5 暗褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

第30図　17号住居跡、17号住居跡掘り方

17号住居跡竈



17号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、As-C・Hr-FAを含む。
2 赤褐色土：多量の焼土・炭化物及びAs-C・Hr-FA・粘質土粒子を含む。
3 暗褐色土：やや硬く締る。焼土粒子・炭化物粒子・粘質土粒子を含む。
4 暗褐色土：多量の焼土・炭化物を及び黄褐色土粒子・黄褐色土ブロックを含む。（4層上面は竈使用面。）
5 黒褐色土：やや硬く締り、粘性有り。微量のAs-C・Hr-FAを含む。

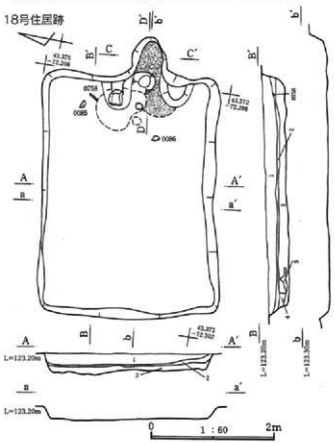
17号住居跡

X＝43.365～.370、Y＝－72.295付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.4m～3.6m、南北約4.4m～4.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-90°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴と推定できるピットが南東隅で検出できた。規模は、一辺110cm、床面からの深さ約25cmであり、平面形は隅丸方形を呈する。しかし、竈右手前部分まで張り出しており、断定はできない。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(0081・0082)、須恵器杯(0083)、土師器甕(0084)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀中葉である。

18号住居跡



18号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び砂層ブロックを含む。
2 暗褐色土：締り弱い。微量のAs-Cを含む。
3 黒褐色土：硬く締り、粘性強い。As-Cは含まない。
（3層上面は、住居床面。）
4 黒褐色土：硬く締り、粘性強い。地山ブロックを含む。
5 黒褐色土：硬く締り、粘性強い。As-Cを含む。

第31図　17号住居跡竈、18号住居跡

18号住居跡掘り方

18号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：軟らかく、やや粘性あり。
少量のAs-Cを含む。

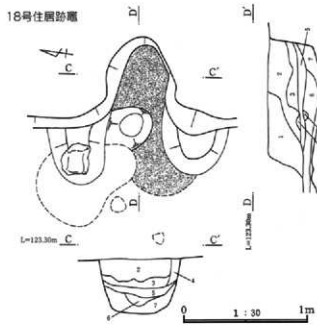
18号住居跡

X＝43.370～.375、Y＝－72.300付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.9m～4.0m、南北約2.8m～2.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸は、N-84°-Eである。竈は、東壁のやや南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約70cmであり、構築材には切石を使用していたと思われる。貯蔵穴と推定されるピットが、掘り方で南東隅から検出できた。規模は、長軸40cm、短軸30cm、確認面からの深さ約16cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(0085)、須恵器杯(0086)、鉄製品刀子(0758)、棒状鉄製品(0761) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉である。

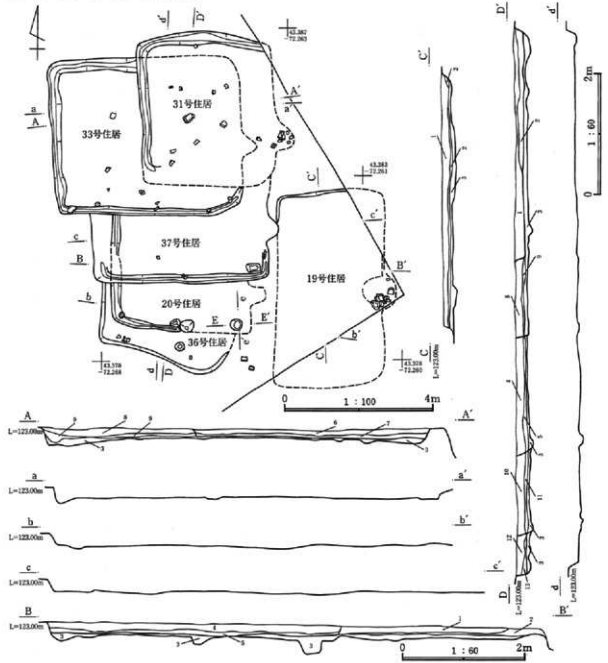
18号住居跡竈



18号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗赤褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量の焼土ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む。
4 灰褐色土：軟らかく、粘性有り。焼土ブロック・袖石の破片を含む。(袖の崩れか。)
5 灰褐色土：軟らかく、粘性弱い。多量の灰及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
6 黒褐色土：粘性有り。少量のAs-C・炭化物粒子を含む。
(6層上面は、竈使用面。)
7 黒褐色土：硬く締り、粘性強い。少量のAs-Cを含む。(地山)
8 灰褐色土：灰が主体。微量の炭化物粒子を含む。

第32図　18号住居跡掘り方、18号住居跡竈

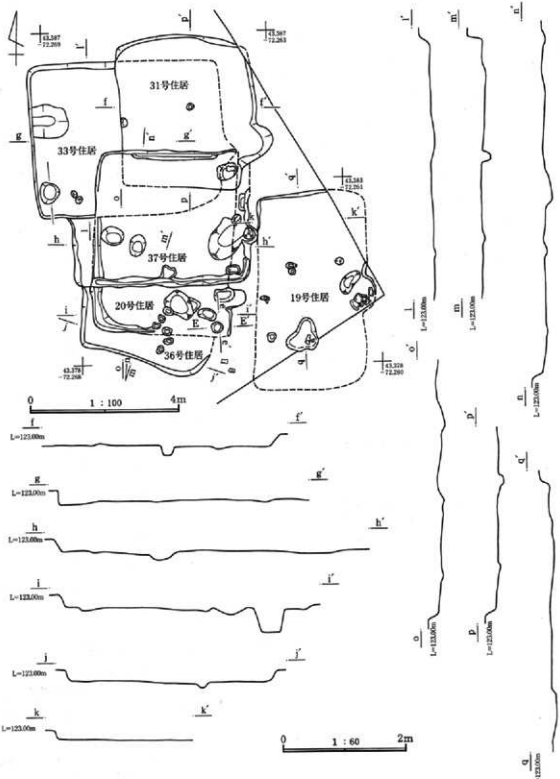
19・20・31・33・36・37号住居跡



19・20・31・33・36・37号住居跡　土層注記

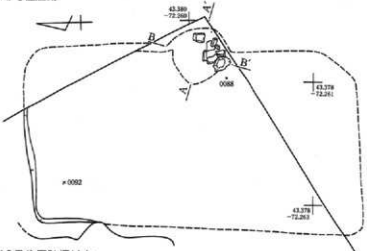
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。As-C・Hr-FA・地山粒子を含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。地山粒子を含む。
3 暗褐色土：地山ブロック・地山粒子を含む。(掘り方覆土は、各住居跡を通じて識別できなかった。)
4 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。As-C・Hr-FA・地山粒子・焼土粒子を含む。
5 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。やや多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FA・地山粒子を含む。
6 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。やや多量のAs-C・Hr-FA及び地山粒子を含む。
7 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FA含む。
8 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。やや多量のAs-C・Hr-FA及び地山粒子を含む。
9 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。地山粒子を含む。
10 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。やや多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・地山粒子を含む。
11 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。地山粒子・焼土粒子を含む。
12 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。やや多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・地山粒子を含む。
13 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。やや多量の地山粒子及び焼土粒子を含む。

第33図　19・20・31・33・36・37号住居跡重複関係

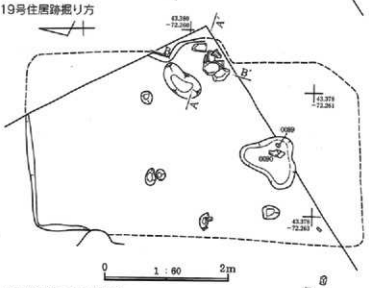


第34図　19・20・31・33・36・37号住居跡掘り方重複関係

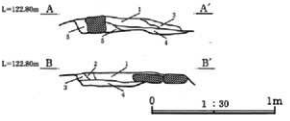
19号住居跡



19号住居跡掘り方



19号住居跡竈土層断面



19号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。焼土粒子・炭化物粒子・地山粒子を含む。
2 赤褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量の焼土粒子・焼土ブロックを含む。
3 暗褐色土：As-Cを含む。
4 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。多量の焼土粒子・焼土粒子を含む。
5 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。地山粒子・地山ブロックを含む。

第35図　19号住居跡、19号住居跡掘り方

19号住居跡

X＝43.380、Y＝－72.260～.265付近で確認された。20号住居跡、37号住居跡と重複する。20号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西側部分に20号住居跡の竈と推定される遺物の分布が検出されたことにより、当住居跡の方が古いと推測される。37号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部分を破壊して、37号住居跡の竈、南東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、調査区域外の部分が多く不明である。主軸は、S-89°-Eである。竈は、東壁に築かれている。大部分が破壊されており、規模等は不明であるが、構築材には切石が使用されていた。

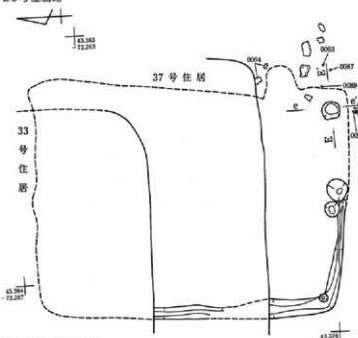
遺物は、須恵器杯(0092)、須恵器蓋(0088)、土師器甕(0090) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀末～9世紀初頭である。

20号住居跡

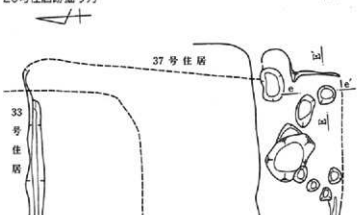
X＝43.380、Y＝－72.265付近で確認された。19号住居跡、36号住居跡、37号住居跡と重複する。19号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈と推定される部分が、19号住居跡の西側部分の壁、床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。36号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南側が、36号住居跡を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。37号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北側が、37号住居跡に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.8mであるが、南北は不明である。主軸はS-86°-Eである。竈は東壁の南よりに築かれている。大部分が破壊されており、規模等は不明である。貯蔵穴は南東隅に築かれている。直径

20号住居跡



20号住居跡掘り方



20号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 赤褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及び少量の炭化物を含む。
2 黄褐色土：多量の地山ブロック・地山粒子を含む。
3 暗褐色土：地山ブロック・地山粒子を含む。
4 暗褐色土：少量の地山ブロック・地山粒子を含む。

第36図　20号住居跡、20号住居跡掘り方

約30cm、確認面からの深さ約50cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。壁溝は、南西部から検出できた。規模は、幅約20～30cm、確認面からの深さ約２～５cmである。主柱穴は、検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(0091・0093)、須恵器椀(0087・0089・0094)土師器台付甕(0095)、須恵器長頸壺(0096)、鉄製品刀子(0787)、鉄製品釘(0786)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、９世紀前半である。

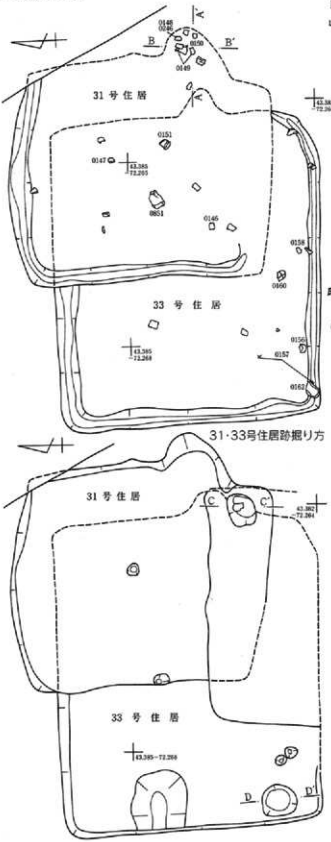
31号住居跡

X＝43.385、Y＝－72.265付近で確認された。33号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が、33号住居跡の北東部分の壁、床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.6m、南北約3.4～3.6mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、S-85°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。貯蔵穴は掘り方調査で、南東隅から検出された。規模は、長辺約50cm、短辺約45cm、確認面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。北側の壁と西側の壁からは、壁溝が検出できた。規模は、幅約25～35cm、床面から２～５cmの深さである。主柱穴は検出できなかった。

遺物は、須恵器椀(0146・0147・0148)、須恵器羽釜（0149・0150・0151）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は10世紀前半である。

31・33号住居跡



第37図　31・33号住居跡、31・33号住居跡掘り方

33号住居跡

X＝43.385、Y＝−72.265〜.270付近で確認された。20号住居跡、31号住居跡、37号住居跡と重複する。20号住居跡との新旧関係は、当住居跡の壁溝が20号住居跡の壁溝を切っていることから、当住居跡の方が新しい。31号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部が、31号住居跡により破壊されていることから、当住居跡の方が古い。37号住居跡との新旧関係は、当住居跡が、37号住居跡の北側部分を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約5.0m、南北約4.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。竈は、東壁に築かれていたと推定されるが、31号住居跡により破壊されており、不明である。壁溝は、31号住居跡との重複部分以外で確認できた。規模は、幅約15〜30cm、床面からの深さ約2〜4cmである。主柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(0156・0157・0158・0159)、須恵器蓋(0160)、軒丸瓦(0246)、石製品(0162)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

36号住居跡

36号住居跡掘り方

第38図　36号住居跡、36号住居跡掘り方

36号住居跡

X＝43.380、Y＝－72.265～.270付近で確認された。20号住居跡、37号住居跡と重複する。20号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部の壁・床・竈を20号住居跡が破壊していることから、当住居跡の方が古い。37号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部壁・床を37号住居跡が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されており、南側の一部の残存のため確定できないが、東西約3.5mである。竈は東壁に築かれていたと推定されるが、20号住居跡に破壊されており、不明である。主柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(0163)、須恵器椀(0190) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀末～9世紀初頭である。

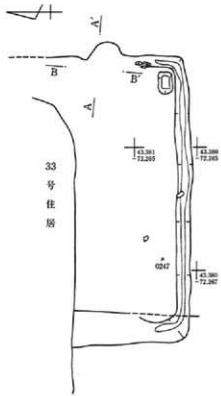
37号住居跡

X＝43.380～.385、Y＝－72.265付近で確認された。20号住居跡・31号住居跡・33号住居跡・36号住居跡と重複する。20号住居跡との新旧関係は、当住居跡が20号住居跡の北側部分を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。31号住居跡との新旧関係は、直接確認することはできなかったが、31号住居跡と33号住居跡の新旧関係から、当住居跡の方が古い。33号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北側部分を、33号住居跡が破壊していることから、当住居跡の方が古い。36号住居跡との新旧関係は、当住居跡が36号住居跡の壁・床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

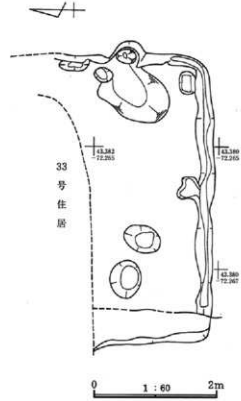
当住居跡の規模は、北側部分が31号住居跡・33号住居跡に破壊されていることから確定できないが、東西約4.8mである。主軸はN-89°-Eである。竈は、東壁の南よりから検出された。袖等は大部分が破壊されているが、確認面での煙道部の壁外への張り出しは、約30cmである。貯蔵穴は、南東隅から検出された。規模は、長辺約40cm、短辺約約25cm、床面よりの深さ20cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。南側壁内からは、壁溝が検出できた。規模は、幅約25～30cm床面からの深さ約2～6cmである。主柱穴は検出できなかった。

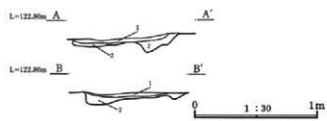
遺物は、土師器甕(0164)、土製品土錘(0247)、石製品鹿編み石(0161) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

37号住居跡



37号住居跡掘り方





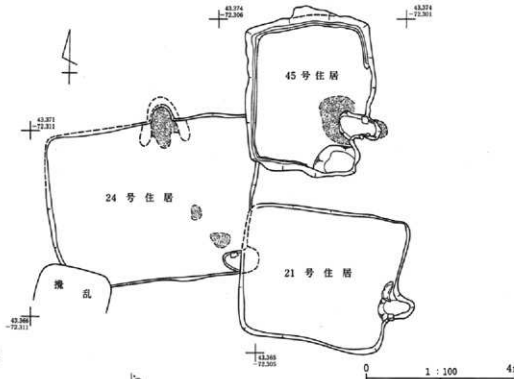
37号住居跡遺　土層注記

1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量の焼土ブロック・焼土粒子及び炭化物を含む。

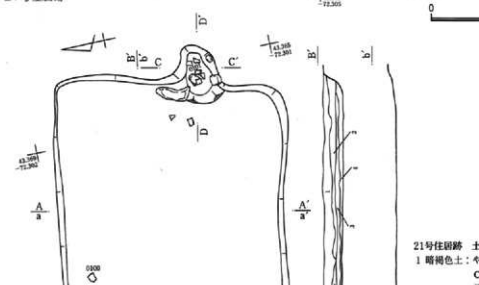
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。黄褐色土ブロックを含む。

第39図　37号住居跡、37号住居跡掘り方

21・24・45号住居跡



21号住居跡



21号住居跡　土層注記

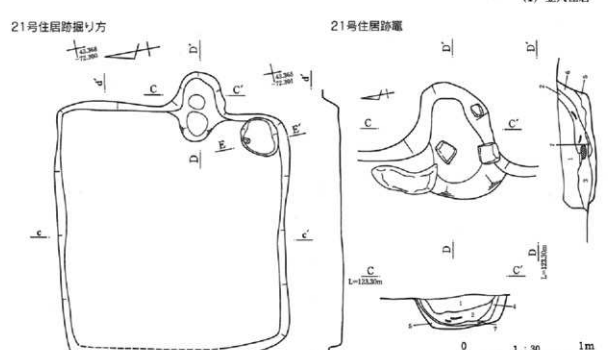
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。

2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。

3 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。少量のAs-Cを含む。（3層上面は、住居床面。）

4 暗褐色土：硬く締り、粘性強い。軽石は含まない。

第40図　21・24・45号住居跡重複関係、21号住居跡



第41図　21号住居跡掘り方、21号住居跡竈

21号住居跡

X＝43.365～.370、Y＝－72.300～.305付近で確認された。24号住居跡と重複する。新旧関係は、24号住居跡の竈2が、当住居跡の西端の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.9～4.2m、南北約3.6～3.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はS-75°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmであり、構築材には切石を使用していた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約70cm、短軸約60cm、床面からの深さ約12cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴・壁溝は検出できなかった。

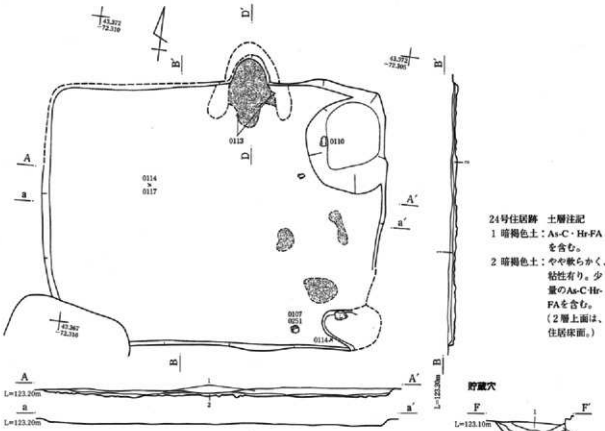
遺物は須恵器杯(0097)、須恵器椀(0101)、須恵器蓋(0099)、須恵器甕(0100)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀中葉である。

24号住居跡

X＝43.365～.370、Y＝－72.305～.310付近で確認された。21号住居跡、45号住居跡と重複する。21号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈2が、21号住居跡西端の床下から検出されたことにより、当住居跡の方が古い。45号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東端が、45号住居跡の南西端に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約5.5～5.8m、南北約4.3～4.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸は竈1 S-89°-Eである。竈は北壁中央と東壁南端から検出された。竈1の規模は、燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。竈2の規模は、燃焼部の幅推定50cm、確認面

24号住居跡

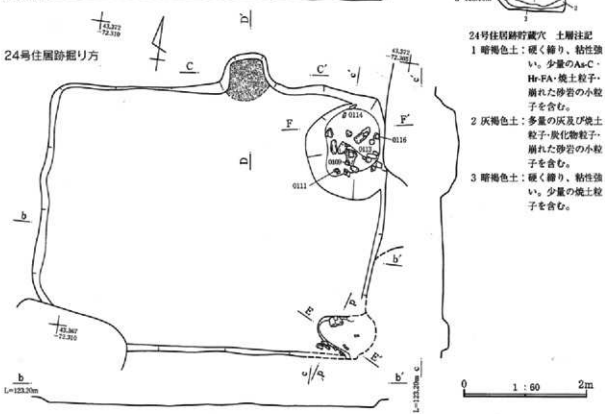


24号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや軟らかく、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
（2層上面は、住居床面。）

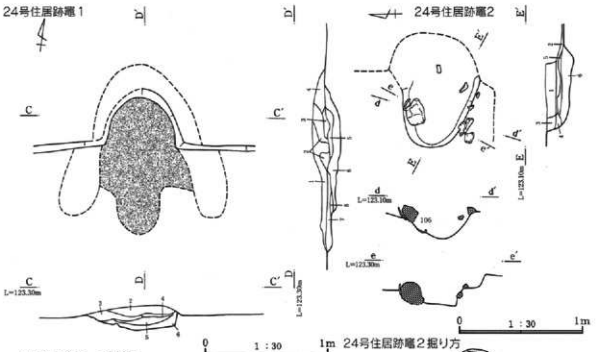
貯蔵穴

24号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性強い。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子・崩れた砂岩の小粒子を含む。
2 灰褐色土：多量の灰及び焼土粒子・炭化物粒子・崩れた砂岩の小粒子を含む。
3 暗褐色土：硬く締り、粘性強い。少量の焼土粒子を含む。

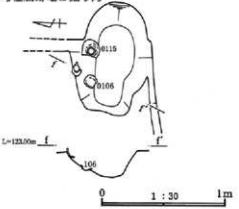
24号住居跡掘り方



第42図　24号住居跡、24号住居跡掘り方



24号住居跡竈1　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 赤灰褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・灰の混合。
3 赤褐色土：焼土。(天井・側壁の崩れか。)
4 暗褐色土：焼土粒子を含む。
5 赤褐色土：焼土と灰の混合。
6 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。(6層上面は、竈使用面。)
7 灰褐色土：暗褐色土に灰が均質に混ざる。
8 灰層



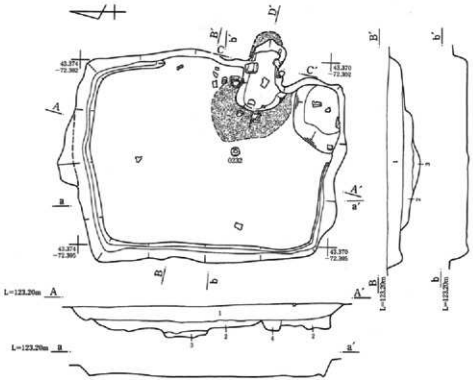
24号住居跡竈2　土層注記
1 暗褐色土：粘性弱い。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・灰を含む。
2 暗褐色土：多量の灰を含む。
3 暗褐色土：粘性強い。(地山)
4 黒褐色土：やや粘性あり。多量の炭化物を含む。
5 黒褐色土：炭化物を多く含む。やや粘性有り。
6 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。

第43図　24号住居跡竈1、24号住居跡竈2、24号住居跡竈2掘り方

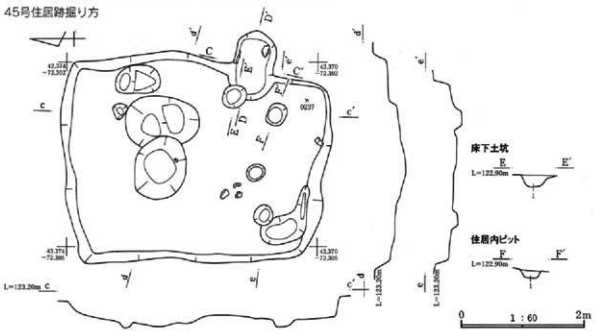
での煙道部の壁外への張り出し30cmである。竈1の袖等は殆ど壊れており、痕跡の確認である。また、燃焼部の掘り込みも確認することができなかった。竈2は、燃焼部の掘り込み、構築材と考えられる切石の一部が検出できた。従って、北竈の竈1を、西竈の竈2に移したものと推定される。貯蔵穴は、南東隅から検出された。規模は、長軸約160cm、短軸約130cm、床面からの深さ25cmであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。掘り方調査時での発見、位置等から、竈1に付随するものと考えられる。主柱穴・壁溝は、検出できなかった。

遺物は、土師器杯(0106・0107・0108・0251)、土師器皿(0109)、須恵器杯(0111・0112)、須恵器椀(0113・0114)、須恵器鉢(0110)、須恵器蓋(0115・0116・0117)、平瓦(0135) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉である。

45号住居跡



45号住居跡掘り方



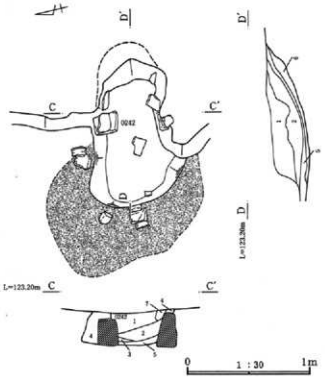
45号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：粘性無し。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや締り、粘性有り。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。
（2層上面は、住居床面。）
3 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。(床下土坑覆土)
4 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。(ピット覆土)

45号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：やや締り、粘性有り。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。

45号住居跡ピット　土層注記
1 暗褐色土：粘性弱い。As-Cを含む。

第44図　45号住居跡、45号住居跡掘り方

45号住居跡竈



45号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや締り、粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
3 灰褐色土：灰・炭化物。
4 褐色土：きめの細かい均質な土。竈の構築材か。
5 暗褐色土：多量の炭化物・焼土粒子を含む。
6 褐色土：多量の焼土を含む。
7 焼土ブロック

第45図　45号住居跡竈

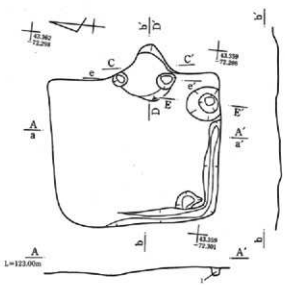
45号住居跡

X＝43.370～.375、Y＝－72.300～.305付近で確認された。24号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西隅の壁・床が、24号住居跡の北東隅の壁・床を破壊して築かれていたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.0～3.5m、南北約4.0～4.4mであり、平面形は、不整形な隅丸台形を呈する。主軸は、S-83°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmであり、袖の基部には、切石が残っていた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約110cm、短軸約80cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。壁溝は、竈・貯蔵穴及びその付近以外から検出できた。規模は幅約10～20cm、床面からの深さ約2～5cmである。主柱穴は、検出できなかった。

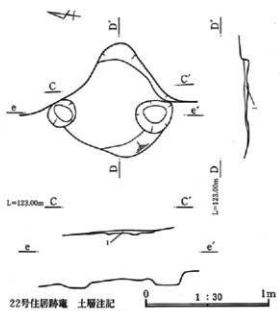
遺物は、須恵器杯(0236)、須恵器椀(0232・0233・0234・0235・0237)、土師器鉢(0238)、土師器甕(0239・0240・0241)、平瓦(0242)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

22号住居跡



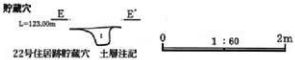
22号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性あり。As-Cを含む。

22号住居跡竈



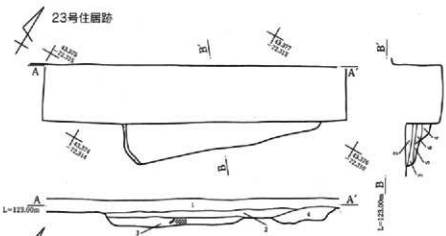
22号住居跡竈　土層注記
1 褐色土：焼土粒子を含む。

貯蔵穴

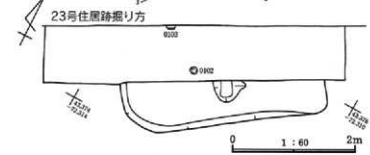


22号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色砂質土：軟らかく、粘性弱い。As-Cを含む。

23号住居跡



23号住居跡掘り方



23号住居跡　土層注記
1 表土
2 暗褐色土：灰白色細砂及びAs-Cを含む。
3 暗褐色土と灰白色細砂の混合。
4 暗褐色土と灰白色細砂の混合；焼土粒子を含む。
5 暗褐色土：As-C・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
6 暗褐色土：灰白色細砂を含む。

第46図　22号住居跡、22号住居跡竈、23号住居跡、23号住居跡掘り方

22号住居跡

X＝43.360、Y＝－72.300付近で確認された。他の遺構との重複はない。遺構の残存状態は悪く、掘り方での検出である。

当住居跡の規模は、東西約2.4m、南北約2.6～1.8mであり、平面形は隅丸台形を呈する。主軸は、N-81°-Eである。竈は、東壁の中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。残存状態は悪く、袖等は確認できなかったが、袖石を埋め込んだと推定される小ピットが、対で検出できた。貯蔵穴は、南東隅に築かれていた。規模は、直径60cm、確認面からの深さ約30cmであり、平面形は円形を呈する。壁溝は、南壁及び西壁の一部から確認された。規模は、幅約25～35cm、確認面からの深さ約1～7cmである。主柱穴は、検出できなかった。

遺物の出土は殆ど無く、重複もないことから、年代は不明である。

23号住居跡

X＝43.375、Y＝－72.310～.315付近で確認された。他の遺構との重複はない。土層確認トレンチ掘削中に検出されたため、南端部分の確認であり、規模は不明であるが東西は約3.2mである。

竈・主柱穴・貯蔵穴・壁溝及び主軸は不明である。遺物は、須恵器杯(0102・0103・0104)、鷹羅み石(0105) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

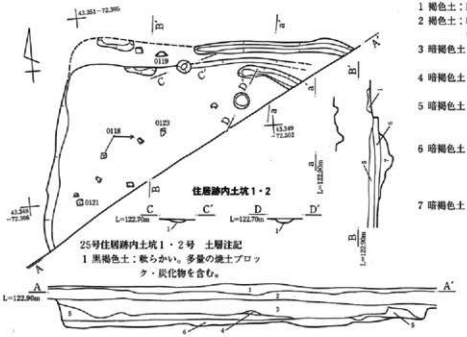
25号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.300～.305付近で確認された。26号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北壁が、26号住居跡の東壁を切っていることが確認できたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡は、調査区南端での確認であり、住居跡の北西部1／4程度の検出のため、規模・主軸は不明である。竈・主柱穴・貯蔵穴は、不明であるが、北壁に沿い壁溝の一部が検出できた。規模は、幅約15～25cm、床面からの深さ約3～6cmである。この溝の約70cm南側から壁溝と推測できる溝が1条確認できた。従って、当住居跡は、拡張された可能性がある。

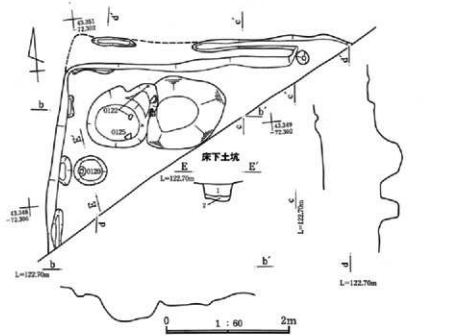
遺物は、土師器杯(0118)、須恵器椀(0119・0120)、灰釉陶器椀(0121・0122)、須恵器羽釜(0123)、平瓦(0124)、棒状鉄製品(0788・0789・0790・0791)、石製品鷹羅み石(0125) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は10世紀前半である。

25号住居跡



25号住居跡　土層注記
1 褐色土：耕作土
2 褐色土：軟らかい。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。
4 暗褐色土：多量の黄褐色粘質土ブロックを含む。
5 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量の黄褐色土ブロック及び少量のAs-Cを含む。
6 暗褐色土：やや軟らかく、粘性強い。多量の黄褐色土ブロック及び少量のAs-Cを含む。（6層上面が、住居床面。）
7 暗褐色土：多量のAs-C・焼土粒子・炭化物粒子を含む。

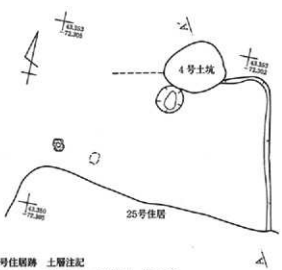
25号住居跡掘り方



25号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。多量の黄褐色土ブロック及び少量のAs-Cを含む。
2 暗褐色土：少量の黄褐色土ブロックを含む。

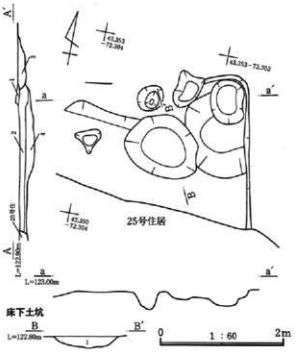
第47図　25号住居跡、25号住居跡掘り方

26号住居跡



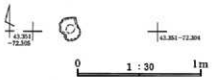
26号住居跡　土層注記
1 灰褐色土：軟らかく、粘性無し。砂を含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。As-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：硬く締り、粘性強い。多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。（4号土坑覆土。）
4 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。小さな白色軽石を含む。

26号住居跡掘り方



26号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性強い。小さな白色軽石を含む。

26号住居跡内鍛冶炉



第48図　26号住居跡、26号住居跡掘り方、26号住居跡内鍛冶炉

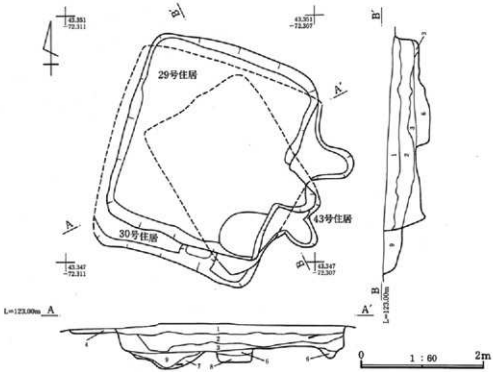
26号住居跡

X＝43.350～.355、Y＝－72.300～.305付近で確認された。25号住居跡、4号土坑と重複する。25号住居跡との新旧関係は、当住居跡の東壁が25号住居跡の北壁に切られていることが確認されたことにより、当住居跡の方が古い。4号土坑との新旧関係は、当住居跡の北壁が、4号土坑により切られていることが確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡は、残存状態が悪く、壁の立ち上がり及び床が検出できたのは北東部の一部だけであり、規模・主軸は不明である。竈・主柱穴・貯蔵穴・壁溝も検出できず、不明である。

当住居跡出土と確定できる遺物はなく、年代は不明である。

29・30・43号住居跡

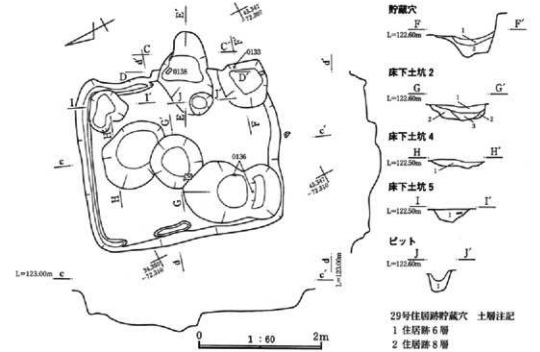


29・30・43号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び灰色細砂を含む。
3 暗褐色土：粘性有り。微量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 暗褐色土：やや粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。(43号住居跡)
5 灰褐色土：多量の灰及び炭化物・焼土粒子を含む。
6 暗褐色土と地山粘質土の混合。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
7 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
8 褐色土：粘質土主体。6層の土を含む。
9 43号住居跡の覆。

29号住居跡

第49図　29・30・43号住居跡重複関係、29号住居跡

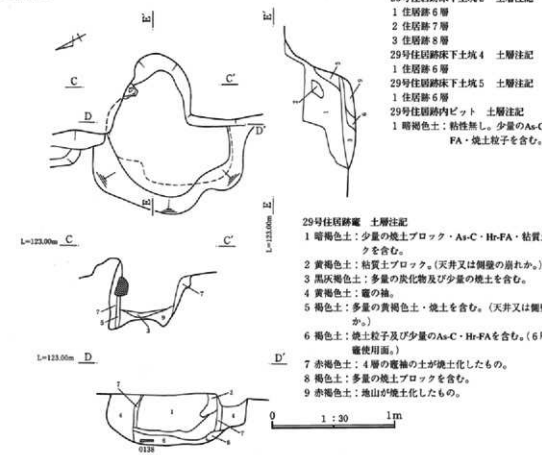
29号住居跡掘り方



29号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 住居跡6層
2 住居跡8層

29号住居跡床下土坑2　土層注記
1 住居跡6層
2 住居跡7層
3 住居跡8層
29号住居跡床下土坑4　土層注記
1 住居跡6層
29号住居跡床下土坑5　土層注記
1 住居跡6層
29号住居跡内ピット　土層注記
1 暗褐色土：粘性無し。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。

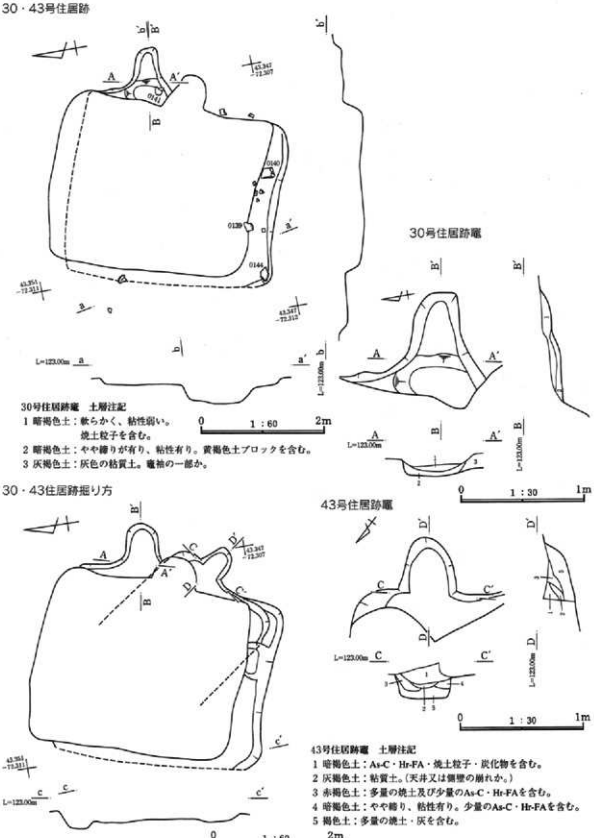
29号住居跡竈



29号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：少量の焼土ブロック・As-C・Hr-FA・粘質土ブロックを含む。
2 黄褐色土：粘質土ブロック。(天井又は側壁の崩れか。)
3 黒灰褐色土：多量の炭化物及び少量の焼土を含む。
4 黄褐色土：竈の袖。
5 褐色土：多量の黄褐色土・焼土を含む。(天井又は側壁の崩れか。)
6 褐色土：焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。(6層上面が竈使用面。)
7 赤褐色土：4層の竈袖の土が焼土化したもの。
8 褐色土：多量の焼土ブロックを含む。
9 赤褐色土：地山が焼土化したもの。

第50図　29号住居跡掘り方、29号住居跡竈

30・43号住居跡



第51図　30・43号住居跡、30・43号住居跡掘り方、30号住居跡竈、43号住居跡竈

29号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.305～.310付近で確認された。30号住居跡、43号住居跡と重複する。30号住居跡との新旧関係は、当住居跡が30号住居跡の中央部分を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。43号住居跡との新旧関係は、当住居跡が43号住居跡の竈付近を除き破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.7～2.8m南北約3.2～3.3mであり、平面形は長方形を呈する。主軸はS-71°-Eである。竈は、東壁中央に築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。貯蔵穴と推定できるピットが、掘り方調査時に、南東隅から検出できた。規模は、長辺約70cm，短辺約60cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。壁溝は、竈部分を除く各壁に沿い検出できた。南壁及び西壁は、一部の検出である。規模は、幅約10～30cm、床面からの深さ約2～4cmである。主柱穴は検出できなかった。

遺物は、須恵器椀(0127・0128・0129・0130・0131・0132・0133・0142)、須恵器羽釜(0134)、鷹繩み石(0136・0137)、丸瓦(0138)、鉄製品刀子(0793)、鉄製品鎌(0794)、鉄製品釘(0795)、棒状鉄製品(0792) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

30号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.305～.310付近で確認された。29号住居跡、43号住居跡と重複する。29号住居跡との新旧関係は、当住居跡の中央部分を29号住居跡が破壊していることから、当住居跡の方が古い。43号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈右袖部分を43号住居跡の北壁がきっていることを確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が29号住居跡・43号住居跡により破壊されているため不明であるが、東西は約2.5m、平面形は横長の隅丸長方形と推定している。主軸はS-70°-Eである。竈は東壁やや北よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、煙道部の壁外への張り出し約70cmである。主柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。

遺物は、土師器杯(0139)、須恵器杯(0143・0540)、土師器台付甕(0140・0141)、須恵器甕(0144)、灰釉陶器椀(0145)、鉄製品(0764) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀中葉である。

43号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.305～.310付近で確認された。29号住居跡、30号住居跡と重複する。29号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部を29号住居跡が破壊していることから、当住居跡の方が古い。30号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北壁が30号住居跡竈右袖部分を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、大部分が30号住居跡に破壊されており、不明であるが、南北は約2.0mである。主軸は、S-40°-Eである。竈は、東壁やや北よりに築かれている。燃焼部の幅約30cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。主柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。

当住居跡出土と確定できる遺物はなく、年代推定の決め手はないが、住居の重複から9世紀中葉～10世紀前半と考えられる。

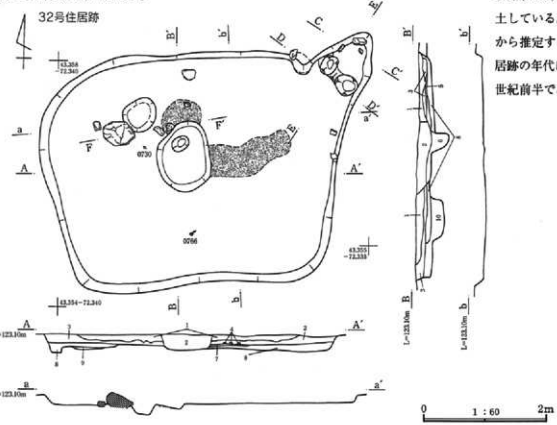
32・68号住居跡

32号住居跡

X＝43.355～.360、Y＝－72.335～.340付近で確認された。68号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の床下から68号住居跡が確認されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.8～3.9m、南北約4.2～5.0mであり、平面形は隅丸台形を呈する。主軸燃焼部の幅約80cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約100cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。中央部やや北よりから鍛冶炉が検出できた。規模は、直径20cm、床面からの深さ約10cmである。鍛冶炉の北側からは、長軸約60cm、短軸50cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は楕円形を呈するピットが検出できた。ピットの北側に接して径約50cmの石が出土している。また、鍛冶炉の南西側には焼土が分布していた。鍛冶炉南、焼土北のピットは、後世のものである。

遺物は須恵器椀(0153・0154)、土師質皿(0152)、砥石(0155)、銭(0730)、鉄製品釘(0766)、板状鉄製品(0796)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

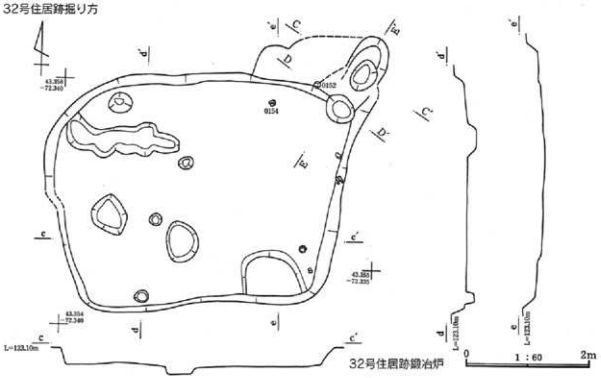


32号住居跡　土層注記

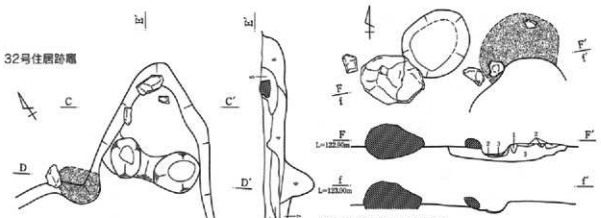
1 As-B層
2 As-Bを主体に暗褐色土を含む。(住居より新しい土坑覆土。)
3 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
4 焼土ブロック
5 灰層
6 暗褐色土：As-Bを含む。
7 焼土：8層の焼土化した部分。
8 黒褐色土：粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。
9 黒褐色土：粘性有り。炭化物・As-C・Hr-FAを含む。
10 黒褐色土：粘性強い。微量のAs-Cを含む。

第52図　32・68号住居跡重複関係、32号住居跡

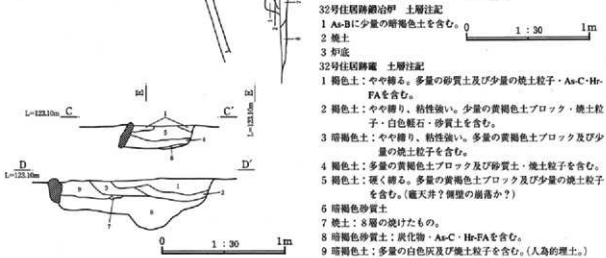
32号住居跡掘り方



32号住居跡鍛冶炉



32号住居跡竈



32号住居跡鍛冶炉　土層注記

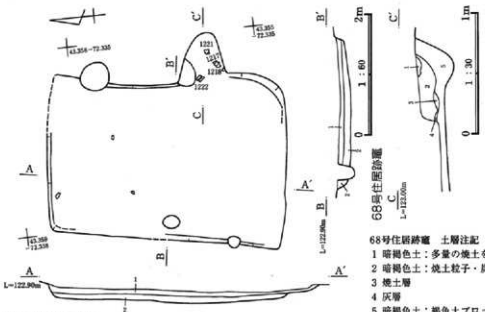
1 As-Bに少量の暗褐色土を含む。
2 焼土
3 炉底

32号住居跡竈　土層注記

1 褐色土：やや締る。多量の砂質土及び少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 褐色土：やや締り、粘性強い。少量の黄褐色土ブロック・焼土粒子・白色軽石・砂質土を含む。
3 暗褐色土：やや締り、粘性強い。多量の黄褐色土ブロック及び少量の焼土粒子を含む。
4 褐色土：多量の黄褐色土ブロック及び砂質土・焼土粒子を含む。
5 褐色土：硬く締る。多量の黄褐色土ブロック及び少量の焼土粒子を含む。(竈天井？側壁の崩落か？)
6 暗褐色砂質土
7 焼土：8層の焼けたもの。
8 暗褐色砂質土：炭化物・As-C・Hr-FAを含む。
9 暗褐色土：多量の白色灰及び焼土粒子を含む。(人為的埋土。)

第53図　32号住居跡掘り方、32号住居跡竈、32号住居跡鍛冶炉

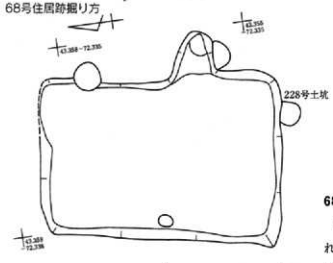
68号住居跡



68号住居跡竈

68号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：多量の焼土を含む。(煙道の崩れか？)
2 暗褐色土：焼土粒子・炭化物を含む。
3 焼土層
4 灰層
5 暗褐色土：褐色土ブロックを含む。

68号住居跡掘り方



68号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：粘性無し。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：粘性無し。As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。

第54図　68号住居跡、68号住居跡掘り方

68号住居跡

X＝43.355～.360、Y＝－72.335～.340で確認された。32号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が32号住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.5～2.8m、南北約3.8～3.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸は、S-85°-Eである。竈は、東壁やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は須恵器杯(1217・1218・1219・1220)、須恵器椀(1221)、灰釉陶器皿(1223)、須恵器羽釜(1222) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

34号住居跡

34号住居跡竈

34号住居跡掘り方

34号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：砂質土及びAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。小さな軽石を含む。
3 暗褐色土：砂質土を含み、粘性弱い。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
（3層上面は、住居床面。）
4 暗褐色土：やや硬く締る。砂質土及びAs-C・Hr-FAを含む。

床下土坑1

床下土坑2

34号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：軟らかく、粘性無し。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 赤褐色土：多量の焼土ブロックを含む。
3 黒褐色土：灰と炭化物の混合。
4 赤褐色土：焼土層。（4層上面は、竈使用面。）
5 暗褐色土：焼土ブロック・炭化物及び少量の灰を含む。
6 赤褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
7 暗褐色土：少量の焼土粒子を含む。
8 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。小さな軽石を含む。

貯蔵穴

34号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・炭化物を含む。

住居内ピット1・2

34号住居跡内ピット1・2　土層注記
1 暗褐色土：地山よりやや砂質。

ピット4

ピット5

34号住居跡ピット4　土層注記
1 暗褐色土：As-Bを含み、砂質。
2 暗褐色土：粘性やや有り。地山と1層の混合。

34号住居跡ピット5　土層注記
1 褐色土：地山の灰白色粘質土と暗褐色土の混合。

34号住居跡内床下土坑1　土層注記
1 暗褐色土：砂質土を含み、粘性弱い。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや締り、粘性有り。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

34号住居跡内床下土坑2　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締る。少量の焼土粒子・炭化物・As-C・Hr-FAを含む。

第55図　34号住居跡、34号住居跡掘り方、34号住居跡竈

34号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.325付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約2.6～2.7m、南北約3.2～3.7mであり、平面形は隅丸台形を呈する。主軸はS-78°-Eである。竈は東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。掘り方調査時に、燃焼部中央から支脚を埋め込んだと推定される小ピットが検出できた。貯蔵穴は南東隅に築かれている。規模は、一辺約35cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器椀（0165・0166・0167）、須恵器長頸壺(0169)、須恵器甕(0170)、土師器甕（0168）、平瓦(0171)、石製品(0172・0173・0174・0175）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

35号住居跡

X＝43.340～.345、Y＝－72.325付近で確認されてた。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.9～4.1m、南北約3.3～3.4mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はS-78°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約20cmであり、袖材には切石を使用している。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(0176・0177)、須恵器椀(0178)、須恵器皿(0179)、土師器甕(0180・0181・0184)、須恵器甕(0182・0183)、平瓦(0185・0186・0187・0189)、丸瓦(0188)、棒状鉄製品(0797）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。

35号住居跡

35号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：軟らかく、粘性無し。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 褐色土：砂質土を含む。
4 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。(床下土坑2)
5 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。微量のAs-C・Hr-FAを含む。(5層上面は、住居床面。)
6 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。微量のAs-C・Hr-FAを含む。(床下土坑1)

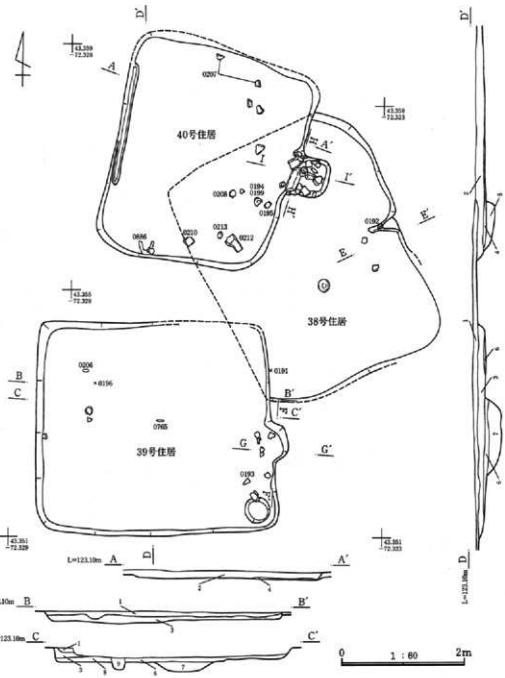
35号住居跡竈

35号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：軟らかく、粘性無し。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや硬く締る。多量の焼土粒子、少量の炭化物・As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：硬く締る。(3層上面は、竈使用面。)

35号住居跡掘り方

第56図　35号住居跡、35号住居跡掘り方、35号住居跡竈

38・39・40号住居跡

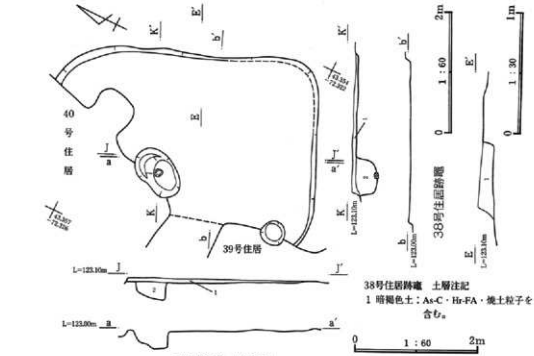


38・39・40号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：As-C・Hr-FA・細砂を含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び微量の細砂を含む。(40号住居跡)
3 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。(39号住居跡)
4 暗褐色土：やや粘性有り。(40号住居跡)
5 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の灰色細砂を含む。(40号住居跡床下土坑)
6 暗褐色土：粘性弱い。As-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。(39号住居跡)
7 暗褐色土：やや締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。(39号住居跡床下土坑)
8 赤褐色土：多量の焼土を含む。(39号住居跡竈)
9 褐色土：砂質。As-Bを含む。(住居より新しいピット)

第57図　38・39・40号住居跡重複関係

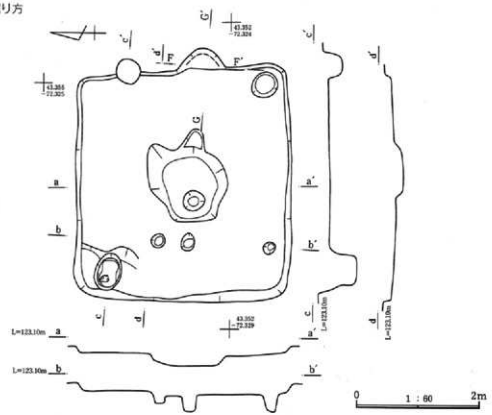
38号住居跡掘り方



38号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。

38号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・炭化物粒子・焼土小ブロックを含む。

39号住居掘り方



第58図　38号住居跡掘り方、39号住居跡掘り方

39号住居跡竈

39号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：多量の焼土粒子及び少量の炭化物を含む。
3 暗褐色土：微量の量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。

40号住居跡掘り方

40号住居跡竈

40号住居跡内床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の灰色細砂を含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び灰色細砂を含む。
3 暗褐色土：As-C・Hr-FA及びやや多量の灰色細砂を含む。
4 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子及びやや多量の灰色細砂を含む。

40号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：As-Cを含む。

第59図　39号住居跡竈、40号住居跡掘り方、40号住居跡竈

38号住居跡

X＝43.355、Y＝－72.320～.325で確認された。39号住居跡、40号住居跡と重複する。39号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部分を、39号住居跡の北東部分が切っていることが確認できたことから、当住居跡のほうが古い。40号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部分を破壊して、40号住居跡東側部分の竈等が築かれていることが確認できたことにより、当住居跡のほうが古い。

当住居跡の規模は、39号住居跡、40号住居跡と重複等により、西壁が確認でなかったため、不明である。主軸はN-2°-Wである。竈は東壁中央付近に築かれている。残存状態は悪く、左袖の基部のみの検出のため、燃焼部の幅等は不明である。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器蓋(0191)、石製品(0192) 等が出土している。遺物から推定する等住居跡の年代は、8世紀前半である。

39号住居跡

X＝43.350～.355、Y＝－72.325～.330で確認された。38号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北東部が、38号住居跡の南西部を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は東西約3.7～3.9m、南北約3.5mであり、平面形は隅丸方形を呈する。N-86°-E である。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約20cmである。貯蔵穴は、南東隅から検出できた。規模は、直径約40cm、床面からの深さ約5cmであり、平面形は円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(0193)、須恵器蓋 (0196)、鉄製品釘(0798)、棒状鉄製品(0765) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀前半である。

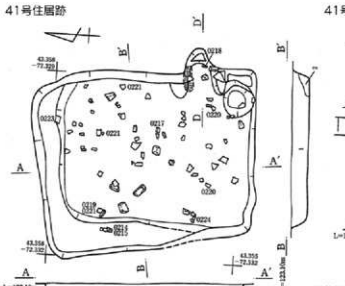
40号住居跡

X＝43.355～.360、Y＝－72.325～.330で確認された、38号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の東側部分が、38号住居跡の北西部を破壊して築かれていることから、当住居跡のほうが新しい。

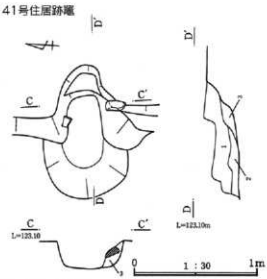
当住居跡の規模は、東西約2.8～3.1m、南北約3.4～3.8mであり、平面形は隅丸台形を呈する。主軸はS-71°-Eである。竈は、東壁中央やや北よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmであり、構築材には切石と瓦が使用されていた。壁溝は、西壁沿いに一部検出できた。規模は、幅約15～20cm、床面からの深さ約1～2cmである。主柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は須恵器杯(0197・0198・0199・0200・0201)、須恵器椀(0202・0203)、土師質杯(0194・0195)、土師器甕(0205)、須恵器甕(0204)、須恵器羽釜(0206)、灰釉陶器椀(0207・0208・0209)、平瓦(0210)、鉄製品鋤先(0886)、石製品(0212・0213) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

41号住居跡

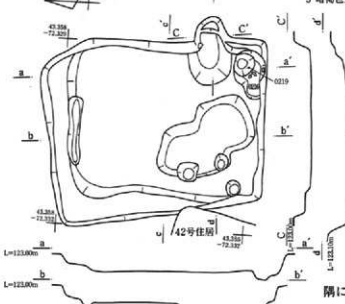


41号住居跡竈



41号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・炭化物及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：やや硬く、多量の焼土粒子を含む。

41号住居跡掘り方



41号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む及び焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：灰色細砂及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

る。内側の規模は、東西約2.5～2.7m、南北約3.1～3.3mであり、外側の規模は、東西約2.7～3.0m、南北約3.4～3.6mである。平面形は、両方ともやや不整形ではあるが、横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-85°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約60cm、短軸約45cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。内側の北壁に沿い、一部壁溝が検出できた。規模は幅約10～15cm、床面からの深さ約5cmである。主柱穴は、検出できなかった。

遺物は、須恵器椀(0214・0215・0216・0217・0218・0219)、須恵器甕(0220)、須恵器壺(0224)、須恵器羽釜(0221)、灰釉陶器椀(0222)、灰釉陶器皿(0223)、獣足円面硯(0249)等が出土している。遺物から推定する等住居跡の年代は、10世紀前半である。

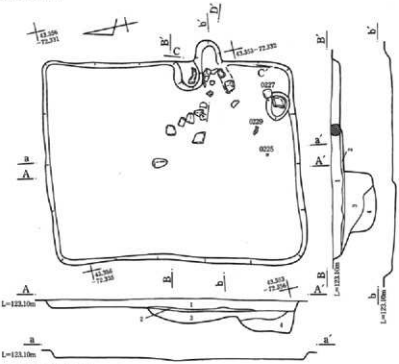
41号住居跡

X＝43.355～.360、Y＝－72.330付近で確認された。42号住居跡と重複する。新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から、当住居跡のほうが新しい。

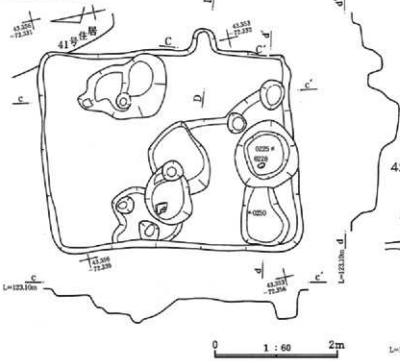
当住居跡の床面は、北側と西側に段がある。また、出土遺物に8世紀の獣脚円面硯が出土している。従って、8世紀代の住居跡が重複している可能性があ

第60図　41号住居跡、41号住居跡掘り方、41号住居跡竈

42号住居跡



42号住居跡掘り方



42号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA交っていて、粘性あり。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：灰白色細砂及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 褐色砂質土：多量の灰白色細砂を含む。

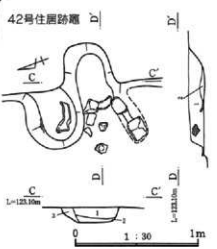
42号住居跡

X＝43.355、Y＝−72.330〜.335付近で確認された。41号住居跡と重複する。新旧関係は、遺構から直接確認することはできなかったが、出土遺物から、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.3m、南北約4.0〜4.1mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-78°-E である。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約30cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmであり、袖材として石が使用されていた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約50cm、短軸約40cm、床面からの深さ約40cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師賀杯（0225・0226）、須恵器椀（0227・0228・0229）、風字硯（0250）等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

42号住居跡竈

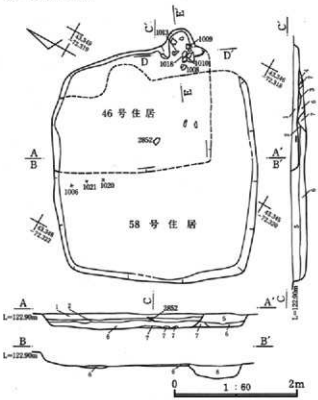


42号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：軟らかく、粘性弱い。焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。
3 褐色土：やや硬く締り、粘性有り。少量の焼土粒子を含む。

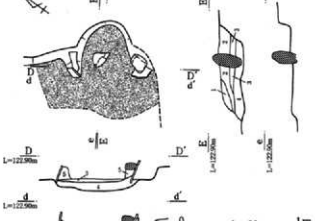
第61図　42号住居跡、42号住居跡掘り方、42号住居跡竈

46・58号住居跡

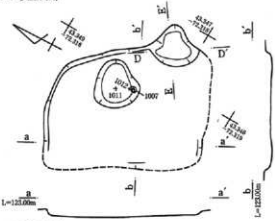


46・58住居跡　土層注記
1 暗褐色土：粘性弱い。微量のAs-C・Hr-FAを含む。(46号住居跡)
2 暗褐色土：やや粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。(46号住居跡)
3 灰褐色土：灰層。(58号住居跡竈)
4 黒褐色土：多量の炭化物を含む。(58号住居跡竈)
5 暗褐色土：やや締り、粘性弱い。As-C・Hr-FAを含む。(58号住居跡)
6 暗褐色土：やや粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
7 黄褐色土：地山のブロック。
8 褐色土：粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。(58号住居跡床下土坑3)

46号住居跡竈



46号住居跡



46号住居跡

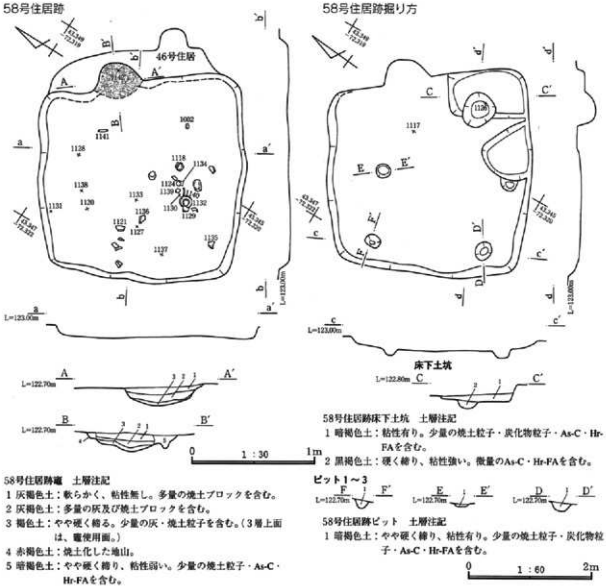
X＝43.345～.350、Y＝－72.320付近で確認された。58号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の西半部の床面が、58号住居跡の覆土中から確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、南壁と西壁が一部の検出のため確定できないが、東西約1.8～2.0m、南北約2.5～2.6mであり、不整形ではあるが、横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-62°-Eである。竈は、東壁南隅に築かれている。規模は、燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約25cmである。竈袖は、芯材に石を用い、支えに瓦を使用している。燃焼部中央には、支脚に使用された石が、据えられた状態で検出できた。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(1006・1007)、須恵器椀(1008・1009)、須恵器蓋(1005)、土師器甕(1011・1012・1013)、土師器台付甕(1016)、土師器小型鉢(1010)、須恵器甕(1018・1019)、須恵器甕(1014)、須恵器羽釜(1015)、隅切り瓦(2852)、鉄製品巻頭釘(1017)、石製品鷹編み石(1021)、石製品(1020)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。

46号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性強い。
2 暗褐色土：粘性弱い。As-C・Hr-FA・灰を含む。
3 灰褐色土：暗褐色土に多量の焼土・炭化物・灰が混入。
4 暗褐色土：灰・焼土及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。(4層上面が竈使用面。)
5 暗褐色土：少量の焼土粒子を含む。

第62図　46・58号住居跡重複関係、46号住居跡、46号住居跡竈



58号住居跡竈　土層注記
1 灰褐色土：軟らかく、粘性無し。多量の焼土ブロックを含む。
2 灰褐色土：多量の灰及び焼土ブロックを含む。
3 褐色土：やや硬く締る。少量の灰・焼土粒子を含む。(3層上面は、竈使用面。)
4 赤褐色土：焼土化した地山。
5 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

58号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：粘性有り。少量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：硬く締り、粘性強い。微量のAs-C・Hr-FAを含む。

58号住居跡ピット　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性有り。少量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。

第63図　58号住居跡、58号住居跡掘り方

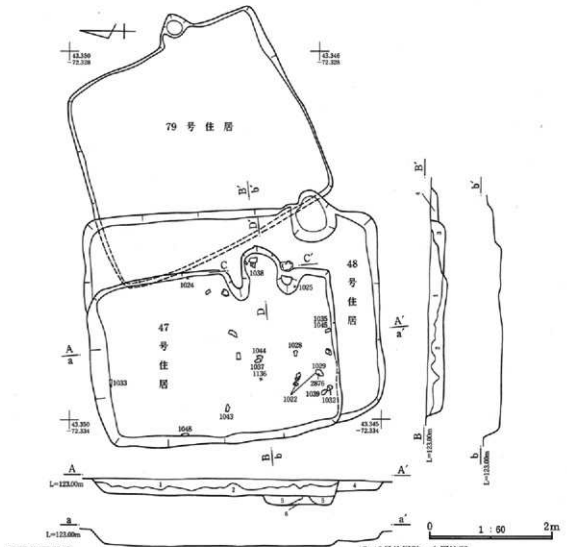
58号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.320付近で確認された。46号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北東部の覆土中から、46号住居跡の西部の壁、床の一部が確認されたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.9～3.4m、南北約3.1～3.3mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸は、N-50°-Eである。竈は、東壁中央やや北よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。掘り方調査で検出されたピット1～ピット3は、柱穴の可能性が考えられるが、位置、規模等やや疎がある。南東隅近くで検出された床下土坑2は、貯蔵穴の可能性が考えられるが、掘り方覆土の下からの検出である。盤滓は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1001・1002・1003・1117・1118・1119)、須恵器杯(1123・1124)、須恵器椀(1125・1127・1128)、須恵器蓋(1004・1120・1121・1122)、土師器小型鉢(1126)、土師器壺(1131)、須恵器甕(1133・1134・1135・1136・1137・1138)、須恵器壺(1130・1132)、須恵器長頸瓶(1139)、須恵器円面硯(1129)、石製品鷹編み石(1140・1141)、石製品(1142)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の時期は、8世紀中葉である。

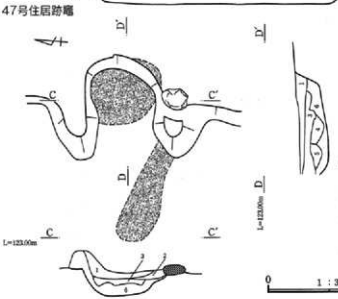
47・48・79号住居跡



47・48号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。(47号住居跡)
2 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。(47号住居跡)
3 47号住居跡竈（竈土層図参照）
4 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。(48号住居跡)
5 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
6 黒褐色土：粘性有り。微量のAs-C・Hr-FAを含む。(47号住居跡)

47号住居跡竈

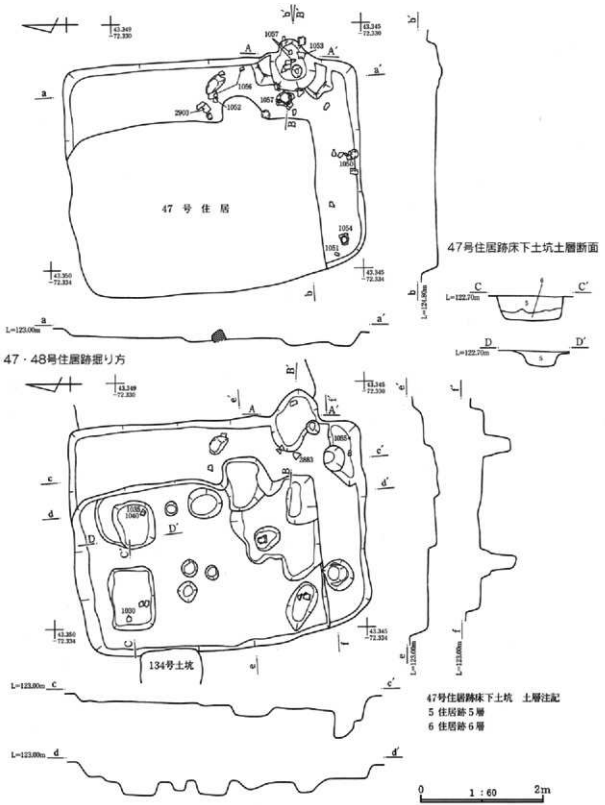


47号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：多量の灰及び少量の焼土粒子を含む。
2 赤褐色土：焼土主体。灰・暗褐色土を含む。
3 白色灰：少量の暗褐色土を含む。
4 焼土
5 白色灰：焼土粒子・暗褐色土の混合。
6 暗褐色粘質土：As-Cを含む。(地山か。)

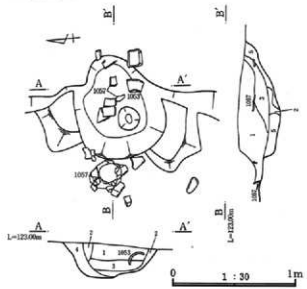
第64図　47・48・79号住居跡、47号住居跡竈

48号住居跡



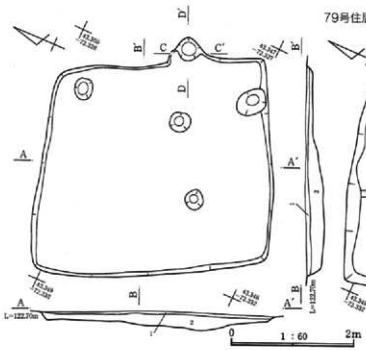
第65図　48号住居跡、47・48号住居跡掘り方

48号住居跡竈



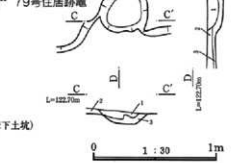
48号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：やや多量の焼土粒子を含む。
4 暗褐色土：粘質。焼土粒子を含む。
5 暗褐色土：粘質。微量の焼土粒子を含む。

79号住居跡



79号住居跡掘り方

79号住居跡竈



79号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子及び微量の炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FAを含む。

79号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FAを含む。(床下土坑)
3 暗褐色土：地山の粘質土を含む。(床下土坑)

第66図　48号住居跡竈、79号住居跡、79号住居跡掘り方、79号住居跡竈

47号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.330～.335付近で確認された。48号住居跡、79号住居跡と重複する。48号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈、壁、床が48号住居跡を破壊していることから当住居跡の方が新しい。79号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部下から、79号住居跡南西隅の壁、床が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.7～2.8m、南北約3.9～4.0mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-85°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。竈右袖上からは、構築材に使用されたと考えられる石が検出できた。貯蔵穴と考えることができるピットが、掘り方調査で、南東隅から検出できた。規模は、長辺約80cm、短辺約50cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1022)、須恵器杯(1023・1024・1025)、須恵器椀(1026・1027・1028・1029・1030・1031・1032・1033)、土師器甕(1037・1038・1040)、灰釉陶器皿(1034)、土師器小型台付甕(1035)、須恵器壺(1036)、須恵器甕(1041・1042・1043・1044・1045)、灰釉陶器壺(1039)、平瓦(2876)、鉄製品刀子(1046)、鉄製品釘(1047)、石製品薬研石(1048)、石製品(1049) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

48号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.330～.335付近で確認された。47号住居跡、79号住居跡と重複する。47号住居跡との新旧関係は、当住居跡の一部を破壊して、47号住居跡が築かれていることから、当住居跡の方が古い。79号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部の床下から、79号住居跡の南西部の壁、床が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.5～3.7m、南北約4.6～4.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-89°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約70cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約25cmである。竈周辺から瓦、石が出土していることから、構築材の一部として使用されていたと考えられる。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯 (1050・1051・1052)、須恵器椀(1053・1054・1055)、土師器甕 (1056・1057)、平瓦(2883・2903) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

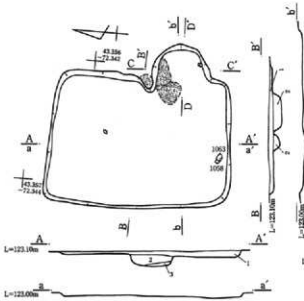
79号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.330付近で確認された。47号住居跡、48号住居跡と重複する。47号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西隅の壁、床が、47号住居跡の北東部の床下から検出されたことから、当住居跡の方が古い。48号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部の壁、床が、48号住居跡の北東部の床下から確認されたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.4～3.5m、南北約3.4～3.9mであり、平面形は隅丸台形を呈する。主軸は、N-66°-Eである。竈は、東壁中央部やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の幅約40cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

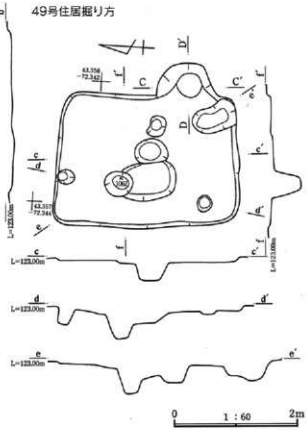
当住居跡出土と特定できる遺物はない。従って、年代の推定は困難であるが、47号住居跡、48号住居跡と重複から、9世紀中葉以前と考えられる。

49号住居跡

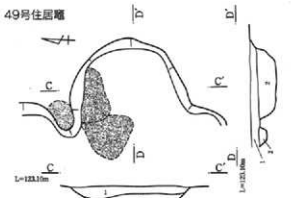


49号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FAを含む。(床下土坑)
3 暗褐色土：地山の粘質土を含む。(床下土坑)

49号住居掘り方



49号住居竈



49号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子及び微量の炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FAを含む。

49号住居跡

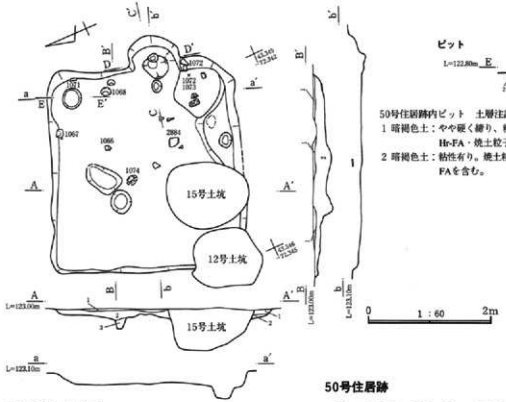
X＝43.355、Y＝－72.340～.345付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約2.1～2.2m、南北2.8～3.0約mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-90°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約80cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約55cmである。掘り方調査で南東隅からピットを検出したが、貯蔵穴と断定することはできない。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯（1058・1061・1062）、須恵器椀(1059・1060・1063)、土師器甕(1064)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

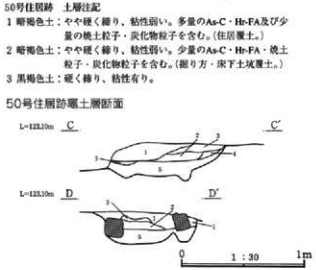
第67図　49号住居跡、49号住居掘り方、49号住居跡竈

50号住居跡



50号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(住居覆土。)
2 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物粒子を含む。(掘り方・床下土坑覆土。)
3 黒褐色土：硬く締り、粘性有り。

50号住居跡竈土層断面



50号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く締り、粘性弱い。多量の焼土粒子・As-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：硬く締り、粘性弱い。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：やや硬く締る。焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 暗褐色土：硬く締る。多量の焼土ブロック及び炭化物粒子を含む。
5 暗褐色土：粘性有り。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

第68図　50号住居跡、50号住居跡竈

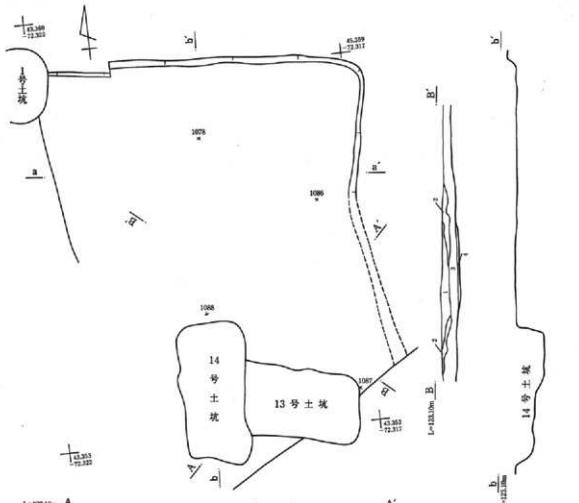
50号住居跡

X＝43.345～.350、Y＝－72.340～.345で検出された。12号土坑、15号土坑と重複する。新旧関係は、各土坑が当住居跡の南西部分の床、壁を破壊しており、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.3～3.5m、南北約3.0～3.1mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-68°-Eである。竈は、東壁の中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。袖材として切石が使用され、燃焼部の中央からは、支脚を埋め込んだと推定されるピットが検出できた。貯蔵穴と推定可能なピットが、北東隅から検出された。規模は、長軸約35cm、短軸約30cm、確認面からの深さ約15cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1066・1067)、須恵器杯(1068・1069)、須恵器壺(1070)、土師器壺（1072・1074)、土師器甕(1071・1073)、平瓦(2884)、等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀後半である。

51号住居跡



第69図　51号住居跡

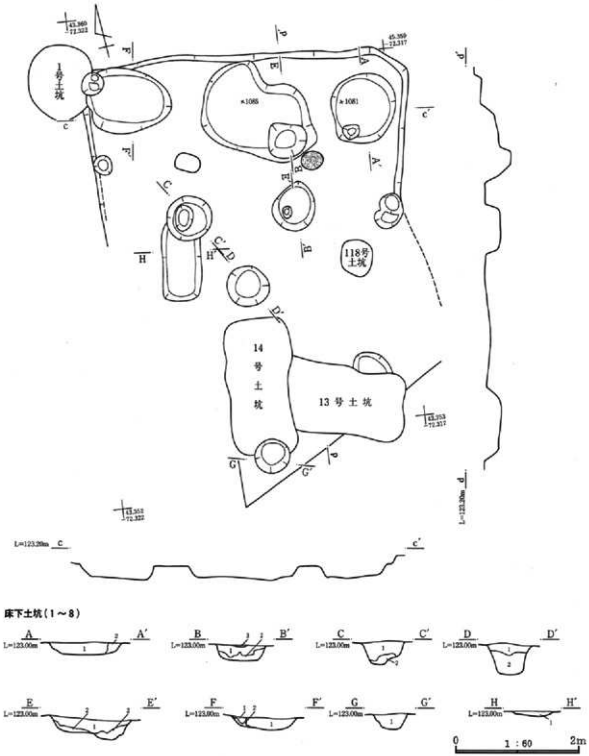
51号住居跡

X＝43.355～.360、Y＝－72.320付近で確認された。13号土坑、14号土坑と重複する。新旧関係は、13号土坑、14号土坑の覆土中にはAs-Bが含まれ、断面観察でも当住居跡を破壊している。従って、当住居跡の方が古い。

当住居跡は北壁、東壁の一部と、南東部床の検出のため、規模、主軸は不明である。また、竈、主柱穴、貯蔵穴、盤溝も検出できず、不明である。

遺物は、土師器杯(1075・1076)、須恵器杯(1077・1078)、須恵器蓋(1079・1080)、灰釉陶器椀(1081)、土師器甕(1082)、須恵器鉢(1083)、土師器台付甕(1084)、須恵器甕(1085)、須恵器長頸瓶(1086)、平瓦(2896・2898・2902)、鉄製品鎌(1087)、石製品(1088) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

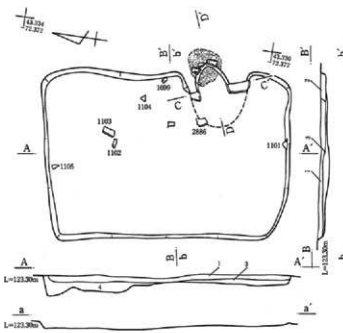
51号住居跡掘り方



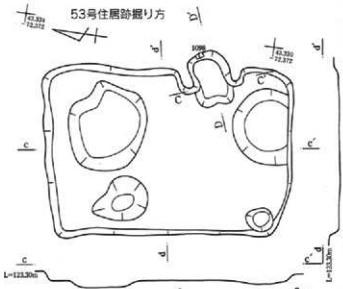
51号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子・地山粒子を含む。
2 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA・地山ブロックを含む。
3 焼土

第70図　51号住居跡掘り方

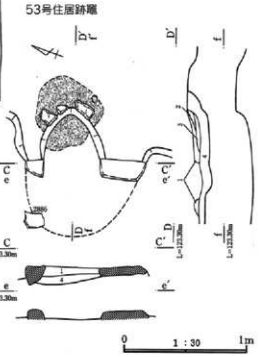
53号住居跡



53号住居跡掘り方



53号住居跡竈



53号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：粘性弱い。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや硬く締る。砂質土及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：やや硬く締り、粘性強い。少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(3層上面が、住居床面。)
4 褐色土：硬く締り、粘性強い。灰色粘質土ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

53号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：粘性弱い。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 灰褐色土：灰色粘質土及び焼土粒子を含む。
3 褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
4 褐色土：やや多量の焼土粒子及び少量の炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。

第71図　53号住居跡、53号住居跡掘り方、53号住居跡竈

53号住居跡

X＝43.330～.335、Y＝－72.370～.375で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約2.7～2.8m、南北約3.8～4.0mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-82°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約20cmである。袖材には、切石を用いている。煙道部の奥は、土留めとして石が設置されていた。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1098)、須恵器杯(1099)、須恵器鉢(1103)、土師器甕(1100・1101・1102)、須恵器甕(1104・1105)、平瓦(2886) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀後半である。

54号住居跡竈

54号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや多量の焼土粒子・炭化物粒子及びAs-C・Hr-FA・地山粒子を含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び少量のAs-C・Hr-FA・地山粒子を含む。

54号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：焼土ブロック・As-C・Hr-FA・地山粒子を含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA・地山粒子を含む。

54号住居跡床下土坑

57号住居跡

0　1：30　1m

0　1：60　2m

第72図　54号住居跡竈・床下土坑、57号住居跡

54号住居跡

X＝43.365～.370、Y＝－72.275～.280付近で確認された。13号住居跡と重複することが想定されるが、残存状態が悪く、重複部分の確認はできなかった。

当住居跡は、竈部分のみの検出であり、規模は不明である。竈は、東壁に築かれていたと考えられる。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。竈周辺以外の壁及び床、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(1109)、須恵器椀(1106)、土師器小型甕(1108)、土師器甕（1107)、須恵器羽釜(1110）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は９世紀中葉である。

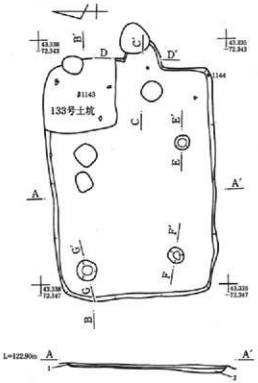
57号住居跡

X＝43.355～.360、Y＝－72.290～.295付近で、基本土層確認トレンチ掘削中に確認された。調査区域内で、他の遺構との重複はない。

当住居跡は北側部分の一部の検出のため、規模、主軸は不明である。また、検出範囲で竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

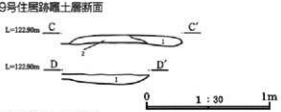
遺物は、土師器小型甕(1115)、土師器甕(1116）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、９世紀前半である。

59号住居跡



59号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：粘性無し。As-C・Hr-FA・褐色土を含む。
2 暗褐色土：やや締り、粘性無し。褐色土ブロック及びAs-C・Hr-FAを含む。

59号住居跡竈土層断面

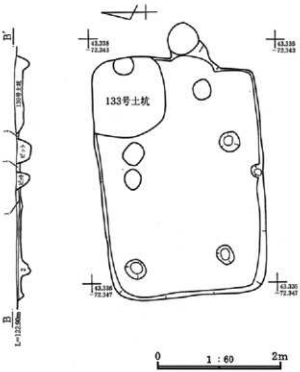


59号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：粘性無し。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：粘性無し。As-C・Hr-FAを含む。

住居内ピット（1～3）

59号住居跡ピット　土層注記
1 暗褐色土：炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。

59号住居跡掘り方



第73図　59号住居跡、59号住居跡掘り方

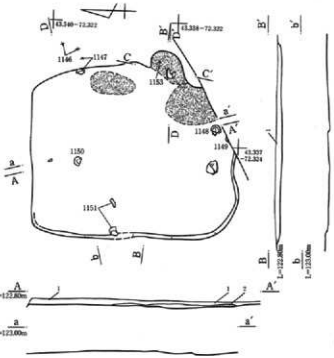
59号住居跡

X＝43.335～.340、Y＝－72.345で確認された。130号土坑と重複する。新旧関係は、130号土坑の覆土にAs-Bが含まれ、当住居跡の北西部を破壊していることが確認されたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.7～4.0m、南北約2.6～2.7mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-89°-Eである。竈は、東壁の中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。住居内ピット1～3は、柱穴の可能性もある。貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

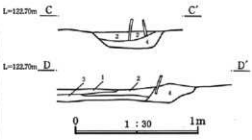
遺物は、須恵器杯(1144)、須恵器椀(1143)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

60号住居跡



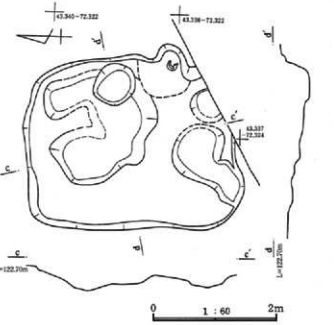
60号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや硬く、粘性無し。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや硬く、粘性有り。

60号住居跡竈土層断面



60号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・灰を含む・
3 暗褐色土：粘性有り。黒褐色土を含む。(3層上面が、竈使用面。)
4 暗褐色土：粘性有り。微量の焼土粒子を含む。

60号住居跡掘り方



第74図　60号住居跡、60号住居跡掘り方

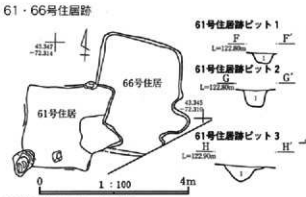
60号住居跡

X＝43.335～.340、Y＝－72.320～.325で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約2.7～2.9m、南北約3.3～3.5mである。平面形は、やや胴の張った横長の隅丸長方形を呈する。主軸はS-74°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。燃焼部内からは、袖又は支脚に使用されたと考えられる瓦が出土した。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

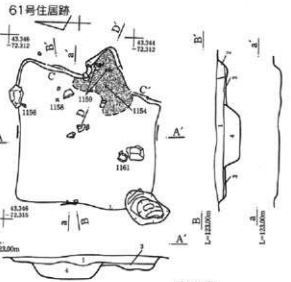
遺物は、須恵器杯(1146・1148・1149)、須恵器椀(1147・1150・1151)、土師器甕(1153)、須恵器壺(1152)、軒平瓦(2825)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。

61・66号住居跡

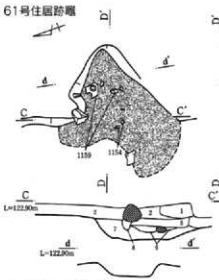


61号住居跡ピット1　土層注記
1 黒褐色土：やや締り有り。多量の炭化物及びAs-C・Hr-FAを含む。
61号住居跡ピット2　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。
61号住居跡ピット3　土層注記
1 暗褐色土：硬く締り、粘性強い。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

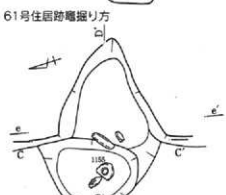
61号住居跡



61号住居跡竈



61号住居跡竈掘り方



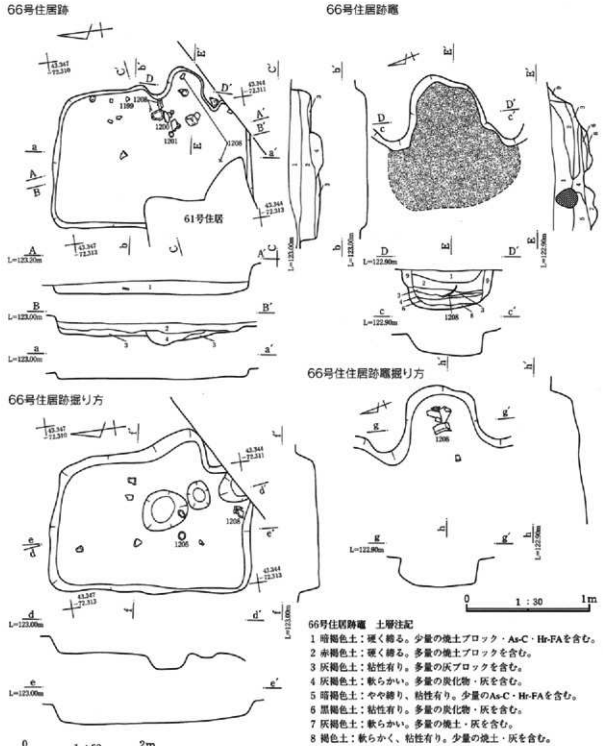
61号住居跡掘り方

61号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締る。焼土粒子・炭化物粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：砂質。As-Bを含む。(中世以降のピットか？)
3 暗褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(3層上面は、住居跡床面。)
4 黒褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(床下土坑2覆土。)

61号住居跡竈　土層注記
1 褐色土：砂質。多量のAs-Bを含む。
2 褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 褐色土：粘性無し。焼土粒子を含む。
4 赤褐色土：多量の焼土ブロック及び少量の炭化物・灰を含む。
5 褐色土：多量の灰を含む。
6 赤褐色土：7層の焼土化した土。(6層の上面が、竈使用面。)
7 褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・灰・As-C・Hr-FAを含む。
8 灰褐色土：粘質土。竈構築材の一部。

61号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：締り・粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：As-Cを少量含む。粘性有り。

第75図　61・66号住居跡重複関係、61号住居跡、61号住居跡掘り方、61号住居跡竈、61号住居跡竈掘り方



66号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：硬く締る。少量の焼土ブロック・As-C・Hr-FAを含む。
2 赤褐色土：硬く締る。多量の焼土ブロックを含む。
3 灰褐色土：粘性有り。多量の灰ブロックを含む。
4 灰褐色土：軟らかい。多量の炭化物・灰を含む。
5 暗褐色土：やや締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
6 黒褐色土：粘性有り。多量の炭化物・灰を含む。
7 灰褐色土：軟らかい。多量の焼土・灰を含む。
8 褐色土：軟らかく、粘性有り。少量の焼土・灰を含む。
9 赤褐色土：焼土化した竈袖・奥壁。

66号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締る。焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。（2層上面が、住居跡床面。）
3 暗褐色土：地山との混合。
4 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。

第76図　66号住居跡、66号住居跡掘り方、66号住居跡竈、66号住居跡竈掘り方

61号住居跡

X＝43.345、Y＝－72.310～.315付近で確認された。66号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北東部が、66号住居跡の南西部の壁、床を破壊して築かれていることが確認されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約1.9～2.3m、南北約2.2～2.3mである。平面形は隅丸台形を呈する。主軸はN-18°-Eである。竈は、東壁の中央に築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約80cmである。燃焼部内からは、支脚に使用されたと推定される石が出土している。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1154・1155・1156・1157)、須恵器椀(1158)、土師器高杯(1160)、灰釉陶器椀(1159)、須恵器羽釜(1161) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

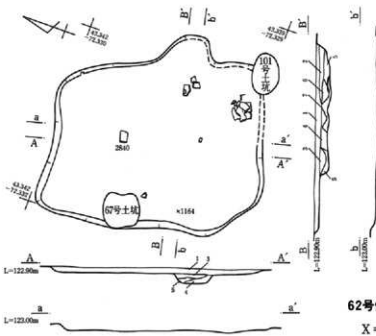
66号住居跡

X＝43.345、Y＝－72.310～.315付近で確認された。61号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西部の壁、床を破壊して61号住居跡の北西部の壁、床及び竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

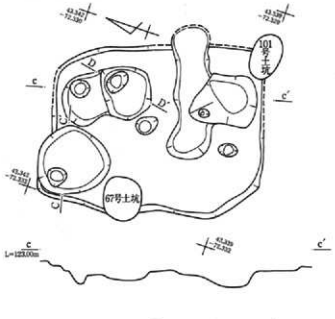
当住居跡の規模は、東西約2.1～2.2m、南北約3.1～3.2mである。平面形は、横長の隅丸長方形を呈する。主軸はS-79°-Eである。竈は、東壁のやや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。竈周辺には割石が散乱しており、袖、天井の構築材の一部として、石が使用されていたと考えられる。貯蔵穴は、掘り方で南東隅から検出されたピットと推定できる。約半分は調査区域外なので、規模は不明である。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1198・1200・1201)、須恵器椀(1199・1203)、灰釉陶器椀(1202)、須恵器小型壺(1204)、須恵器壺(1205·1206)、土師器甕 (1207·1208・1209) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

62号住居跡



62号住居跡掘り方



第77図　62号住居跡、62号住居跡掘り方

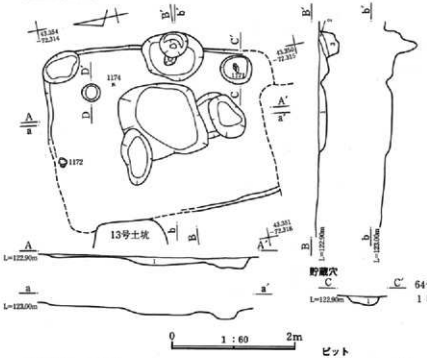
62号住居跡

X＝43.340、Y＝−72.330〜.335付近で確認された。67号土坑、101号土坑と重複する。67号土坑との新旧関係は、当住居跡の南壁、床の一部が破壊されていることから、当住居跡の方が古い。101号土坑との新旧関係は、当住居跡の南東隅が破壊されていることから、当住居跡が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.6〜2.8m、南北約3.4〜3.6mであり、平面形は不整形な横長隅丸長方形をしている。主軸はN-68°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。殆ど破壊されており、袖を検出することはできなかった。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部壁外への張り出し約40cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1162)、須恵器杯(1163)、須恵器椀(1164)、須恵器壺(1165)、土師器甕(1166・1167)、丸瓦(2840) 等である。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉〜後半である。

64号住居跡掘り方



64号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色ブロックを含む。(竈か？)
3 暗褐色土：炭化物・黄褐色土ブロックを含む。(竈か？)

64号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA・炭化物を含む。

64号住居跡ピット　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。

第78図　64号住居跡掘り方

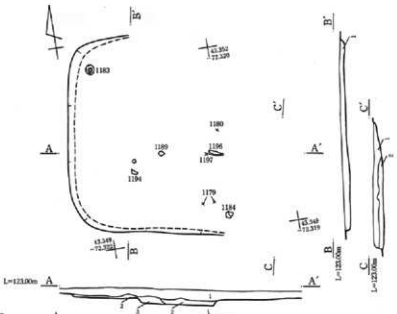
64号住居跡

X＝43.350～.355、Y＝－72.315付近で確認された。13号土坑と重複する。新旧関係は、直接的に確認できなかったが、13号土坑覆土中にはAs-Bが含まれており、当住居跡のほうが古い。

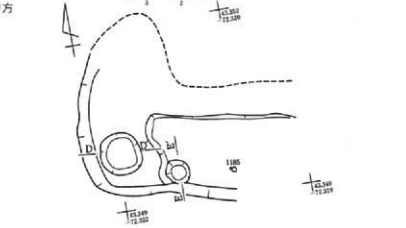
当住居跡は、掘り方での検出であり、残存状態は悪い。規模は、東西約2.6～2.9m、南北約3.7mである。平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-77°-Wである。竈は、東壁中央に築かれている。袖等は確認できなかったが、東壁に沿ったピット覆土に焼土、炭化物が検出できた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、直径約50cm、確認面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。主柱穴、盤溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1168)、須恵器杯(1170)、須恵器椀(1171・1172)、須恵器甕(1173・1174・1175)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

65号住居跡



65号住居跡掘り方



65号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び炭化物を含む。
2 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA及び炭化物を含む。
3 赤褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及び炭化物を含む。

床下土坑

65号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の炭化物を含む。
2 黄褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

ピット

65号住居跡ピット　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FAは含まない。

0　1：60　2m

第79図　65号住居跡、65号住居跡掘り方

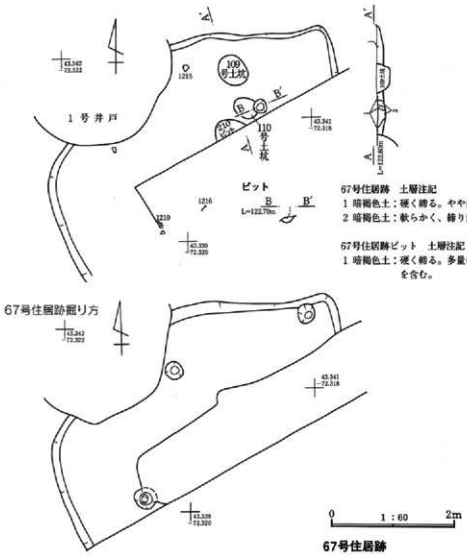
65号住居跡

X＝43.350、Y＝－72.320付近で確認された。他の遺構との重複は確認できなかった。

当住居跡の残存状態は不良であり、南半分の壁、床が検出できただけである。従って、規模・主軸は不明である。また、竈・主柱穴・貯蔵穴・壁溝も確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1178・1179・1180・1181)、須恵器椀(1182・1183・1184・1185)、灰釉陶器椀(1187)、灰釉陶器皿(1186・1188)、土師器甕(1189)、土師器台付甕(1191)、須恵器甕(1193・1194・1195)、須恵器瓶(1190)、須恵器壺(1192)、棒状鉄製品(1196・1197)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

67号住居跡



第80図　67号住居跡、67号住居跡掘り方

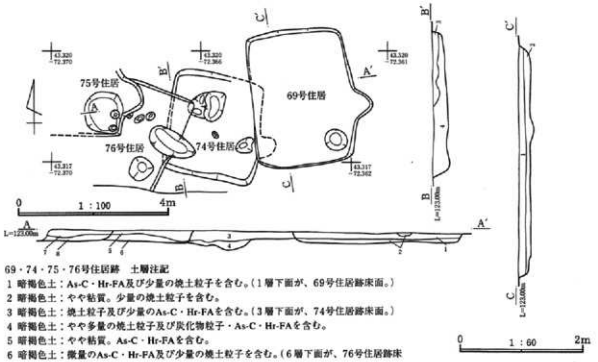
67号住居跡

X＝43.340、Y＝－72.320付近で、基本土層観察トレンチ掘削中に確認された。1号井戸と重複する。新旧関係は、当住居跡の北側の壁・床の一部が1号井戸に破壊されていることにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の南側部分が調査区域外のため。規模は不明であるが、東西約5mである。主軸は不明である。竈・主柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1210)、須恵器杯(1213)、須恵器椀(1211・1214)、須恵器蓋(1212)、須恵器甕(1215・1216)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀前半である。

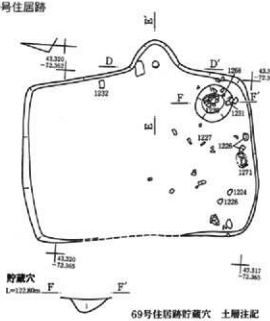
69・74・75・76号住居跡



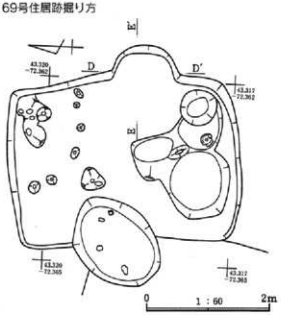
69・74・75・76号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。（1層下面が、69号住居跡床面。）
2 暗褐色土：やや粘質。少量の焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。（3層下面が、74号住居跡床面。）
4 暗褐色土：やや多量の焼土粒子及び炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
5 暗褐色土：やや粘質。As-C・Hr-FAを含む。
6 暗褐色土：微量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。（6層下面が、76号住居跡床面。）
7 暗褐色土：小粒のAs-C・Hr-FAを含む。
8 暗褐色土：微量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。（8層下面が、75号住居跡床面。）

69号住居跡



69号住居跡掘り方

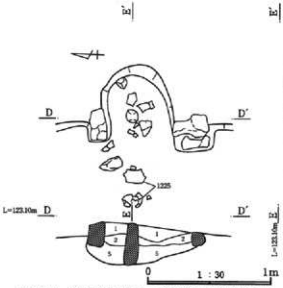


69号住居跡貯蔵穴　土層注記

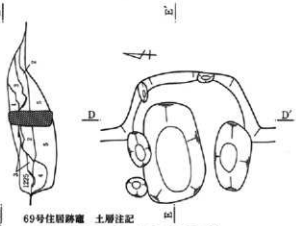
1 暗褐色土：やや粘質。焼土粒子・炭化物粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

第81図　69・74・75・76号住居跡重複関係、69号住居跡、69号住居跡堀り方

69号住居跡竈



69号住居跡竈掘り方



69号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 褐色土：多量の焼土粒子・灰を含む。（2層下面が、竈使用面。）
3 赤褐色土：焼土。（竈天井・側壁の崩れか。）
4 黒褐色土：多量の灰・焼土粒子を含む。（竈焚口手前の灰溜穴。）
5 黒褐色土：粘質土。少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。

第82図　69号住居跡竈、69号住居跡竈掘り方

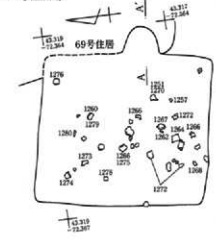
69号住居跡

X＝43.315～.320、Y＝－72.360～.365付近で確認された。74号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西部の床下から、74号住居跡の北東部の壁、床、竈が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

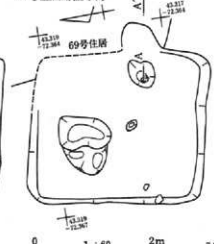
当住居跡の規模は、東西約2.6～2.7m、南北約3.6～3.8mである。平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-90°-Eである。竈は、東壁の中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。袖材には切石が使用され、中央部からは支脚石が埋め込まれた状態で検出できた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、直径60cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は円形を呈する。主柱穴、壁溝は、検出できなかった。

遺物は、土師器杯（1224・1225・1226・1227・1228）、須恵器蓋（1229）、土師器甕（1230・1231）、須恵器甕（1232）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉～後半である。

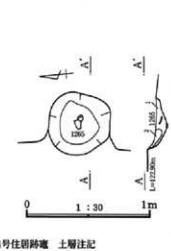
74号住居跡



74号住居跡掘り方



74号住居跡竈



74号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：粘質。締り有り。
2 灰黄褐色土：粘質。焼土ブロックを含む。

第83図　74号住居跡、74号住居跡掘り方、74号住居跡竈

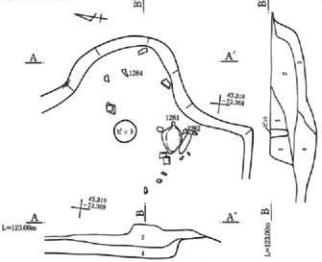
74号住居跡

X＝43.315～.320、Y＝－72.365付近で検出された。69号住居跡、76号住居跡と重複する。69号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部の壁、床及び竈が69号住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡の方が古い。76号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部の壁、床を破壊して、76号住居跡の床及び竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.4～2.5m、南北約2.8mである。平面形は、横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-81°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

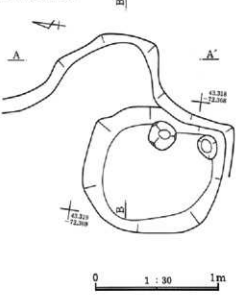
遺物は、土師器杯（1251・1260・1261・1262・1263・1264・1268）、土師器皿(1265)、須恵器杯(1267)、須恵器高台盤(1257)、須恵器蓋(1252・1256・1266)、土師器壺(1272)、土師器甕(1270・1271)、須恵器壺(1273・1274)、須恵器甕(1275・1276・1277・1278・1279)、鉄製品(1280) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀前半である。

75号住居跡竈



75号住居跡竈　土層注記竈
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・炭化物及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：やや粘質。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 暗褐色土：やや粘質。焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

75号住居跡竈掘り方



第84図　75号住居跡竈、75号住居跡竈掘り方

75号住居跡

X＝43.315～.320、Y＝－72.370付近で確認された。76号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南東部の壁及び竈が、76号住居跡の北部の壁、床の一部を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡は、南東部分以外確認できなかったため、規模は不明である。主軸は、N-90°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での燃焼部の幅約70cm、煙道部の壁外への張り出し約50cmである。掘り方調査で、南東隅から検出された床下土坑は、貯蔵穴とも考えられるが、規模、位置等やや疑問があり、確定できない。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1284)、須恵器杯(1281・1282)、須恵器椀(1283)、須恵器短頸壺(1285) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

76号住居跡掘り方

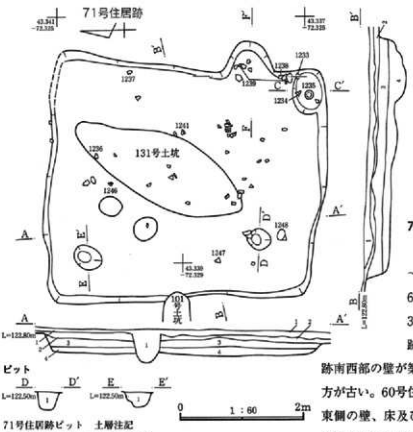
第85図　76号住居跡掘り方

76号住居跡

X＝43.315～.320、Y＝－72.365～.370付近で確認された。74号住居跡、75号住居跡、7号溝と重複する。74号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部の壁、床及び竈が、74号住居跡の南東部の壁、床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。75号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北部の床の一部を破壊して75号住居跡南東部の壁及び竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。7号溝との新旧関係は、当住居跡の南部の壁、床を7号溝が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北東部分の壁、床及び竈以外検出できなかったことにより、不明である。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。貯蔵穴と推定されるピットは、掘り方調査で竈石の東壁脇から検出できた。規模は、長軸約70cm、短軸60cmである。平面形は、不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1286・1287)、須恵器杯(1288)、土師器小型台付甕(1289)、土師器甕(1290)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀後半である。



71号住居跡ピット　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。

第86図　71号住居跡

71号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-Bを含む。
2 暗褐色土：軟らかい。焼土ブロック・焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：やや硬く締る。焼土ブロック・焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
4 黒褐色土：粘性無し。As-C・Hr-FAを含む。(4層上面は、住居跡床面。)

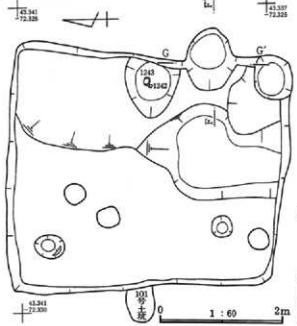
貯蔵穴

71号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：多量の焼土粒子・As-C・Hr-FA及び黄褐色土粒子を含む。

71号住居跡

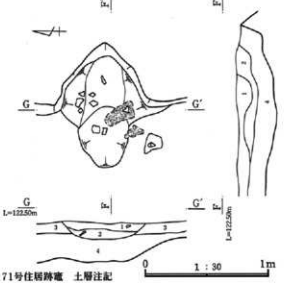
X＝43.335～.340、Y＝－72.325～.330で確認された。35号住居跡、60号住居跡、62号住居跡と重複する。35号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部の壁を破壊して、35住居跡南西部の壁が築かれていたことから、当住居跡の方が古い。60号住居跡との新旧関係は、当住居跡の東側の壁、床及び竈が、60号住居跡西部の床下から確認されたことから、当住居跡の方が古い。62号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西壁を破壊して62

71号住居跡掘り方



第87図　71号住居跡掘り方、71号住居跡竈

71号住居跡竈



71号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：多量の焼土粒子・灰を含む。
3 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
4 暗褐色土：やや締り有り。褐色土ブロックを含む。

号住居跡の竈煙道部が築かれていたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西3.8～4.0約m、南北約4.4～4.5mである。平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はS-85°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれていた。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約75cm、短軸約55cm、床面からの深さ約20cmである。平面形は、楕円形を呈する。ピット1・2は、柱穴と考えることも可能であるが、東側から検出できないこと、位置がややずれる事などから、断定するには難がある。壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1233・1234)、須恵器杯(1235・1236・1237)、須恵器椀(1240・1241)、緑釉陶器段皿(1242)、土師器甕(1238・1239)、須恵器壺(1243)、鉄製品釘(1244)、鉄製品頭巻釘(1245)、石製品砥石(1246)、石製品(1247・1248)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

73号住居跡

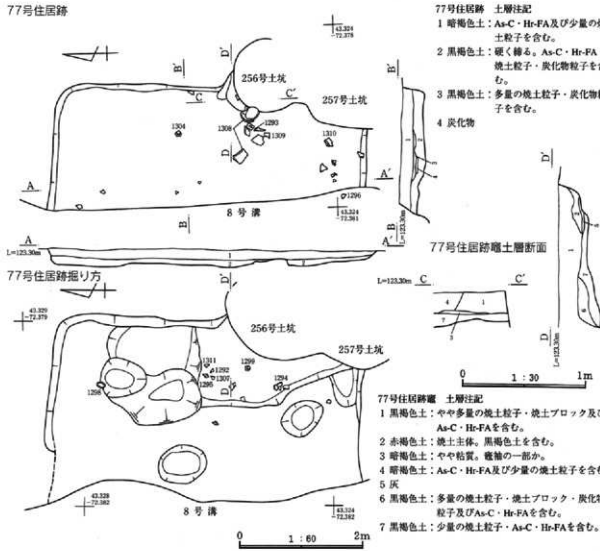
第88図　73号住居跡

73号住居跡

X＝43.345、Y＝－72.315～.320付近で確認された。他の遺構との重複はない。

規模は、東西約2.5～2.7m、南北約2.5～2.7mである。平面形は、胴の張った隅丸方形を呈する。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(1253)、須恵器椀(1269)、灰釉陶器椀(1255)、灰釉陶器皿(1254)、土師器台付甕(1258)、須恵器壺(1259)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。



第89図　77号住居跡、77号住居跡掘り方

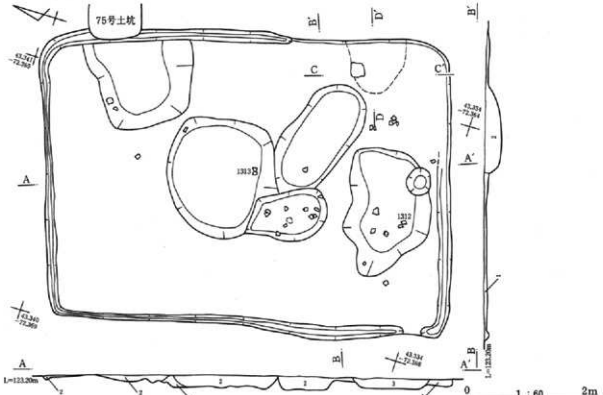
77号住居跡

X＝43.325～.330、Y＝－72.380付近で確認された。8号溝、256号土坑、257号土坑と重複する。8号溝との新旧関係は、当住居跡の西半分が8号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。256号土坑との新旧関係は、当住居跡の竈の南半分が256号土坑に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。257号土坑との新旧関係は、当住居跡の南東隅部分が257号土坑に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、西半分が破壊されているため不明であるが、南北は約5.0mである。主軸は、N-90°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は、床面検出範囲からは確認できなかった。

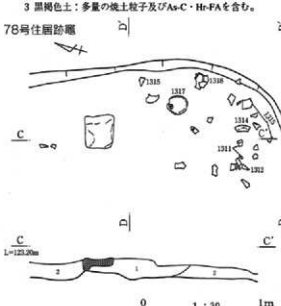
遺物は、須恵器杯(1292・1294)、須恵器椀(1293・1295・1296・1297・1298・1299・1300)、灰釉陶器皿(1301・1302・1303・1304)、土師器甕(1305・1306)、須恵器羽釜(1308・1310・1311)、須恵器甑(1309)、鉄製品釘(1307) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

78号住居跡掘り方



78号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや締り、粘性無し。As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：軟らかく、粘性無し。As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。

78号住居跡竈



78号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA・褐色土ブロックを含む。

第90図　78号住居跡掘り方、78号住居跡竈

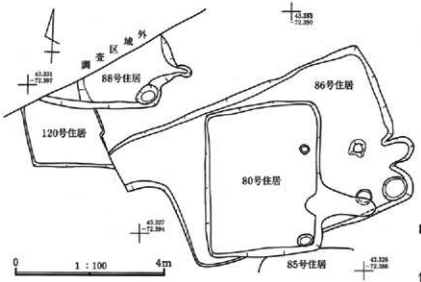
78号住居跡

X＝43.335～.340、Y＝－72.365付近で確認された。75号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の東壁の一部を75号土坑が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

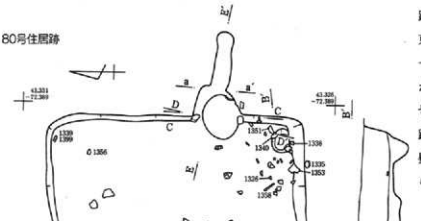
当住居跡の規模は、東西約4.7～4.8m、南北約6.5～6.6mである。平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-74°-Eである。当住居跡は掘り方段階で確認された。従って、竈の残りは不良であり、焼土、炭化物の堆積と、袖等に使用されていたと考えられる切石が検出されただけである。袖、煙道は確認できなかった。壁溝は、南東隅を除くほぼ全域から検出できた。規模は、幅約10～20cm、確認面からの深さ約2～6cmである。主柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1312・1313)、土師器皿(1314・1315)、須恵器杯(1316)、土師器鉢(1317)、土師器甕(1318)、須恵器壺(1319・1320)、等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀前半である。

80・86・88・120号住居跡



80号住居跡



80号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。

2 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。

3 黒褐色土：黄褐色土ブロック及び微量のAs-C・Hr-FAを含む。

80号住居跡

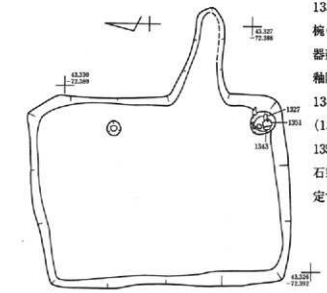
X＝43.325～.330、Y＝－72.390付近で確認された。85号住居跡、86号住居跡と重複する。85号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南東隅部分が、85号住居跡の北壁の一部を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。86号住居跡との新旧関係は、当住居跡が、86号住居跡の中央部分の床、壁を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.0～3.1m、南北約4.0～4.2mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-90°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。竈の残存状態は非常に良好であり、トンネル状の煙道が確認できた。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部壁外への張り出し約140cm、煙道部の直径約20cmである。袖の基部は、石が置かれ、燃焼部の奥壁は、瓦で土留めがされていた。貯蔵穴は南東隅に築かれている。規模は、直径40cm、床面からの深さ30cmであり、平面形はやや不整形な円形を呈する。柱穴、壁溝は確認できなかった。

第91図　80・86・88・120号住居跡重複関係、80号住居跡

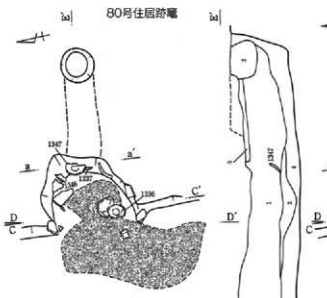
80号住居跡掘り方

遺物は、須恵器杯(1326・1327・1328・1330・1331・1332・1333・1334・1335・1338)、須恵器椀(1336・1337・1340・1341・1342・1418)、須恵器蓋(1325・1417)、灰釉陶器皿(1343・1344)、緑釉陶器除刻花文高台付皿(1345)、土師器甕(1347・1348・1349)、土師器台付甕(1350)、須恵器短頸壺(1346)、須恵器鉢(1351)、須恵器甕(1353・1354・1355・1356)、須恵器羽釜(1357)、鉄製品刀子(1358)、石製品砥石(1352) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。

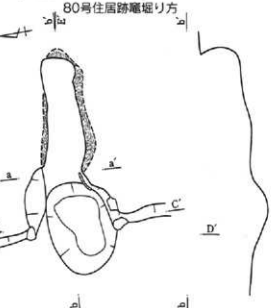


0　1：60　2m

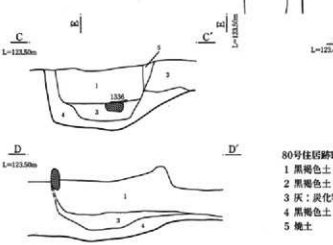
80号住居跡竈



80号住居跡竈堀り方

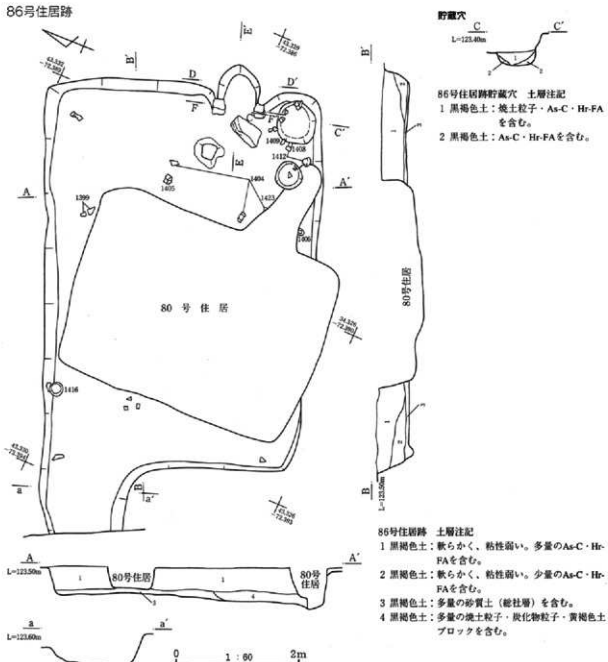


0　1：30　1m



80号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：多量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 灰：炭化物・炭化物粒子を含む。
4 黒褐色土：黄褐色砂質土・地山ブロックを含む。
5 焼土

第92図　80号住居跡掘り方、80号住居跡竈、80号住居跡竈掘り方

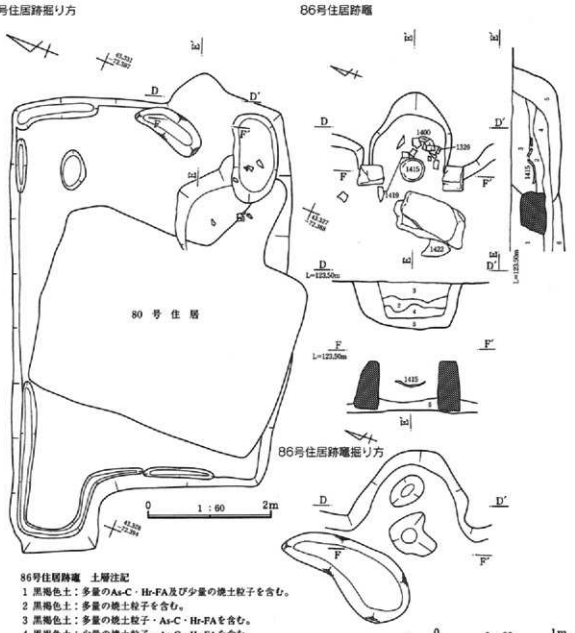


第93図　86号住居跡

86号住居跡

X＝43.325～.330、Y＝－72.385～.395付近で確認された。80号住居跡、120号住居跡と重複する。80号住居跡との新旧関係は、当住居跡の壁、床の一部を破壊して80号住居跡が築かれていることから、当住居跡が古い。120号住居跡との新旧関係は、直接把握でなかったが、出土遺物から当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約4.2～4.5m、南北約6.3～6.5m、平面形は隅丸長方形を呈するが、南壁側に東西約1.4～1.5m、南北約1.1mの隅丸長方形の張り出しがつく。主軸はN-71°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。竈の袖の先端は、切石が埋め込まれ、手前からは天井部の梁に用いられたと考えられる切石が検出できた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸65cm、短軸60cm、床面からの深さ約20cmであり、平

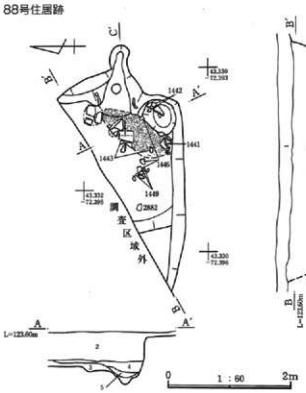


第94図　86号住居跡掘り方、86号住居跡竈、86号住居跡竈掘り方

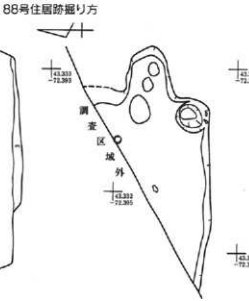
面形は不整形な楕円形を呈する。整溝は、北東部及び北西部の一部から検出できた。規模は幅約10～15㎝、確認面からの深さ約10㎝である。主柱穴は、検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1321・1322・1323・1324・1404・1405・1406・1407・1408・1409・1410・1411・1412・1413)、土師器皿(1399・1400・1401・1402・1403)、須恵器杯(1329)、須恵器椀(1339)、須恵器蓋(1414・1415・1416)、土師器甕(1419)、須恵器甕(1421・1422・1423) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀初頭～8世紀前半である。

88号住居跡

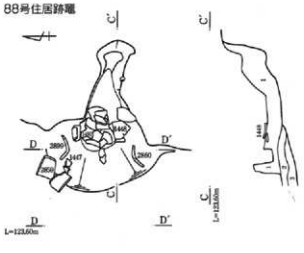


88号住居跡掘り方



88号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：耕作土。多量のAs-Bを含む。
2 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：As-C・Hr-FA及びブロック状の粘土層を含む。
4 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
5 黒褐色土：多量の焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

88号住居跡竈



88号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：粘土層をブロック状に含む。

第95図　88号住居跡、88号住居跡掘り方、88号住居跡竈

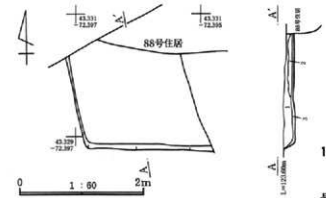
88号住居跡

X＝43.330～.335、Y＝－72.395付近で確認された。120号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が120号住居跡の北側部分を破壊して築かれていることから、当住居跡が新しい。

当住居跡の規模は、北側の約2／3以上が調査区域外のため、不明である。主軸は、S-85°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。規模は、燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部壁外への張り出し約80cmである。竈袖の燃焼部側は、瓦を埋め込み支えとしていることが確認できた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約50cm、短軸約40cmであり、平面形は楕円形を呈する。調査区域内から、主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1440・1441・1442)、土師器皿(1444)、須恵器杯(1445)、須恵器蓋(1443)、土師器甕(1446・1447・1448・1449・1450)、土師器壺(1451)、須恵器壺(1452)、平瓦(2882・2899)、丸瓦(2857・2859・2860)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉～後半である。

120号住居跡



120号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：軟らかく、粘性弱い。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：硬く締り、粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。

120号住居跡掘り方

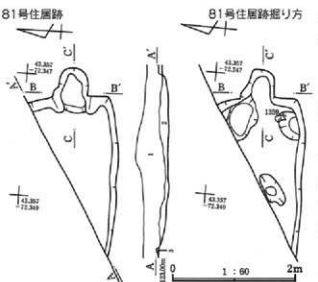
120号住居跡

X＝43.330、Y＝−72.395付近で確認された。86号住居跡、88号住居跡と重複する。86号住居跡との新旧関係は、切り合いを直接確認することができなかったので、不明である。88号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北側部分を、88号住居跡破壊して築かれているので、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、住居跡の南西部だけの確認のため、不明である。確認範囲から、竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(1793) が出土しているが、当住居跡出土と確定できる遺物ではない。また、当住居跡は竈が検出できかったことから、住居跡か、否かも検討する余地がある。

81号住居跡



81号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：盛土。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
3 黒褐色土：粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。

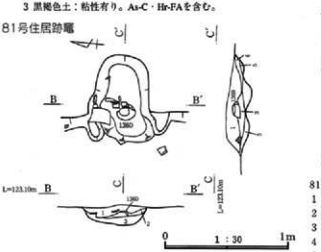
81号住居跡

X＝43.355〜.360、Y＝−72.345〜.350で確認された。調査区域内での、他の遺構との重複はない。

当住居跡は、大部分が調査区域外のため、規模は不明である。主軸はN-80°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約45cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は、床面確認範囲からは検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(1359・1360)、須恵器椀(1361・1362) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

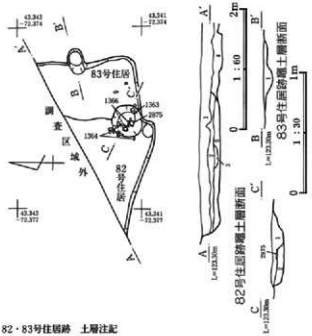
81号住居跡竈



81号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 焼土
3 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
4 黒褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
5 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。

第96図　120号住居跡、120号住居跡掘り方、81号住居跡、81号住居跡掘り方、81号住居跡竈

82・83号住居跡



82・83号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：耕作土。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。(82号住居跡)
3 黒褐色土：やや多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。(82号住居跡)
4 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。(83号住居跡)
5 黒褐色土：硬く締っている。

82号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
83号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：焼土ブロック・焼土粒子を含む。

第97図　82・83号住居跡

82号住居跡

X＝43.340～.345、Y＝－72.375付近で確認された。83号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の東壁、床及び竈が、83号住居跡の南側部分を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、大部分が調査区域外のため不明である。S-85°-Eである。竈は、東壁南隅に築かれている。規模は、燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約25cmである。確認面がほぼ床面であったため、袖は確認できなかった。住居跡検出範囲から主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1363)、土師器甕(1364・1365・1366)、平瓦(2875)等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

83号住居跡

X＝43.340～.345、Y＝－72.375で確認された。82号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西部を破壊して、82号住居跡の東側の壁、竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北側が調査区域外であり、南側が82号住居跡に破壊されているため不明である。竈は、東壁に築かれている。確認面と床面がほぼ同じなため残存状態は悪く、袖は確認できなかったが、規模は、燃焼部の幅約25cm、煙道部の壁外への張り出し約30cmである。床確認範囲から、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1367)が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

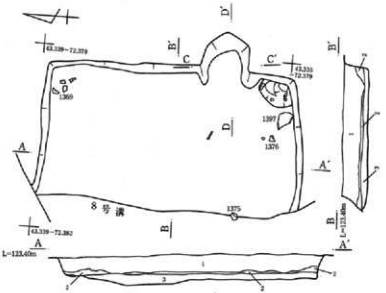
84号住居跡

X＝43.335～.340、Y＝－72.380で確認された。8号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の南側が8号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

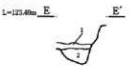
当住居跡の規模は、南側が8号溝に破壊されていることから確定できないが、南北は約4.1～4.3mである。主軸はN-89°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。規模は、燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸60cm、短軸40cm、床面からの深さ約25cmであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1368)、土師器鉢(1369)、須恵器杯(1370)、須恵器椀(1371・1372・1373)、土師器甕(1374)、須恵器甕(1377)、鉄製品刀子(1376)、石製品砥石(1375)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉である。

84号住居跡

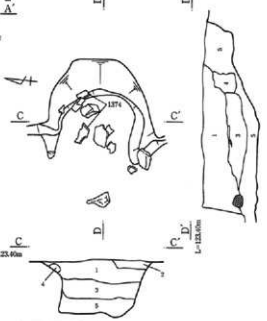


貯蔵穴



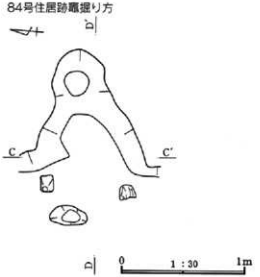
84号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：やや多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。

84号住居跡竈



84号住居跡掘り方

84号住居跡竈掘り方

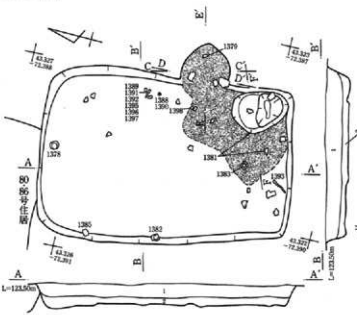


84号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：硬く締る。焼土ブロック・焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。
3 黒褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FAを含む。

84号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：やや多量の焼土ブロック・焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の焼土ブロックを含む。(天井又は側壁の崩れか。)
3 黒褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子・炭化物を含む。
4 焼土ブロック
5 黒褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。

第98図　84号住居跡、84号住居跡掘り方、84号住居跡竈、84号住居跡竈掘り方

85号住居跡

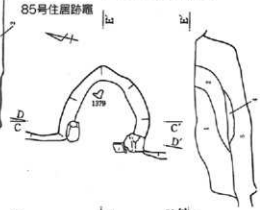


85号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の縄牡層ブロック・黄褐色土ブロックを含む。

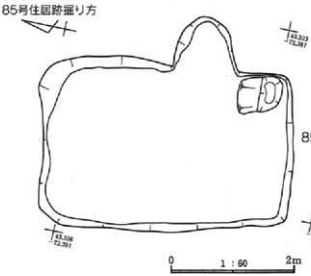
貯蔵穴

85号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：多量の焼土粒子及び黄褐色土ブロック・As-C・Hr-FAを含む。

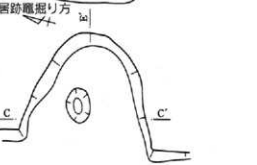
85号住居跡竈



85号住居跡掘り方



85号住居跡竈掘り方



85号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の焼土ブロックを含む。(天井の崩れか。)
3 黒褐色土：多量の灰白色粘質土ブロックを含む。(竈壁の崩れか。)
4 焼土
5 黒褐色土ブロックと黄褐色土ブロックの混合。

第99図　85号住居跡、85号住居跡掘り方、85号住居跡竈、85号住居跡竈掘り方

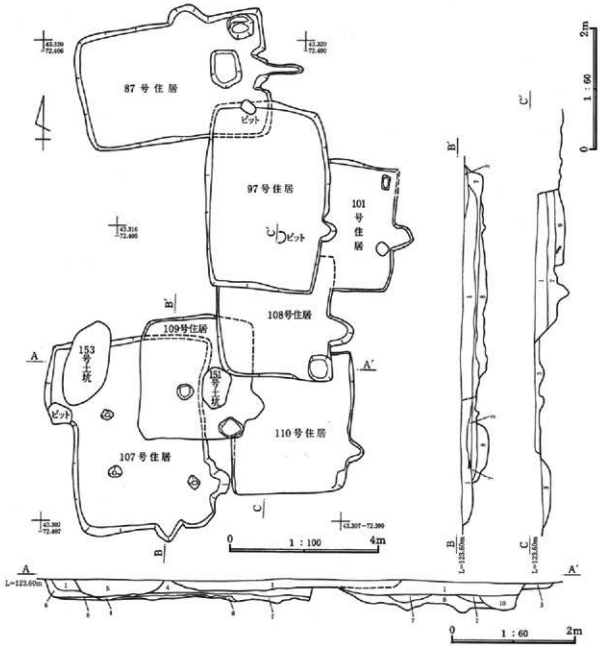
85号住居跡

X＝43.325、Y＝－72.390付近で確認された。80号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北壁の一部を、85号住居跡の南東隅が破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.5～2.8m、南北約4.0～4.1mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-85°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。袖と壁の接点からは、切石が設置された状態で検出できた。竈構築材には、切石と灰白色粘質土を用いていたと考えられる。貯蔵穴は、南東隅から検出できた。規模は、長軸90cm、短軸70cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(1378・1379・1380・1381)、須恵器椀(1382)、灰釉陶器皿(1384)、土師器台付甕(1383)、土師質鉢(1386)、灰釉陶器長頸壺(1385)、鉄製品鎌(1387)、鉄製品刀子(1390・1393)、棒状鉄製品(1388・1389・1391・1392・1394・1395・1397・1398)、管状鉄製品(1396) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

87・97・101・107・108・109・110号住居跡



107・108・109・110号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：締り・粘性無し。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(107・108・109号住居跡の覆土は同じような土で埋まっており、識別不能。)

2 暗褐色土：締り・粘性無し。多量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物粒子を含む。(107号住居跡)

3 暗褐色土：締り・粘性無し。やや多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(108号住居跡)

4 暗褐色土：締り・粘性無し。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子・褐色土ブロックを含む。(107号住居跡)

5 暗褐色土：締り・粘性無し。As-Bを含む。(153号土坑)

6 暗褐色土：締り有り。As-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物粒子を含む。(107号住居跡)

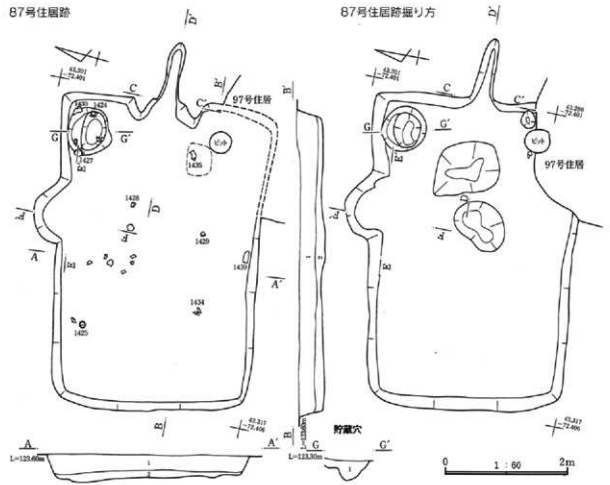
7 暗褐色土：炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。(107・108・109号住居跡の掘り方覆土は同じような土で埋まっており、識別不能。)

8 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。(107・108・109号住居跡の掘り方覆土は同じような土で埋まっており、識別不能。)

9 灰褐色土：地山ブロック及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(108号住居跡)

10 暗褐色土：粘質土ブロック及びAs-C・Hr-FAを含む。(108号住居跡貯蔵穴)

第100図　87・97・101・107・108・109・110号住居跡重複関係



87号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：粘質。少量のAs-C・Hr-FAを含む。

87号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。

第101図　87号住居跡、87号住居跡掘り方

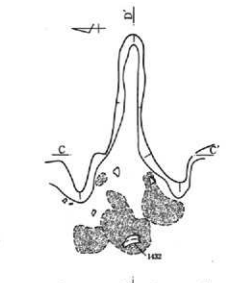
87号住居跡

X＝43.320、Y＝－72.400～.405付近で確認された。97号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南東隅を破壊して、97号住居跡の北西部分の壁、床が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約5.1m、南北約3.2～3.5mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-85°-Eである。当住居跡は竈を作り変えており、竈1は東壁中央、竈2は北壁東よりに築かれている。竈1の規模は、燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約95cmである。竈2の規模は、燃焼部の幅約80cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。竈2の袖、燃焼部は殆ど残存していない。従って、北竈の竈2から東竈の竈1へ作り替えられたものと考えられる。貯蔵穴は、北西隅に築かれている。規模は、長軸約80cm、短軸約60cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1424・1425・1426・1427)、須恵器杯(1429)、須恵壺(1428)、土師器壺(1434)、土師器甕(1430・1431・1432・1433)、須恵器壺(1435)、鉄製品鏃(1436)、鉄製品釘(1437)、棒状鉄製品(1438)、石製品砥石(1439) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、7世紀末～8世紀初である。

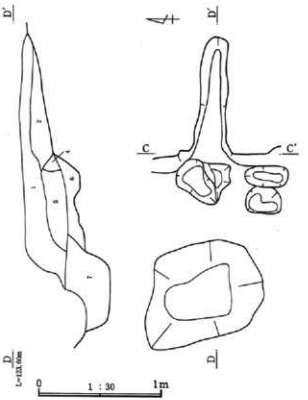
87号住居跡竈1



87号住居跡竈1　土層注記

1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：焼土粒子・灰を含む。
3 暗褐色土：粘性有り。(竈左袖の基部か？)
4 焼土
5 黒褐色土：やや粘性有り。焼土粒子を含む。
6 黒褐色土：焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。
7 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。(床下土坑覆土。)

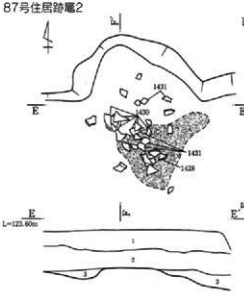
87号住居跡竈1掘り方



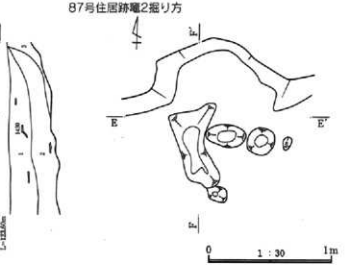
87号住居跡竈2　土層注記

1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：粘性有り。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
3 黒褐色土：やや粘性有り。As-C・Hr-FA及び微量の焼土粒子を含む。

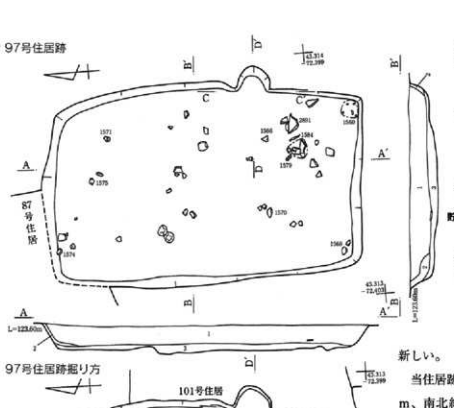
87号住居跡竈2



87号住居跡竈2掘り方



第102図　87号住居跡竈1、87号住居跡竈1掘り方、87号住居跡竈2、87号住居跡竈2掘り方



第103図　97号住居跡、97号住居跡掘り方

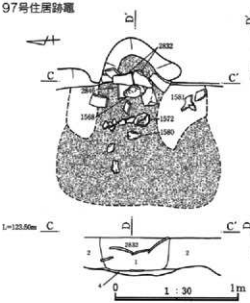
97号住居跡

X＝43.315、Y＝－72.400付近で確認された。87号住居跡、101号住居跡、108号住居跡と重複する。87号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部分の壁、床が、87号住居跡の南東隅部分の壁、床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。101号住居跡との新旧関係は、当住居跡の東側部分の壁、床、竈が、101号住居跡の南側の壁、床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。108号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南側部分の壁、床が、108号住居跡の北側部分の壁、床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

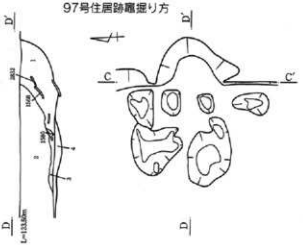
当住居跡の規模は、東西約3.0～3.3m、南北約5.1mであり、平面形は、胴の張った横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-87°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。規模は、燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。破壊されており、袖は殆ど確認できなかったが、燃焼部に散乱した石と瓦から、石と瓦を組み合わせた構造であったと推測できる。貯蔵穴は、掘り方調査の段階で、南東隅から検出された。規模は、長軸約70cm、短軸約45cm、確認面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1560・1578)、須恵器杯(1563・1564・1565・1566・1567)、須恵器椀(1568・1569・1570・1571・1572・1573・1574・1575・1579)、須恵器高台付皿(1577)、須恵器蓋(1561・1562)、灰釉陶器小瓶(1576)、土師器甕(1580・1581)、須恵器甕(1582・1583)、丸瓦(2832)、平瓦(2846・2891・2897)、鉄製品刀子(1584・1586)、鉄製品釘(1585)、石製品紡錘車(1587)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。

97号住居跡竈



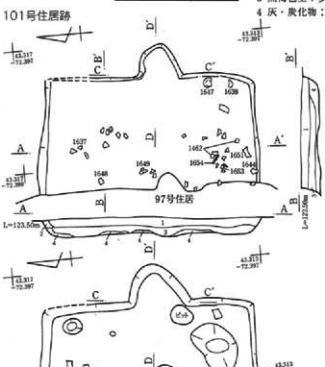
97号住居跡竈掘り方



97号住居跡竈　土層注記

1 黒褐色土：多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び微量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
3 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物・灰を含む。
4 灰・炭化物：少量の焼土粒子を含む。

101号住居跡



101号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：粘性弱い。やや多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：粘性弱い。やや多量のAs-C・Hr-FA及び褐色土ブロックを含む。
3 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
4 黒褐色土：多量の褐色土ブロック及びAs-C・Hr-FA、少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。

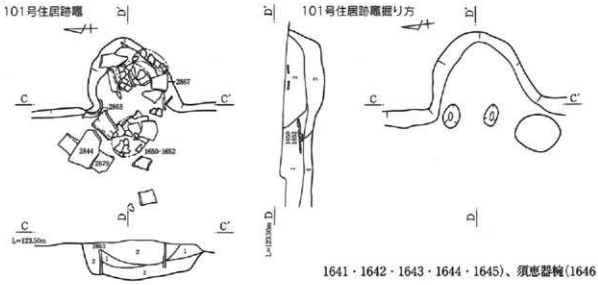
101号住居跡

X＝43.315、Y＝－72.395～.400付近で確認された。97号住居跡、108号住居跡と重複する。97号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南側部分の壁、床を破壊して、97号住居跡の東側部分の壁、竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。108号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、遺物から当住居跡の方が新しいと推定される。

当住居跡の規模は、西側が97号住居跡により破壊されていることから、不明であるが、南北約3.4～3.6mである。主軸はS-87°-Eである。竈は、東壁中央に築かれている。規模は、燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。竈の構築材として、瓦が使用されており、燃焼部及びその手前には多くの瓦が散乱していた。また、燃焼部壁からは、立ててある瓦を検出した。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1638)、須恵器杯(1639・1640・

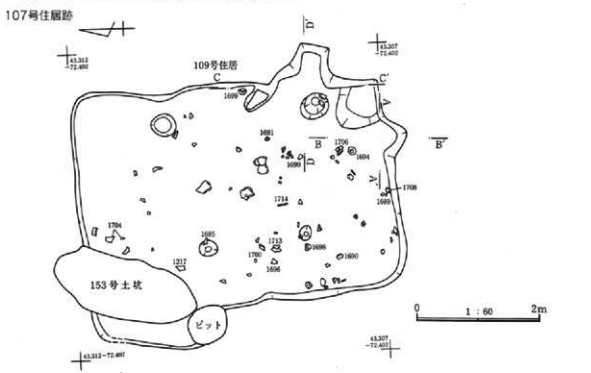
第104図　97号住居跡竈、97号住居跡竈掘り方、101号住居跡、101号住居跡掘り方



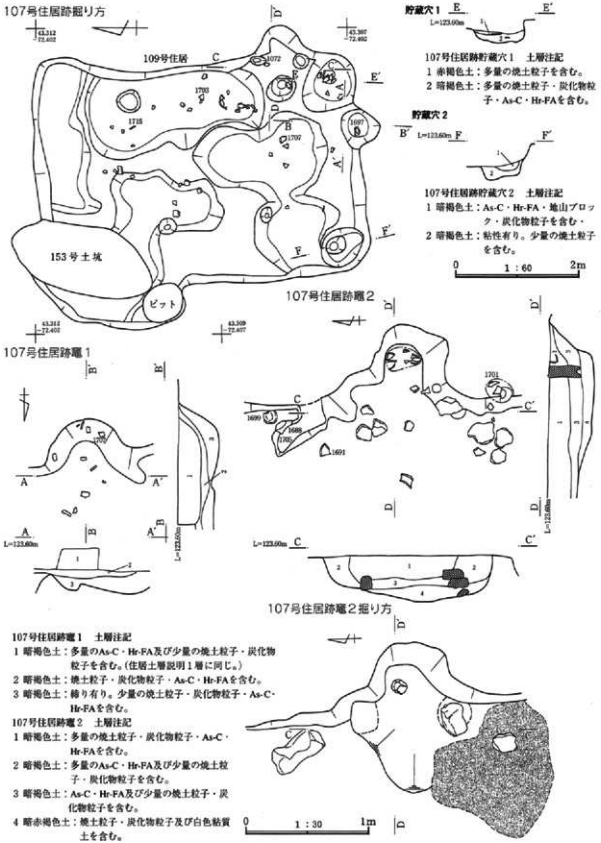
101号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：多量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
4 褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

第105図　101号住居跡竈、101号住居跡竈掘り方

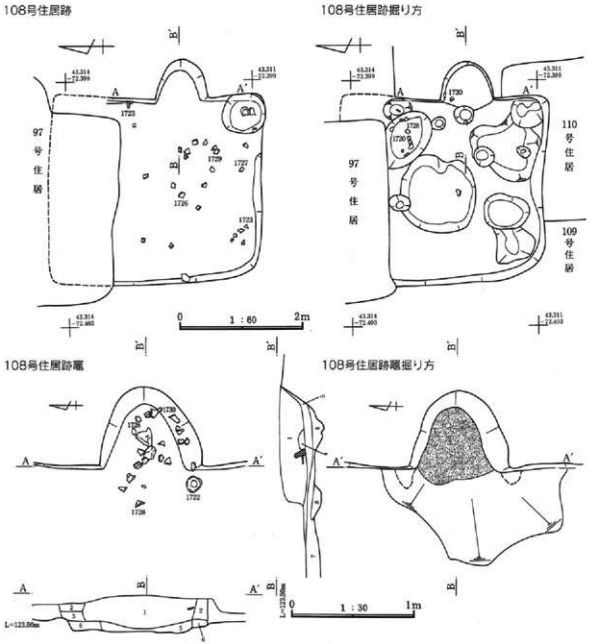
1641・1642・1643・1644・1645)、須恵器椀(1646・1647・1648)、須恵器蓋(1635・1636・1637)、土師器甕(1650・1651・1652)、土師器台付甕(1649)、緑釉陶器水瓶(1653)、平瓦(2844・2879)、丸瓦(2863・2867)、鉄製品刀子(1654・1655) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の9世紀中葉である。



第106図　107号住居跡



第107図　107号住居跡掘り方、107号住居跡竈1、107号住居跡竈2、107号住居跡竈2掘り方



108号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：締り・粘性無し。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 褐色土：地山の褐色土。凝灰岩の破片を含む。(軸の一部か。)
3 暗褐色土：締り・粘性無し。As-C・Hr-FAを含む。
4 焼土
5 暗褐色土：粘性有り。焼土粒子・炭化物粒子を含む。
6 灰褐色土：粘質土主体。少量の焼土粒子を含む。
7 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・灰褐色土を含む。
8 赤褐色土：多量の焼土粒子及び灰を含む。

第108図　108号住居跡、108号住居跡掘り方、108号住居跡竈、108号住居跡竈掘り方

107号住居跡

X＝43.310、Y＝－72.405付近で確認された。109号住居跡と重複する。新旧関係は、断面観察により、当住居跡の覆土中に109号住居跡の壁も床が確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.5～3.7m、南北約5.0～5.1mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈するが、北西部分に東西約0.5m、南北約2.1mの張り出しを持つ。主軸はN-90°-Eである。竈は、東壁の南より（竈1）と南壁東より（竈2）に築かれている。竈2は、大部分が破壊されており、袖も確認できなかった。従って、竈2から竈1へ作り替えたものと考えられる。竈1は、燃焼部の幅約70cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。竈2は、燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。貯蔵穴は、南東隅（貯蔵穴1）と南西隅（貯蔵穴2）に築かれている。貯蔵穴2の上には貼床がされており、竈の移動に合わせて貯蔵穴2から貯蔵穴1へ作り替えたものと考えられる。貯蔵穴1の規模は、一辺約70cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。貯蔵穴2の規模は、長軸約75cm、短軸60cm、確認面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な楕円形をしている。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

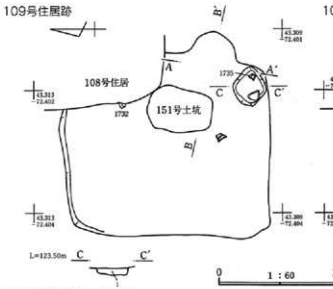
遺物は、土師器杯(1688・1689)、須恵器杯（1694・1695・1696・1697・1698・1699・1700・1701・1702)、須恵器高台盤(1703)、須恵器蓋(1690・1691)、土師器壺(1704)、土師器甕(1705・1706・1707)、土師器台付甕(1708)、須恵器甕(1710・1711・1712・1713)、鉄製品釘(1715)、棒状鉄製品(1714・1716)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀末～9世紀初頭である。

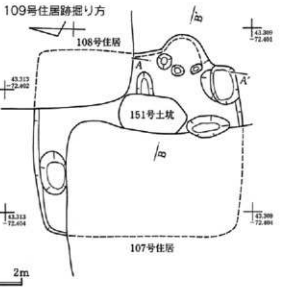
108号住居跡

X＝43.310～.315、Y＝－72.400付近で確認された。97号住居跡、109号住居跡、110号住居跡と重複する。97号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北側の壁、床を破壊して、97号住居跡南側の壁、床が作られていることから、当住居跡の方が古い。101号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、遺物から当住居跡の方が古いと推定される。109号住居跡との新旧関係は、断面観察でも同じ様な覆土であり、遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が古い。110号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南側部分の壁、床が、110号住居跡の北側部分の壁、床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

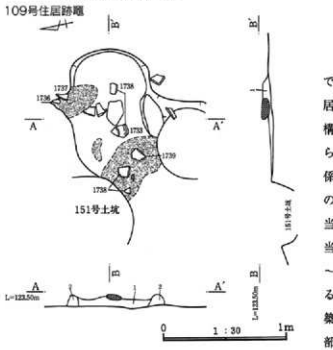
当住居跡の規模は、北側の一部が97号住居跡に破壊されているが、東西約3.0～3.1m、南北約3.4mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はS-89°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約70cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長辺約70cm、短辺約60cm、床面からの深さ約25cmであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1717・1718・1719・1720)、須恵器杯(1721・1722・1723・1724・1725)、須恵器蓋(1726・1727)、土師器甕(1728・1729・1730)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。





109号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：締り、粘性無し。やや多量の焼土粒子・炭化物粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。



109号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：締り、粘性無し。多量の焼土粒子・炭化物粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
2 褐色土：凝灰岩の焼土。(竈袖の基部。)

109号住居跡

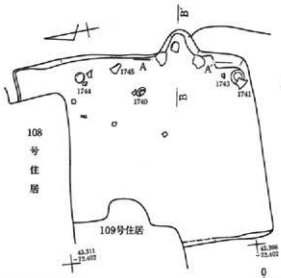
X＝43.310、Y＝－72.400～.405で確認された。107号住居跡、108号住居跡、110号住居跡と重複する。107号住居跡との新旧関係は、断面観察により当住居跡の壁、床が、107号住居跡の覆土中に確認できたことから、当住居跡の方が新しい。108号住居跡との新旧関係は、ほぼ同じ土で埋っており、遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が新しい。110号住居跡との新旧関係は、当住居跡の東側の壁、床、竈が110号住居跡の西側の壁、床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.8～2.9m、南北約3.2～3.4mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はS-84°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、一辺50cm、床面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

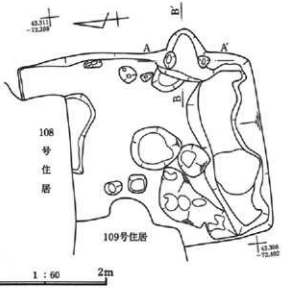
遺物は、須恵器杯(1731・1732・1733)、須恵器椀(1734・1735・1736)、灰釉陶器椀(1737)、須恵器甕(1739)、須恵器羽釜(1738) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

第109図　109号住居跡、109号住居跡掘り方、109号住居跡竈

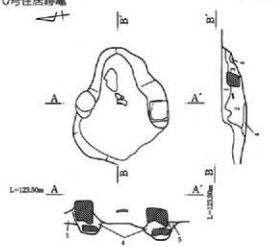
110号住居跡



110号住居跡掘り方



110号住居跡竈



110号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：締り、粘性無し。多量のAs-C・Hr-FA及びAs-Bを含む。
2 暗褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黄褐色土：やや締り、粘性有り。
4 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAの混合。
5 褐色土：灰褐色土ブロックを含む。

110号住居跡

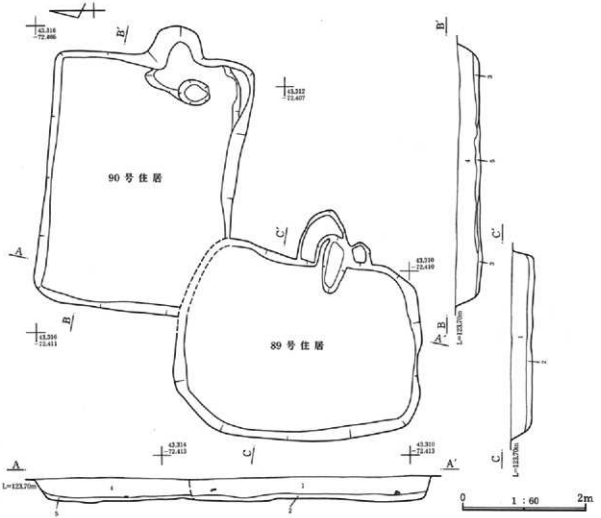
X＝43.310、Y＝－72.400付近で確認された。108号住居跡、109号住居跡と重複する。108号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北側の壁、床を破壊して、108号住居跡の南側の壁、床が築かれていることから、当住居跡の方が古い。109号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西側の壁、床を破壊して、109号住居跡東側の壁、床、竈が築かれていることから、当住居跡が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.1～3.2m、南北約3.8mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はS-86°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。袖の基部、壁際部分は、左右両袖とも切石が埋め込まれていた。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1740)、須恵器蓋(1744)、土師器甕(1742・1743)、須恵器甕(1741・1745)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀末～9世紀初である。

第110図　110号住居跡、110号住居跡掘り方、110号住居跡竈

89・90号住居跡



89号住居跡

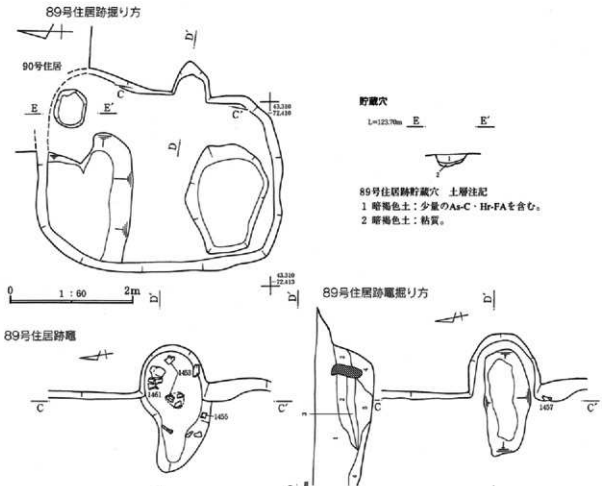
第111図　89・90号住居跡、89号住居跡

89・90号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：粘質。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：粘質。
4 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
5 黒褐色土：細砂（絶柱層）を含む。

89号住居跡

X＝43.310～.315、Y＝－72.410～.415で確認された。90号住居跡と重複する。新旧関係は、断面観察で当住居跡の壁が、90号住居跡覆土中に確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.8～3.2m、南北約3.9～4.0mであり、平面形は胴の張った横長隅丸長方形を呈する。主軸はS-82°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。



第112図　89号住居跡掘り方、89号住居跡竈、89号住居跡竈掘り方

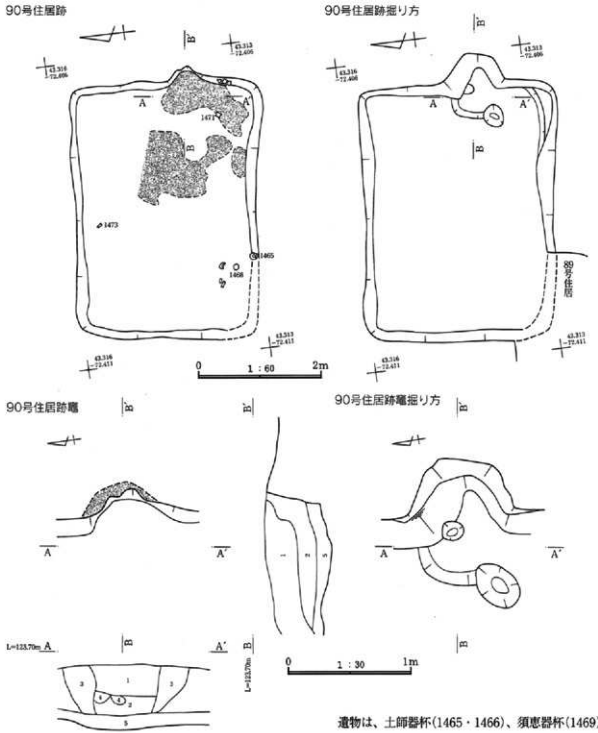
掘り方調査で、貯蔵穴と考えられる床下土坑が、北東隅から検出された。規模は、長軸約60cm、短軸約50cm、確認面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1453・1454・1455)、須恵器杯(1456・1457・1458・1462)、須恵器蓋(1459・1460・1461)、須恵器短頸壺(1463)、土師器甕(1464)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

90号住居跡

X＝43.315、Y＝－72.410付近で確認された。89号住居跡と重複する。新旧関係は、断面観察で、当住居跡の覆土中に89号住居跡の壁が確認できたことから、当住居跡の方が古い。

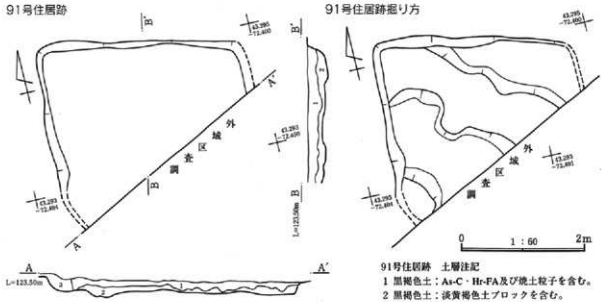
当住居跡の規模は、東西約3.1～3.25m、南北約4.2～4.25mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はS-85°-Eである。竈は、東壁中央や南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約45cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。



90号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：やや多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
3 黒褐色土：焼土粒子を含む。
4 黒褐色土：少量の焼土粒子・砂質土ブロックを含む。
5 黒褐色土：粘質。

遺物は、土師器杯(1465・1466)、須恵器杯(1469)、須恵器椀(1470)、須恵器盤(1472)、須恵器蓋(1467・1468)、土師器甕(1471)、鉄製品頭巻釘(1473) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉～後半である。

第113図　90号住居跡、90号住居跡掘り方、90号住居跡竈、90号住居跡竈掘り方



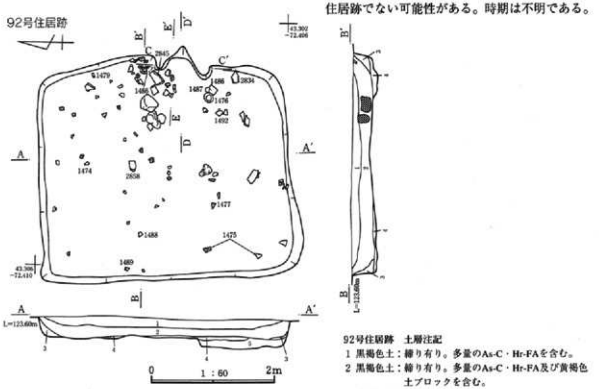
第114図　91号住居跡、91号住居跡掘り方

91号住居跡

X＝43.290～.295、Y＝－72.400～.405付近で確認された。調査区域内で、他の遺構との重複はない。

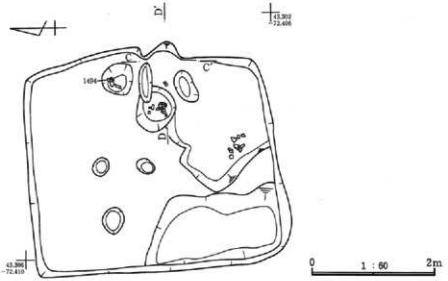
南東部分が調査区域外のため、規模は確定できないが、東西約3.3～3.4mである。調査区域内で、竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

当住居跡からは、遺物の出土もなく、調査区域南の壁の断面で、床面も確認できなかったことから、住居跡でない可能性がある。時期は不明である。

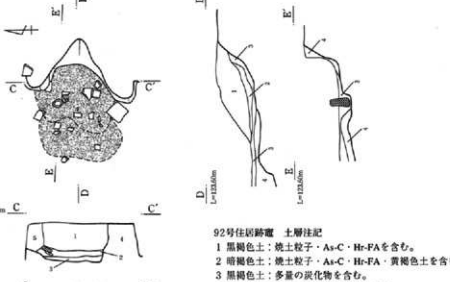


第115図　92号住居跡

92号住居跡掘り方



92号住居跡竈



第116図　92号住居跡掘り方、92号住居跡竈

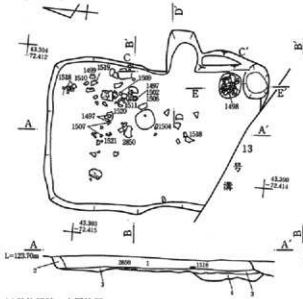
92号住居跡

X＝43.300～.305、Y＝－72.405～.410付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.5～3.7m、南北約4.0～4.2mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-87°-Eである。竈は東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約20cmである。燃焼部の中心より左に寄った地点から、支脚と考えられる石が、埋め込まれた状態で検出できた。主柱穴、貯蔵穴、盤溝は確認できなかった。

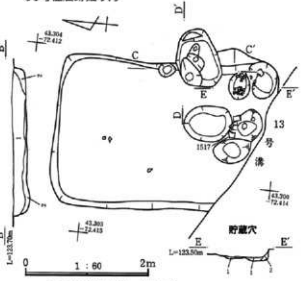
遺物は、土師器杯(1474)、須恵器杯(1475・1476・1477・1479)、須恵器椀(1480・1481)、須恵器皿(1478)、灰釉陶器椀(1482)、土師器甕(1483・1484・1485・1486)、須恵器甕(1487・1488)、平瓦(2845)、丸瓦(2834・2858)、鉄製品刀子(1490)、鉄製品鎌(1489)、鉄製品釘(1492)、鉄製品閂金具(1491)、石製品(1493・1494・1495) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～9世紀後半である。

93号住居跡



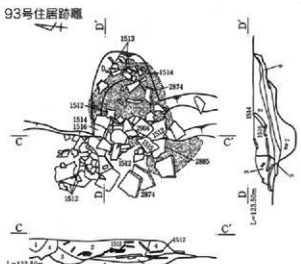
93号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：締り有り。As-C・Hr-FA・黄褐色土粒子を含む。
2 暗黄褐色土：多量の黄褐色土及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 灰褐色土：締り有り。黒褐色土と灰褐色土の混合。
4 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。

93号住居跡掘り方



93号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒灰褐色土：炭化物粒子及び少量の焼土粒子を含む。
2 黒灰褐色土：灰褐色土主体。

93号住居跡竈



93号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
3 暗黄褐色土：硬く締る。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
4 暗黄褐色土：黄褐色土ブロックを含む。
5 暗黄褐色土：締り有り。少量の焼土ブロック・As-C・Hr-FAを含む。
6 暗赤褐色土：焼土と灰の混合。
7 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・地山ブロックを含む。
8 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。

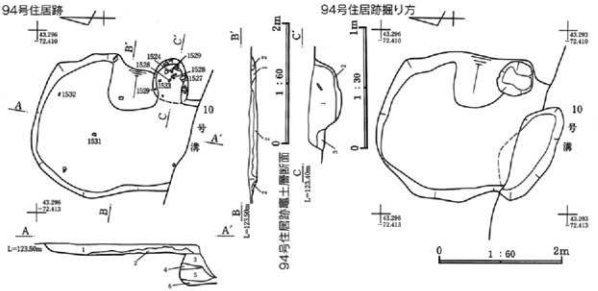
第117図　93号住居跡、93号住居跡掘り方、93号住居跡竈

93号住居跡

X＝43.300～.305、Y＝－72.410～.415付近で確認された。13号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西部を13号溝が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.4～2.5m、南北約3.5mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-87°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約60cm、短軸約40cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1497・1498・1499・1500・1501・1503・1504・1505)、須恵器椀(1506・1507・1508・1510)、須恵器蓋(1496)、灰釉陶器椀(1509・1511)、土師器甕(1512・1513・1514・1515・1516・1517・1518・1519)、須恵器甕(1502)、須恵器壺(1520・1521)、平瓦(2874・2881・2885・2904)、丸瓦(2850)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。



94号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：締り有り。やや多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黄褐色土：少量の黒褐色土ブロックを含む。
3 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 暗褐色土：黄褐色土ブロックを含む。
5 黒褐色土：締り有り。やや多量のAs-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子を含む。
6 暗褐色土：粘性有り。黄褐色土ブロックを含む。

94号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子及び微量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：地山の褐色土主体。
3 黄褐色土：地山

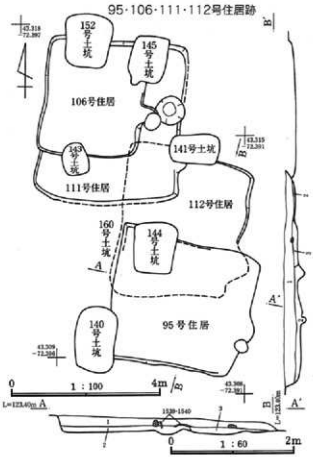
第118図　94号住居跡、94号住居跡掘り方

94号住居跡

X＝43.295、Y＝－72.410～.415付近で確認された。10号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の南側を10号溝により破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南壁が10号溝に破壊され確認できなかったことから不明であるが、東西約1.5～2.0mである。主軸は、S-63°-Eである。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1522・1523・1524・1525・1527・1528)、須恵器椀(1529・1530)、土師器台付甕(1531)、須恵器羽釜(1526)、鉄製品鎌(1532)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。



95号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：淡黄褐色土ブロックを含む。
3 暗褐色土：やや多量の焼土粒子・炭化物粒子及び淡黄褐色土ブロックを含む。
4 地山

95号住居跡

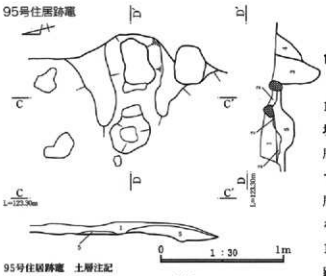
X＝43.310、Y＝－72.390～.395付近で確認された。112号住居跡、140・144・160号土坑と重複する。112号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北壁の一部が112号住居跡の覆土中から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。140・144・160号土坑との新旧関係は、各土坑が、それぞれ、当住居跡の南西隅、北壁を破壊していることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.5～3.8m、南北約3.5～3.6mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸は、S-73°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約30cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約20cmである。燃焼部の中央には、支脚と考えられる石が埋め込んだ状態で確認できた。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1534)、須恵器椀(1535・1536・1537・1538)、須恵器蓋(1533)、土師器甕(1539・1540・1541・1542・1544)、須恵器鉢（1543)、軒平瓦(2826)、平瓦(2893) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～9世紀後半である。

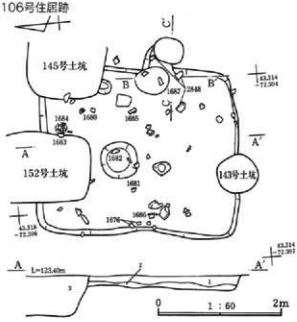
第119図　95・106・111・112号住居跡重複関係、95号住居跡、95号住居跡掘り方

95号住居跡竈



95号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 灰
3 暗褐色土：As-Bを含む。(中世～近世のピット)
4 暗褐色土：淡黄褐色土ブロックを含む。(中世～近世のピット)
5 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・黒褐色粘質土ブロックを含む。

106号住居跡



106号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：粘性有り。少量のAs-C・Hr-FA・淡黄褐色土ブロックを含む。(張り方覆土)
3 暗褐色土：As-Bを含む。(152号土坑覆土)
106号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：多量の淡黄褐色土ブロックを含む。
3 暗褐色土：As-B・淡黄褐色土ブロックを含む。(中世～近世のピット覆土)

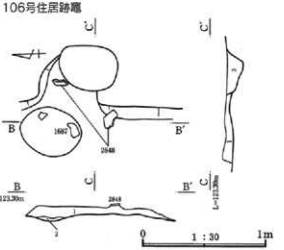
106号住居跡

X＝43.315、Y＝－72.395付近で確認された。111号住居跡、112号住居跡、143・145・152号土坑と重複する。111号住居跡との新旧関係は、当住居跡が、111号住居跡の北西部を破壊しいて築かれていることから、当住居跡の方が新しい。112号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、遺物から当住居跡の方が新しい。143・145・152号土坑との新旧関係は、各土坑が、当住居跡の南壁、北壁を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.7m、南北約3.2mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-83°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

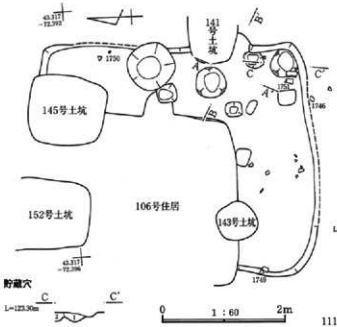
遺物は、須恵器杯(1675・1677・1678)、須恵器椀(1676・1679・1680)、須恵器蓋(1681)、土師器甕(1682)、須恵器羽釜(1683・1684・1685・1686)、平瓦(2848)、鉄製品鎌(1687) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

106号住居跡竈



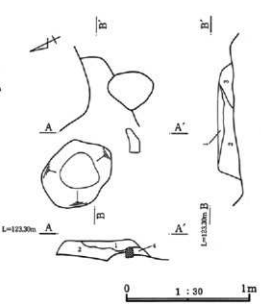
第120図　95号住居跡竈、106号住居跡、106号住居跡竈

111号住居跡



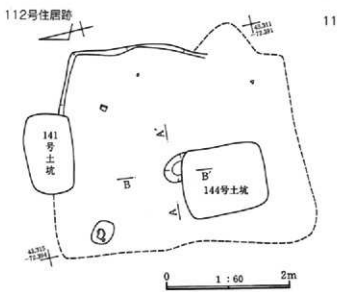
111号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

111号住居跡竈

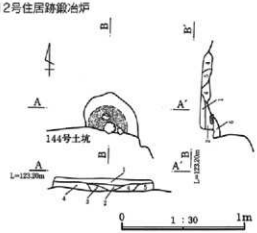


111号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：微量の焼土粒子及び黄褐色土ブロックを含む。
3 黄褐色土：微量の黒褐色土を含む。
4 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。

112号住居跡



112号住居跡鍛冶炉



112号住居跡鍛冶炉　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗赤褐色土：地山の焼土化。
4 黄褐色土：地山ブロック主体。
5 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。
6 炉床

第121図　111号住居跡、111号住居跡竈、112号住居跡、112号住居跡鍛冶炉

111号住居跡

X＝43.315、Y＝－72.395付近で確認された。106号住居跡、112号住居跡、141号土坑、143号土坑、145号土坑、152号土坑と重複する。106号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部を破壊して106号住居跡が築かれていることから、当住居跡の方が古い。112号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南東部の壁の一部が、112号住居跡北西部から確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。各土坑との新旧関係は、各土坑が当住居跡の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北西部が106住居跡に破壊されていることから確定できないが、東西約3.7～3.8m、南北約4.4mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-90°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。左半分を141号土坑に破壊されているが、確認面での煙道部の壁外への張り出し約20cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸45cm、短軸約40cm、確認面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1746・1747・1748)、須恵器蓋(1749)、鉄製品鎌(1750)、石製品砥石(1751) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、８世紀後半である。

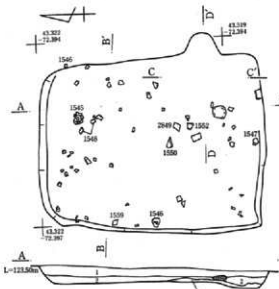
112号住居跡

X＝43.310～.315、Y＝－72.390～.395付近で確認された。95号住居跡、106号住居跡、111号住居跡、141号土坑、144号土坑と重複する。95号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南部から95号住居跡の壁の一部が確認できたことから、当住居跡の方が古い。106号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することができなかったが、遺物から当住居跡の方が古い。111号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部から111号住居跡の南東部の壁の一部が確認できたことから、当住居跡の方が古い。141号土坑、144号土坑との新旧関係は、各々の土坑が北部の壁、南西部の床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

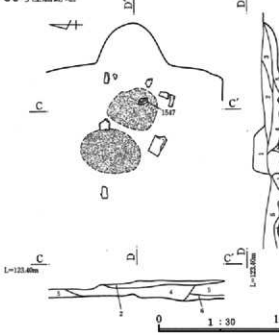
当住居跡の規模は、大部分が破壊されており、確定できないが、東西約3.1～3.3m、南北約3.5～4.2mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈すると考えられる。竈は、東壁の南よりに築かれていた。大部分破壊されており、燃焼部底面だけの確認である。住居の中央部からは、鍛冶炉が検出された。南側が144号土坑に破壊されているが、短軸約40cm、確認面からの深さ約10cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1752)、鉄製品鎌(1753) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、８世紀中葉である。

96号住居跡



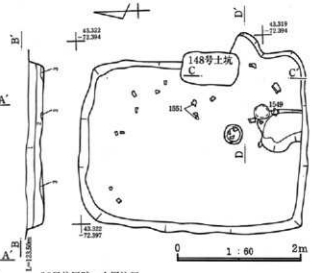
96号住居跡竈



96号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：多量の焼土粒子・焼土ブロック及び炭化物粒子を含む。
3 黄褐色土：竈構造材の崩れか。
4 暗褐色土：やや多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
5 暗褐色土：淡黄褐色土ブロックを含む。
6 淡黄褐色土：地山。

96号住居跡掘り方



96号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：淡黄褐色土ブロック・黒褐色粘質土ブロック・焼土粒子を含む。
3 淡黄褐色土：暗褐色土を含む。

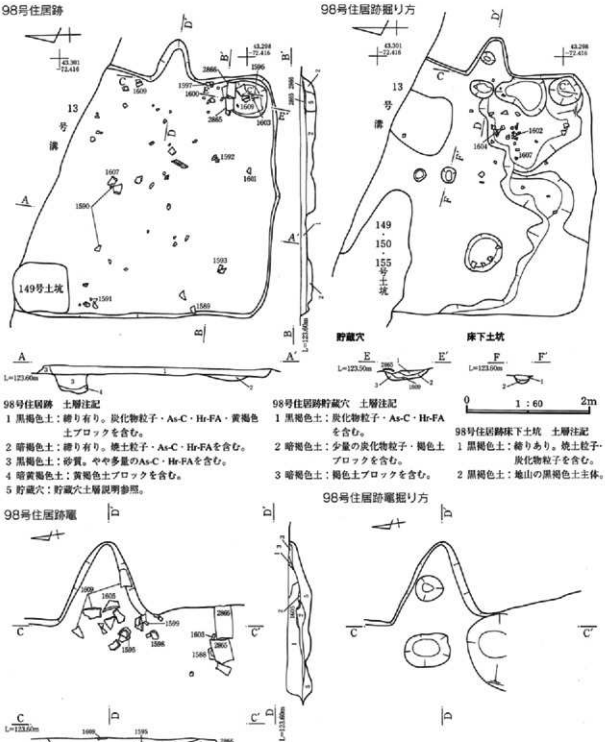
96号住居跡

X＝43.320、Y＝－72.395付近で確認された。148号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の竈北の床下から148号土坑が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.7～2.9m、南北約3.5～3.7mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-88°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約65cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1545・1546)、須恵器椀(1547・1548・1549・1550)、土師器甕(1551)、須恵器甑(1552)、鉄製品刀子(1553)、製斗瓦（2849)、鉄製品紡錘車(1557)、棒状鉄製品（1554・1555)、板状鉄製品(1556)、鉄滓(1558)、石製品砥石(1559)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、９世紀後半である。

第122図　96号住居跡、96号住居跡掘り方、96号住居跡竈



98号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：締り有り。炭化物粒子・As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。
2 暗褐色土：締り有り。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：砂質。やや多量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 暗黄褐色土：黄褐色土ブロックを含む。
5 貯蔵穴：貯蔵穴土層説明参照。

98号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：少量の炭化物粒子・褐色土ブロックを含む。
3 暗褐色土：褐色土ブロックを含む。

98号住居跡床下土坑　土層注記
1 黒褐色土：締りあり。焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：地山の黒褐色土主体。

98号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗赤褐色土：多量の焼土粒子・灰を含む。
3 黄褐色土：締り有り。
4 暗褐色土・黄褐色土・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
5 黒褐色土：灰及び少量の焼土粒子を含む。
6 暗赤褐色土：多量の焼土粒子・灰及び黄褐色土を含む。(床下土坑覆土。)
7 黄灰褐色土：微量の焼土粒子を含む。(床下土坑覆土。)

第123図　98号住居跡、98号住居跡掘り方、98号住居跡竈、98号住居跡竈掘り方

98号住居跡

X＝43.300、Y＝－72.415～.420付近で確認された。13号溝、149・158号土坑と重複する。13号溝との新旧関係は、当住居跡の北側が13号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。149・158号土坑との新旧関係は、当住居跡の壁、床の一部が149・158号土坑に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北壁が確認できなかったことから、確定できないが、東西は約3.9～4.1mである。主軸は、S-85°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約65cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長辺約65cm、短辺約60cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1588・1589・1590・1591・1592・1593・1594)、須恵器椀(1595・1596・1597・1598・1599・1600)、灰釉陶器椀(1601)、土師器甕(1602・1604・1605)、土師器台付甕(1603)、須恵器壺(1606・1608)、須恵器甕(1607)、須恵器羽釜(1609)、平瓦(2865・2866)等である。遺物から推定する当住居跡の年代は10世紀前半である

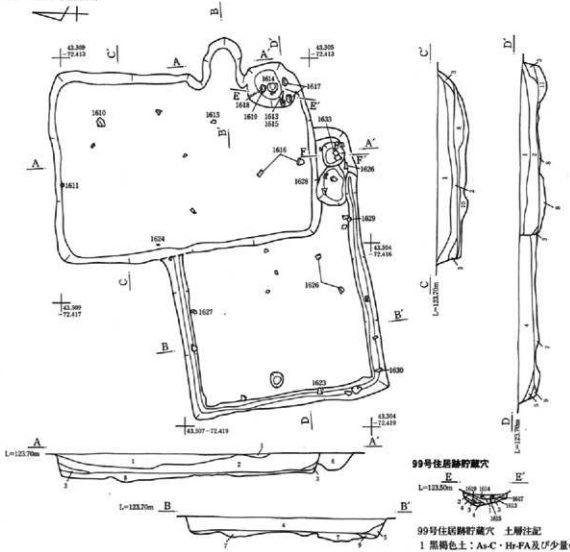
99号住居跡

X＝43.305～.310、Y＝－72.415付近で確認された。100号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西部の壁、床が、100号住居跡の北東部の壁、床、竈を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

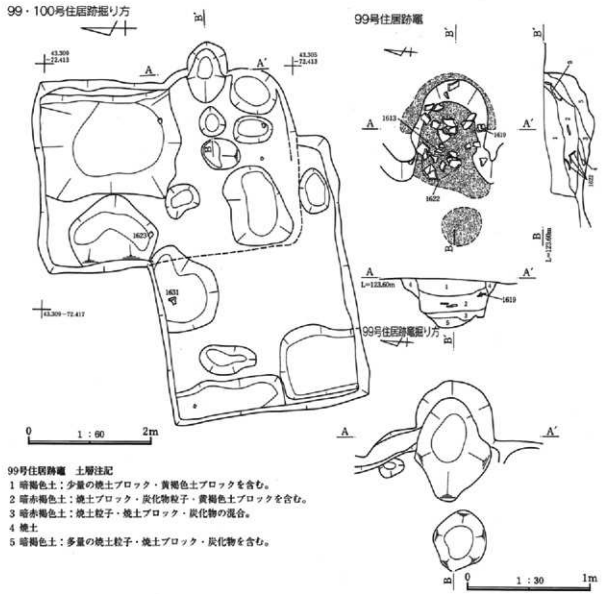
当住居跡の規模は、東西約2.9～3.1m、南北約4.1～4.3mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-90°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約90cm、短軸80cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1610)、須恵器杯(1613・1614・1615・1616・1617・1618)、須恵器椀(1619・1620)、須恵器蓋(1611・1612)、土師器甕(1621・1622)、土師器台付甕(1623)、棒状鉄製品(1624)、石製品(1625)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

99・100号住居跡



第124図　99・100号住居跡



99号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：少量の焼土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。
2 暗赤褐色土：焼土ブロック・炭化物粒子・黄褐色土ブロックを含む。
3 暗赤褐色土：焼土粒子・焼土ブロック・炭化物の混合。
4 焼土
5 暗褐色土：多量の焼土粒子・焼土ブロック・炭化物を含む。

第125図　99・100号住居跡掘り方、99号住居跡竈、99号住居跡竈掘り方

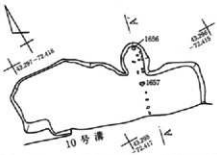
100号住居跡

X＝43.305、Y＝－72.415～，420付近で確認された。99号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北東部分の壁、床、竈を破壊して、99号住居跡の南西部の壁、床が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

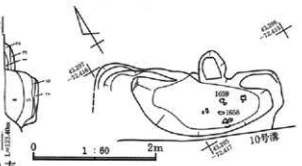
当住居跡の規模は、東西約4.5m、南北約3.2mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。竈は、99号住居跡に破壊され検出できなかったが、南西隅の焼土の分布から、東壁の南よりに築かれていたと推定される。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長辺約40㎝、短辺約35㎝であり、平面形は不整形な長方形を呈する。壁溝は、貯蔵穴部分を除き、床検出部分のほぼ全域から検出できた。規模は、幅約15～25㎝、床面からの深さ約2～5㎝である。主柱穴は、検出できなかった。

遺物は、土師器杯(1626・1627・1628)、須恵器杯(1630・1631)、須恵器蓋(1629)、須恵器壺(1632)、土師器甕(1633)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀後半である。

102号住居跡



102号住居跡掘り方



第126図　102号住居跡、102号住居跡掘り方

102号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子・褐色土ブロックを含む。
2 暗褐色土：多量の焼土小ブロックを含む。
3 焼土と炭化物の混合。
4 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FAを含む。(床下土坑)
5 暗褐色土：黄褐色土ブロック及び少量の焼土粒子を含む。(床下土坑)
6 暗褐色土：やや多量の黄褐色土ブロックを含む。(床下土坑)
7 黄褐色土：暗褐色土を含む。(床下土坑)

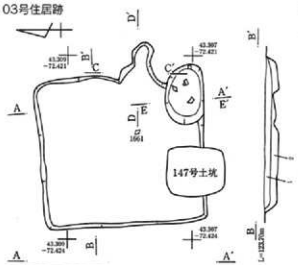
102号住居跡

X＝43.295、Y＝－72.415～.420付近で確認された。10号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の南側が、10号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

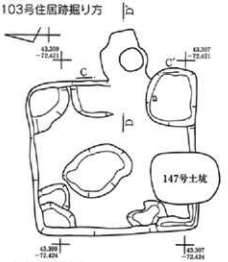
当住居跡の規模は、南側が破壊されているため確定できないが、東西約3.0mである。主軸は、N-26°-Eである。竈は、北壁の東よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(1657)、須恵器椀(1658)、須恵器蓋(1656)、土師器甕(1659) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀後半である。

103号住居跡



103号住居跡掘り方



103号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA・褐色土ブロックを含む。
2 黒褐色土：多量の黄褐色土ブロックを含む。
3 貯蔵穴土層説明参照

貯蔵穴

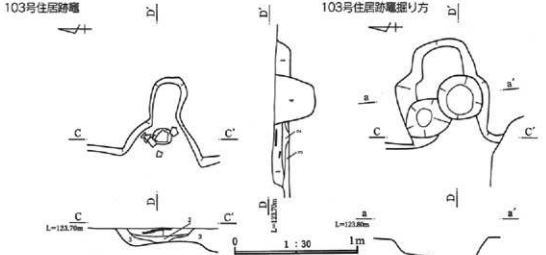
103号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

第127図　103号住居跡、103号住居跡掘り方

103号住居跡

X＝43.305～.310、Y＝－72.420～.425付近で確認された。147号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の南壁の一部が、147号土坑により破壊されていることが確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.6～2.7m、南北約2.5mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、N-88°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。



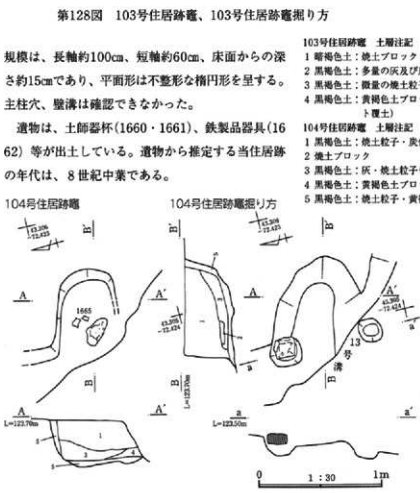
第128図　103号住居跡竈、103号住居跡竈掘り方

規模は、長軸約100cm、短軸約60cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1660・1661)、鉄製品器具(1662) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉である。

103号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土ブロック・焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の灰及び炭化物・焼土粒子を含む。
3 黒褐色土：微量の焼土粒子を含む。
4 黒褐色土：黄褐色土ブロック及び少量の焼土粒子を含む。(267号ピット覆土)

104号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 焼土ブロック
3 黒褐色土：灰・焼土粒子を含む。
4 黒褐色土：黄褐色土ブロックを含む。
5 黒褐色土：焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。



第129図　104号住居跡竈、104号住居跡竈掘り方

壁の一部を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。13号溝との新旧関係は、当住居跡の竈以外を13号溝が残し破壊していることから、当住居跡の方が古い。

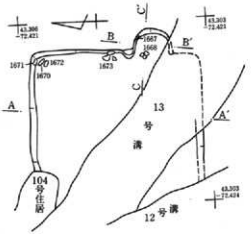
当住居跡は竈以外確認できなかったことから、規模は不明である。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅推定約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は不明である。

104号住居跡

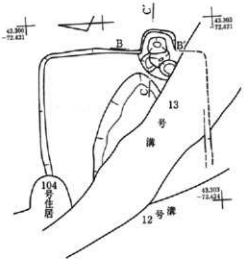
X＝43.305、Y＝－72.425付近で確認された。105号住居跡、13号溝と重複する。105号住居跡との新旧関係は、当住居跡の竈が、105号住居跡の北

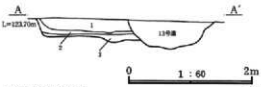
遺物は須恵器杯(1667)、土師器甕(1668)、石製品鷹羽み石(1669・1670・1671・1672)、石製品(1673) などが出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

105号住居跡



105号住居跡掘り方





105号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：地山土のブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：締り有り。地山土のブロックを含む。

105号住居跡竈

105号住居跡竈掘り方

105号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：焼土粒子及び少量の灰を含む。
3 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び地山土のブロックを含む。

105号住居跡

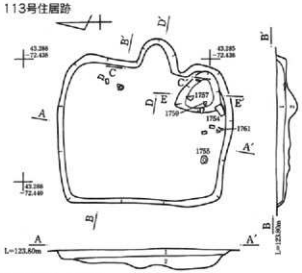
X＝43.305、Y＝72.420～.425付近で確認された。104号住居跡、12号溝、13号溝と重複する。104号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北壁の一部を破壊して、104号住居跡の竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。12号溝との新旧関係は、当住居跡の南東部の壁を、12号溝が破壊していることから、当住居跡の方が古い。13号溝との新旧関係は、当住居跡の南東部　北西部の壁、床が、13号溝により破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、西壁が検出できなかったことにより不明であるが、東西約2.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸はN-3°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅推定約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1666)、須恵器杯(1663)、須恵器椀(1665)、灰釉陶器皿(1664) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀中葉である

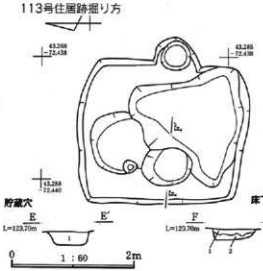
第130図　105号住居跡、105号住居跡掘り方、105号住居跡竈、105号住居跡竈掘り方

113号住居跡



113号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：黄褐色土ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

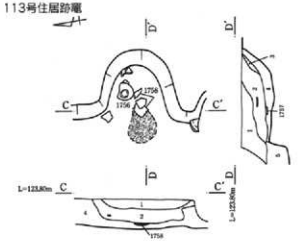
113号住居跡掘り方



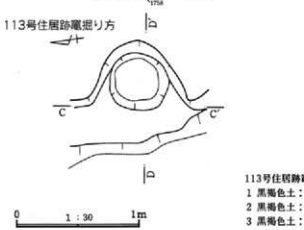
113号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：黄褐色土ブロック及び少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

113号住居跡床下土坑　土層注記
1 黒褐色土：炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黄褐色土：黒褐色土ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

113号住居跡竈



113号住居跡竈掘り方



113号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：焼土ブロック及び微量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：多量の灰及び少量の焼土粒子を含む。
4 黄褐色土：やや粘性有り。黒褐色土ブロックを含む。
5 黒褐色土：焼土ブロック・黄褐色土ブロック及び微量のAs-C・Hr-FAを含む。

113号住居跡

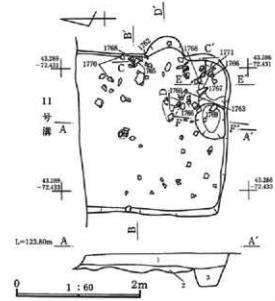
X＝43.285、Y＝－72.440付近で確認された。他の遺構との重複はない。

規模は、東西約2.3～2.4m、南北約2.6～2.8mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-84°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、底辺70cm、高さ75cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は隅丸三角形に近い形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1754・1755)、須恵器杯(1759)、須恵器椀(1756・1757・1758)、鉄製品刀子(1761)、棒状鉄製品(1760)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

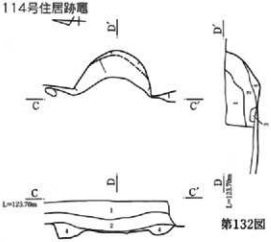
第131図　113号住居跡、113号住居跡掘り方、113号住居跡竈、113号住居跡竈掘り方

114号住居跡

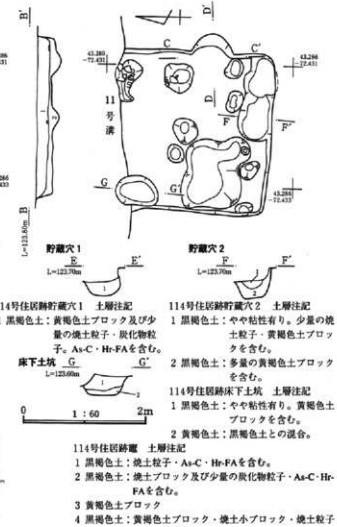


114号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：やや粘性有り。黄褐色土ブロックを含む。
3 貯蔵穴2

114号住居跡竈



114号住居跡掘り方



114号住居跡貯蔵穴1　土層注記
1 黒褐色土：黄褐色土ブロック及び少量の焼土粒子・炭化物粒子。As-C・Hr-FAを含む。

114号住居跡貯蔵穴2　土層注記
1 黒褐色土：やや粘性有り。少量の焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。
2 黒褐色土：多量の黄褐色土ブロックを含む。

114号住居跡床下土坑　土層注記
1 黒褐色土：やや粘性有り。黄褐色土ブロックを含む。
2 黄褐色土：黒褐色土との混合。

114号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：焼土ブロック及び少量の炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黄褐色土ブロック
4 黒褐色土：黄褐色土ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を含む。

第132図　114号住居跡、114号住居跡掘り方、114号住居跡竈

114号住居跡

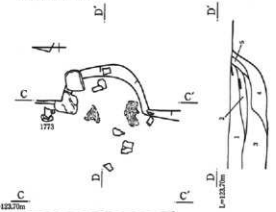
X＝43.285～.290、Y＝－72.430～.435付近で確認された。11号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の北壁が11号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北壁が破壊され、確認できなかったことから確定できないが、東西約2.6～2.7mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。S-89°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。貯蔵穴は、南東隅（貯蔵穴1）とその西（貯蔵穴2）に築かれている。貯蔵穴1の規模は長軸約70cm、短軸約50cm、床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。貯蔵穴2の規模は長軸約60cm、短軸約45cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

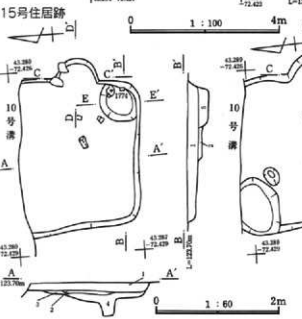
遺物は、土師器杯(1762)、須恵器杯(1763・1764)、須恵器椀(1765)、灰釉陶器壺(1767)、須恵器羽釜(1766・1768・1769・1770)、鉄滓(1771・1772)等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

115・124号住居跡

115号住居跡竈



115号住居跡



115号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：焼土ブロック及び少量の炭化物粒子を含む。
3 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
4 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。
5 焼土

貯蔵穴

115号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。

115号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FA及び微量の炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：やや粘性有り。As-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子を含む。
3 黒褐色土：やや粘性有り。少量の地山ブロックAs-C・Hr-FA・炭化物粒子を含む。
4 暗褐色土：地山ブロックを含む。
5 貯蔵穴土層説明参照。

115号住居跡

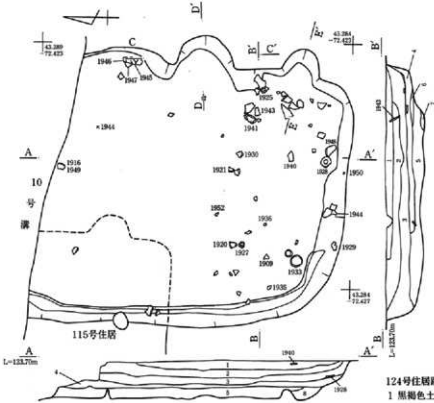
X＝43.285～.290、Y＝－72.425～.430付近で確認された。124号住居跡、10号溝と重複する。124号住居跡との新旧関係は、当住居跡の東側の壁、床、竈が、124号住居跡の北西部分の壁を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。10号溝との新旧関係は、当住居跡の北壁を10号溝が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北壁が10号溝により破壊されていることから、確定できないが、東西約2.4～2.6mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定できる。主軸は、S-85°-Eである。竈は東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部壁外への張り出し約30cmである。竈構築材には、石と瓦を用いていたと考えられる。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約70cm、短軸約50cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

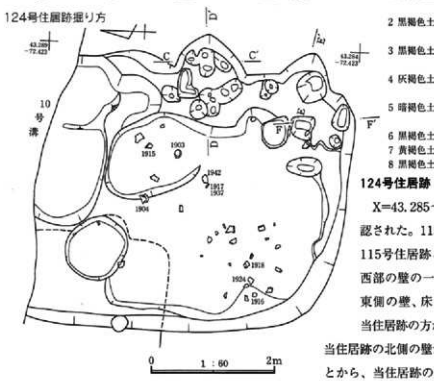
遺物は、須恵器杯(1173)、須恵器椀(1174)、灰釉陶器椀(1175)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

第133図　115・124号住居跡重複関係、115号住居跡、115号住居跡掘り方、115号住居跡竈

124号住居跡



124号住居跡掘り方



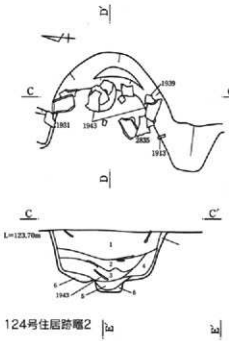
第134図　124号住居跡、124号住居跡掘り方

124号住居跡

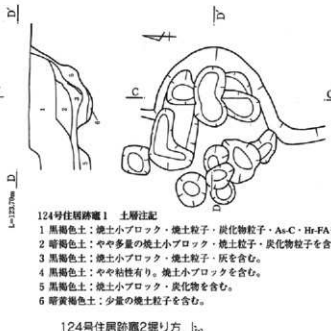
X=43.285～.290、Y＝－72.425付近で確認された。115号住居跡、10号溝と重複する。115号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部の壁の一部を破壊して、115号住居跡の東側の壁、床、竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。10号溝との新旧関係は、当住居跡の北側の壁が、10号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北壁が10号溝に破壊されていることから確定できないが、東西約4.3～4.6mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈すると推定できる。主軸は、S-82°-Eである。竈は、東壁中央（竈1）

124号住居跡竈1

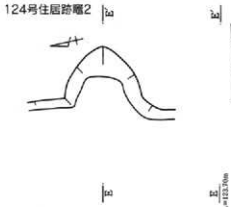


124号住居跡竈1掘り方

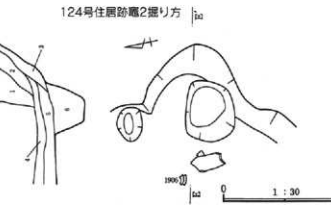


124号住居跡竈1　土層注記
1 黒褐色土：焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや多量の焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
3 黒褐色土：焼土小ブロック・焼土粒子・灰を含む。
4 黒褐色土：やや粘性有り。焼土小ブロックを含む。
5 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物を含む。
6 暗黄褐色土：少量の焼土粒子を含む。

124号住居跡竈2



124号住居跡竈2掘り方



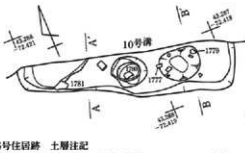
第135図　124号住居跡竈1、124号跡竈1掘り方、124号住居跡竈2、
124号住居跡竈2掘り方

124号住居跡竈2　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 黒赤褐色土：多量の焼土及び黄褐色土ブロックを含む。
3 黄褐色土：地山黄褐色土主体。
4 黒褐色土：焼土粒子及び少量の炭化物粒子を含む。
5 黒褐色土：微量の焼土粒子を含む。
6 黄褐色土ブロック主体。

と東壁南隅（竈2）に築かれている。竈1は、燃焼部の幅約90㎝、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40㎝である。竈2は、燃焼部の幅約40㎝、煙道部の壁外への張り出し約40㎝である。竈2は、殆ど破壊されており、袖等は確認できなかった。従って、竈2が古く、住居廃絶時に使用されていたのは、竈1である。南西隅から西壁沿いに壁溝が検出できた。規模は、幅約10～20㎝、床面からの深さ約3～5㎝である。主柱穴は検出できなかった。

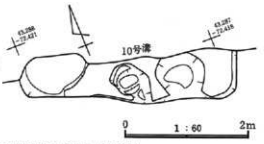
遺物は、土師器杯(1903・1904・1906・1907・1908・1909・1910・1911・1912・1913・1916)、須恵器杯(1917・1918・1920・1921・1924)、土師器鉢(1914)、須恵器鉢(1915)、須恵器椀(1925・1926・1927・1929・1930・1931)、緑釉陶器皿(1928)、須恵器蓋(1932・1933・1935・1936)、土師器小型台付甕(1937・1938)、土師器甕(1939)、須恵器甕(1940・1941・1942・1943)、平瓦(2880)、丸瓦(2835)、土製品羽口(1944)、鉄製品火打金(1951)、棒状鉄製品(1952)、鉄滓(1945・1946・1947・1950)、石製品砥石(1948)、石製品(1949)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

116号住居跡



116号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：多量の褐色砂質土及びAs-C・Hr-FA・少量の焼土粒子を含む。

116号住居跡掘り方



116号住居跡床下土坑　土層注記
1 暗褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：褐色砂質土ブロック及びAs-C・Hr-FAを含む。

第136図　116号住居跡、116号住居跡掘り方

116号住居跡

X＝43.285～.290、Y＝－72.420付近で確認された。10号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の北側が、10号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡は、全体の3／4以上を10号溝に破壊されているため、規模の確定はできないが、東西は約3.5mである。壁が確認できた範囲からは、竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1776・1777)、須恵器杯(1778)、須恵器椀(1779)、須恵器甕(1780・1781) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

117号住居跡

117号住居跡　土層注記
1 赤褐色土：焼土。
2 黒褐色土：炭化物主体。少量の焼土粒子を含む。

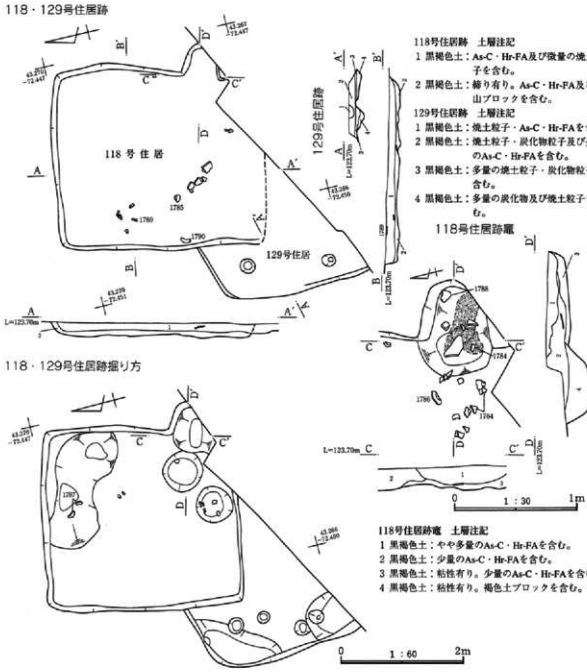
第137図　117号住居跡

117号住居跡

X＝43.325、Y＝－72.385付近で確認された。8号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の大部分を8号溝が破壊していることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡は、南西隅から西壁部分を除き8号溝に破壊されていることから、規模は不明である。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝も不明である。

遺物は、須恵器椀(1782)、土師器甕(1783) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。



第138図　118・129号住居跡、118・129号住居跡掘り方、118号住居跡竈

118号住居跡

X＝43.265～.270、Y＝－72.445～.450付近で確認された。129号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西部の壁が、129号住居跡の覆土中から確認されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.9～3.0m、南北約3.2mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、S-70°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。南東隅が調査区域外になるため、竈全体の確認はできなかったが、煙道部の壁外への張り出しは約50cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1784)、須恵器杯（1785・1786）、土師器甕(1788・1789)、土師器小型台付甕(1787)、鉄製品鎌(1790) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

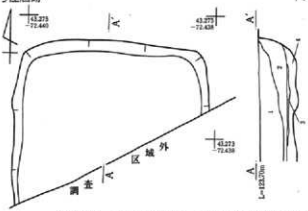
129号住居跡

X＝43.265～.270、Y＝－72.450付近で確認された。118号住居跡、16号溝と重複する。118号住居跡との新旧関係は、当住居跡北側部分の覆土中から118号住居跡の西壁の一部が検出されたことから、当住居跡の方が古い。16号溝との新旧関係は、断面観察で当住居跡の北西部の壁を16号溝が破壊していることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

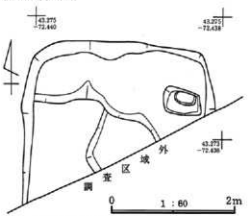
当住居跡の規模は、北東部が118号住居跡に破壊され、南側が調査区域外のため、不明である。住居検出範囲から、竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2007)、土師器甕(2006) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀末～9世紀初頭である。

119号住居跡



119号住居跡掘り方



第139図　119号住居跡、119号住居跡掘り方

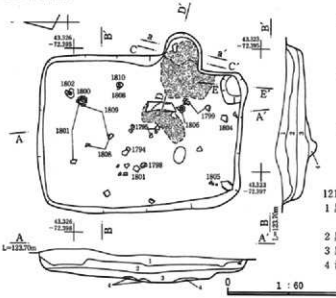
119号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：粘性有り。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 黒褐色土：粘性有り。褐色土ブロックを含む。

119号住居跡

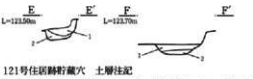
X＝43.270～.275、Y＝－72.435～.440付近で確認された。調査区域内での他の遺構との重複はない、規模は、南側半分が調査区域外のため確定できないが、東西約3.1～3.2mである。住居跡確認範囲から、竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(1791)、須恵器蓋(1792) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀である。

121号住居跡



貯蔵穴　　床下土坑



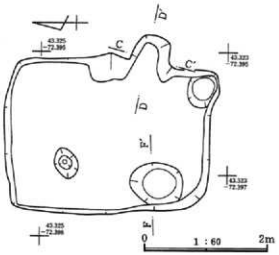
121号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 淡黄褐色土：純社砂層ブロック・暗褐色土ブロックを含む。
2 暗褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。

121号住居跡床下土坑　土層注記
1 黒褐色土：粘性有り。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：淡黄褐色土ブロックを含む。

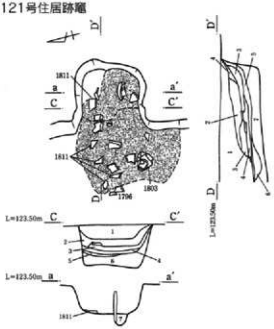
121号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：やや締り、粘性弱い。多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：微量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
3 黒褐色土：粘性有り。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
4 淡黄褐色土：地山。

第140図　121号住居跡

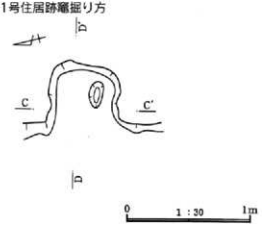
121号住居跡掘り方



121号住居跡竈



121号住居跡竈掘り方



121号住居跡

X＝43.325、Y＝－72.395～.400付近で確認された。170号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の北壁が170号土坑の南側を破壊して築かれていることが確認できたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.2～2.6m、南北約3.2～3.3mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-85°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約55cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。竈内からは、瓦が出土しており、構築材として瓦が利用されていた。貯蔵穴は南東隅に築かれている。長辺45cm、短辺30cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯（1794・1795・1796）、須恵器椀(1798・1799・1800・1801・1802・1803・1804・1805・1806・1807・1808・1809)、須恵器蓋(1797)、土師器小型甕(1810)、土師器甕(1811・1812）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。

121号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：締り、粘性弱い。As-C・Hr-FA及びやや多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 灰白色土：粘質土。少量の炭化物粒子・褐色土を含む。（天井の崩れか。）
3 炭化物
4 炭化物：灰白色粘質土を含む。
5 焼土
6 暗褐色土：締り、粘性弱い。As-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
7 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。

122号住居跡

X=43.320、Y＝－72.410付近で確認された。他の遺構との重複はない。

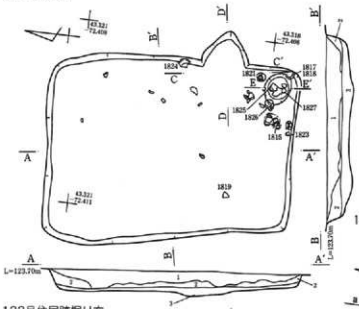
当住居跡の規模は、東西約2.75～3.15m、南北約4.0～4.1mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-87°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約60cm、煙道部の壁外への張り出し約50cmである。竈構築材としては、自然石が使用されている。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約60cm、短軸約45cm、床面

第141図　121号住居跡掘り方、121号住居跡竈、121号住居跡竈掘り方

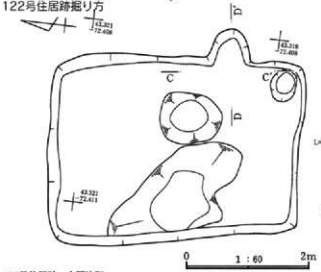
からの深さ約25cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(1814)、須恵器杯（1815・1816・1817・1818・1819・1820)、須恵器椀(1821・1822・1823・1824・1825・1826・1827)、須恵器蓋(1828)、須恵器甕(1829) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

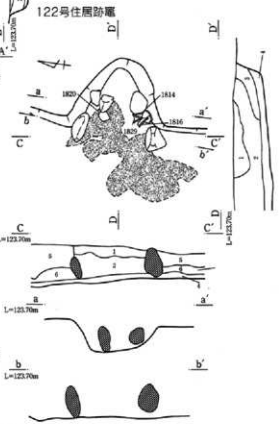
122号住居跡



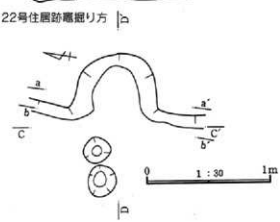
122号住居跡掘り方



122号住居跡竈



122号住居跡竈掘り方



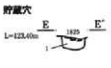
122号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
3 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。

122号住居跡竈　土層注記

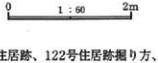
1 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び微量の焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：多量の焼土ブロック・As-C・Hr-FA及び微量の焼土粒子を含む。
4 暗褐色土：やや多量の焼土粒子を含む。
5 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
6 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物粒子を含む。

貯蔵穴



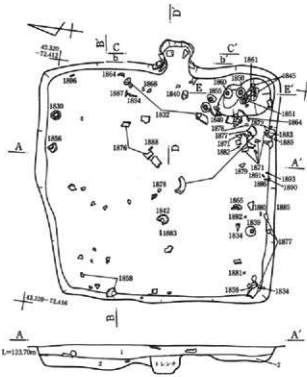
122号住居跡貯蔵穴　土層注記

1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。

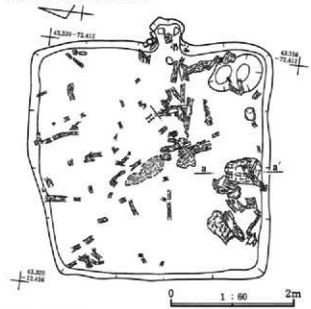


第142図　122号住居跡、122号住居跡掘り方、122号住居跡竈、122号住居跡竈掘り方

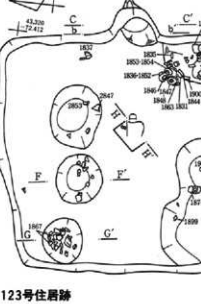
123号住居跡



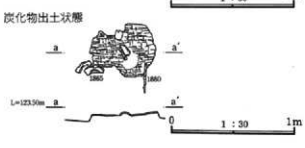
123号住居跡炭化物出土状態



123号住居跡掘り方



炭化物出土状態

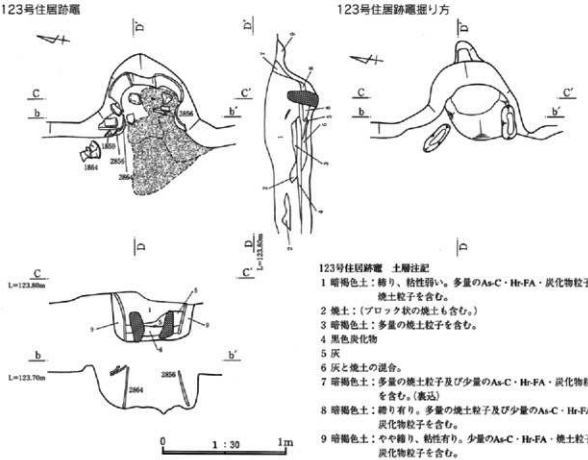


123号住居跡

X＝43.315～.320、Y＝－72.415付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.8～3.9m、南北約3.5～3.9mであり、平面形はの隅丸台形を呈する。主軸は、N-82°-Eである。竈は東壁中央に築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張

第143図　123号住居跡、123号住居跡炭化物出土状態、123号住居跡掘り方



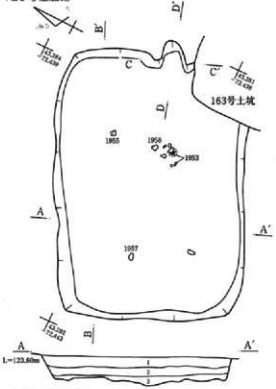
第144図　123号住居跡竈、123号住居跡竈掘り方

り出し約60cmである。燃焼部、袖の内側の押さえには、瓦が使用されている。燃焼部の中には、支脚石が2本据えられた状態で確認できた。この支脚石の奥には、燃焼部押さえの瓦が支脚石を円形に囲むように据えられている。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約80cm、短軸約60cm、床面からの深さ約１５cmであり、平面形は不定形（長方形乃至楕円形が重なった形。）である。主柱穴は検出できなかったが、掘り方調査で柱と考えることが可能な炭化材が、中央部分から床に約５cm刺さった状態で検出できた。壁溝は検出できなかった。

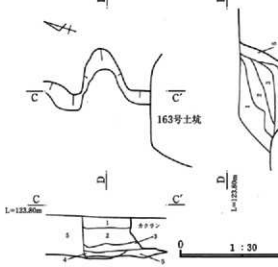
当住居跡は火災を受けた住居跡であり、土師器、須恵器は、生活状態のままで残っていたと推定される。また、多くの炭化材が検出できたが、大部分が建築材である。しかし、道具類とも考えられる炭化材も出土している。これらの炭化材については、炭化物出土図及び炭化材の樹種同定を参照されたい。

遺物は、土師器杯(1830)、土師器椀(1831)、須恵器杯(1832・1834・1835・1836・1837・1838・1839・1840・1860)、須恵器椀(1841・1842・1843・1844・1845・1846・1847・1848・1849・1850・1851・1852・1853・1854・1855・1856・1857・1858・1859)、須恵器高台付皿(1833)、灰釉陶器高台付皿(1861・1862・1863・1864・1865)、土師器甕(1866)、土師器台付甕(1867)、須恵器壺(1871・1872)、須恵器甕(1870・1873・1874・1875・1876・1877)、須恵器甑(1878・1879)、灰釉陶器小型壺(1868・1869)、平瓦(2843・2847・2853)、丸瓦(2856・2862)、鉄製品刀子(1880・1883・1884)、鉄製品釘(1886・1887・1888・1889・1898)、鉄製品鎹(1894)、棒状鉄製品(1885・1890・1891・1892・1893・1896・1899)、鉄製品(1897)、銅椀(1881・1882・1895)、石製品鷹編み石(1900)、石製品(1901・1902) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、９世紀後半である。

125号住居跡

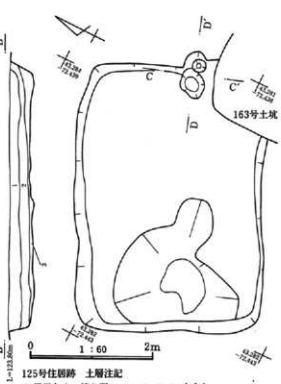


125号住居跡竈



125号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土ブロック・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：やや多量の焼土ブロックを含む。
3 黒褐色土：やや多量の焼土ブロック及び少量の炭化物粒子を含む。
4 黒褐色土：硬く締る。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
5 黒褐色粘質土：地山

125号住居跡掘り方



125号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：締り弱い。As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：締り弱い。少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：粘性有り。黄褐色土ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

125号住居跡

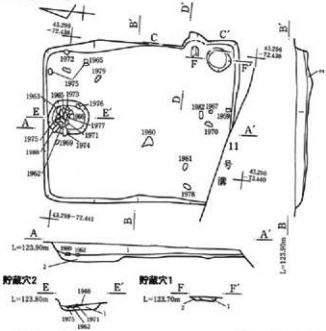
X＝43.280、Y＝－72.440付近で確認された。163号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の南東隅部分を163号土坑が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約4.4～4.5m、南北約3.0～3.1mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-71°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約25cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

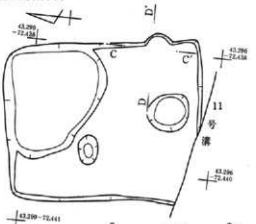
遺物は、土師器杯(1953)、須恵器甕(1954・1955)、石製品薄編み石(1956・1957・1958)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀後半である。

第145図　125号住居跡、125号住居跡掘り方、125号住居跡竈

126号住居跡



126号住居跡掘り方



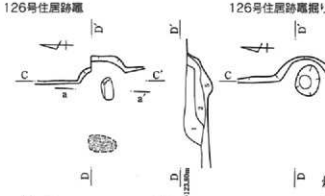
126号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 黄褐色土：やや粘性有り。黒褐色土ブロックを含む。

126号住居跡貯蔵穴1　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黄褐色土：やや粘性有り。黒褐色土ブロックを含む。

126号住居跡貯蔵穴2　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。

126号住居跡竈　土層注記
1 暗黄褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。
3 灰白色土：焼土ブロックを含む。
4 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
5 黄褐色土：やや粘質。黒褐色土ブロック及び少量の焼土粒子を含む。

126号住居跡竈



126号住居跡竈掘り方

126号住居跡

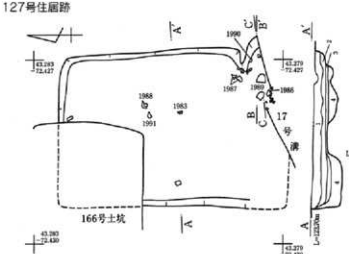
X＝43.295～.300、Y＝－72.440付近で確認された。11号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西隅を11号溝が破壊していることを確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.7m、南北約3.2mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-82°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約25cmである。貯蔵穴は南東隅（貯蔵穴1）に築かれているが、北壁中央脇にも掘り込みがあり（貯蔵穴2）、鹿編み石が多量に出土した。貯蔵穴1の規模は、一辺35cm、床面からの深さ5cmであり、平面形は胴の張った隅丸方形を呈する。貯蔵穴2の規模は、長辺65cm、短辺約55cm、床面からの深さ約10cmであり、平面形は胴の張った隅丸長方形を呈する。主柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は土師器杯(1959)、須恵器甕(1960)、石製品砥石(1961)、石製品鹿編み石(1962・1963・1964・1965・1966・1967・1968・1969・1970・1971・1972・1973・1974・1975・1976・1977・1978・1979・1980・1981・1982）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀中葉である。

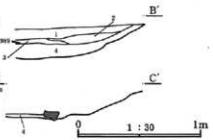
第146図　126号住居跡、126号住居跡掘り方、126号住居跡竈、126号住居跡竈掘り方

127号住居跡



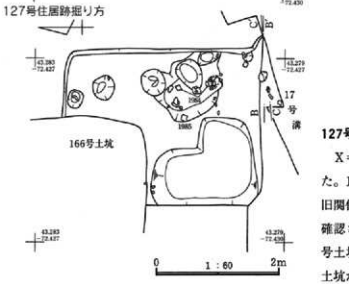
127号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子を含む。
4 黒褐色土：粘性有り。地山ブロックを含む。

127号住居跡竈土層断面



127号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗赤褐色土：やや多量の焼土・炭化物を含む。
3 黒褐色土：焼土及び多量の炭化物を含む。
4 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。

127号住居跡掘り方



第147図　127号住居跡、127号住居跡掘り方

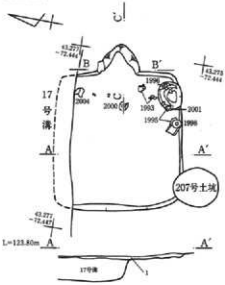
127号住居跡

X＝43.280、Y＝－72.425～.430付近で確認された。17号溝、166号土坑と重複する。17号溝との新旧関係は、当住居跡の竈の一部が17号溝覆土中から確認されたことから、当住居跡の方が新しい。166号土坑との新旧関係は、当住居跡の北西部を166号土坑が破壊していることを確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.5～2.6m、南北約3.8mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-1°-Eである。竈は東壁の南隅に築かれているが、南側半分は調査区域外である。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

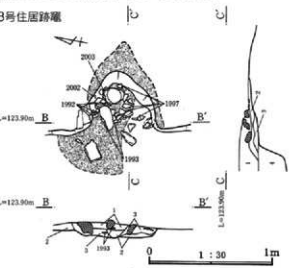
遺物は、須恵器杯（1983・1984・1985）、須恵器椀（1986・1987・1988・1989）、土師器甕（1990）、須恵器壺（1991）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

128号住居跡



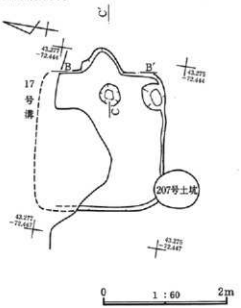
128号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：少量の炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。

128号住居跡竈



128号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：焼土粒子及び少量の炭化物粒子を含む。
3 暗赤褐色土：多量の焼土小ブロック及び炭化物を含む。
4 暗褐色土：砂質。多量のAs-Bを含む。

128号住居跡掘り方



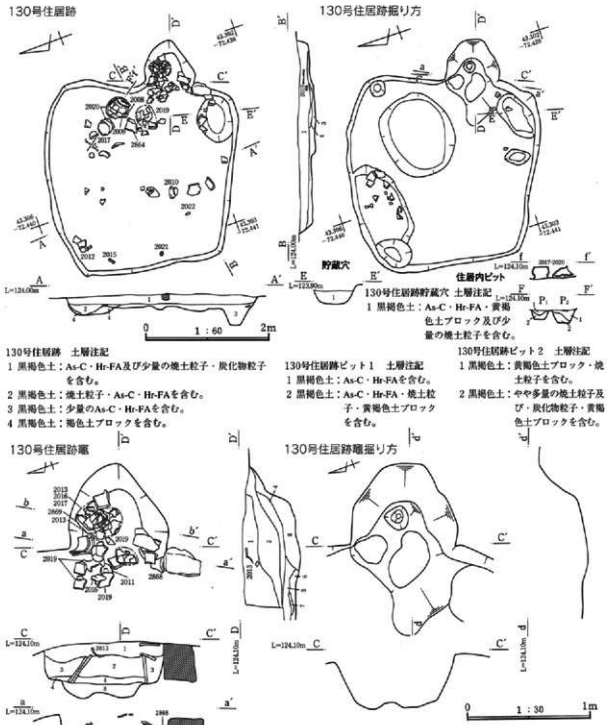
128号住居跡

X＝43.275～.280、Y＝－72.445付近で確認された。17号溝、207号土坑と重複する。17号溝との新旧関係は、当住居跡の北側の床が17号溝覆土中から確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。207号土坑との新旧関係は、当住居跡の南西隅が207号土坑に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の北壁は推定であるが、規模は、東西約2.25～2.3m、南北約2.05～2.1mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-80°-Eである。竈は、東壁の中央に築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約45cm、短軸約40cm、床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2004・2005)、須恵器椀(1992・1993・1994・1995・1996・1997・1998・1999・2000・2001・2002)、須恵器壺(2003) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

第148図　128号住居跡、128号住居跡掘り方、128号住居跡竈



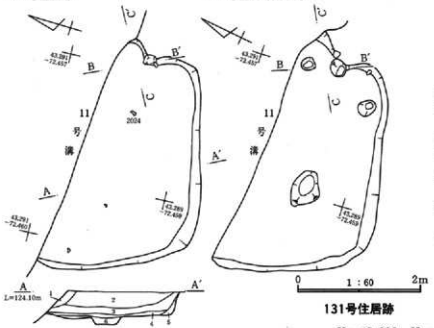
第149図　130号住居跡、130号住居跡掘り方、130号住居跡竈、130号住居跡竈掘り方

130号住居跡

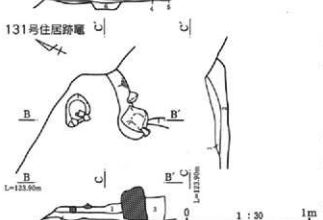
X＝43.305、Y＝－72.440付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約2.8～3.2m、南北約2.5～3.1mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸は、S-65°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、煙道部の壁外への張り出し約65cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約80cm、短軸約55cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2008・2009)、須恵器杯(2010・2011)、須恵器椀(2012・2013)、灰釉陶器椀(2014)、土師器甕(2016・2017・2019・2020)、土師器小型台付甕(2015)、須恵器羽釜(2018)、丸瓦(2864・2868・2869)、鉄製品責金具(2022)、石製品紡錘車(2021)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。



131号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：多量のAs-Bを含む。(11号溝覆土)
2 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子を含む。
4 黒褐色土ブロック・As-C・Hr-FAを含む
5 黒褐色土：締り有り。As-C・Hr-FAを含む。
6 黒褐色土：Hr-FAを含む。



131号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土を含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。

131号住居跡

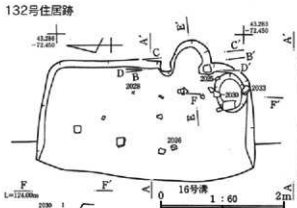
X＝43.290、Y＝－72.455～.460付近で確認された。11号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の北側半分を、11号溝が破壊していることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北半分が11号溝により破壊されていることから確定できないが、東西は約3.3mである。主軸は、S-78°-E である。竈は、東壁の南よりに築かれている。北半分が破壊されているが、左袖の基部に切石を使用していることが確認できた。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2023)、須恵器甕(2024)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀である。

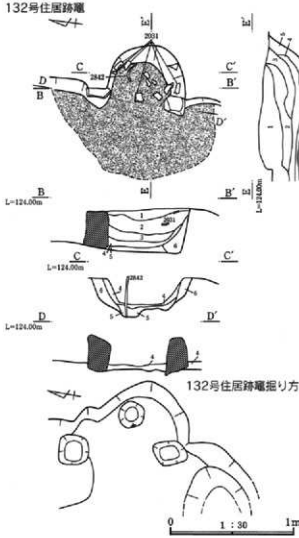
第150図　131号住居跡、131号住居跡掘り方、131号住居跡竈

132号住居跡

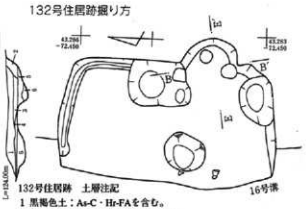


132号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び微量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：黄褐色土ブロック・As-C・Hr-FA及び微量の焼土粒子を含む。

132号住居跡竈



132号住居跡掘り方



132号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗黄褐色土：黄褐色土ブロック主体。
3 暗黄褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
4 暗黄褐色土：多量の黄褐色土ブロックを含む。
5 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
6 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。

132号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：少量の焼土粒子・黄褐色土小ブロックを含む。
3 暗赤褐色土：多量の焼土小ブロック及び炭化物を含む。
4 黒褐色土：多量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
5 黒褐色土：粘質土。
6 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

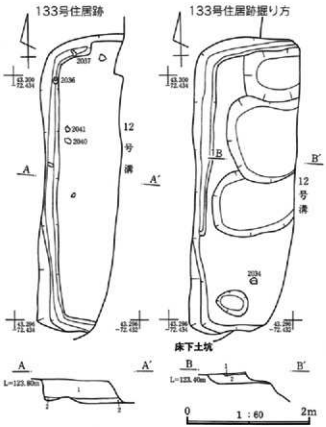
第151図　132号住居跡、132号住居跡掘り方、
132号住居跡竈、132号住居跡竈掘り方

132号住居跡

X＝43.285、Y＝－72.450～.455付近で確認された。16号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の西側半分の壁、床が16号溝に破壊されていることが確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、西側半分が破壊されているため確定できないが、南北は約3.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、S-89°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。袖の基部には切石を使用し、燃焼部の奥には瓦を使用していた。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約65cm、短軸約50cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器鉢(2025)、須恵器杯(2026・2028・2029)、須恵器高台付皿(2030)、須恵器蓋(2027)、土師器甕(2031)、須恵器羽釜(2032)、丸瓦(2842)、石製品砥石(2033) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀末～10世紀初頭である。



133号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土小ブロックを含む。

133号住居跡床下土坑　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土ブロックを含む。

133号住居跡

X＝43.295～.300、Y＝－72.430～.435付近で確認された。12号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡は、西端を除いた大部分を12号溝に破壊されていることが確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分を12号溝に破壊されていることから確定できないが、南北約4.9mである。北西隅から南西隅にかけて、壁溝を検出することができた。規模は、幅約15～20cm、床面からの深さ約2～5cmである。住居跡検出範囲からは、竈、主柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2034・2035)、須恵器杯(2036・2037・2038・2039)、土師器甕(2040)、鉄滓(2041)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀末～9世紀初頭である。

134号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子・淡黄褐色土ブロックを含む。
2 暗褐色土：硬く締る。淡黄褐色土ブロックを含む。(貼床)

134号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：粘質土。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：粘質土。少量の淡黄褐色土ブロックを含む。

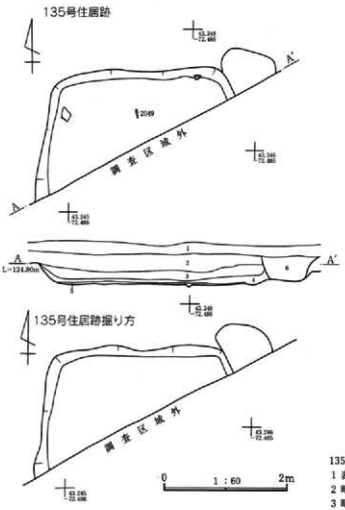
第152図　133号住居跡、133号住居跡掘り方、134号住居跡、134号住居跡掘り方

134号住居跡

X＝43.400、Y＝－72.265～.270付近で確認された。他の遺構との重複はない。

規模は、北側が調査区域外のため確定できないが、東西約2.5mである。主軸は、N-77°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。袖の基部には石使用し、更に瓦の散乱から、瓦も併せて使用していたと考えられる。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約40cm、短軸35cm、床面からの深さ約35cmである。平面形は、不整形な長方形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2042)、須恵器杯(2043・2044)、須恵器椀(2045・2046)、軒平瓦(2829)、平瓦(2878・2888・2901)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～9世紀後半である。



第153図　135号住居跡、135号住居跡掘り方

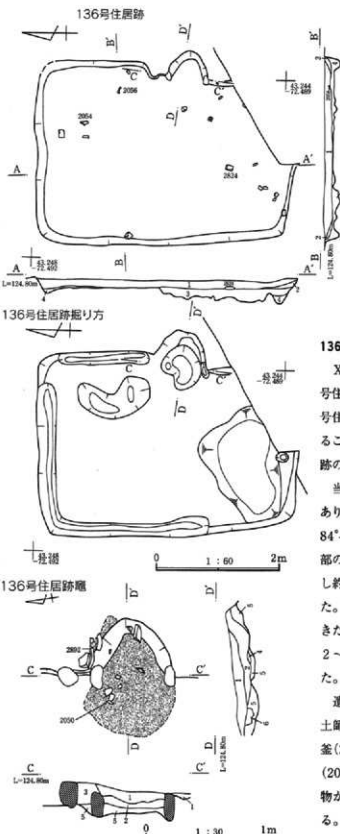
135号住居跡

X＝43.245～.250、Y＝－72.485～.490付近で確認された。136号住居跡と重複する。当住居跡の南壁と、136号住居跡竈煙道の先端が重複するが、遺構から新旧関係を確認することはできなかった。遺物から、当住居跡の方が古いと推定している。

規模は、南側が調査区域外のため確定できないが、東西約3.0mである。調査区域内から竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は、確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2047)、須恵器椀(2048)、鉄製品釘(2049)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀である。

135号住居跡　土層注記
1 表土：耕作土
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量のAs-Bを含む。
3 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土ブロックを含む。
4 黄褐色土：As-C・Hr-FA・暗褐色土を含む。
5 黄褐色土：締り有り。地山の黄褐色土主体。(貼床)
6 攪乱



136号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び黄褐色土小ブロックを含む。
3 黒褐色土：黄褐色土ブロックを含む。
4 黄褐色土：少量の黒褐色土を含む。

136号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：焼土小ブロック・焼土粒子及び少量の炭化物を含む。
2 黒褐色土：多量の炭化物・灰及び焼土小ブロック・焼土粒子を含む。
3 黄褐色土：焼土小ブロックを含む。
4 灰
5 暗褐色土：焼土粒子及び少量の灰を含む。
6 黄褐色土ブロック

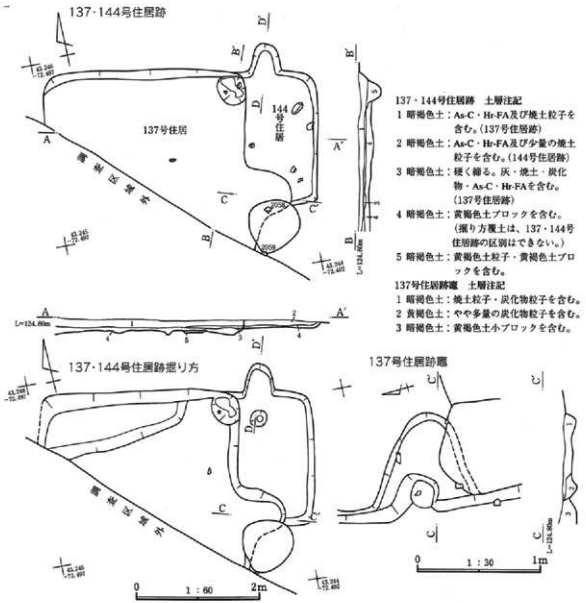
136号住居跡

X＝43.245、Y＝－72.490付近で確認された。135号住居跡と重複する。当住居跡の竈煙道部先端と135号住居跡西壁が重複するが、新旧関係を直接確認することはできなかった。遺物から推定すると、当住居跡の方が新しいと考えられる。

当住居跡の規模は、東西約3.0m、南北約4.2mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-84°-Eである。竈は東壁中央に築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。袖の基部には川原石を使用していた。東壁、西壁、北壁の一部からは、壁溝が確認できた。規模は、幅約15～20cm、確認面からの深さ約2～7cmである。主柱穴、貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(2050･2051)、須恵器椀(2052)、土師器台付甕(2053)、須恵器甕(2054)、須恵器羽釜(2055)、軒平瓦(2824)、平瓦(2892)、鉄製品釘(2056)、石製品砥石(2057) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

第154図　136号住居跡、136号住居跡掘り方、136号住居跡竈



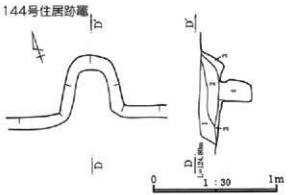
第155図　137・144号住居跡、137・144号住居跡掘り方、137号住居跡竈

137号住居跡

X＝43.245、Y＝－72.495付近で確認された。144号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北東部の壁、竈が144号住居跡の西側の壁、床を破壊して築かれていることが確認できたことから、当住居跡の方が新しい。

規模は、南側半分が調査区域外のため確定できないが、東西約3.2mである。平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、S-83°-Eである。竈は、東壁に築かれている。撹乱穴に右袖部分が破壊されているが、確認面での掘道部の壁外への張り出し約65cmである。調査範囲から、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出することができなかった。

遺物は、須恵器杯(2058)、須恵器椀(2059)、須恵器蓋(2060)、鉄製品釘(2061)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。



144号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
3 黄褐色土：暗褐色土を含む。
4 暗褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

第156図　144号住居跡竈

144号住居跡

X＝43.245～.250、Y＝－72.490～.495付近で確認された。137号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の西側部分の壁、床が137号住居跡の北西部の壁、竈に破壊されていることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、西側部分が破壊されているため確定できないが、南北約2.2mである。平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、N-11°-Eである。竈は、北壁東よりに築かれている。確認面での燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約45cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認することができなかった。

遺物は、須恵器蓋（2144）が出土している。遺物、重複関係から推定する当住居跡の年代は、8世紀後半～9世紀前半である。

138号住居跡

X＝43.255、Y＝－72.490付近で確認された。150号住居跡と重複する。新旧関係を遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.0m、南北約2.6mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-80°-Eである。竈は、東壁中央に築かれている。燃焼部の幅約45cm、煙道部の壁外への張り出しは確認面では認められなかった。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約65cm、短軸約50cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2062・2063・2064）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀前半である。

150号住居跡

X＝43.250～.255、Y＝－72.485～.490付近で確認された。138号住居跡と重複する。新旧関係を遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が新しいと推定される。

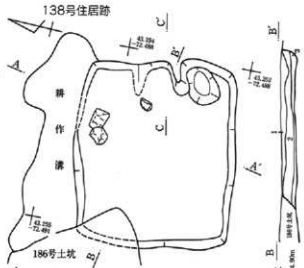
当住居跡は、138号住居跡との重複部分で壁、床を確認することができなかったが、南壁一部が確認できた。規模は、東西約3.4m、南北約3.0mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、S-72°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約30cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2065・2248)、須恵器椀(2249)、須恵器甕(2250・2251）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

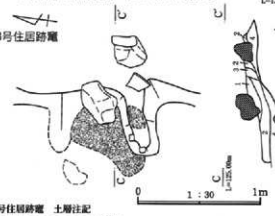
138・150号住居跡

138号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土を含む。
3 黄褐色土：黒褐色土・As-C・Hr-FAを含む。

138号住居跡

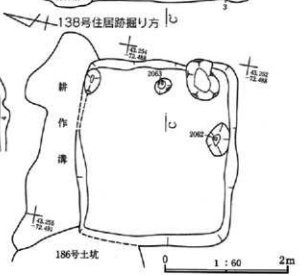


138号住居跡竈

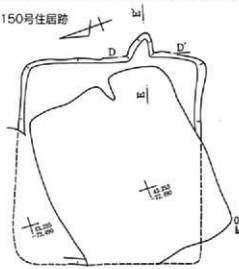


138号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 灰褐色土：焼土・灰褐色土ブロックを含む。
4 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子及び少量の炭化物を含む。

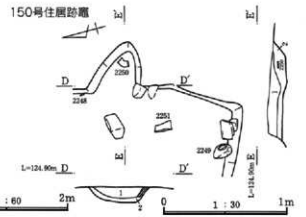
138号住居跡掘り方



150号住居跡

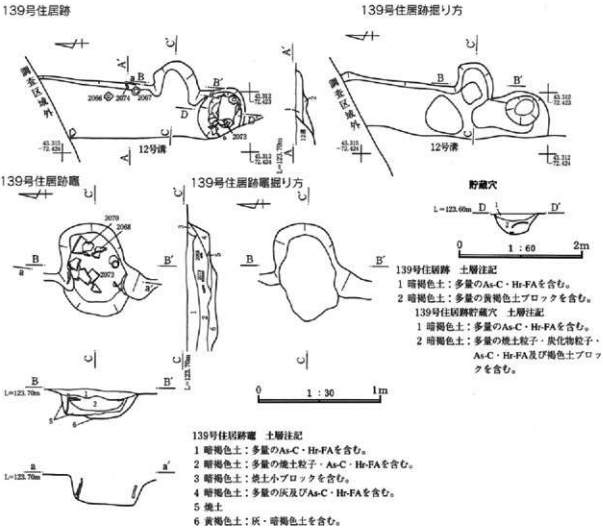


150号住居跡竈



150号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量の炭化物・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物・As-C・Hr-FAを含む。

第157図　138・150号住居跡重複関係、138号住居跡、138号住居跡掘り方、
138号住居跡竈、150号住居跡、150号住居跡竈



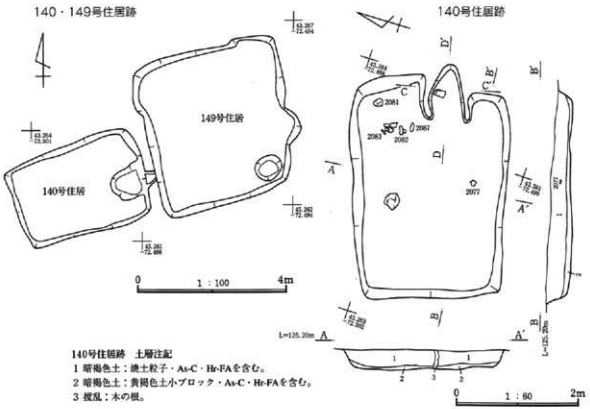
第158図　139号住居跡、139号住居跡掘り方、139号住居跡竈、139号住居跡竈掘り方

139号住居跡

X＝43.310～.315、Y＝－72.425付近で確認された。12号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の南側を12号溝が破壊していることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南側が12号溝に破壊され、北側が調査区域外のため、不明である。主軸は、S-85°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。一部12号溝に破壊されているが、規模は、長軸約90cm、短軸約75cm、床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈すると推定される。主柱穴、壁溝は不明である。

遺物は、土師器杯(2066)、須恵器杯(2067・2068)、須恵器椀(2069・2070・2071)、灰釉陶器高台付皿(2072)、須恵器羽釜(2073)、石製品砥石(2074) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。



140号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：黄褐色土小ブロック・As-C・Hr-FAを含む。
3 攪乱：木の根。

140号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の大　小の黄褐色土ブロックを含む。
（天井及び側壁の崩れか。）
3 暗褐色土：炭化物を含む。
4 赤褐色土：焼土主体。黒褐色土を一部含む。
5 黄褐色土：袖。
6 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。
7 黄褐色土：黒褐色土ブロックを含む。
8 黒褐色土：少量の黄褐色土ブロックを含む。

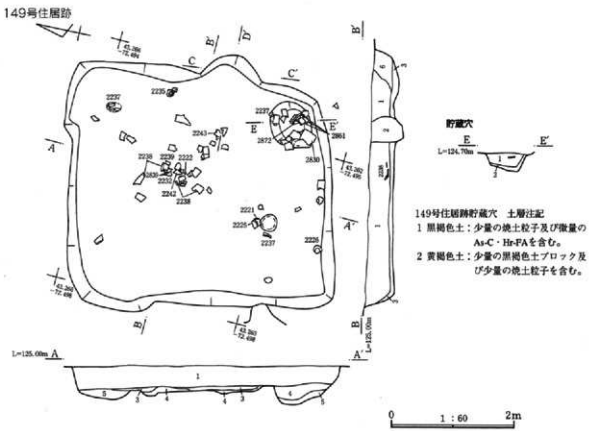
第159図　140・149号住居跡重複関係、140号住居跡、
140号住居跡竈、140号住居跡竈掘り方

140号住居跡

X＝43.260～.265、Y＝－72.500付近で確認された。149号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の竈先端が、149号住居跡西壁に破壊されていることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

規模は、東西約3.4～3.7m、南北約2.4～2.6mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-78°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。燃焼部中央からは、支脚石が倒れた状態で出土し、周辺からは構築材に使用された石が散乱していた。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

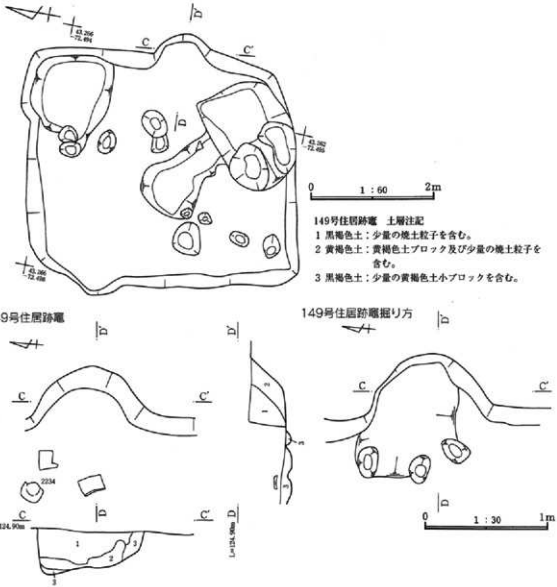
遺物は、土師器杯(2075・2076・2077・2078・2079)、土師器皿(2080)、土師器小型甕(2082・2083)、土師器壺(2081・2084)、鉄滓(2085・2086)、石製品鬲編み石(2087) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、7世紀末～8世紀初頭である。



149号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：黄褐色土小ブロックを含む。(住居より新しいピットの覆土。)
3 暗褐色土：焼土粒子・炭化物・As-C・Hr-FAを含む。
4 黄褐色土：黒褐色土ブロックを含む。
5 黄褐色土：黒褐色土ブロック・小円礫を含む。
6 竈土層説明参照。

第160図　149号住居跡

149号住居跡掘り方



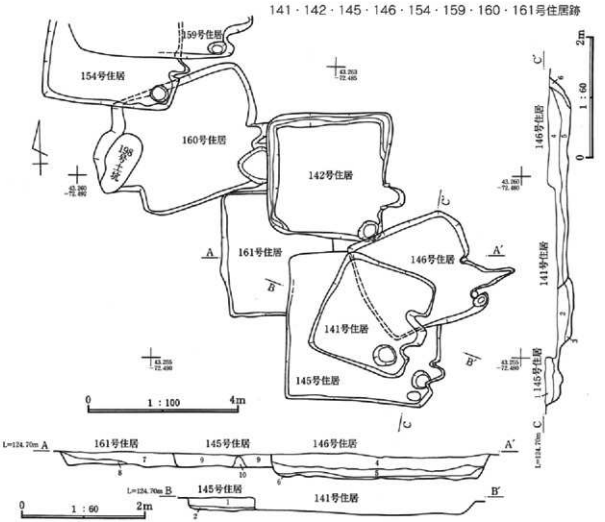
第161図　149号住居跡掘り方、149号住居跡竈、149号住居跡竈掘り方

149号住居跡

X＝43.265、Y＝－72.495付近で確認された。140号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の西壁が、140号住居跡竈の先端を破壊していることが確認できたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.7～4.1m、南北4.2～4.3約mであり、不整形な隅丸方形を呈する。主軸は、N-85°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約80cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約80cm、短軸約70cm、床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2221・2223)、須恵器杯(2224・2225・2226・2227・2228・2229)、須恵器椀(2230・2231・2232・2233・2234)、灰釉陶器椀(2222)、須恵器蓋(2235・2236)、土師器甕(2237)、須恵器甕(2238・2239・2240・2241・2242・2243)、軒丸瓦(2821)、軒平瓦(2830)、丸瓦(2839・2861・2872)、板状鉄製品(2245)、鉄製品釘(2244)、鉄滓(2247)、石製品(2246) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。



145・146・161号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。(145号住居跡)
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土を含む。(145号住居跡)
3 黄褐色土：小礫を含む。(145号住居跡)
4 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FAを含む。(146号住居跡)
5 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土小ブロックを含む。(146号住居跡)
6 黄褐色土：地山黄褐色土の崩壊土。(146号住居跡)
7 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。(161号住居跡)
8 黄褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。(161号住居跡)
9 黒褐色土：砂質。As-C・Hr-FAを含む。(161号住居跡)
10 黄褐色土：黄褐色土ブロック主体。小礫を含む。(161号住居跡)

第162図　141・142・145・146・154・159・160・161号住居跡重複関係

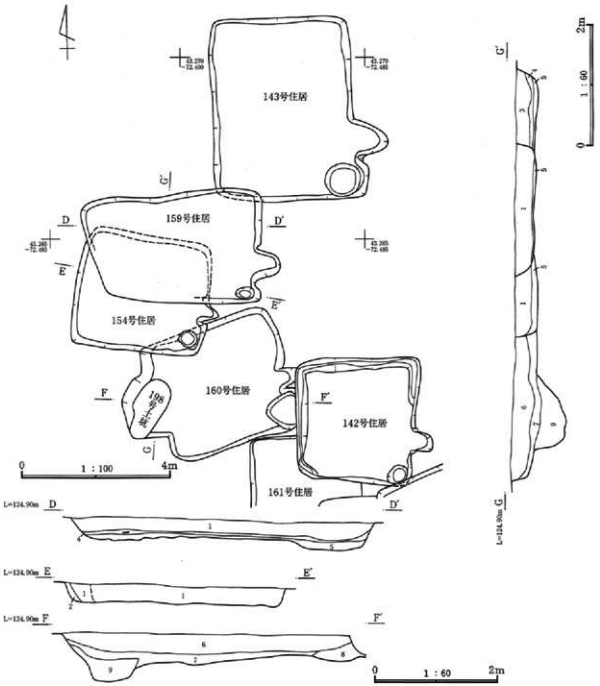
141号住居跡

X＝43.255、Y＝−72.485付近で確認された。145号住居跡、146号住居跡と重複する。145号住居跡との新旧関係は、当住居跡南部の壁、床、竈が145号住居跡の覆土中から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。146号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部の壁、床、竈が146号住居跡の覆土中から確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.75m、南北約2.9〜3.0mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、S-72°-Eである。竈は、東壁の中央に築かれている。燃焼部の幅60cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約20cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約65cm、短軸約60cm、床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2088・2089・2090・2091・

142・143・154・159・160・161号住居跡



154・159・160号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子及び少量の炭化物粒子を含む。(154号住居跡)

2 黒褐色土：黄褐色土小ブロックを含む。(154号住居跡)

3 黒褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。(159号住居跡)

4 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土を含む。(159号住居跡)

5 黒褐色土：黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子を含む。(掘り方覆土は、区別不能。)

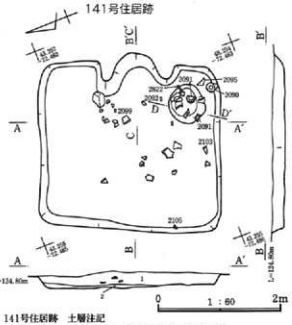
6 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び小礫を含む。

7 黒褐色土：やや多量の黄褐色土ブロックを含む。

8 黒褐色土：As-C・Hr-FA・小礫及び少量の粘土ブロックを含む。

9 黒褐色土：黒褐色土と砂礫の混合。

第163図　142・143・154・159・160・161号住居跡重複関係



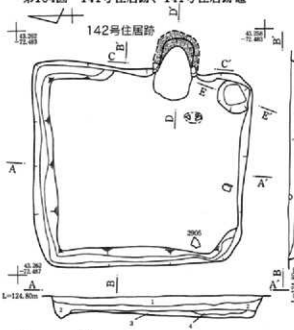
141号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：淡黄褐色土ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

141号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗赤褐色土：焼土小ブロック・炭化物を含む。
3 暗赤褐色土：多量の焼土粒子及び黄褐色土を含む。

141号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：黄褐色土及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 明褐色土：黄褐色土ブロック・小礫を含む。

2092・2093・2094・2095・2099)、須恵器椀(2096・2097)、緑釉陶器椀(2100)、須恵器蓋(2098)、須恵器羽釜(2102・2103・2104・2105・2106)、軒丸瓦(2822)、石製品(2101)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は10世紀前半である。

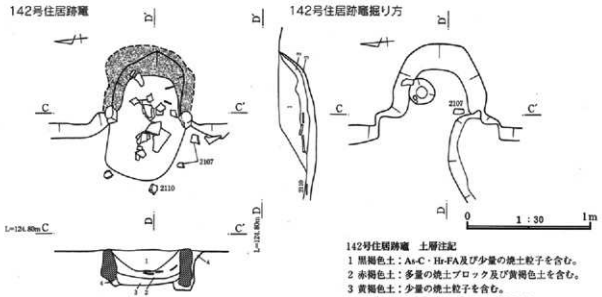
第164図　141号住居跡、141号住居跡竈



142号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA黄褐色土を含む。
2 黄褐色土：多量の黄褐色土ブロック・小礫を含む。

142号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土・小礫を含む。
3 黄褐色土：黒褐色土を含む。
4 黒褐色土：黄褐色土・小礫及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

第165図　142号住居跡、142号住居跡掘り方



第166図　142号住居跡竈、142号住居跡竈掘り方

142号住居跡

X＝43.260、Y＝－72.485付近で確認された。146号住居跡、160号住居跡、161号住居跡と重複する。146号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から、当住居跡の方が古い。160号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西壁が160号住居跡の南東部壁、竈の先端を破壊していることが確認できたことから、当住居跡の方が新しい。161号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部分の壁、床が、161号住居跡の北東部分を破壊して築かれていることが確認できたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.1～3.4m、南北約3.4～3.6mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、S-85°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。袖の基部には、切石が据えられた状態で出土した。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長辺約50cm、短辺約40cm、床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。南西隅から西壁、北壁沿いに東壁沿いの一部まで、壁溝が検出できた。規模は、幅約15～25cm、床面からの深さ約２～10cmである。主柱穴は、検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(2107・2108)、須恵器椀(2109・2110)、須恵器長頸壺(2111)、平瓦(2905)、鉄製品轡引き手(2112) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、９世紀後半である。

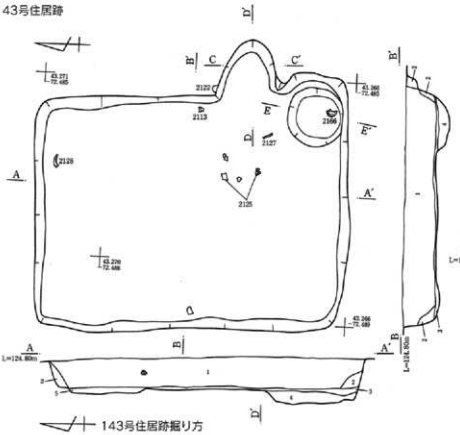
143号住居跡

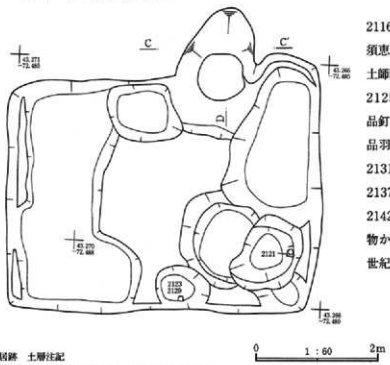
X＝43.265～.270、Y＝－72.485～.490付近で確認された。159号住居跡と重複する。新旧関係は、遺構からは当住居跡の南西隅が159号住居跡の北東隅を破壊しており、当住居跡の方が新しいが、出土遺物からは当住居跡の方が古い。当住居跡と159号住居跡の覆土は、同じ様な土であり、当住居跡南西部の床面はややさがっている。従って、遺構の認識の誤りの可能性がある。

当住居跡の規模は、東西約3.9～4.3m、南北約5.0～5.1mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-84°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約60cmである。袖基部は、石が据えられた状態で検出された。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸100cm、短軸90cm、床面からの深さ約25cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は土師器杯(2113)、須恵器杯(2114・2115・

143号住居跡





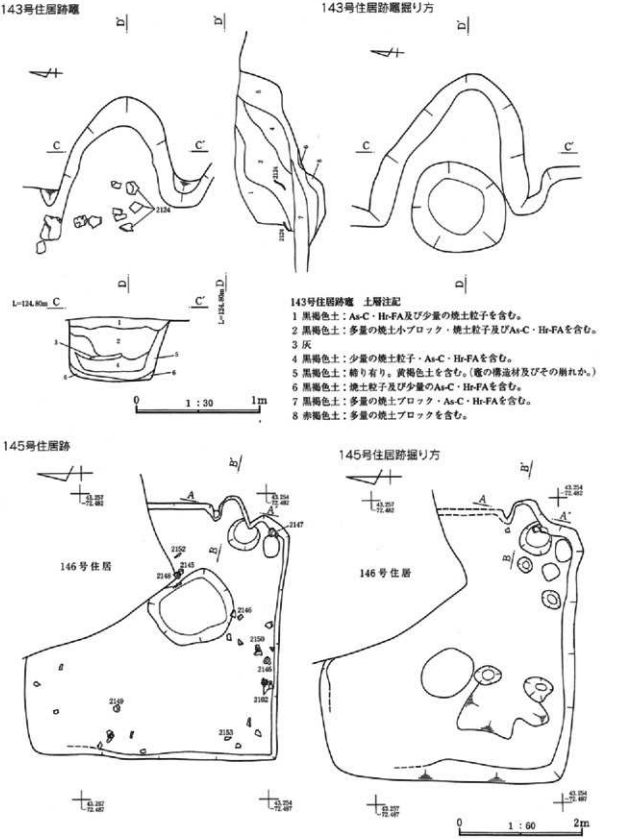
143号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：微量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：締り有り。As-C・Hr-FAを含む。
4 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物・As-C・Hr-FAを含む。
5 黒褐色土：多量の炭化物・As-C・Hr-FAを含む。

2116・2117・2118・2119・2120)、須恵器椀(2121)、須恵器蓋(2122)、土師器台付甕(2123)、土師器甕(2124・2125)、鉄製品刀子(2126)、鉄製品釘(2127)、鉄製品鎌(2128)、土製品羽口(2129・2133)、鉄滓(2130・2131・2132・2134・2135・2136・2137・2138・2139・2140・2141・2142・2143) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀前半～中葉である。

第167図　143号住居跡、143号住居跡掘り方

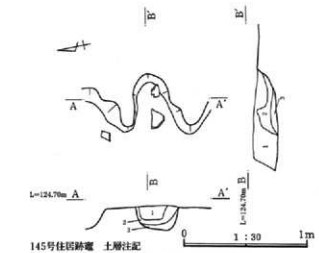
143号住居跡竈

143号住居跡竈掘り方



第168図　143号住居跡竈、143号住居跡竈掘り方、145号住居跡、145号住居跡掘り方

145号住居跡竈



145号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 黒灰色土：焼土・炭化物・灰・黄褐色土小ブロックを含む。
3 黄褐色土：小量の焼土粒子を含む。

第169図　145号住居跡竈

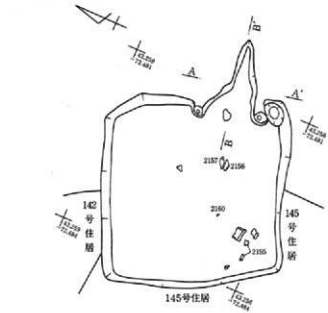
145号住居跡

X＝43.255～.260、Y＝－72.485付近で確認された。141号住居跡、146号住居跡、161号住居跡と重複する。141号住居跡との新旧関係は、当住居跡の覆土中から141号住居跡の壁、床、竈が検出されたことから、当住居跡の方が古い。146号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部の壁、床を破壊して、146号住居跡の壁が築かれていることが確認できたことにより、当住居跡の方が古い。161号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西壁が、161号住居跡の南壁を破壊して築かれていることが確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。

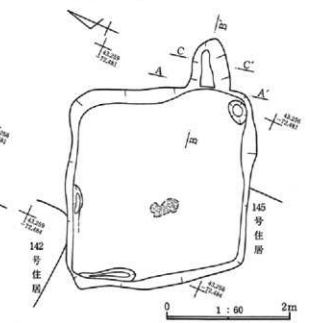
当住居跡の規模は、北東部が146号住居跡に破壊され、確定できないが、東西約4.1～4.2m、南北約4.1mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、S-84°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約25cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認することができなかった。

遺物は、須恵器杯(2145)、須恵器椀(2146・2147・2148・2149)、灰釉陶器高台付皿（2150)、土師器甕(2153)、鉄製品鏃(2152）等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

146号住居跡

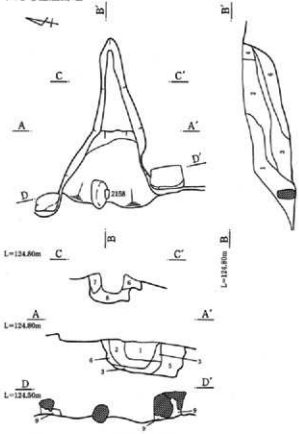


146号住居跡掘り方



第170図　146号住居跡、146号住居跡掘り方

146号住居跡竈



146号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：多量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 赤褐色土：多量の焼土小ブロックを含む。
3 灰褐色土：灰・炭化物及び少量の焼土小ブロックを含む。
4 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
5 黒褐色土：砂り有り。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
6 暗赤褐色土：多量の焼土小ブロックを含む。
7 焼土
8 赤褐色土：多量の焼土小ブロック・焼土粒子を含む。
9 黒褐色土：砂質。少量の焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。

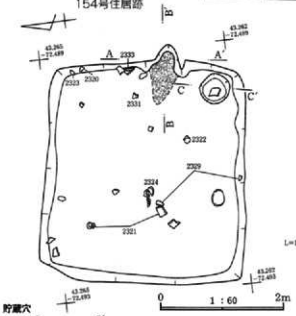
第171図　146号住居跡竈

146号住居跡

X＝43.255～.260、Y＝－72.480～.485付近で確認された。141号住居跡、142号住居跡、145号住居跡と重複する。141号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部の覆土中から141号住居跡北東部の壁、床、竈が確認できたことから、当住居跡の方が古い。142号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から、当住居跡の方が新しい。145号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部の壁、床が145号住居跡北東部の壁を破壊していることが確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。

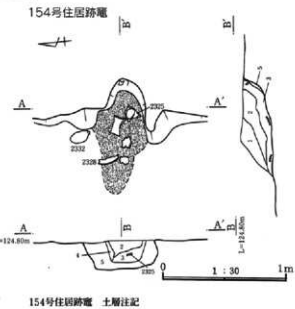
0　1：30　1m

154号住居跡



154号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黄褐色土：黒褐色土ブロックを含む。

154号住居跡竈



154号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA・粘質土ブロックを含む。
3 暗赤褐色土：焼土ブロック主体。灰褐色土ブロックを含む。
4 黄褐色土：軟らかく粘性なし。木の根か。
5 黄褐色土：粘質。微量の焼土粒子を含む。袖。

第172図　154号住居跡、154号住居跡竈

当住居跡の規模は、東西約2.9～3.1m、南北約2.9～3.0mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、N-67°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約75cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約110cmである。袖の基部は石を使用している。燃焼部中央からは、支脚石が据えた状態で出土した。貯蔵穴は南東隅から検出された。規模は、長軸約40cm、短軸約35cm、床面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。掘り方調査で、北西部の一部から壁溝が確認できた。規模は、幅約15～20cm、確認面からの深さ約2～5cmである。主柱穴は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(2154)、須恵器羽釜(2155)、鉄製品刀子(2160)、鉄滓(2159)、石製品鬲編み石(2156・2157・2158)などが出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

154号住居跡

X＝43.260～.265、Y＝－72.490～.495付近で確認された。159号住居跡、160号住居跡と重複する。159号住居跡との新旧関係は、遺構からは当住居跡の北東部が159号住居跡の南東部を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しいが、出土遺物からは当住居跡の方が古い。当住居跡の床面は明確でなく、覆土も同じ様な土で埋っていることから、遺物の年代のほうが正しいと考えられる。160号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南東隅が、160号住居跡の北壁を破壊して築かれていることが確認できたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.6m、南北約3.2～3.3mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、S-82°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約25cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、直径55cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は歪な円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2318・2319)、須恵器椀(2320・2321・2322・2323・2324・2325)、灰釉陶器椀(2326)、三彩陶器小壷(2327)、緑釉陶器手付瓶(2331)、土師器甕(2328・2329)、須恵器長頸壷(2330)、鉄製品刀子(2333)、石製品(2332)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

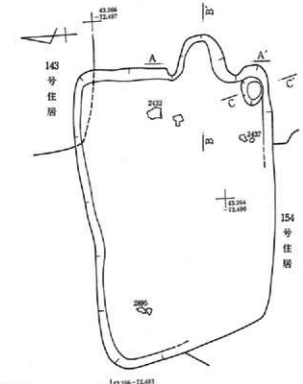
159号住居跡

X＝43.265、Y＝－72.490付近で確認された。143号住居跡、154号住居跡と重複する。143号住居跡との新旧関係は、遺構からは当住居跡の方が古いが、出土遺物からは当住居跡の方が新しい。154号住居跡との新旧関係は、遺構からは当住居跡の方が古いが、出土遺物からは当住居跡の方が新しい。143号住居跡、154号住居跡と当住居跡の覆土は類似しており、143号住居跡、154号住居跡の床、壁も明確でない部分があることから、遺物の年代が正しいと考えられる。

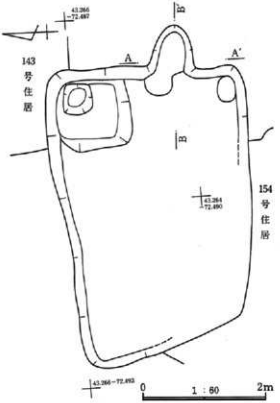
当住居跡の規模は、東西約4.9m、南北約3.2mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-89°-Eである。竈は東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部壁外への張り出し約60cmである。貯蔵穴は南東隅（貯蔵穴1）と北東隅（貯蔵穴2）に築かれている。貯蔵穴2は、掘り方調査で検出されたもので、住居廃絶時に使用されていたのは貯蔵穴1である。貯蔵穴1の規模は、長軸約45cm、短軸約35cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。貯蔵穴2の規模は、一辺約50cm、確認面からの深さ約35cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2425・2426・2428)、須恵器椀(2427)、土師器甕(2429・2430)、須恵器甕(2431・2432)、須恵器羽釜(2433)、平瓦(2895)、丸瓦(2837)、鉄製品刀子(2434)、鉄製品紡錘車(2437)、棒状鉄製品(2435・2436)、鉄滓(2438)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀末～10世紀初頭である。

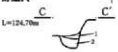
159号住居跡



159号住居跡掘り方

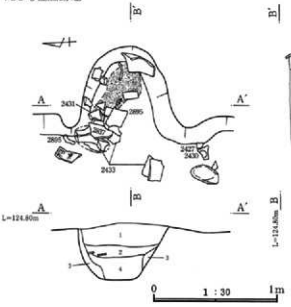


貯蔵穴

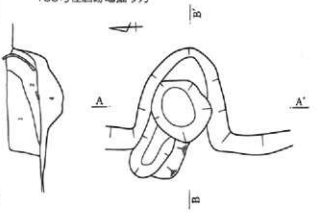


159号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロック・炭化物を含む。

159号住居跡竈

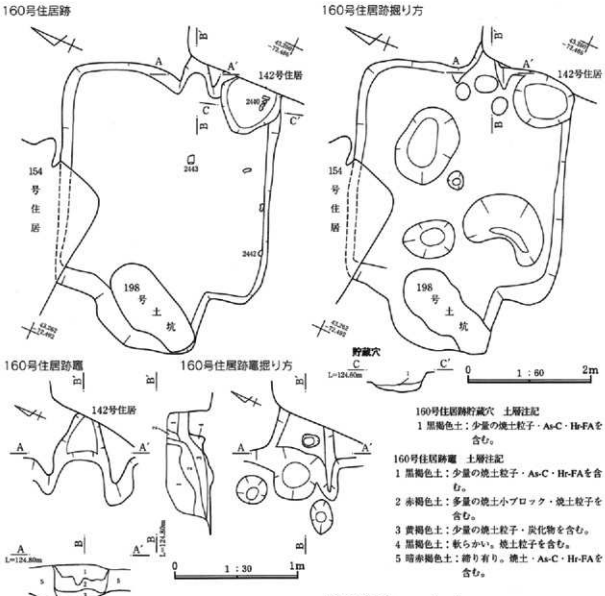


159号住居跡竈掘り方



159号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：炭化物・黄褐色土及び少量の焼土粒子を含む。
3 黄褐色土：黒褐色土小ブロック及び少量の焼土粒子を含む。
4 黒褐色土：少量の灰・焼土粒子を含む。

第173図　159号住居跡、159号住居跡掘り方、159号住居跡竈、159号住居跡竈掘り方



160号住居跡

X＝43.260、Y＝－72.490付近で確認された。142号住居跡、154号住居跡、161号住居跡と重複する。142号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南東隅、竈先端が、142号住居跡西壁に破壊されていることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。154号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部の壁、床を破壊して、154号住居跡の南東部の壁、貯蔵穴が築かれていることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。161号住居跡との新旧関係を遺

第174図　160号住居跡、160号住居跡掘り方、160号住居跡竈、160号住居跡竈掘り方、161号住居跡

構から確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.5m、南北約3.4～3.5mであり、平面形は縦長の隅丸方形を呈する。主軸は、N-70°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し推定約40cmである。貯蔵穴は南東隅に築かれている。規模は、長軸約100cm、短軸約90cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2439・2440)、鉄製品(2441)、鉄滓(2442)、土製品羽口(2443)などが出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀前半である。

161号住居跡

X＝43.255～.260、Y＝－72.485～.490付近で確認された。142号住居跡、145号住居跡、160号住居跡と重複する。142号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部の壁、床が、142号住居跡南西部の壁、床に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。145号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南壁を破壊して、145号住居跡の西壁が築かれていることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。160号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東側半分が破壊されているため確定できないが、東西約3.0m、南北約3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器椀(2446)、灰釉陶器皿(2445)、須恵器蓋(2444)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

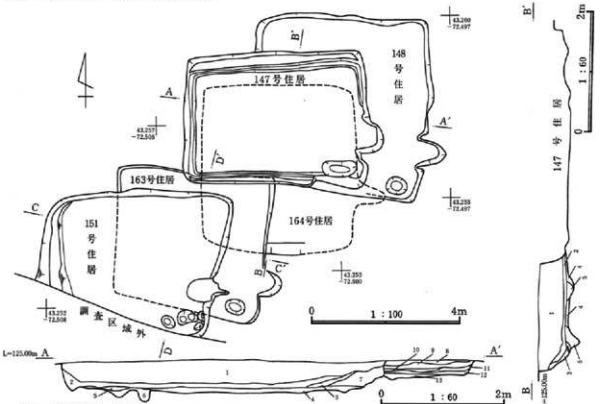
147号住居跡

X＝43.255～.260、Y＝－72.500～.505付近で確認された。148号住居跡、163号住居跡、164号住居跡と重複する。148号住居跡との新旧関係は、当住居跡の東側の壁、床、竈が148号住居跡の南西部を破壊して築かれていることが確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。163号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南壁が163号住居跡の東壁を破壊して築かれていることが確認できたことにより、当住居跡の方が新しい。164号住居跡との新旧関係は、当住居跡の床下から164号住居跡の壁、床が発見されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、南北約4.9～5.0m、東西約3.5～3.7mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-89°-Eである。竈は東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、煙道部の壁外への張り出し約40cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約90cm、短軸約50cm、床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。壁溝は、竈、貯蔵穴を除く部分に、ほぼ巡っている。規模は、幅約15～25cm、床面からの深さ約2～7cmである。南北の壁は、壁溝との間が約15～25cmあいている。また、貯蔵穴南の壁も南側に曲がっている。南北の壁溝と壁の間に何があったかは、検討の必要がある。主柱穴は確認出来なかった。

遺物は、土師器杯(2161・2162・2163)、須恵器杯(2164・2165・2166・2167・2168)、須恵器椀(2169・2170・2171・2172・2173・2174・2175・2176・2177)、灰釉陶器椀(2179・2182)、灰釉陶器皿(2178・2181)、緑釉陶器椀(2180)、土師器甕(2183・2184・2185・2186)、須恵器甕(2189)、須恵器壺(2190・2191)、灰釉陶器長頸瓶(2187・2188)、軒丸瓦(2823)、平瓦(2854・2890)、丸瓦(2870)、鉄製品刀子(2197)、鉄製品鎌(2193)、鉄製品鎌(2194)、棒状鉄製品(2195・2196)、板状鉄製品(2192)、鉄滓(2198・2200)、石製品砥石(2199・2201)、石製品薦編み石(2202・2203・2204)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。

147・148・151・163・164号住居跡



147・148号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の地山土小ブロック・炭化物を含む。(147号住居跡)

2 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子・地山土小ブロックを含む。(147号住居跡)

3 暗褐色土：締り有り。焼土粒子・地山土小ブロックを含む。(147号住居跡)

4 暗褐色土：砂質。As-C・Hr-FA・炭化物・黄褐色土を含む。(147号住居跡)

5 暗褐色土：黄褐色土ブロックを含む。(147号住居跡)

6 黄褐色土：黄褐色砂質土主体。小礫を含む。(147号住居跡)

7 147号住居跡竈断面参照。

8 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。(148号住居跡)

9 暗褐色土：黄褐色土粒子及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(148号住居跡)

10 赤褐色土：焼土を層状に含む。(148号住居跡)

11 黄褐色土：少量の焼土粒子を含む。(148号住居跡)

12 暗褐色土：地山崩落土。(148号住居跡)

13 赤褐色土：多量の焼土小ブロック・焼土粒子・灰及び少量の黄褐色土を含む。(148号住居跡)

164号住居跡　土層注記

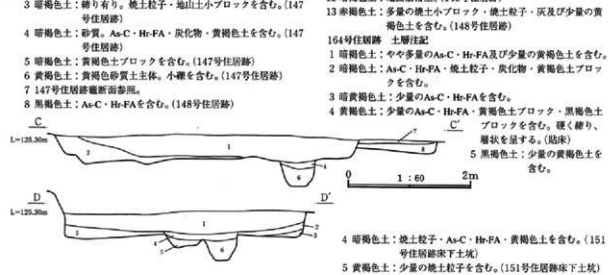
1 暗褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土を含む。

2 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土粒子・炭化物・黄褐色土ブロックを含む。

3 暗黄褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。

4 黄褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む。硬く締り、層状を呈する。(貼床)

5 黒褐色土：少量の黄褐色土を含む。



151・163号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・炭化物を含む。(151号住居跡)

2 黒褐色土：黄褐色土小ブロックを含む。(151号住居跡)

3 黄褐色土：黄褐色土小ブロック主体。黒褐色土を含む。(151号住居跡)

4 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FA・黄褐色土を含む。(151号住居跡床下土坑)

5 黄褐色土：少量の焼土粒子を含む。(151号住居跡床下土坑)

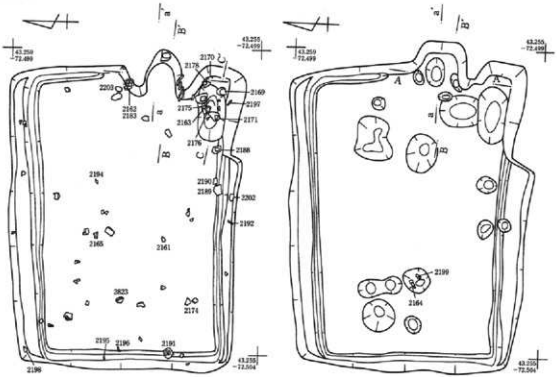
6 黄褐色土：多量の黄褐色土及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。(151号住居跡床下土坑)

7 暗褐色土：焼土粒子・炭化物及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。(163号住居跡)

8 暗褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む。(163号住居跡)

第175図　147・148・151・163・164号住居跡重複関係

147号住居跡

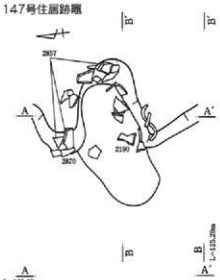


147号住居跡掘り方

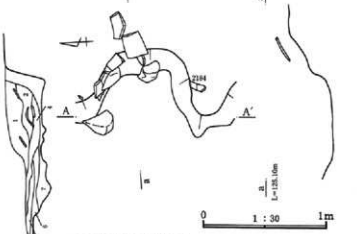
貯蔵穴

147号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黄褐色土：黄褐色土ブロック主体。黒褐色土を含む。
2 黒褐色土：黄褐色土小ブロックを含む。
3 黄褐色土：砂質。

147号住居跡竈

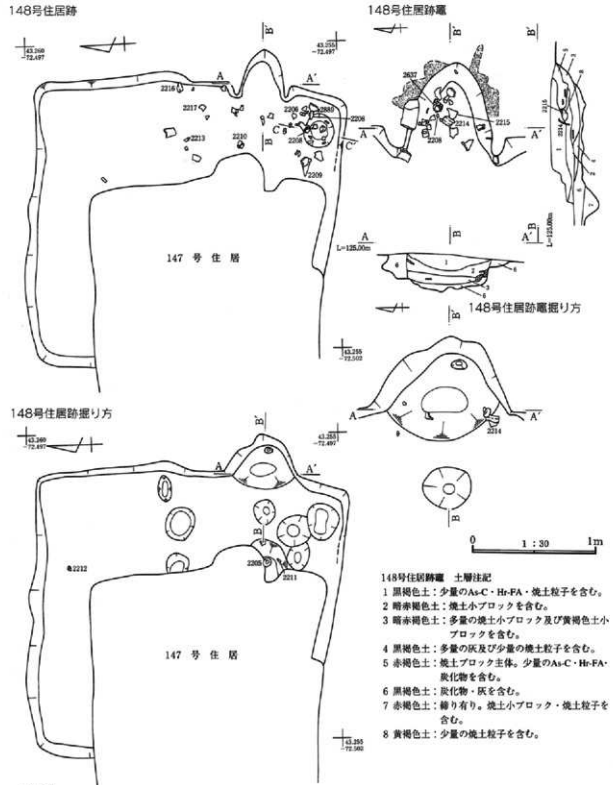


147号住居跡竈掘り方



147号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：少量の焼土粒子・灰を含む。
2 暗赤褐色土：多量の焼土粒子及び灰を含む。
3 暗赤褐色土：焼土主体。
4 灰赤褐色土：多量の焼土・灰を含む。
5 暗灰色土：灰主体。焼土を含む。
6 黄褐色土：黄褐色砂質土主体。
7 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。
8 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の粘質土・焼土粒子を含む。
9 灰褐色土：灰褐色粘質土主体。

第176図　147号住居跡、147号住居跡掘り方、147号住居跡竈、147号住居跡竈掘り方



148号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
2 暗赤褐色土：焼土小ブロックを含む。
3 暗赤褐色土：多量の焼土小ブロック及び黄褐色土小ブロックを含む。
4 黒褐色土：多量の灰及び少量の焼土粒子を含む。
5 赤褐色土：焼土ブロック主体。少量のAs-C・Hr-FA・炭化物を含む。
6 黒褐色土：炭化物・灰を含む。
7 赤褐色土：締り有り。焼土小ブロック・焼土粒子を含む。
8 黄褐色土：少量の焼土粒子を含む。

148号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・炭化物・焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子、やや多量の炭化物を含む。
3 黄褐色土：地山土のブロック。

第177図　148号住居跡、148号住居跡掘り方、148号住居跡竈、148号住居跡竈掘り方

148号住居跡

X＝43.255～.260、Y＝－72.500付近で確認された。147号住居跡、164号住居跡と重複する。147号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部の壁、床を破壊して147号住居跡の壁、床、竈が築かれていることが確認できたことから当住居跡のほうが古い。164号住居跡との新旧関係は、重複部分が東電電柱の下にあたり、遺構から確認することはできなかったが、遺物から当住居跡のほうが新しいと推定される。

当住居跡の規模は、南西部分の壁が検出できなかったために確定できないが、東西約4.7m、南北約5.0mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、S-84°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約65cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約55cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約55cm、短軸約45cm、床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2205・2206・2207)、須恵器杯(2208・2209・2211・2212)、須恵器椀（2210)、土師器甕(2214・2215・2216・2217・2218・2219)、須恵器甕(2213)、平瓦(2889)、石製品砥石(2220)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半～中葉である。

151号住居跡

X＝43.250～.255、Y＝－72.505付近で確認された。163号住居跡、164号住居跡と重複する。163号住居跡の新旧関係は、当住居跡が163号住居跡の北東部の壁、床、竈が南西部の壁、床を破壊して築かれていることが確認されたことから、当住居跡のほうが新しい。164号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東隅の床下から164号住居跡南西隅の壁、床が検出されたことから、当住居跡のほうが新しい。

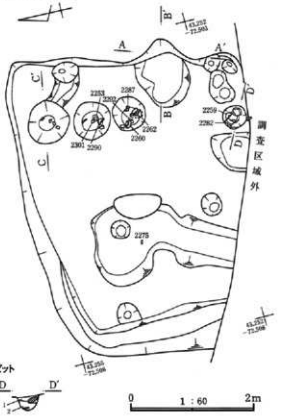
当住居跡の規模は、南壁が調査区域外のため確定できないが、東西約4.7～5.0mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、S-83°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約20cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。南壁東より脇から、貯蔵穴と推定されるピットが検出された。規模は直径約40cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(2252)、須恵器杯(2253・2254・2255・2257)、須恵器椀(2258・2259・2260・2261・2262・2263・2264・2265・2266)、須恵器蓋(2256)、須恵器甕(2213)、灰釉陶器椀(2267・2268・2269・2271・2272・2274)、灰釉陶器皿(2270・2273)、緑釉陶器椀(2275)、土師器小型甕(2276)、須恵器甕(2277・2278・2279・2283・2285)。須恵器壺(2280・2281・2282・2284・2286・2287・2288)、須恵器長頸瓶(2290)、灰釉陶器長頸瓶(2289)、緑釉陶器手付瓶(2291)、銭「長年大寶」(2292)、鉄製品刀子(2294・2295・2296・2297・2298)、鉄製品紡錘車(2301・2302)、鉄製品鏃(2303)、鉄製品鋼座金具(2293)、鉄製品釘(2304・2305・2306)、棒状鉄製品(2299)、鉄製品足金物(2300) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

151号住居跡

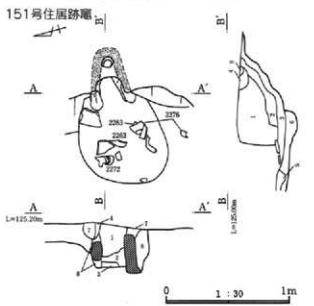
151号住居跡床下土坑　土層注記
1 黒褐色土：少量の炭化物・黄褐色土小ブロックを含む。
2 黄褐色土：多量の黄褐色土ブロックを含む。

151号住居跡掘り方



151号住居跡ピット　土層注記
1 黒褐色土：軟らかく、As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土小粒子を含む。

151号住居跡竈



151号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黄褐色土：黄褐色土主体。少量の焼土粒子を含む。
3 黄褐色土：多量の焼土粒子・炭化物・灰を含む。
4 赤褐色土：硬く締る。黄褐色土と焼土の混合。
5 暗赤褐色土：焼土と灰の混合。
6 赤褐色土：焼土・灰・黄褐色土小ブロックの混合。
7 黄褐色土：硬く締る。少量の黒褐色土・As-C・Hr-FAを含む。
8 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
9 黄褐色土：硬く締る。煙道天井。

163号住居跡

X＝43.255、Y＝－72.500付近で確認された。147号住居跡、151号住居跡、164号住居跡と重複する。147号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北壁の一部が、147号住居跡の南壁に破壊されていることが確認できたことから、当住居跡のほうが古い。151号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部分を破壊して、151号住居跡北東部の壁、床及び竈が築かれていることから、当住居跡が古い。164号住

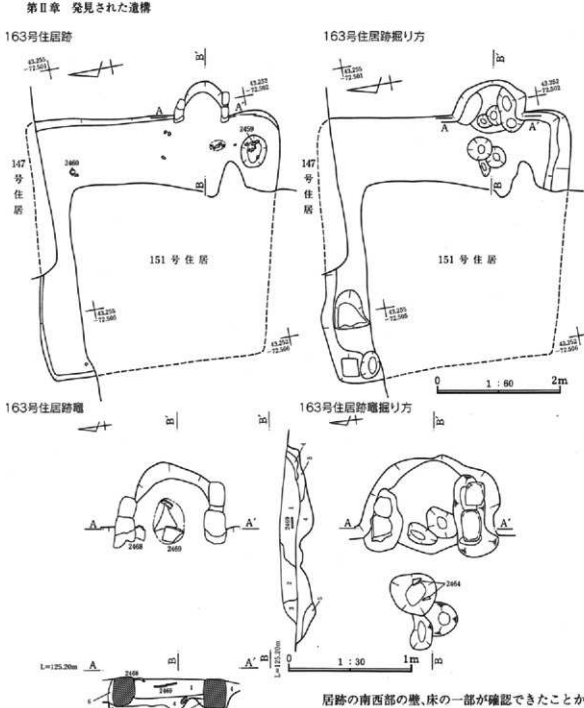
第178図　151号住居跡、151号住居跡掘り方、151号住居跡竈

163号住居跡

163号住居跡掘り方

163号住居跡竈

163号住居跡竈掘り方



163号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや多量の焼土粒子・炭化物を含む。
2 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物を含む。
3 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物・黄褐色土を含む。
4 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び微量の炭化物粒子を含む。
5 黄褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
6 黄褐色土：硬く締る。少量のAs-C・Hr-FAを含む。

居跡の南西部の壁、床の一部が確認できたことから、当住居跡の方が新しい。

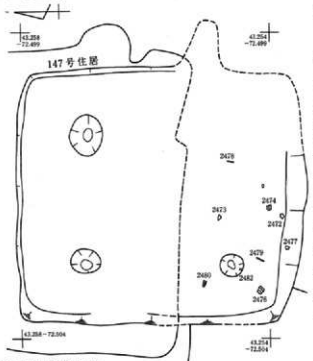
当住居跡の規模は、北壁の一部及び南西部が確認できなかったことから確定できないが、東西約4.3m、南北約4.0mであり、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。主軸は、S-82°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約55cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約55cmである。袖には切石が使用されており、据えられている状態で出

第179図　163号住居跡、163号住居跡掘り方、163号住居跡竈、163号住居跡竈掘り方

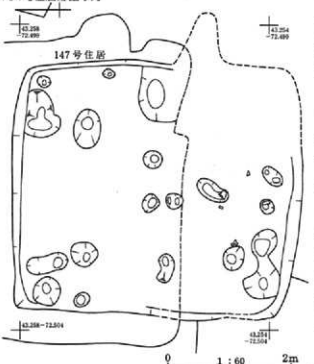
土した。貯蔵穴は南東隅に築かれている。規模は、長軸約50cm、短軸約45cm、床面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2459・2460・2461)、須恵器椀(2462・2463)、須恵器蓋(2464)、灰釉陶器皿(2465)、緑釉陶器椀(2466)、土師器甕(2467・2468)、須恵器甕(2469) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

164号住居跡



164号住居跡掘り方



第180図　164号住居跡、164号住居跡掘り方

164号住居跡

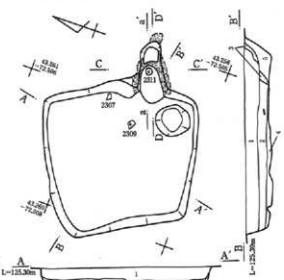
X＝43.255、Y＝－72.500付近で確認された。147号住居跡、148号住居跡、151号住居跡、163号住居跡と重複する。147号住居跡との新旧関係は、当住居跡の壁、床の北部分が147号住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡のほうが古い。148号住居跡との新旧関係は、重複部分が東電電柱下のため遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が古い。151号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西隅の壁、床が151号住居跡の北東隅の床下から検出されたことから、当住居跡の方が古い。163号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南西部の壁、床が163号住居跡の北東部の床下から検出されたことから、当住居跡のほうが古い。

当住居跡の規模は、南東部が電柱下で調査不能のため確定できないが、東西約4.1～4.2m、南北約4.2mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、S-89°-Eである。竈は東壁南よりに築かれているが、大部分が調査不能であった。主柱穴と推定できるピットが3基確認できた。調査不能区域にもあると考えられるので、4本柱穴になると推定される。規模は、直径約100～50cm、床面からの深さ約55～60cmであり、平面形は不整形な円形ないしは楕円形を呈する。貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

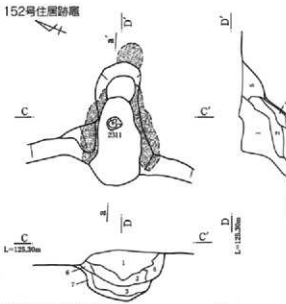
遺物は、須恵器杯(2471)、須恵器椀(2472・2473・2474)、須恵器蓋(2470)、土師器甕(2475)、須恵器甕(2476・2477)、鉄製品刀子(2478・2479)、毛抜形鉄製品(2480)、棒状鉄製品(2481)、銅製品飾座金具(2482) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半～中葉である。

152・155・162号住居跡

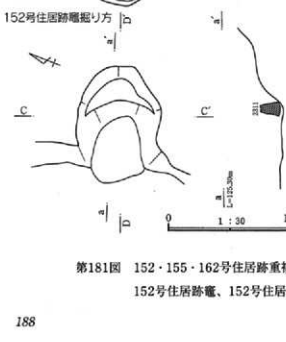
152号住居跡



152号住居跡竈



152号住居跡竈掘り方



152号住居跡掘り方

152号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黄褐色土：焼土小ブロックを含む。(竈の崩れ。)
4 黄褐色土：黄褐色土ブロック主体。黒褐色土を含む。
5 竈土層説明参照

152号住居跡竈　土層注記

1 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 淡橙色土：多量の焼土ブロック及びAs-C・Hr-FAを含む。
3 淡橙色土：焼土・灰・As-C・Hr-FAの混合。
4 黄褐色土：多量の黄褐色土ブロック及び少量の焼土粒子を含む。
5 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
6 灰褐色土：灰褐色粘質土主体。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。(袖の崩れか)
7 黄褐色土：黒褐色土を含む。

第181図　152・155・162号住居跡重複関係、152号住居跡、152号住居跡掘り方、152号住居跡竈、152号住居跡竈掘り方

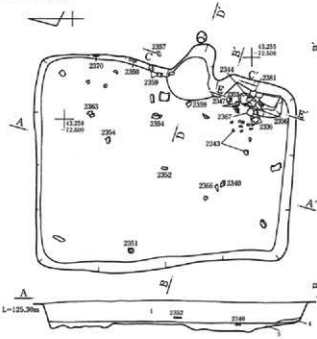
152号住居跡

X＝43.255～.260、Y＝－72.505～.510付近で確認された。162号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡南側部分が162号住居跡の北東部を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.2～2.4m、南北約2.1～2.6mであり、平面形は不整形な隅丸台形を呈する。主軸は、N-70°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。燃焼部奥からは、支脚石が据えられて状態で出土した。南東隅からピットが1基検出された。規模は、直径50cm、床面からの深さ10cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。竈の位置等との関係から、貯蔵穴と断定するには難がある。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器皿(2307)、土師器杯(2308)、須恵器杯(2335)、須恵器蓋(2309・2449)、土製品羽口(2311) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半～中葉である。

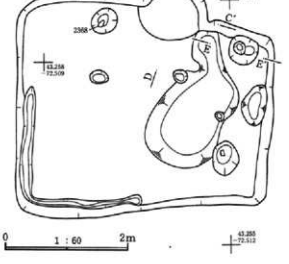
155号住居跡



155号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 黒褐色土：黄褐色土少ブロック及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
3 黄褐色土：粘質。締り有り。
4 黄褐色土：黒褐色土を含む。
5 暗黄褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。

155号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。
2 黒褐色土：多量の黄褐色土小ブロックを含む。

155号住居跡掘り方



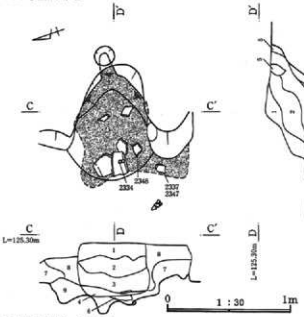
155号住居跡

X＝43.255～.260、Y＝－72.510付近で確認された。162号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北東部が162号住居跡の南西部を破壊していることから、当住居跡のほうが新しい。

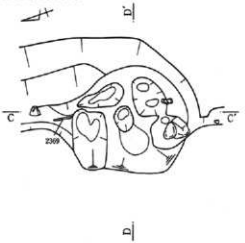
当住居跡の規模は、東西約2.9～3.6m、南北約4.0～4.2mであり平面形は、不整形な隅丸長方形を呈する。主軸は、S-80°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約55cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。貯蔵穴は南東隅に築かれている。長辺約50cm、短辺約35cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は隅丸長方形を

第182図　155号住居跡、155号住居跡掘り方

155号住居跡竈



155号住居跡竈掘り方



155号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
2 暗黄褐色土：やや多量の黄褐色土小ブロック及び少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：黄褐色土小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
4 黄褐色土：少量の焼土粒子を含む。
5 焼土
6 灰褐色土：灰・焼土を含む。
7 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。
8 淡黄褐色土
9 黄褐色土：黄褐色土小ブロック主体。

162号住居跡

162号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA少量の黄褐色土小ブロックを含む。
2 黒褐色土：やや多量の黄褐色土小ブロック少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黄褐色土：黄褐色土小ブロックを含む。

呈する。掘り方調査で、北西隅を中心とした北壁、西壁の一部から壁溝が確認できた。規模は、幅約15～20cm、確認面からの深さ約2～5cmである。主柱穴は、確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2310・2336・2337・2338・2339・2340・2341・2342・2343)、須恵器椀(2344・2345・2346・2347・2348・2349・2350・2352)、須恵器蓋(2334)、灰釉陶器椀(2355・2356・2357)、灰釉陶器皿(2353・2354)、土師器甕(2359)、土師器小型甕(2358)、須恵器壺(2351)、須恵器甕(2362・2363)、灰釉陶器壺(2361)、緑釉陶器手付瓶(2364・2365)、軒平瓦(2831)、丸瓦(2851)、鉄製品刀子(2369・2370・2371)、棒状鉄製品(2373・2374・2375・2376・2379)、鉄製品(2372・2377・2378)、鉄滓(2380)、石製品鬲編み石(2366・2368)、石製品(2367)等が出土している、遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

162号住居跡

X＝43.260、Y＝－72.510付近で確認された。152号住居跡、155号住居跡と重複する。152号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南東部を破壊して152号住居跡の西側の壁、床が築かれていることから、当住居跡のほうが古い。155号住居跡との新旧関係は、南西部を破壊して155号住居跡の北東部の壁、床が築かれていることから、当住居跡のほうが古い。

第183図　155号住居跡竈、155号住居跡竈掘り方、162号住居跡

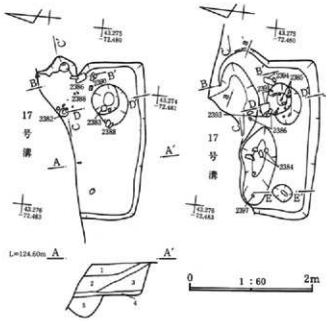
当住居跡の規模は、南側の壁が破壊されているため確定できないが、東西約1.3～1.5m、南北約2.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2447)、灰釉陶器椀(2450)、須恵器蓋(2448)、土師器甕(2451)、鉄滓(2452・2453・2454・2455・2456・2457・2458)、等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

当住居跡と152号住居跡の関係は、遺構と遺物が逆転している。また、壁、床は不明瞭である。当住居跡は、住居跡か否かを含めて検討する余地がある。

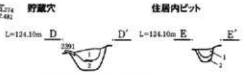
156号住居跡

156号住居跡掘り方



156号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の炭化物粒子を含む。
3 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 黒褐色土：やや多量の褐色土を含む。
5 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FAを含む。

貯蔵穴　　住居内ピット

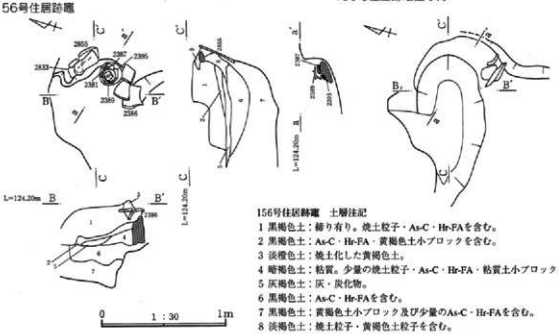


156号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：やや粘性有り。As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：褐色土小ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

156号住居跡ピット　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。
2 黒褐色土：黄褐色土小ブロックを含む。

156号住居跡竈

156号住居跡竈掘り方



156号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：締り有り。焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。
3 淡橙色土：焼土化した黄褐色土。
4 暗褐色土：粘質。少量の焼土粒子・As-C・Hr-FA・粘質土小ブロックを含む。
5 灰褐色土：灰・炭化物。
6 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
7 黒褐色土：黄褐色土小ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
8 淡褐色土：焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
9 赤褐色土：焼土ブロック主体。

第184図　156号住居跡、156号住居跡掘り方、156号住居跡竈、156号住居跡竈掘り方

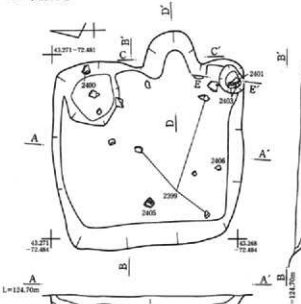
156号住居跡

X＝43.275、Y＝－72.480付近で確認された。17号溝と重複する。新旧関係は、遺構から直接確認することはできなかった。

当住居跡の規模は、北壁が確認できなかったことにより、確定できないが、東西約2.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、N-79°-Eである。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約20cmである。袖等の構築材には石と瓦を用いている。燃焼部中央奥には、石が置かれ、須恵器の破片がその上に重ねられていた。支脚として使用していたのであろうか。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約70cm、短軸約50cm、床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2381)、須恵器杯(2382・2383・2384・2385・2386)、須恵器椀(2387・2388)、土師器甕(2390)、土師器台付甕(2389)、須恵器甕(2393・2394)、須恵器長頸瓶(2392)、灰釉陶器小型瓶(2391)、平瓦(2855)、丸瓦(2833)、土製品羽口(2396)、鉄滓(2397)、石製品(2395) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀中葉～後半である。

157号住居跡



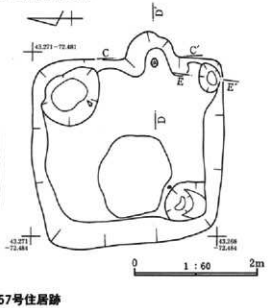
157号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の地山土ブロックを含む。
2 黒褐色土：締り有り。多量の地山土ブロックを含む。
3 黒褐色土：少量の炭化物を含む。

貯蔵穴

157号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：焼土粒子・地山砂粒を含む。

第185図　157号住居跡、157号住居跡掘り方

157号住居跡掘り方

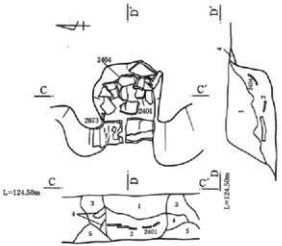


157号住居跡

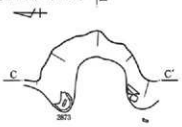
X＝43.270、Y＝－72.480～.485付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.0～3.1m、南北約2.8～3.1mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は、N-88°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約50cm、短軸約35cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

157号住居跡竈



157号住居跡竈掘り方

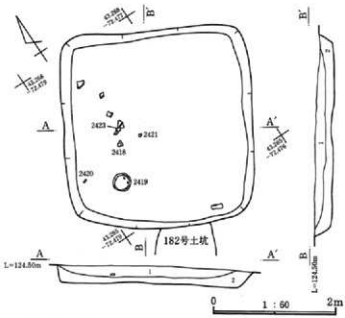


0　1：30　1m

遺物は、須恵器杯(2398・2399)、須恵器椀(2402・2403)、須恵器蓋(2400・2401)、土師器甕(2404)、須恵器甕(2405)、丸瓦(2873)、棒状鉄製品(2411)、鉄塊(2410)、鉄滓(2406・2407・2408・2409)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀末～9世紀初頭である。

157号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗赤褐色土：縞り有り。多量の焼土・地山土ブロックを含む。
3 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
4 暗赤褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
5 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。

158号住居跡



0　1：60　2m

158号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の炭化物を含む。
2 黒褐色土：地山土主体。

158号住居跡

X＝43.265～.270、Y＝－72.475～.480付近で確認された。他の遺構との重複はない。

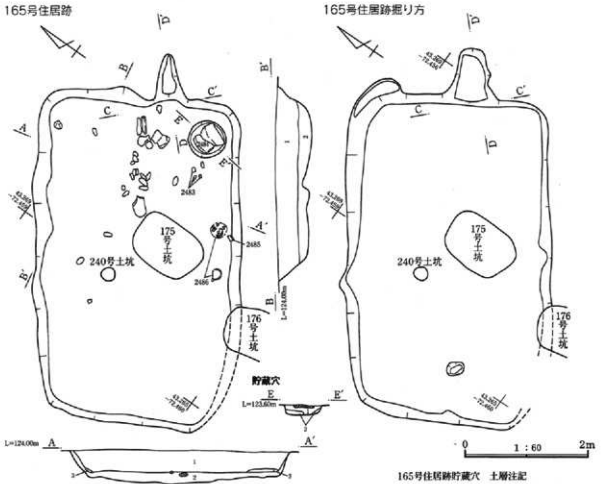
当住居跡の規模は、東西約3.0～3.1m、南北約3.1～3.3mであり、平面形は隅丸方形を呈する。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認することができなかった。従って、遺構の性格を住居跡として扱うか、検討する必要があろう。

遺物は、須恵器杯(2413・2414)、須恵器椀(2416)、須恵器蓋(2415)、灰釉陶器高台付皿(2417)、須恵器甕(2418)、須恵器羽釜(2419)、土製品羽口(2421・2422)、棒状鉄製品(2420)、鉄滓(2423・2424)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

第186図　157号住居跡竈、157号住居跡竈掘り方、158号住居跡

165号住居跡

165号住居跡掘り方

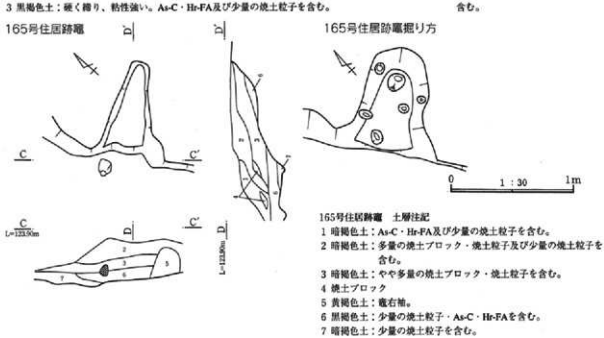


165号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締る。焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締る。焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：硬く締り、粘性強い。As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。

165号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：やや多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。

165号住居跡竈

165号住居跡竈掘り方



165号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及び少量の焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：やや多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
4 焼土ブロック
5 黄褐色土：竈右袖。
6 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
7 暗褐色土：少量の焼土粒子を含む。

第187図　165号住居跡、165号住居跡掘り方、165号住居跡竈、165号住居跡竈掘り方

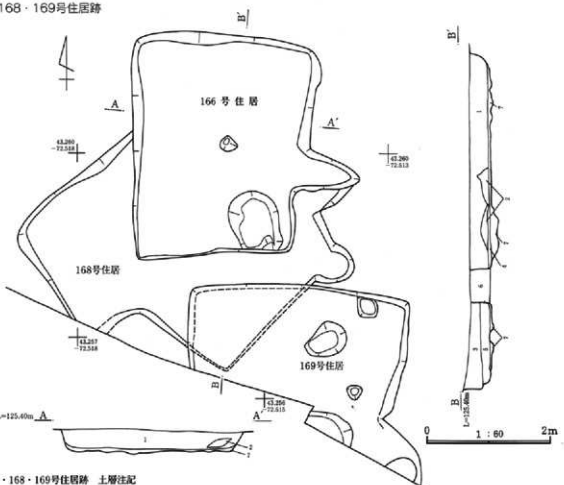
165号住居跡

X＝43.265～.270、Y＝－72.455～.460付近で確認された。175号土坑、176号土坑と重複する。175号土坑との新旧関係は、当住居跡の中央部分の床を175号土坑が破壊していることから、当住居跡の方が古い。176号土坑との新旧関係は、当住居跡の南壁の一部を176号土坑が破壊していることから、当住居跡のほうが古い。

当住居跡の規模は、東西約5.3～5.4m、南北約3.3mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-60°-Eである。竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約75cmである。支脚石が竈手前から検出されている。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、直径60cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は円形を呈する。貯蔵穴の直上からは、扁平な石が2個出土した。蓋石、若しくは蓋の押さえ石であろうか。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2483)、土師器壺(2485)、土師器小型甕(2486)、須恵器甕(2484)、土製品羽口(2487・2488)、鉄滓(2489・2490・2491)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀前半である。

166・168・169号住居跡

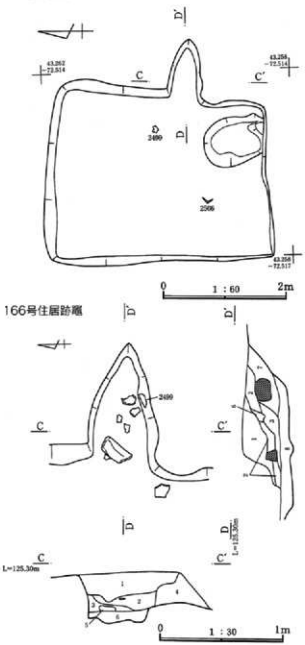


166・168・169号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子、微量の炭化物粒子を含む。(166号住居跡)
2 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び黄褐色土粒子を含む。(168号住居跡)
3 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。(169号住居跡)
4 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA及び炭化物粒子・灰を含む。(166号住居跡)
5 黒褐色土：黄褐色土ブロックを含む。(169号住居跡)
6 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA及び微量の黄褐色土ブロックを含む。(168号住居跡)
7 黒褐色土：やや多量の黄褐色土ブロックを含む。(掘り方覆土は、区別不能。)

第188図　166・168・169号住居跡重複関係

166号住居跡



166号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・灰を含む。
3 黒褐色土：多量の灰及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
4 黒褐色土：少量の黄褐色土ブロックを含む。
5 黄褐色土：粘性有り。(天井又は袖の崩れか。)
6 焼土
7 黒褐色土：少量の焼土粒子・灰・黄褐色土ブロックを含む。
8 黒褐色土：灰及び少量の焼土粒子・黄褐色土ブロックを含む。

第189図　166号住居跡、166号住居跡竈

166号住居跡

X＝43.260、Y＝－72.515付近で確認された。168号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南側部分が、168号住居跡の北東部の壁、床を破壊していることから。当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.7～3.0m、南北約3.6～3.8mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-82°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約70cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2495)、土師器皿(2492)、須恵器杯(2496・2497)、須恵器椀(2498)、須恵器鉢(2523)、須恵器蓋(2522)、土師器甕(2499)、須恵器甕(2501)、須恵器壺(2500)、棒状鉄製品(2502・2503・2507)、板状鉄製品(2504)、鉄製品(2506)、鉄片(2505)、鉄滓(2508)などが出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀前半～中葉である。

168号住居跡

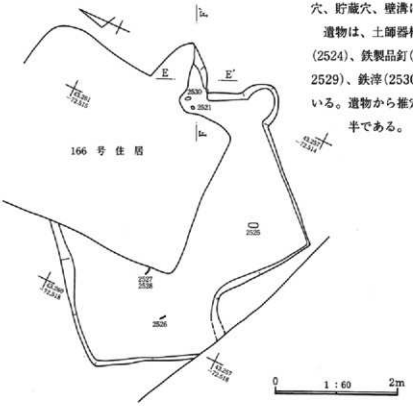
X＝43.255～.260、Y＝－72.515～.520付近で確認された。166号住居跡、169号住居跡と重複する。166号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部の壁、床、竈を破壊して、166号住居跡の南部の壁、床及び竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。169号住居跡との新旧関係は、断面の観察から、当住居の覆土中に169号住居跡壁が確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北東部の壁が破壊されていることから確定できないが、東西約2.8～3.1m、南北約3.8～4.0mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈するが、北西部に長辺約2.2m、短辺約1.0mであり、平面形は長方形を呈する。主軸は、N-65°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれているが、北側

168号住居跡

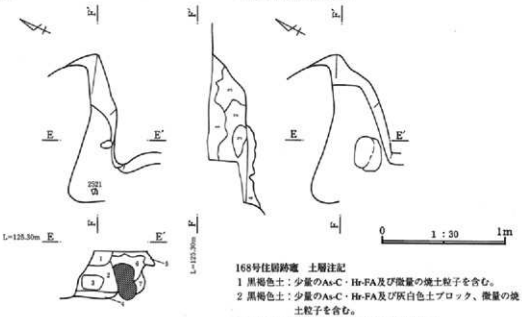
2／3は、166号住居跡の竈に破壊されている。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2493・2494・2521)、須恵器甕(2524)、鉄製品釘(2526)、棒状鉄製品(2527・2528・2529)、鉄滓(2530)、石製品(2525) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀前半である。



168号住居跡竈

168号住居跡竈掘り方

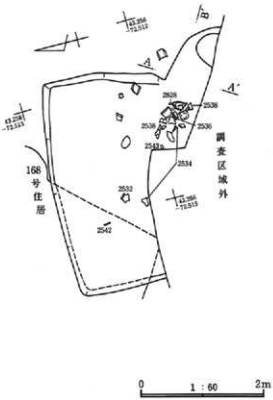


168号住居跡竈　土層注記

1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA及び微量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA及び灰白色土ブロック、微量の焼土粒子を含む。
3 灰白色土：粘性強い。(天井又は袖の崩れか。)
4 明褐色土：地山ブロック及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
5 黒褐色土：As-C・Hr-FA・灰白色粘質土ブロックを含む。
6 灰白色土：袖の一部か。
7 黒褐色土：灰白色土粘質土・黄褐色土を含む。

第190図　168号住居跡、168号住居跡竈、168号住居跡竈掘り方

169号住居跡



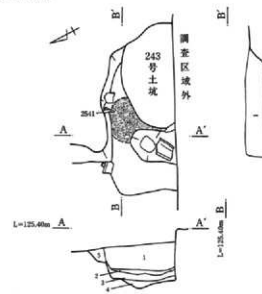
169号住居跡

X＝43.255～.260、Y＝－72.515付近で確認された。168号住居跡、243号土坑と重複する。168号住居跡との新旧関係は、断面観察で当住居跡の北壁が168号住居跡の覆土中に確認されたことから、当住居跡の方が新しい。243号土坑との新旧関係は、当住居跡の竈の南半分が243号土坑に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

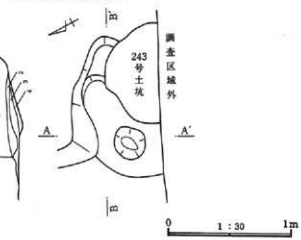
当住居跡の規模は、北半分が調査区域外のため確定できないが、東西約3.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、S-77°-Eである。竈は、東壁に築かれている。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は、調査区域からは検出できなかった。

遺物は、須恵器椀(2531・2532・2533)、灰釉陶器椀(2534・3536)、灰釉陶器皿(2535)、緑釉陶器椀(2537)、土師器甕(2538)、須恵器甕(2539・2540)、軒平瓦(2827・2828)、鉄製品釘(2542)、鉄滓(2543・2544)、石製品(2541) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

169号住居跡竈



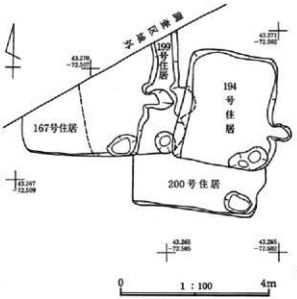
169号住居跡竈掘り方



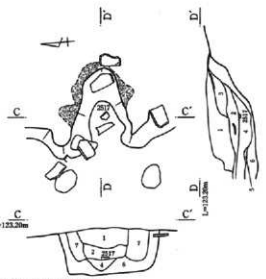
169号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 灰褐色土：焼土と炭化物の混合。
4 黄褐色土：焼土粒子を含む。
5 黒褐色土：As-C・Hr-FA・炭化物粒子及び少量の黄褐色土を含む。

第191図　169号住居跡、169号住居跡竈、169号住居跡竈掘り方

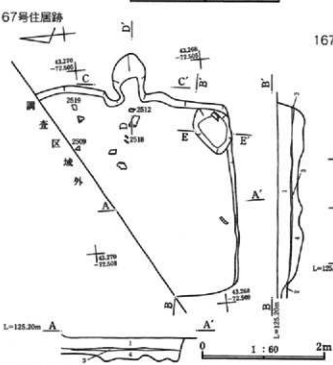
167・194・199・200号住居跡



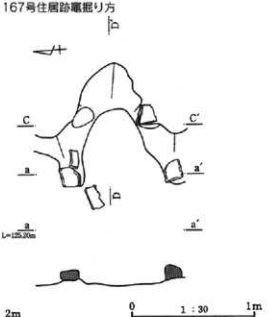
167号住居跡竈



167号住居跡



167号住居跡竈掘り方



167号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 淡黄褐色土：経柱層上面土のブロック。
3 暗褐色土：硬く締る。焼土粒子・炭化物を含む。(貼床)
4 暗褐色土：黄褐色砂質土ブロックを含む。

貯蔵穴

167号住居跡貯蔵穴　土層注記

1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

167号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：焼土粒子・黄褐色土ブロック・灰白色土ブロック・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
4 暗褐色土：多量の炭化物・灰・焼土粒子を含む。
5 灰
6 暗褐色土：少量の焼土粒子を含む。
7 灰褐色土：袖。左袖には石が貼られている。

第192図　167・194・199・200号住居跡重複関係、
167号住居跡、167号住居跡竈、167号住居跡竈掘り方

167号住居跡

X＝43.270、Y＝－72.505～.510付近で確認された。199号住居跡、200号住居跡と重複する。199号住居跡との新旧関係は、当住居跡の壁、床、竈が199号住居跡の約3／4を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。200号住居跡との新旧関係は、遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、北壁が調査区域外のため確定できないが、東西約3.2mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、S-79°-Eである。竈は東壁に築かれている。燃焼部の幅約65cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。構築材には、石と瓦が使用されている。袖の基部からは石が据えられて状態で検出された。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約80cm、短軸約55cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2509・2510)、須恵器椀(2512・2513)、灰釉陶器椀(2514・2515)、土師器甕(2516)、須恵器甕(2517)、土製品羽口(2520)、棒状鉄製品(2518)、鉄滓(2519)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀中葉～後半である。

194号住居跡

X＝43.265～.270、Y＝－72.500～.505付近で確認された。199号住居跡、200号住居跡と重複する。199号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西壁が199号住居跡の東壁、竈の一部を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。200号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南部の壁、床が、200号住居跡北東部の壁、床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.5～2.8m、南北約3.1mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-87°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約30cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、一辺約55～60cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2752)、須恵器杯(2754・2755・2756・2757・2758・2759・2760)、須恵器椀(2764)、須恵器足高高台付椀(2765)、須恵器蓋(2753)、灰釉陶器椀(2761)、灰釉陶器輪花椀(2766)、灰釉陶器皿(2763)、灰釉陶器段皿(2762)、緑釉陶器椀(2767)、須恵器羽釜(2769・2770・2771)、須恵器長頸瓶(2768)、平瓦(2877・2900)、板状鉄製品(2775)、石製品砥石(2772・2773)、石製品(2774)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

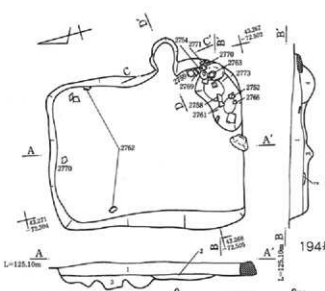
199号住居跡

X＝43.270、Y＝－72.505付近で確認された。167号住居跡、194号住居跡、200号住居跡と重複する。167号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西3／4が167号住居跡に破壊されていることから、当住居跡のほうが古い。194号住居跡との新旧関係は、当住居跡の東壁、竈の一部が、194号住居跡の西壁、床の下から検出されたことから当住居跡のほうが古い。200号住居跡との関係を遺構から確認することはできなかったが、出土遺物から、当住居跡のほうが新しい。

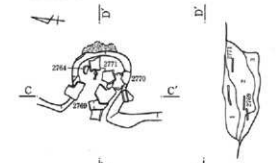
当住居跡の規模は、北壁が調査区域外で確認できなかったことから確定できないが、東西約2.6～2.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、N-83°-Eである。竈は東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。貯蔵穴は南東隅に築かれている。規模は、長軸約60cm、短軸約50cm、床面からの深さ約35cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2805)、須恵器椀(2806・2807・2808)、土師器小型台付甕(2809・2810)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉である。

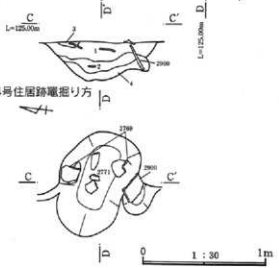
194号住居跡



194号住居跡竈



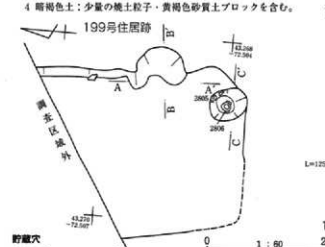
194号住居跡竈掘り方



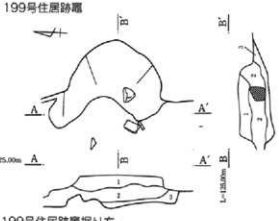
194号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：硬く締る。焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：黄褐色砂質土ブロックを含む。
4 暗褐色土：焼土粒子・炭化物を含む。(貯蔵穴)

194号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや多量の焼土粒子及び炭化物を含む。
3 黄褐色土ブロック：天井又は側壁の崩れか。
4 暗褐色土：少量の焼土粒子・黄褐色砂質土ブロックを含む。

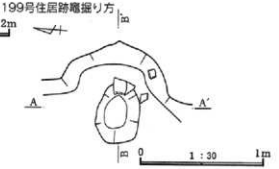
199号住居跡



199号住居跡竈



199号住居跡竈掘り方

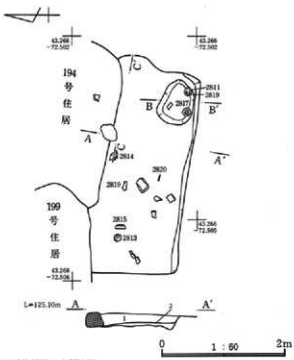


199号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：焼土粒子・灰褐色砂質土・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：黄褐色砂質土小ブロック・As-C・Hr-FAを含む。

199号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・炭化物及びAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：黄褐色土小ブロック及びAs-C・Hr-FAを含む。

第193図　194号住居跡、194号住居跡竈、194号住居跡竈掘り方、199号住居跡、199号住居跡竈、199号住居跡竈掘り方

200号住居跡

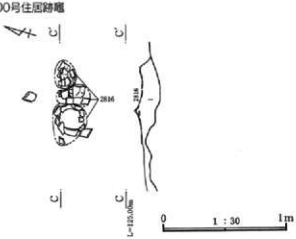


200号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：黄褐色土小ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。

貯蔵穴

200号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。

200号住居跡竈



200号住居跡竈　土層注記
1 明褐色土：黄褐色土小ブロック及び少量の焼土粒子を含む。

第194図　200号住居跡、200号住居跡竈

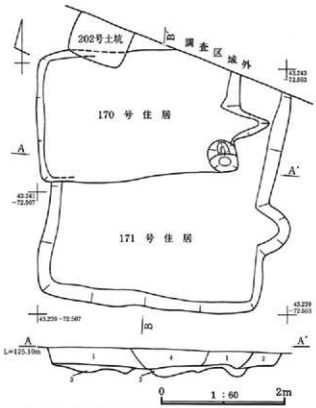
200号住居跡

X＝43.265～.270、Y＝－72.505付近で確認された。167号住居跡、194号住居跡、199号住居跡と重複する。167号住居跡との新旧関係は、遺構から直接確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が古い。194号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北東部分の壁、床、竈が194号住居跡の南東部に破壊されていることから、当住居跡のほうが古い。199号住居跡との新旧関係は、遺構から直接確認することはできなかったが、出土遺物から当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北壁、西壁が確認できなかった。竈は東壁に築かれているが、大部分が194号住居跡に破壊されており、袖等は確認できなかったが、焼土の分布から推定できる。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約70cm、短軸約55cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

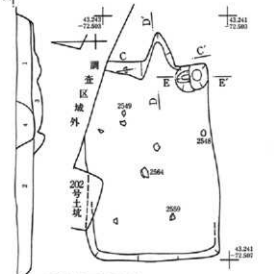
遺物は、土師器杯(2811・2812)、須恵器杯(2813)、須恵器椀(2814)、土師器甕(2815・2816)、土師器台付甕(2817)、棒状鉄製品(2820)、鉄滓(2818)、石製品鳥囀み石(2819) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半である。

170・171号住居跡

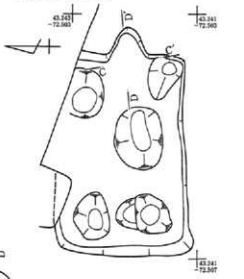


170・171号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：砂質。少量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。(170号住居跡)
2 黒褐色土：砂質。少量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。(171号住居跡)
3 黒褐色土と黄褐色土ブロックの混合。
4 撹乱

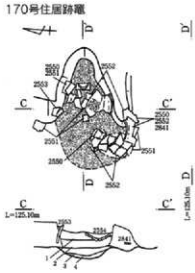
170号住居跡



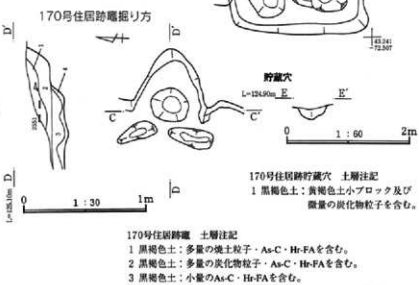
170号住居跡掘り方



170号住居跡竈



170号住居跡竈掘り方



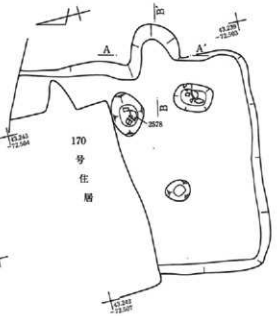
170号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：黄褐色土小ブロック及び微量の炭化物粒子を含む。

170号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：多量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：小量のAs-C・Hr-FAを含む。
4 黒褐色土：黄褐色土小ブロック・少量のAs-C・Hr-FAを含む。

第195図　170・171号住居跡重複関係、170号住居跡、170号住居跡掘り方、170号住居跡竈、170号住居跡竈掘り方

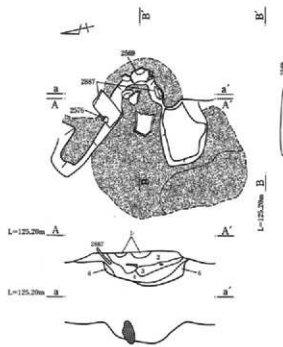
171号住居跡

171号住居跡掘り方

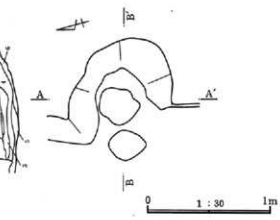


0　1：60　2m

171号住居跡竈



171号住居跡竈掘り方



171号住居跡竈　土層注記

1 黒褐色土：黄褐色土小ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 黄褐色土：天井又は側壁の崩落土か。
3 黒褐色土：やや多量の焼土小ブロック・灰および炭化物を含む。
4 黒褐色土：多量の灰及び焼土粒子を含む。
5 灰褐色土：灰・焼土・黄褐色土小ブロックの混合。
6 黄褐色土：少量の焼土粒子を含む。

第196図　171号住居跡、171号住居跡掘り方、171号住居跡竈、171号住居跡竈掘り方

170号住居跡

X＝43.240～.245、Y＝－72.505付近で確認された。171号住居跡、202号土坑と重複する。171号住居跡との新旧関係は、当住居跡の壁、床、竈が171号住居跡北側部分を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。202号土坑との新旧関係は、当住居跡の北壁の一部を202号土坑が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.2～3.3m、南北約2.1～2.2mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-88°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約50cm、短軸約45cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2547)、須恵器椀(2548)、灰釉陶器椀(2549)、須恵器壷(2545・2546)、土師器台付甕(2552)、土師器甕(2550・2551)、須恵器甕(2553・2554)、丸瓦(2841)、棒状鉄製品(2555)、石製品(2556) 等が出土している。また、170号住居跡・171号住居跡共通の覆土出土遺物として、土師器杯(2557)、須恵器椀(2558)、灰釉陶器壷(2560)、緑釉陶器椀(2561)、須恵器壷(2559)、鉄製品刀子(2562・2563) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

171号住居跡

X＝43.240、Y＝－72.505付近で確認された。170号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北側部分を破壊して170号住居跡の壁、床、竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北壁が調査区域外で確認できなかったことから確定できないが、東西は約3.6～3.7mである。主軸は、S-81°-Eである。竈は、東壁南よりに築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯 (2564・2565・2566)、須恵器杯(2567)、須恵器椀(2568・2569・2570・2571・2572)、須恵器高台付皿(2575)、土師器甕(2573)、須恵器甕(2576)、灰釉陶器小型壷(2574)、平瓦(2887)、鉄製品刀子(2577)、鉄製品(2578) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

172号住居跡

X＝43.235～.240、Y＝－72.505～.510付近で確認された。213号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の北壁の一部を213号土坑が破壊していることが確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南東部が調査区域外のため確定できないが、東西約3.4～3.6m、南北約4.1～4.2mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-83°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約60cm、確認面での煙道部壁外への張り出し約80cmである。壁溝は竈周辺を除きほぼ巡っていると推定される。規模は、幅約10～15cm、床面からの深さ約2～6cmである。主柱穴、貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2579)、土師器鉢(2584)、須恵器杯(2580・2586)、須恵器椀(2581・2582)、土師器甕(2585)、須恵器短頸壷(2583)、鉄製品紡錘車(2587) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀中葉である。

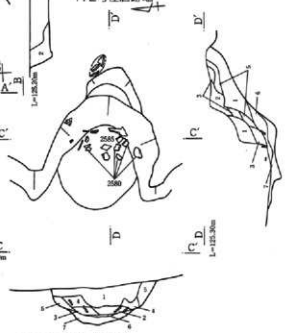
172号住居跡

172号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子及びAs-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。
2 黒褐色土：多量の黄褐色土小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。

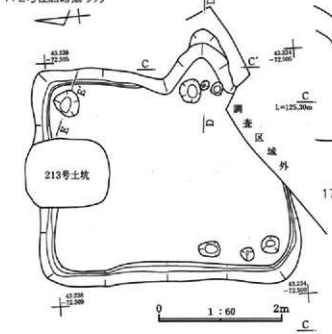
住居内ピット

172号住居跡ピット　土層注記
1 黒褐色土：黄褐色土小ブロックを含む。

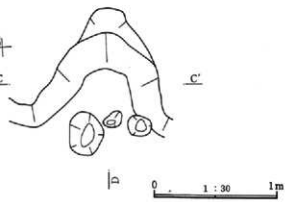
172号住居跡竈



172号住居跡掘り方



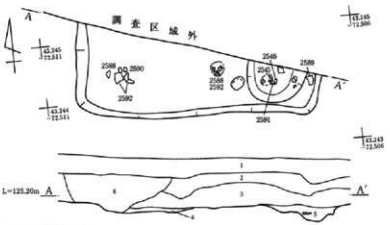
172号住居跡竈掘り方



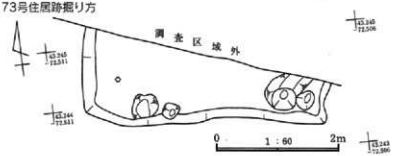
172号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：焼土粒子及び少量の黄褐色土を含む。
3 焼土
4 黄褐色土
5 黒褐色土：黄褐色土・As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
6 灰
7 黄褐色土：焼土粒子を含む。

第197図　172号住居跡、172号住居跡掘り方、172号住居跡竈、172号住居跡竈掘り方

173号住居跡



173号住居跡掘り方



173号住居跡　土層注記

1 表土
2 黒褐色土：As-Bを含む。
3 黒褐色土：As-C・Hr-FA$_m$（173号住居跡覆土）
4 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土を含む。
5 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土・焼土粒子・炭化物を含む。（貯蔵穴）
6 撹乱

第198図　173号住居跡、173号住居跡掘り方

173号住居跡

X＝43.245～.510付近で確認された。調査区域内での他の遺構との重複はない。

規模は、大部分が調査区域外のため確定できないが、南北約4.0mである。南側の一部の検出のため、竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認することができなかった。

遺物は、須恵器杯(2588)、土師器甕(2589)、須恵器甕(2591・2592)、鉄滓(2590) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀中葉である。

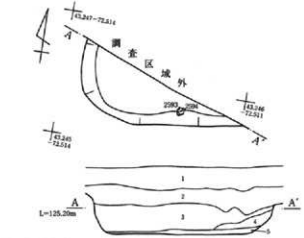
174号住居跡

X＝43.245～.250、Y＝－72.510～.515付近で確認された。調査区域内での他の遺構との重複はない。

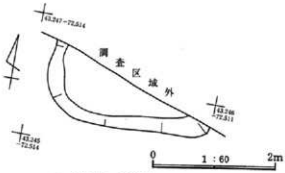
当住居跡の規模は、大部分が調査区域外であり、南西部の一部の検出のため不明である。また、調査区域内で竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出することができなかった。

遺物は、須恵器杯(2593・2594) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀前半～9世紀中葉である。

174号住居跡

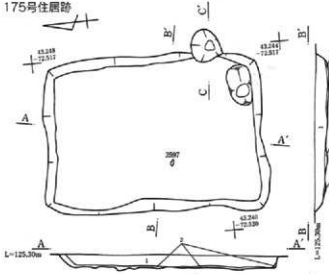


174号住居跡掘り方



174号住居跡　土層注記
1 表土
2 黒褐色土：As-Bを含む。
3 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
4 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。
5 黒褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土粒子を含む。

175号住居跡



175号住居跡　土層注記
1 黒褐色砂質土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土ブロックを含む。
2 黒褐色砂質土：多量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。

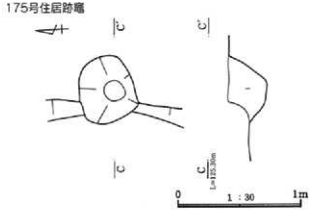
175号住居跡

X＝43.245～.250、Y＝－72.515～.520付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約2.5～2.6m、南北約3.5～3.6mであり、平面形は横長の隅丸方形を呈する。主軸は、S-87°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約65cm、短軸約50cm、床面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(2595)、須恵器杯(2596)、須恵器甕(2597)、石製品(2598)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀後半である。

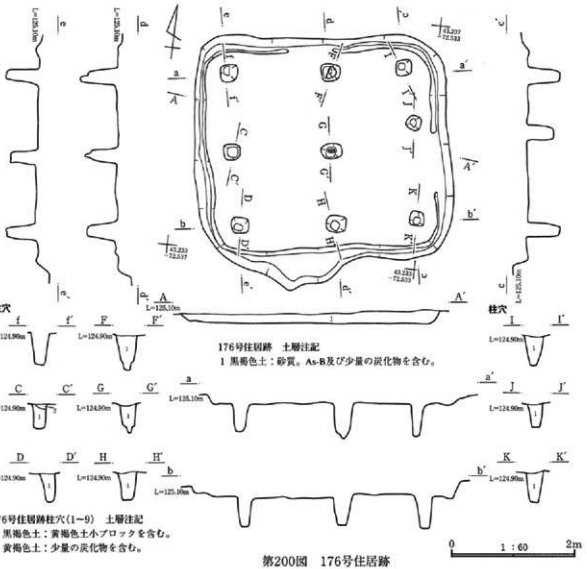
175号住居跡竈



175号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色砂質土：多量のAs-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土ブロックを含む。

第199図　174号住居跡、174号住居跡掘り方、175号住居跡、175号住居跡竈

176号住居跡



第200図　176号住居跡

176号住居跡

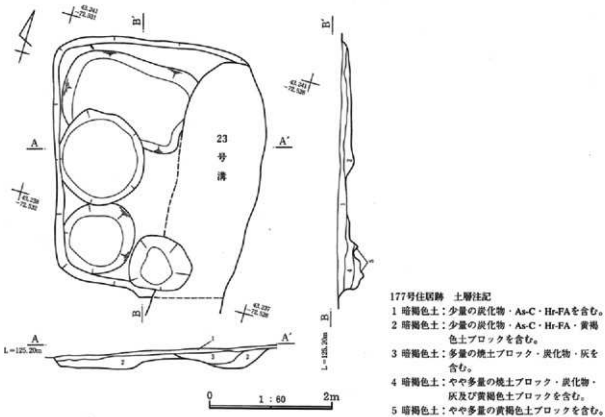
X＝43.235、Y＝－72.535付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約4.1m、南北約3.7～3.8mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。柱穴は9本の総柱である。規模は、一辺約25～30cm、確認面からの深さ約45～55cmであり、平面形は方形ないしは長方形を呈する。壁溝は北壁中央部分、東壁中央部分を除き、検出できた。規模は、幅約10～20cm、確認面からの深さ約2～5cmである。竈、貯蔵穴はない。

遺物は鉄製品釘(2601・2602)、棒状鉄製品(2603)、鉄製品(2599)、石製品砥石(2600)等が出土している。

当住居跡の形状は他の住居跡と異なり、その用途については不明である。年代は、覆土中にAs-Bが含まれていることから、平安時代末以降である。

177号住居跡掘り方



第201図　177号住居跡掘り方

177号住居跡

X＝43.240、Y＝－72.530付近で確認された。23号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の東側部分が23号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東壁が23号溝に破壊されていることから確定できないが、南北約4.1～4.2mである。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。また、掘り方での検出であり、床面を検出することもできなかった。

遺物は、須恵器椀(2604)、須恵器壺(2606)、灰釉陶器長頸瓶(2605)、鉄製品釘(2607) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

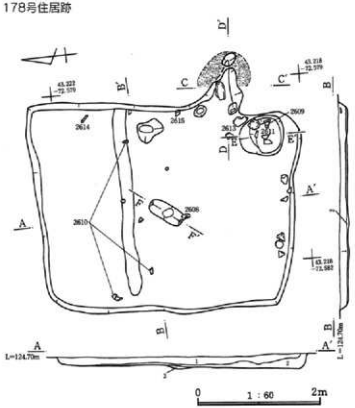
178号住居跡

X＝43.220、Y＝－72.580付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約3.2～3.4m、南北約3.8～4.4mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-82°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約30cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約95cmである。袖は破壊されていたが、石を埋め込んだ小ピットが2基検出できた。煙道はトンネル状で検出され、最狭部の径約10cm、先端部は長軸23cm、短軸約18cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸70cm、短軸65cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

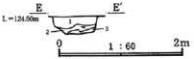
遺物は、須恵器椀(2609)、須恵器足高高台椀(2612)、須恵器高台付皿(2608)、灰釉陶器椀(2610)、灰釉陶器段皿(2611)、須恵器羽釜(2613)、鉄製品鎌(2614)、石製品砥石(2615) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

178号住居跡



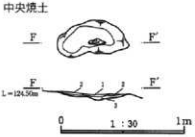
178号住居跡　土層注記
1 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・炭化物粒子。少量の黄褐色土粒子を含む。
2 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土小ブロックを含む。

貯蔵穴



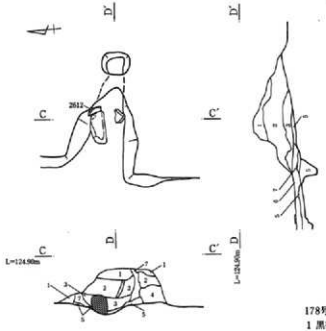
178号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：焼土小ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黄褐色土：焼土小ブロック・黄褐色土小ブロックを含む。

中央焼土

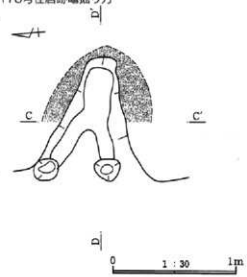


178号住居跡中央焼土　土層注記
1 焼土
2 小ブロック状の焼土
3 黒褐色土

178号住居跡竈



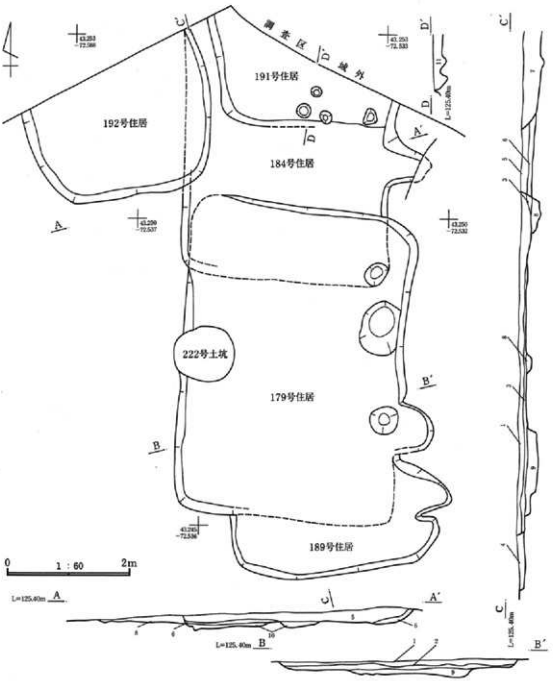
178号住居跡竈掘り方



178号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土粒子を含む。
2 黒褐色土：多量の焼土粒子・As-C・Hr-FA・黄褐色土粒子を含む。
3 黒褐色土：多量の焼土ブロック・As-C・Hr-FAを含む。
4 黒褐色土：硬く締る。石袖の残りか。
5 黒褐色土と黄褐色土小ブロックの混合。
6 黒褐色土：多量の炭化物・焼土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
7 焼土

第202図　178号住居跡、178号住居跡竈、178号住居跡竈掘り方

179・184・189・191・192号住居跡



179・184・189・191・192号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。(179号住居跡)

2 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。(179号住居跡)

3 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土小ブロック及びAs-C・Hr-FAを含む。(179号住居跡)

4 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。(189号住居跡)

5 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。(184号住居跡)

6 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土を含む。(184号住居跡)

7 黒褐色土：やや砂質。少量の焼土粒子を含む。(192号住居跡)

8 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

9 黒褐色土：多量の黄褐色土ブロック及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。(179号住居跡掘り方)

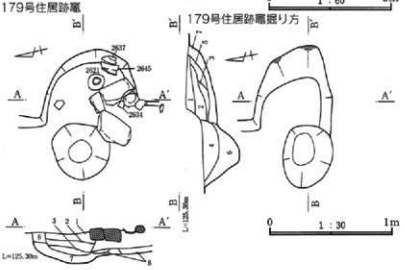
10 黒褐色土：黄褐色土ブロックを含む。(184号住居跡掘り方)

11 黒褐色土：焼土ブロック・炭化物粒子及び少量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土小ブロックを含む。(191号住居跡)

第203図　179・184・189・191・192号住居跡重複関係

179号住居跡

179号住居跡竈



第204図　179号住居跡、179号住居跡竈、179号住居跡竈掘り方

179号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：焼土小ブロック及び少量の炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 焼土
4 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・灰を含む。
5 黒褐色土：多量の灰及び少量の焼土粒子を含む。
6 黒褐色土：少量の炭化物・灰を含む。
7 黄褐色土：少量の焼土粒子・黒褐色土を含む。
8 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物及び微量のAs-C・Hr-FAを含む。

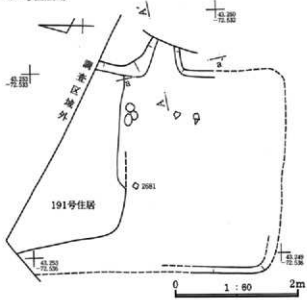
179号住居跡

X＝43.245～.250、Y＝－72.535付近で確認された。184号住居跡、189号住居跡、222号土坑と重複する。184号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北側の壁、床が184号住居跡の南側の壁、床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。189号住居跡との新旧関係は、当住居跡の南東部の壁が、189号住居跡の覆土中に確認されたことから、当住居跡の方が新しい。222号土坑との新旧関係は、当住居跡の西壁の一部を222号土坑が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.7～3.8m、南北約5.1～5.2mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸は、S-86°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約70cm、確認面での煙道部壁外への張り出し約40cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

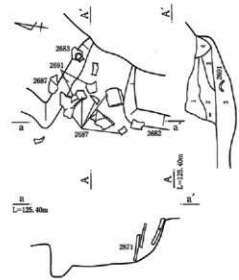
遺物は、土師器杯(2616)、須恵器杯(2621・2622・2623・2624・2625・2626・2627・2628・2629・2630・2631)、須恵器椀(2617・2618・2619・2620・2632・2633・2634・2635・2636)、灰釉陶器椀(2637・2641)、灰釉陶器輪花椀(2638)、灰釉陶器皿(2639・2640)、土師器甕(2642)、須恵器甕(2645・2646)、須恵器壺(2643)、灰釉陶器壺(2644)、丸瓦(2838)、鉄製品鎌(2647・2648)、鉄製品紡錘車(2649)、鉄製品刀子(2650・2652)、鉄製品釘(2651)、鉄滓(2653) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀後半である。

184号住居跡

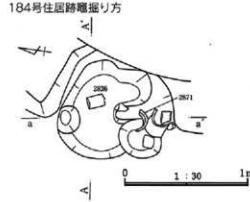


184号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・黄褐色土小ブロック・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の焼土ブロック及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：多量の灰を含む。
4 黒褐色土：As-Bを含む。(中世以降のピット)
5 黒褐色土：多量の灰及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。

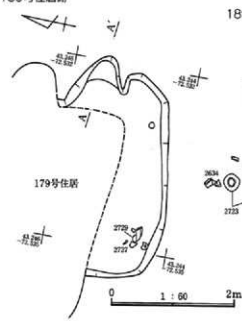
184号住居跡竈



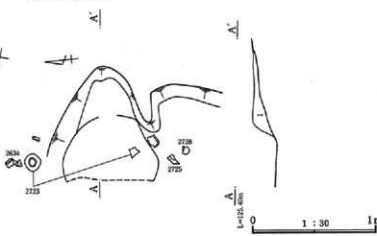
184号住居跡竈掘り方



189号住居跡



189号住居跡竈



189号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA及び微量の焼土粒子を含む。

第205図　184号住居跡、184号住居跡竈、184号住居跡竈掘り方、189号住居跡、189号住居跡竈

184号住居跡

X＝43.250～.255、Y＝－72.535付近で確認された。179号住居跡、191号住居跡、192号住居跡と重複する。179号住居跡との新旧関係は、当住居跡南側部分が179号住居跡の北側部分に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。191号住居跡との新旧関係は、当住居跡の覆土中に191号住居跡の南壁、西壁の一部が確認できたことから当住居跡の方が古い。192号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西壁が192号住居跡の東側の壁、床に破壊されていることから、当住居跡のほうが古い。

当住居跡の規模は、重複による破壊で東壁、西壁の一部しか検出できなかったことにより確定できないが、東西3.3約mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は、S-85°-Eである。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し推定約60cmである。貯蔵穴と推定されるピットが、179号住居跡の床下から検出された。位置は推定南東隅にあたる。規模は、長辺約40cm、短辺約30cm、確認面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2681・2682)、須恵器椀(2683・2684)、灰釉陶器皿(2685)、白磁椀(2693)、土師器甕(2686・2687・2688・2689・2690)、須恵器甕(2692)、須恵器甑(2691)、丸瓦(2836・2871)、平瓦(2894)、棒状鉄製品(2694)、鉄滓(2695)等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀中葉～後半である。

189号住居跡

X＝43.245、Y＝－72.530～.535付近で確認された。179号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の北側部分を179号住居跡の南東部が破壊していることから、当住居跡のほうが古い。

当住居跡の規模は、北壁が179号住居跡に破壊されていることから確定できないが、東西約3.4mである。主軸は、N-86°-Eである。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2723・2726)、須恵器椀(2724・2725)、鉄製品刀子(2727)、鉄滓(2728)、石製品(2729)等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

191号住居跡

X＝43.250～.255、Y＝－72.535付近で確認された。184号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の南壁、西壁の一部が184号住居跡の覆土中から確認できたことから、当住居跡のほうが新しい。

当住居跡の規模は、大部分が調査区域外にあたるため不明である。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は、遺構確認範囲からは検出できなかった。

遺物は、須恵器椀(2735・2736)、灰釉陶器椀(2738)、灰釉陶器輪花皿(2737)、須恵器甕(2739・2740)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

192号住居跡

X＝43.250～.255、Y＝－72.535～.540付近で検出された。184号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の東側部分が、184号住居跡の西壁を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、北壁が調査区域外のため確認できなかったことから、確定できないが、東西約3.0mである。竈、主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2741)が出土している。当住居跡は、竈も確認できず、遺物の出土も少ないことから、住居跡でない可能性がある。

191号住居跡

192号住居跡

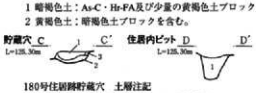
180号住居跡

180号住居跡　土層注記

1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土ブロックを含む。

2 黄褐色土：暗褐色土ブロックを含む。

貯蔵穴 C　　住居内ピット D



180号住居跡貯蔵穴　土層注記

1 黄褐色土：多量の焼土ブロック・灰を含む。

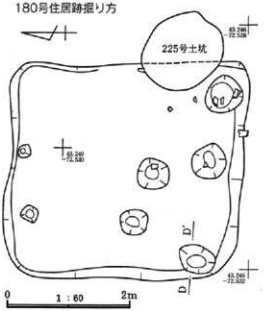
2 黄褐色土：黒褐色土及び少量の焼土粒子を含む。

3 黄褐色土：地山の粘質土ブロック。

180号住居跡ピット　土層注記

1 黒褐色土：少量のAs-C・Hr-FA及び焼土粒子を含む。

180号住居跡掘り方



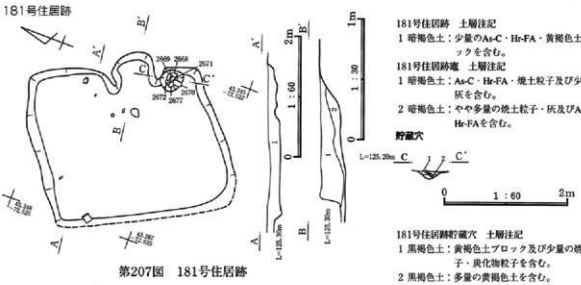
180号住居跡

X＝43.245～.250、Y＝－72.530付近で確認された。225号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の南東部の壁、床、竈の一部を225号土坑が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.7m、南北約3.8～3.9mであり、平面形は隅丸方形を呈する。竈は、東壁に築かれていたと推定されるが、225号土坑に破壊されている。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約60cm、短軸約55cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、盤溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2656)、須恵器椀(2654・2655)、灰釉陶器皿(2657)、須恵器甕(2658)、棒状鉄製品(2659)、鉄製品鏃(2660) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀末～10世紀前半である。

第206図　191号住居跡、192号住居跡、180号住居跡、180号住居跡掘り方



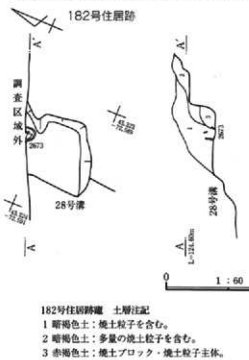
第207図　181号住居跡

181号住居跡

X＝42.245～.250、Y＝－72.520～.525付近で確認された。21号溝と重複する。新旧関係を遺構から確認することはできなかった。

当住居跡の規模は、東西約2.4～2.6m、南北約2.9～3.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸は、N-69°-Eである。竈は東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約25cmである。貯蔵穴は南東隅に築かれている。規模は、長軸約35cm、短軸約30cm、確認面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2662)、須恵器椀(2664)、須恵器鉢(2663)、白磁椀(2665・2666)、石製品鹿編み石(2667・2668・2669・2670・2671・2672) 等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀である。



第208図　182号住居跡

182号住居跡

X＝43.220～.225、Y＝－72.590付近で確認された。28号溝と重複する。新旧関係は、当住居跡の西側部分が28号溝に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、28号溝による破壊と未調査部分が残ったため不明である。主軸は、N-71°-Eである。竈は東壁に築かれている。遺構確認範囲から主柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器甕(2673) 等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀初頭である。

183・186号住居跡

183号住居跡貯蔵穴

183号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA・炭化物及び少量の焼土粒子を含む。
2 黄褐色土：暗褐色土を含む。

186号住居跡貯蔵穴　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の黄褐色土ブロックを含む。
2 黄褐色土：暗褐色土を含む。

183・186号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：多量のAs-C・Hr-FA及び褐色土粒子を含む。(183号住居跡)
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA・炭化物・焼土粒子・褐色土ブロックを含む。(183号住居跡)
3 暗褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び褐色土粒子を含む。(186号住居跡)
4 暗褐色土：黄褐色土ブロックと暗褐色土ブロックの混合。

183号住居跡竈

183号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：やや多量の焼土粒子・黄褐色土粒子及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：多量の焼土ブロック・炭化物粒子・黄褐色土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子・As-C・Hr-FAを含む。
4 焼土
5 暗褐色土ブロックと黄褐色土ブロックの混合。

186号住居跡竈

186号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：締り弱く、粘性無し。焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや締り有り。焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
3 暗褐色土：焼土小ブロックを含む。

186号住居跡竈掘り方

第209図　183・186号住居跡、183号住居跡竈、186号住居跡竈、186号住居跡竈掘り方

183号住居跡

X＝43.225～.230、Y＝－72.580～.585付近で確認された。226号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の南壁の一部が226号土坑に破壊されていることが確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北壁が調査区域外のため確認できなかったことから確定できないが、東西は約3.1mである。主軸は、N-84°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約45cmであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。袖からは切石が据えられた状態で検出され、燃焼部からは天井に使用されたと考えられる石が出土した。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約35cm、短軸約30cm、床面からの深さ約60cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2674)、須恵器杯（2678・2679・2680)、須恵器蓋(2675・2676・2677）等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀後半である。

186号住居跡

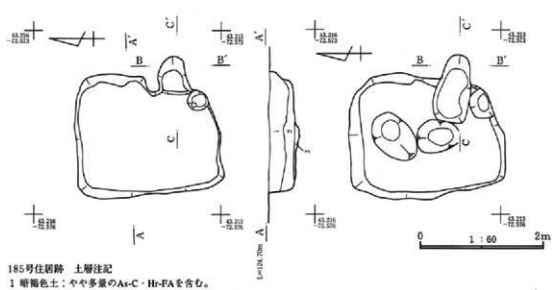
X＝43.225、Y＝－72.580～.585付近で確認された。226号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の中央から北側が226号土坑に破壊されていることが確認できたことにより、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北壁が破壊されていることにより確定できないが、東西約1.8～2.1mである。主軸は、S-76°-Eである。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅約50cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約40cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約50cm、短軸約45cm、床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2700)、須恵器杯(2701・2702)、須恵器椀(2703)、土師器甕(2706・2707)、土師器台付甕(2704・2705)、須恵器甕(2708）等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は9世紀中葉である。

185号住居跡

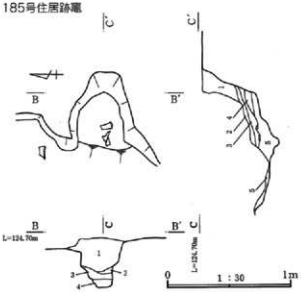
185号住居跡掘り方



185号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：やや多量のAs-C・Hr-FA及び褐色土ブロックを含む。
3 暗褐色土：褐色粘質土と黒褐色土ブロックの混合。

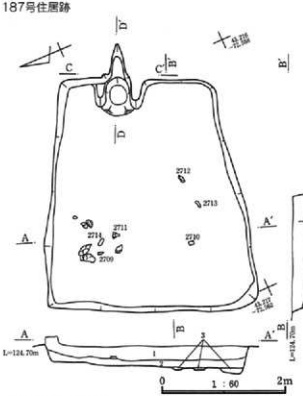
第210図　185号住居跡、185号住居跡掘り方

185号住居跡竈



185号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：多量の灰・焼土粒子を含む。
3 暗褐色土：焼土と黄褐色土ブロックの混合。
4 暗灰色土：灰が主体。少量の焼土粒子を含む。
5 暗褐色土：多量の炭化物・褐色粘質土ブロックを含む。

187号住居跡



187号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。
3 暗褐色土：As-C・Hr-FA・地山粘質土ブロックを含む。

第211図　185号住居跡竈、187号住居跡

185号住居跡

X＝43.215、Y＝－72.575付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約1.6～2.0m、南北約2.2～2.5mであり、平面形は隅丸台形を呈する。主軸は、S-86°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約35cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、直径約35cm、床面からの深さ約10cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器椀(2698)、灰釉陶器椀(2699)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

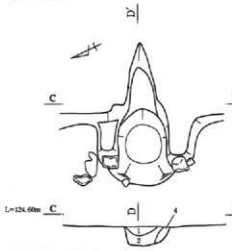
187号住居跡

X＝43.215～.220、Y＝－72.560付近で確認された。253号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の南西部の壁の上部を253号土坑が破壊していることから、当住居跡の方が古い。

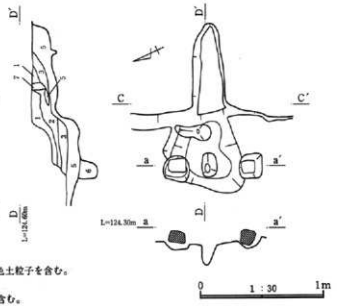
当住居跡の規模は、東西約3.8～3.9m、南北約2.6～3.4mであり、平面形は縦長の隅丸台形を呈する。主軸は、S-64°-Eである。竈は、東壁の北よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。袖には石が用いられており、据えられた状態で検出できた。主柱穴、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、石製品砥石(2709・2710・2711)、石製品薦編み石(2712・2713・2714)が出土しているが、当住居跡と確定できる土師器や須恵器の出土がない。従って、年代は不明である。

187号住居跡竈



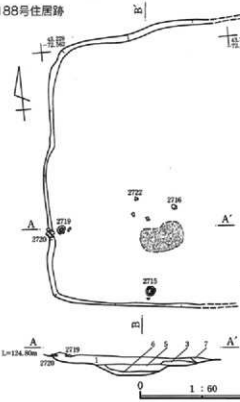
187号住居跡竈掘り方



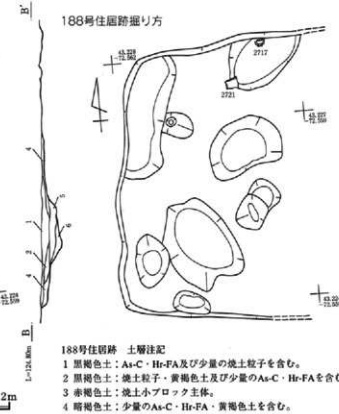
187号住居跡竈　土層注記

1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。少量の焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土：焼土粒子・黄褐色土粒子を含む。
3 暗赤褐色土：焼土ブロック・焼土粒子・灰・黄褐色土を含む。
4 焼土
5 暗褐色土：焼土・炭化物・褐色土の混合。
6 褐色土：軟らかい。
7 灰褐色粘質土：天井又は側壁に使用された材の崩れか。

188号住居跡



188号住居跡掘り方



188号住居跡　土層注記

1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：焼土粒子・黄褐色土及び少量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 赤褐色土：焼土小ブロック主体。
4 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土を含む。
5 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
6 黒褐色土：黄褐色土ブロック・As-C・Hr-FAを含む。
7 攪乱

第212図　187号住居跡竈、187号住居跡竈掘り方、188号住居跡、188号住居跡掘り方

188号住居跡

X＝43.225～.230、Y＝－72.560付近で確認された。他の遺構との重複はない。

規模は、東壁が検出できなかったことにより確定できないが、南北は約4.4～4.8mである。竈は検出できなかったが、住居跡中央やや南西よりから、多量の焼土ブロックを含む土坑を確認することができた。主柱穴、貯蔵穴、盤溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(2715・2716・2717)、須恵器椀(2718)、須恵器高台付皿(2719)、灰釉陶器皿(2720)、須恵器甕(2721)、鉄滓(2722)、等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

190号住居跡

X＝43.220～.225、Y＝－72.575付近で確認された。他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、東西約4.3～4.6m、南北約2.5～2.7mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-81°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約95cmである。右袖先端からは、構築材の石が据えられた状態で検出できた。南東隅やや西よりからピットが検出できた。規模は、長軸約40cm、短軸約35cm、床面からの深さ約5cmであり、平面形は楕円形を呈する。深さがなく、貯蔵穴にするには難がある。主柱穴、盤溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2731)、須恵器蓋(2730)、石製品鷹編み石(2732・2733・2734)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は8世紀前半である。

193号住居跡

X＝43.240～.245、Y＝－72.535～.540付近で確認された。232号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の東壁の一部を232号土坑が破壊していることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡は、西側が中世～近世に削られており、南東部分の検出しかできなかったことにより、規模は不明である。主軸は、N-83°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約45cmである。主柱穴、貯蔵穴、盤溝は確認できなかった。

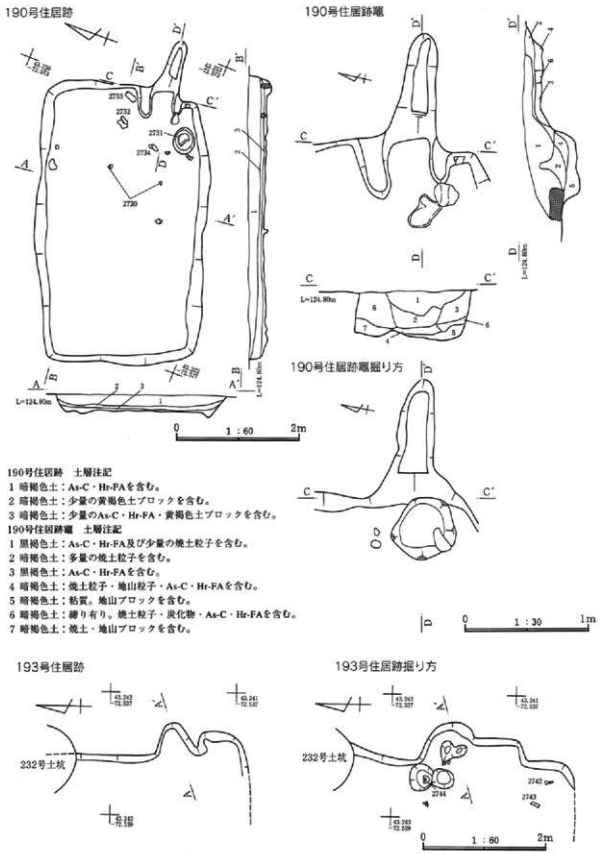
遺物は、須恵器杯(2742)、須恵器椀(2743・2744)、灰釉陶器椀(2745)、須恵器甕(2747)、土師器甕(2746)、棒状鉄製品(2748・2749・2750・2751)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

196号住居跡

X＝43.270、Y＝－72.465付近で確認された。241号土坑と重複する。新旧関係は、当住居跡の南壁の一部が241号土坑に破壊されていることが確認できたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.6～3.7m、南北約3.1～3.2mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は、N-45°-Eである。竈は、東壁の南よりに築かれている。燃焼部の幅約40cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約50cmである。貯蔵穴は、掘り方調査で南東隅から検出された。規模は、長軸約40cm、短軸約30cm、床面からの深さ約20cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、盤溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(2777・2778・2779・2780)、須恵器椀(2781)、土師器甕(2782)、鉄滓(2783)、石製品鷹編み石(2784・2785・2786・2787・2788・2789・2790)等が出土している。遺物から推定する当住居跡の年代は、8世紀前半である。

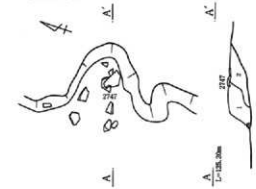


190号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土：少量の黄褐色土ブロックを含む。
3 暗褐色土：少量のAs-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。

190号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：多量の焼土粒子を含む。
3 黒褐色土：As-C・Hr-FAを含む。
4 暗褐色土：焼土粒子・地山粒子・As-C・Hr-FAを含む。
5 暗褐色土：粘質。地山ブロックを含む。
6 暗褐色土：締り有り。焼土粒子・炭化物・As-C・Hr-FAを含む。
7 暗褐色土：焼土・地山ブロックを含む。

第213図　190号住居跡、190号住居跡竈、190号住居跡竈掘り方、193号住居跡、193号住居跡掘り方

193号住居跡竈

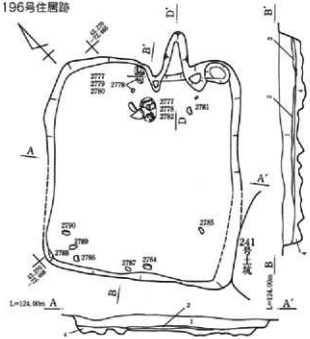


193号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：やや粘質。少量の焼土粒子を含む。
2 黒褐色土：やや粘質。少量の焼土ブロック・炭化物を含む。

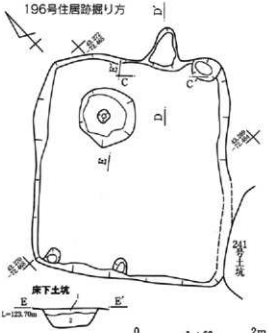
0　1：30　1m

196号住居跡　土層注記
1 暗褐色土：硬く締る。As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：粘質。
3 暗褐色土：硬く締る。やや多量の焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
4 黒褐色土：粘質。焼土粒子・As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。

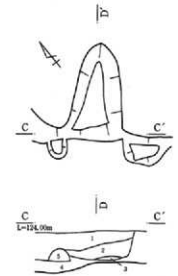
196号住居跡



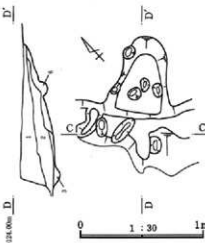
196号住居跡掘り方



196号住居跡竈



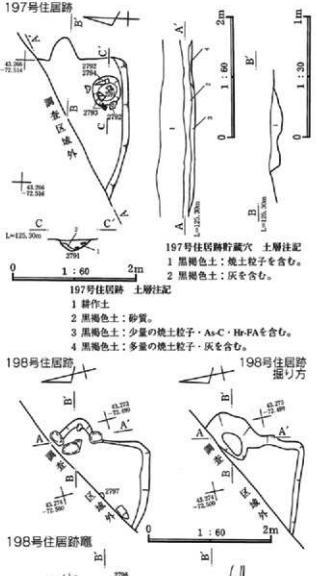
196号住居跡竈掘り方



196号住居跡床下土坑　土層注記
1 黒褐色土：粘質。焼土粒子・As-C・Hr-FA・黄褐色土ブロックを含む。
2 褐色土：黒褐色土ブロックを含む。

196号住居跡竈　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の焼土粒子を含む。
2 暗褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及びAs-C・Hr-FAを含む。
3 灰白色土：粘質。天井の崩れか。
4 暗褐色土：やや多量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
5 褐色土：粘質。右袖の残り。
6 黒褐色土：少量の焼土粒子・As-C・Hr-FAを含む。

第214図　193号住居跡竈、196号住居跡、196号住居跡掘り方、196号住居跡竈、196号住居跡竈掘り方



197号住居跡

X＝43.265、Y＝－72.515付近で確認された。調査区域内での他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、北壁、西壁が調査区域外で確認できなかったことにより、不明である。主軸は、N-88°-Eである。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約35cmである。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約50cm、短軸約45cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は楕円形を呈する。主柱穴、壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器椀(2791・2792・2793)、須恵器甕(2794)等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、9世紀後半である。

197号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：多量の灰及び焼土粒子を含む。

198号住居跡

X＝43.270～.275、Y＝－72.500付近で確認された。調査区域内での他の遺構との重複はない。

当住居跡の規模は、北壁、西壁が調査区域外のため確認できなかったことから、不明である。主軸は、S-75°-Eである。竈は、東壁に築かれている。燃焼部の幅約45cm、確認面での煙道部の壁外への張り出し約30cmである。袖材に使用された石が、燃焼部と壁の接点から、袖若しくは天井に使用されたと考えられる石が燃焼部内から検出された。調査区域内で、主柱穴、貯蔵穴、壁溝を確認することはできなかった。

遺物は、須恵器椀(2795・2796・2797・2799)、須恵器足高高台椀(2798)、須恵器羽釜(2800・2801・2802・2803・2804)等が出土している。出土遺物から推定する当住居跡の年代は、10世紀前半である。

198号住居跡竈　土層注記
1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量の炭化物・焼土粒子・焼土ブロックを含む。
3 黒褐色土と焼土粒子・焼土ブロックの混合。
4 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。
5 灰白色土：粘質土。天井又は煙道の崩れか。
6 黒褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

第215図　197号住居跡、198号住居跡、198号住居跡掘り方、198号住居跡竈、198号住居跡竈掘り方

(2)掘立柱建物

当遺跡では、24棟の掘立柱建物が検出できた。掘立柱建物は、遺跡に一様に分布しているのではなく、東部分に偏っている。掘立柱建物の出土位置は、X＝43.300～.350、Y＝－72.330～.400である。この部分は、竪穴住居跡が少ない領域である。

掘立柱の柱穴には、円形と方形の二種類がある。このうち、方形の柱穴を持つ掘立柱は、中世末～近世初頭の薬研堀である7号溝・8号溝付近に集中している。

1号掘立柱

2号掘立柱・10号掘立柱と重複するが、新旧関係は不明。1間×2間。柱穴は方形。遺物無し。

2号掘立柱

1号掘立柱・10号掘立柱・11号掘立柱・12号掘立柱・13号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×3間。柱穴は方形。遺物無し。

3号掘立柱

4号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×3間。柱穴は円形。遺物無し。

4号掘立柱

3号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×3間。柱穴は円形。遺物無し。

6号掘立柱

7号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×2間。柱穴は円形。遺物無し。

7号掘立柱

6号掘立柱と重複。新旧関係は不明。2間×2間。柱穴は円形。遺物無し。

8号掘立柱

9号掘立柱と重複。新旧関係は不明。5間×4間。3面庇。柱穴は円形。遺物無し。

9号掘立柱

8号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×3間。柱穴は円形。遺物無し。

10号掘立柱

1号掘立柱・2号掘立柱・11号掘立柱・12号掘立柱・13号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×2間。柱穴は方形。遺物無し。

11号掘立柱

2号掘立柱・10号掘立柱・12号掘立柱・13号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×3間。柱穴は方形。遺物無し。

12号掘立柱

2号掘立柱・10号掘立柱・11号掘立柱・13号掘立柱・14号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×4間。柱穴は方形。遺物無し。

13号掘立柱

2号掘立柱・10号掘立柱・11号掘立柱・12号掘立柱・14号掘立柱・15号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×3間。柱穴は方形。遺物無し。

14号掘立柱

12号掘立柱・13号掘立柱・15号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×(3)間。柱穴は方形。遺物無し。

15号掘立柱

13号掘立柱・14号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×(2)間。柱穴は方形。遺物無し。

16号柱列

9号溝と重複。新旧関係は不明。3間。柱穴は方形。遺物無し。

17号柱列

他の遺構との重複無し。5間。柱穴は方形。遺物無し。

18号掘立柱

95号住居跡・19号掘立柱・21号掘立柱・25号掘立柱と重複。95号住居跡との新旧関係は、当掘立柱の南東の柱穴が、95号住居跡の床面の一部を破壊していることから、当掘立柱の方が新しい。19号掘立柱・21号掘立柱・25号掘立柱との新旧関係は不明。2間×4間。柱穴は方形。遺物無し。

19号掘立柱

106号住居跡・111号住居跡・18号掘立柱・21号掘

立柱・25号掘立柱と重複。106号住居跡との新旧関係は、当掘立柱の北西隅の柱穴が、106号住居跡の床面の一部を破壊していることから、当掘立柱の方が新しい。111号住居跡との新旧関係は、当掘立柱の南側の西から2本目の柱穴が、111号住居跡の壁・床の一部を破壊していることから、当掘立柱の方が新しい。18号掘立柱・21号掘立柱・25号掘立柱との新旧関係は不明。1間×2間。柱穴は方形。遺物無し。

21号掘立柱

112号住居跡・18号掘立柱・19号掘立柱・25号掘立柱と重複。112号住居との新旧関係は、当掘立柱西側の柱穴が112号住居の床面の一部を破壊していることから、当掘立柱の方が新しい。18号掘立柱・19号掘立柱・25号掘立柱との新旧関係は不明。(2)間×(2)間。柱穴は方形。遺物無し。

23号掘立柱

19号掘立柱・23号掘立柱と重複。新旧関係は不明。1間×3間。総柱。柱穴は方形。遺物無し。

24号柱列

23号掘立柱と重複。新旧関係は不明。3間。柱穴は方形。遺物無し。

25号柱列

112号住居跡・18号掘立柱・19号掘立柱・21号掘立柱と重複。112号住居跡との新旧関係は、当柱列の柱穴の一部が、112号住居跡の床面の一部を破壊していることから、当柱列の方が新しい。18号掘立柱・19号掘立柱・21号掘立柱との新旧関係は不明。3間。柱穴は方形。遺物無し。

26号柱列

9号溝と重複。新旧関係は不明。3間。柱穴は方形。遺物無し。

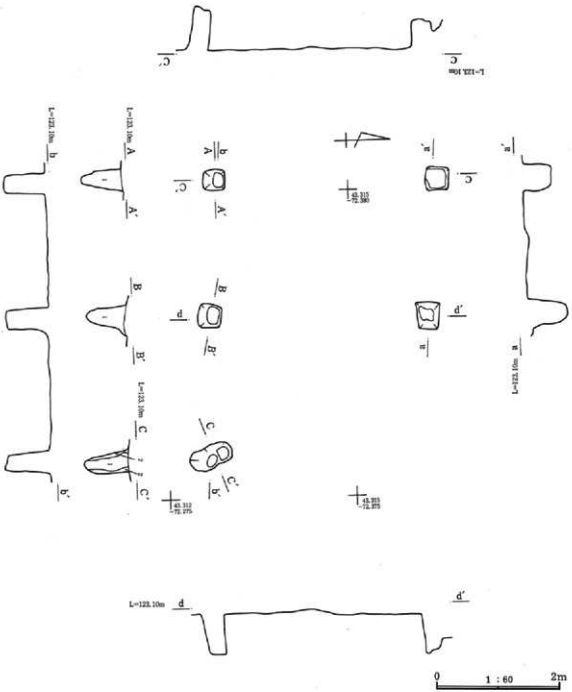
28号掘立柱

95号住居跡と重複。新旧関係は、当掘立柱の北東部の柱穴が、95号住居跡の床面の一部を破壊していることから、当掘立柱の方が新しい。2間×2間。柱穴は方形。遺物無し。

掘立柱一覧

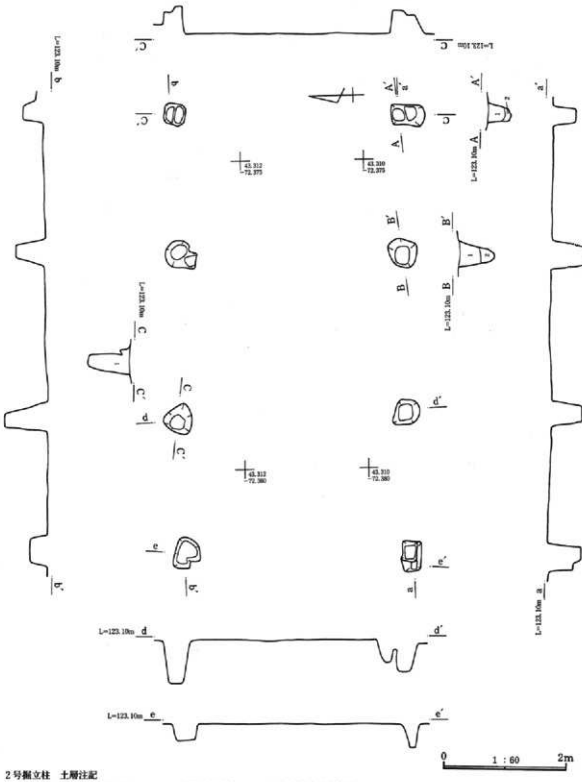
遺構番号	出土位置	規模 [ ]は遺存値	棟間の長さ (m)	梁間の長さ (m)	主軸(棟・列の方位)	柱穴の形状	柱穴の規模 径(cm)×深(cm)	備考
01	X= 43.312~.316 Y=−72.375~.380	1間×2間	2.3	3.5	N-87°-W	方形	30~40×40~70	
02	X= 43.309~.313 Y=−72.374~.382	1間×3間	2.2~2.7	3.7	N-90°-W	方形	35~45×25~70	
03	X= 43.337~.343 Y=−72.357~.362	1間×3間	1.7~1.8	3.5~3.6	N-8°-E	円形	35~50×10~70	
04	X= 43.339~.343 Y=−72.352~.358	1間×3間	1.3~2.8	3.2~3.6	N-86°-W	円形	20~35×10~35	
06	X= 43.328~.331 Y=−72.344~.347	1間×2間	1.2~1.5	2.9~3.2	N-5°-E	円形	35~45×15~30	
07	X= 43.325~.329 Y=−72.346~.350	2間×2間	1.3~2.6	1.3~1.9	N-84°-W	円形	25~45×15~40	
08	X= 43.337~.344 Y=−72.334~.343	5間×4間	1.5~2.2	0.7~4.5	N-88°-W	円形	20~70×0.5~50	3間庇
09	X= 43.340~.344 Y=−72.352~.358	1間×3間	2.0~2.5	4.1~4.3	N-88°-W	円形	35~60×10~45	

遺構番号	出土位置	規模 〔 〕は遺存値	棟間の長さ (m)	梁間の長さ (m)	主軸（棟・列の方位）	柱穴の形状	柱穴の規模 径(cm)×深(cm)	備考
10	X＝ 43.309～.313 Y＝－72.375～.379	1間×2間	1.8～1.9	3.0	N-84°-W	方形	30～55×35～60	
11	X＝ 43.308～.313 Y＝－72.376～.383	1間×3間	2.0～2.3	2.4～2.8	N-82°-W	方形	25～35×20～45	
12	X＝ 43.307～.313 Y＝－72.374～.383	1間×4間	1.9～2.1	3.6～3.7	N-74°-W	方形	20～30×35～50	
13	X＝ 43.307～.311 Y＝－72.376～.384	1間×3間	1.7～2.6	3.0～3.1	N-85°-W	方形	30～35×20～50	
14	X＝ 43.309～.303 Y＝－72.379～.383	1間×〔3〕間	1.2～1.7	3.1～3.2	N-1°-W	方形	20～55×20～60	
15	X＝ 43.308～.303 Y＝－72.379～.383	1間×〔2〕間	1.9～2.3	3.1	N-5°-E	方形	30～40×40～80	
16	X＝ 43.314 Y＝－72.381～.387	3間	1.5～2.0		N-90°-E	方形	20～30×35～75	
17	X＝ 43.317～.318 Y＝－72.386～.394	5間	1.4～1.8		N-83°-W	方形	20～30×20～65	
18	X＝ 43.310～.318 Y＝－72.390～.394	2間×4間	1.6～2.0	1.6～3.2	W-7°-E	方形	25～40×25～80	
19	X＝ 43.312～.317 Y＝－72.388～.392	1間×2間	2.0～2.2	1.5～1.9	N-84°-W	方形	20～25×25～65	総柱
21	X＝ 43.313～.316 Y＝－72.388～.393	〔2〕間×〔2〕間	1.6～1.8			方形	15～30×10～35	
23	X＝ 43.308～.313 Y＝－72.387～.390	1間×3間	1.6～2.0	1.8～2.0	N-10°-W	方形	20～25×20～35	
24	X＝ 43.305～.311 Y＝－72.389	3間	1.7～2.0		N-0°-E	方形	20～25×20～30	
25	X＝ 43.314 Y＝－72.388～.394	3間	1.6～1.8		N-90°-E	方形	15～25×20～50	
26	X＝ 43.305～.311 Y＝－72.387	3間	1.9～2.3		N-2°-W	方形	25～30×40～65	
28	X＝ 43.306～.310 Y＝－72.373～.397	2間×2間	1.8～2.1	1.5～1.8	N-73°-W	方形	20～45×10～50	



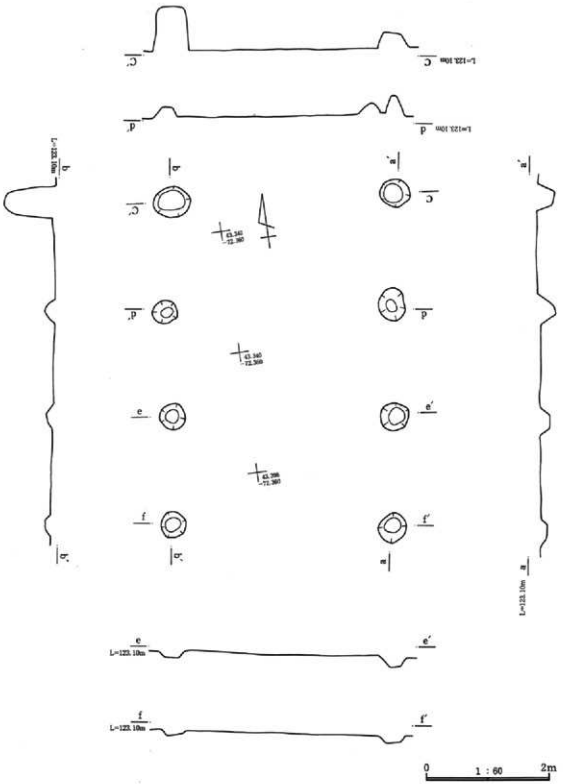
1号掘立柱　土層注記
1 暗褐色土：多量の淡黄褐色土ブロック・黒褐色粘質ブロック及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。人為的な堆土。
2 黒褐粘質色土：少量の淡黄褐色土ブロックを含む。

第216図　1号掘立柱

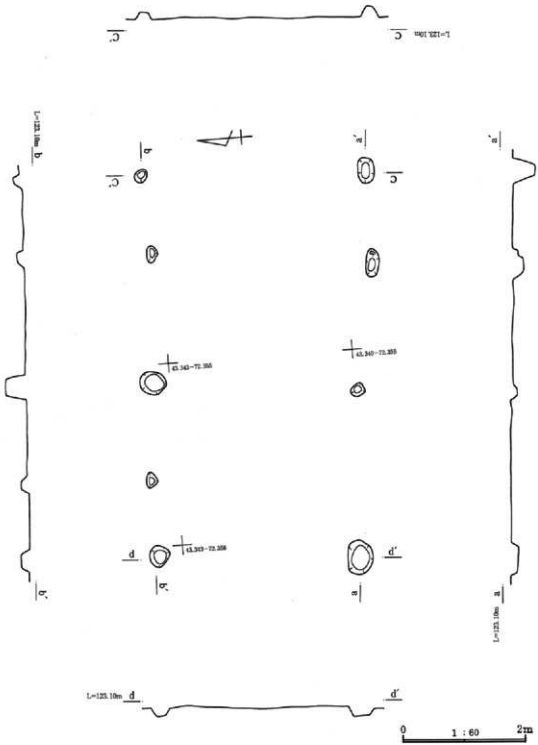


2号掘立柱　土層注記
1 暗褐色土：多量の淡黄褐色土ブロック・黒褐色粘質ブロック及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。人為的な埋土。
2 黒褐粘質色土：少量の淡黄褐色土ブロックを含む。

第217図　2号掘立柱

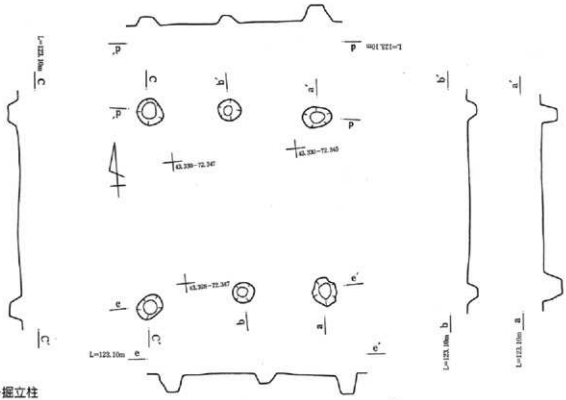

L=123.10m
L=123.10m
L=123.10m
L=123.10m
L=123.10m
L=123.10m
L=123.10m
L=123.10m
a
a'
b
b'
c
c'
d
d'
e
e'
f
f'
m
m'
n
n'
0
1 : 60
2m

第218図　3号掘立柱

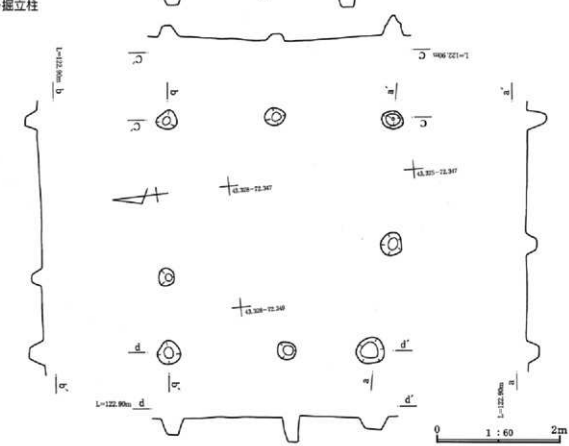

L=125.10m
a
a'
L=125.10m
b
b'
L=125.10m
c
c'
L=125.10m
d
d'
43.343~72.355
43.343~72.355
43.343~72.355
0
1 : 60
2m

第219図　4号掘立柱

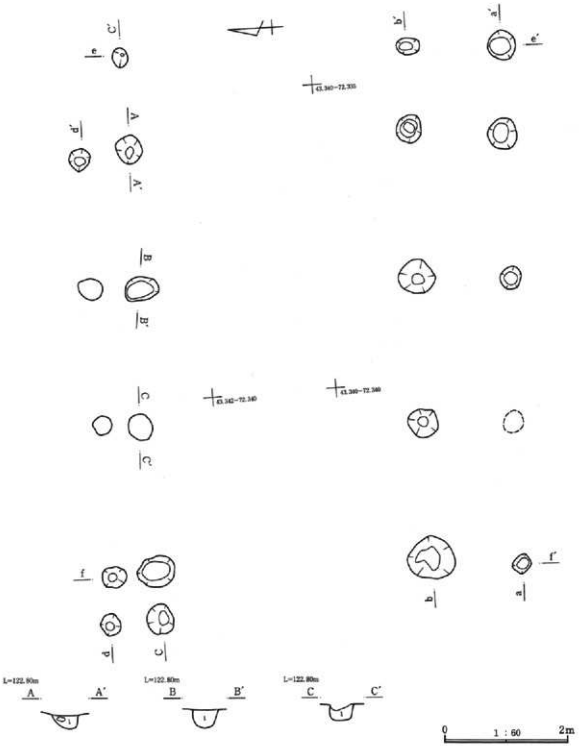
6号掘立柱



7号掘立柱

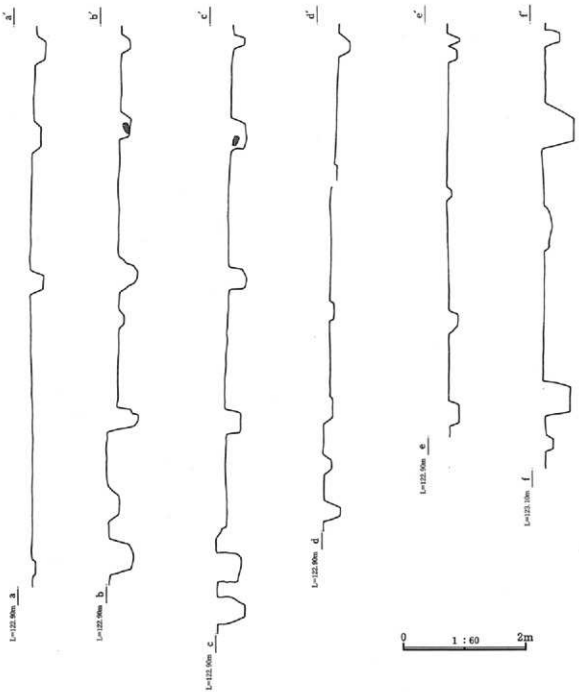


第220図　6・7号掘立柱

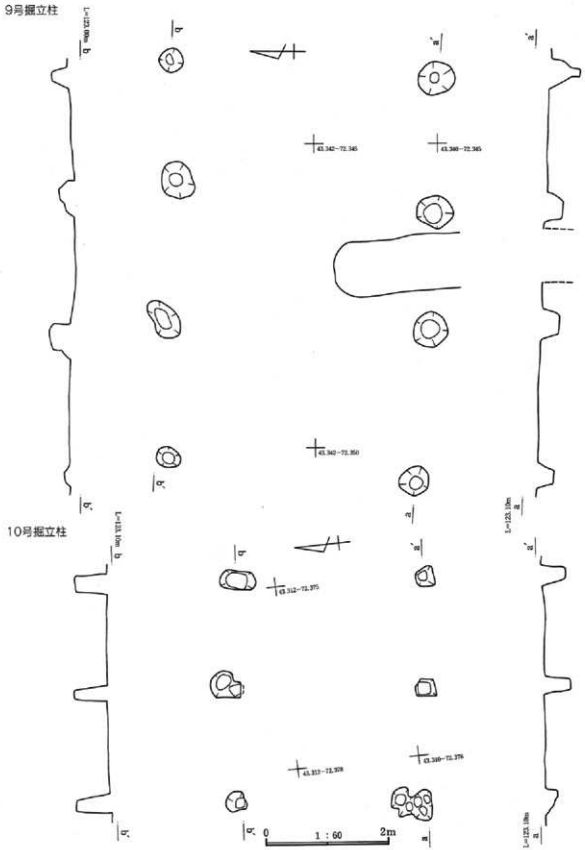


8号掘立　土層注記
1 黒褐色土：締まり弱い。As-C・Hr-FA及び焼土粒子を含む。

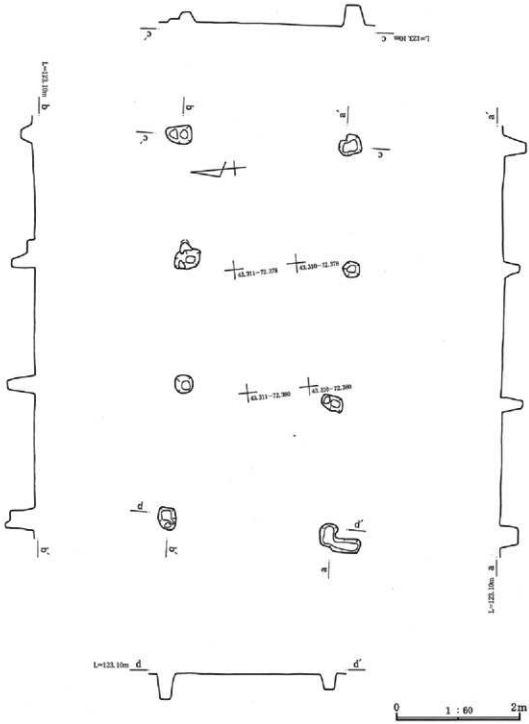
第221図　8号掘立柱



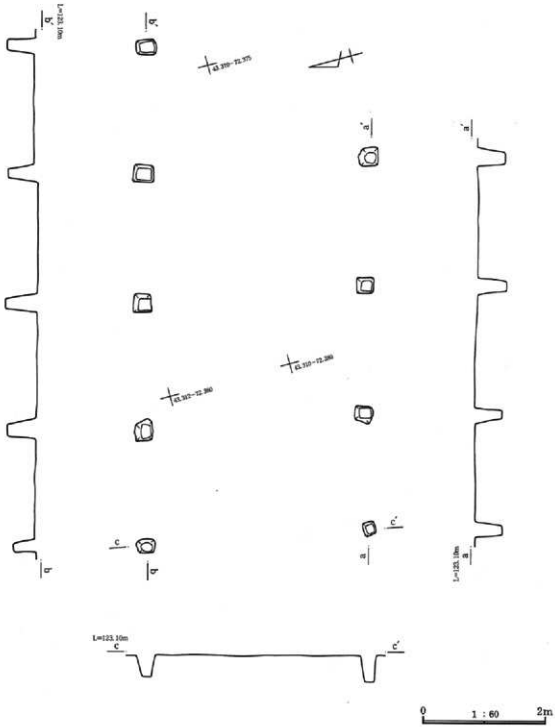
第222図　8号掘立柱エレベーション



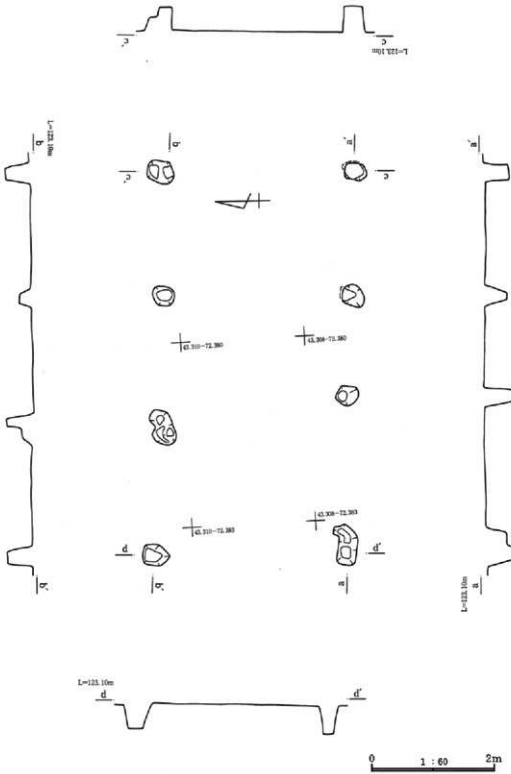
第223図　9・10号掘立柱



第224図　11号掘立柱

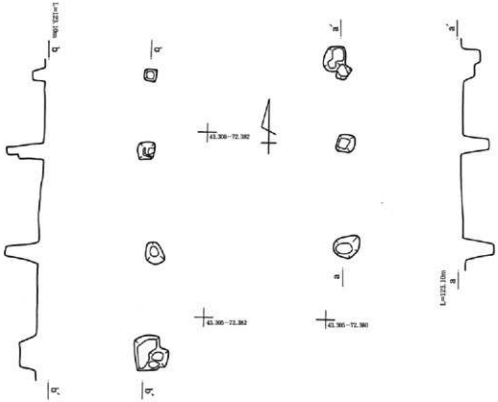


第225図　12号掘立柱

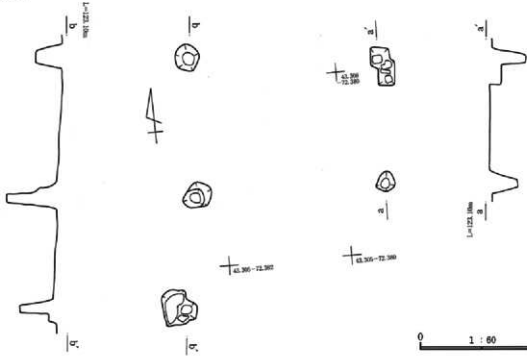


第226図　13号掘立柱

14号掘立柱

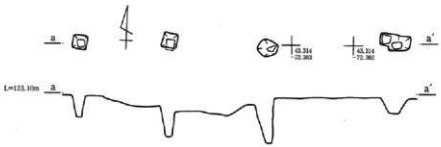


15号掘立柱

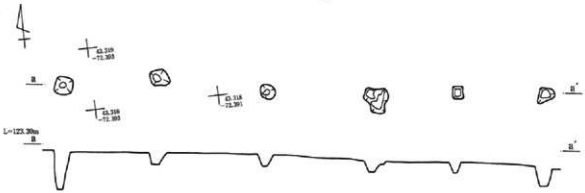


第227図　14・15号掘立柱

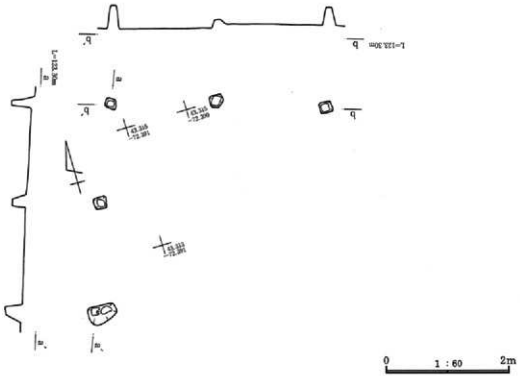
16号柱列



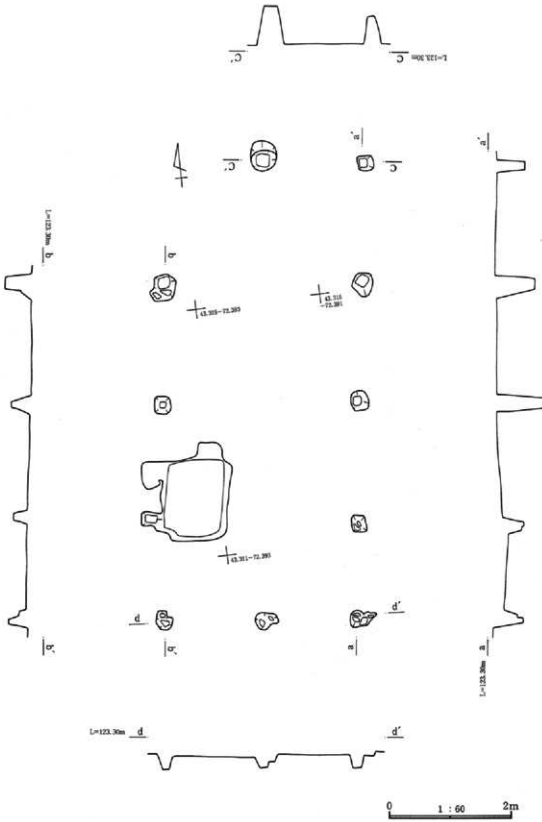
17号柱列



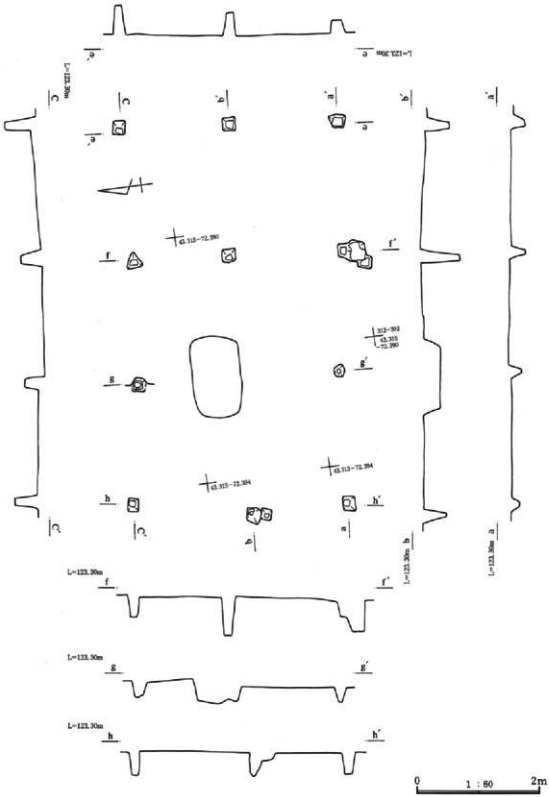
21号掘立柱



第228図　16・17号柱列、21号掘立柱

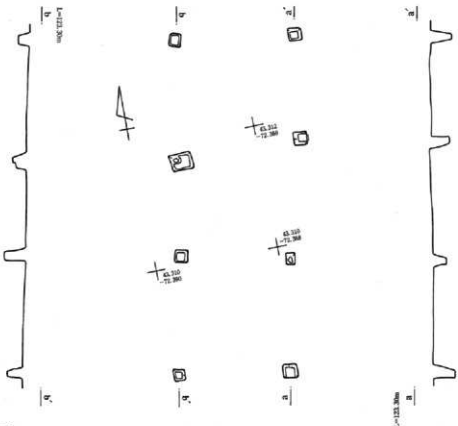


第229図　18号掘立柱

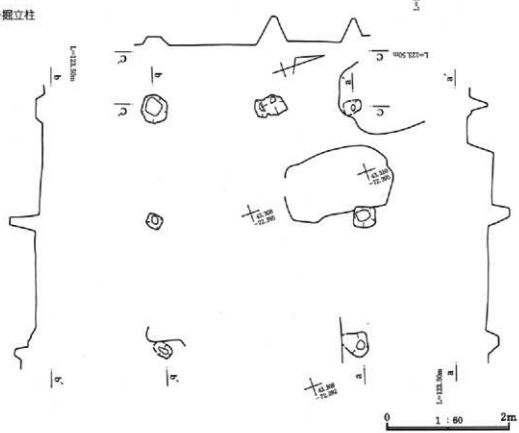


第230図　19号掘立柱

23号掘立柱

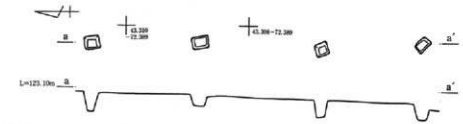


28号掘立柱

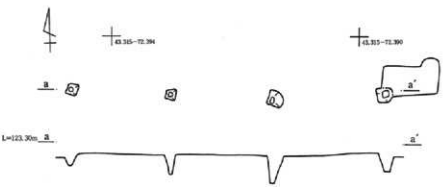


第231図　23・28号掘立柱

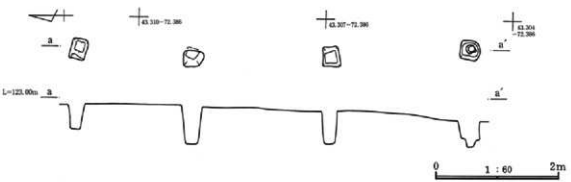
24号柱列



25号柱列



26号柱列



第232図　24・25・26号柱列

(3)井戸

1号井戸

X＝43.340～.345、Y＝－72.320～.325付近で確認された。67号住居跡と重複する、新旧関係は、当井戸が67号住居跡の北西部の壁・床の一部を破壊していることから、当井戸の方が新しい。当井戸の規模は、上端の直径2.4～2.5m、確認面からの深さ1.4m以上であり、平面形は不整形な円形を呈する。遺物の出土はない。覆土中にAs-Bが含まれていることから、当井戸の年代は、平安時代末以降である。

2号井戸

X＝43.350、Y＝－72.325～.330付近で確認された。他の遺構との重複はない。当井戸の規模は、上端の直径約0.95～1.05m、確認面からの深さ1.0m以上であり、平面形は不整形な円形を呈する。遺物の出土はない。覆土中にAs-Bが含まれていることから、当井戸の年代は、平安時代末以降であり、井戸の形態から中世以降の井戸と推定される。

6号井戸

X＝43.350～.355、Y＝－72.345～.350付近で確認された。他の遺構との重複はない。当井戸の規模は、直径1.1m、確認面からの深さ1.0m以上であり、平面形は円形を呈する。遺物は軒丸瓦(0690)等が出土している。当井戸の年代は、その形態から平安時代末以降の井戸と推定される。

7号井戸

X＝43.310、Y＝－72.370～.375付近で確認された。他の遺構との重複はない。当井戸の規模は、大部分が調査区域外のため確定できないが、確認面からの深さ約0.8m以上である。遺物の出土はない。当井戸の年代は、その形態から平安時代末遺構の井戸と推定される。

8号井戸

X＝43.300～.305、Y＝－72.385付近で確認された。9号溝重複するが、新旧関係は不明である。当井戸の規模は、上端の約2.5m、確認面からの深さ1.3m以上であり、平面形は不整形な円形を呈する。遺物の出土はない。当井戸の年代は、その形態から平安時代末遺構の井戸と推定される。

9号井戸

X＝43.265～.270、Y＝－72.475～.480付近で確認された。他の遺構との重複はない。当井戸規模は、上端の直径約1.5～1.6m、確認面からの深さ1.7m以上であり、平面形は不整形な円形を呈する。遺物の出土はない。当井戸の年代は、その形態から平安時代末遺構の井戸と推定される。

10号井戸

X＝43.350～.355、Y＝－72.495～.500付近で確認された。19号溝と重複する。新旧関係は、不明である。当井戸の規模は、長軸約4.0m、短軸約3.7m、確認面からの深さ2m以上であり、平面形は不整形な楕円形を呈する。遺物は、須恵器杯(0292・0296)、須恵器椀(0293・0294・0295)、土師質皿(0297)、須恵器壺(0298)、磁器(0919)、陶器(0922)、須恵器転用紡錘車(0303)、軒丸瓦(0300・0355)、軒平瓦(0299)、平瓦(0301・0302・0356)等が出土している。当井戸の覆土最上層にはAs-Bが含まれる。また、遺物の中に磁器や陶器の破片が含まれるが、覆土の遺物である。また、最上層以外はAs-Bが含まれず、下層からの遺物は平安時代の須恵器や瓦である。従って、当井戸の年代は9世紀～10世紀と推定される。

11号井戸

X＝43.225～.230、Y＝－72.530～.535付近で確認された。他の遺構との重複はない。当井戸の規模は、上端の長軸約2.5m、短軸約2.1m、確認面からの深さ約2m以上であり、平面形は不整形な楕円形を呈する。遺物は、須恵器杯(0254・0255・0256・0257・0258・0259)、須恵器椀(260・0261・0262・0274・0275・0285)、灰釉陶器椀(0264・0265・0266・0267)、灰釉陶器皿(0263)、灰釉陶器壷(0278)、緑釉陶器皿(0277)、白磁皿(0276)、土師

器甕(0253)、須恵器甕(0279・0282・0283・0248)、須恵器耳壺(0280)、須恵器横瓶(0281)、須恵器羽釜(0273)、灰釉陶器瓶(0268・0269・0270・0271・0272)、軒丸瓦(0359)、軒平瓦(0286)、平瓦(0287・0288・0291)、鉄製品刀子(0802)、鉄製品釘(0768・0800・0801)、板状鉄製品(0767)、棒状鉄製品(0799)、鉄滓(0357・0358)、銅滓(0832) 等が出土している。遺物から推定する当井戸の年代は9世紀～10世紀である。

12号井戸

X＝43.275～.280、Y＝－72.470～.475付近で確認された。17号溝と重複する。新旧関係は、当井戸が17号溝の土橋の一部を破壊していることが確認できたことから、当井戸の方が新しい。当井戸の規模は、上端の直径約5m、確認面からの1.8m以上であり、平面形は円形ないしは不整形な円形呈すると推定される。遺物は、軒平瓦(0307) 等が出土している。井戸覆土はAs-Bを含んでいる。従って、当井戸の年代は、平安時代末以降である。

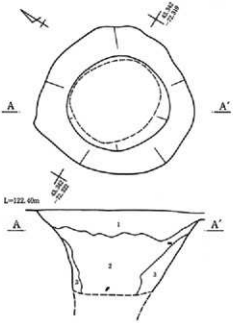
13号井戸

X＝43.280～.285、Y＝－72.475～.480付近で確認された。他の遺構との重複はない。当井戸の規模は、長軸約1.85m、短軸約1.55m、確認面からの深さ1.6m以上であり、平面形は不整形な楕円形を呈する。遺物の出土はない。井戸覆土はAs-Bを含んでいる。従って、当井戸の年代は、平安時代末以降である。

14号井戸

X＝43.220～.225、Y＝－72.535～.540付近で確認された。25号溝と重複する。新旧関係は、不明である。当井戸の規模は、直径3.2～3.4m、確認面からの深さ2.6m以上であり、平面形は不整形な円形を呈する。遺物は軟質陶器鉢(0923) 等が出土している。出土遺物、井戸の形態から推定する当井戸の年代は、中世以降である。

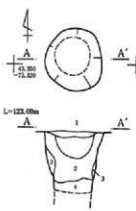
1号井戸



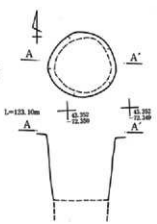
1号井戸　土層注記

1 褐色土：砂質。As-B及び少量のAs-C・炭化物粒子を含む。
2 褐色土：砂質。少量のAs-C及び微量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。
3 褐色土：やや粘性有り。地山との混合。微量のAs-Cを含む。

2号井戸



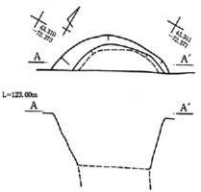
6号井戸



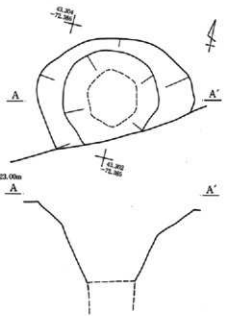
2号井戸　土層注記

1 暗灰褐色土：As-B・As-Cを含む。
2 暗褐色土：軟らかい。As-B・As-Cを含む。
3 暗褐色土：地山の灰褐色土を含む。
4 暗褐色土：軟らかく締り無し。As-B・As-Cを含む。

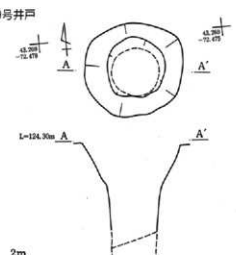
7号井戸



8号井戸



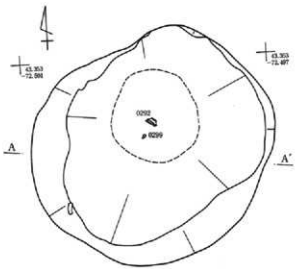
9号井戸



0　1：60　2m

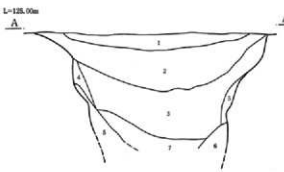
第233図　1・2・6・7・8・9号井戸

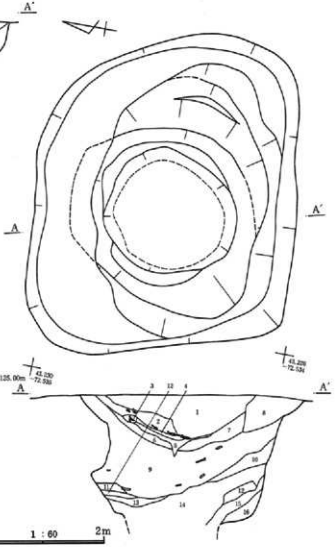
10号井戸



10号井戸　土層注記
1 黒褐色土：多量のAs-B・As-C・Hr-FAを含む。
2 黒褐色土：多量のAs-C・Hr-FAを含む。
3 黒褐色土：軟らかく、軽石を含まない。
4 黒褐色土：黄褐色土を含む。
5 黒褐色土：やや多量の黄褐色土を含む。
6 黄褐色土：地山の黄褐色土ブロック主体。壁の崩壊土。
7 黄褐色土：黄褐色土ブロック・小礫を含む。

11号井戸





11号井戸　土層注記
1 暗褐色土：As-C・Hr-FA・炭化物を含む。
2 暗褐色土：As-C・Hr-FA・焼土小ブロック及び少量の灰を含む。
3 赤褐色土：焼土ブロック。
4 灰褐色土：灰・焼土を層状に含む。
5 赤褐色土：多量の焼土ブロック及び黄褐色土を含む。
6 灰褐色土：多量の灰を含む。
7 暗灰褐色土：少量の灰を含む。
8 暗褐色土：As-C・Hr-FA・黄褐色土を含む。
9 黒褐色土：As-C・Hr-FA及び少量の小礫を組む。
10 暗褐色土：小礫・黄褐色土を含む。
11 黄褐色土：多量の黄褐色砂質土を含む。
12 黄褐色土：地山黄褐色砂質土の崩壊土。
13 黒褐色土：黄褐色土・小礫を含む。
14 黒褐色土：多量の黄褐色土小ブロックを含む。
15 黒褐色土：砂質土。
16 黄褐色土：砂質土と礫の混合。

第234図　10・11号井戸